

# 香淳皇后実録 卷五

昭和二十一年（西暦一九四六年） 四十三歳

## 一月

一日 火曜日 昨年十一月八日の三条西公正夫人信子邦彦王第二王女、御妹の死去に伴う御服喪中につき、新年の拝賀にはお出ましをお取りやめになる。午前、参殿の皇太子より新年の祝詞をお受けになり、侍従長藤田尚徳・侍従次長木下道雄より新年の御機嫌奉伺をお受けになる。御昼餐は天皇及び皇太子・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王とお祝御膳を御会食になる。○女官長日記、侍従日誌、儀式録、典式録、

幸啓録

午後、天皇と共に御文庫において、皇太子・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王主催の音楽会修辭会に臨まれる。和子内親王の開会の辞に続き、皇后は独唱を披露される。また、厚子内親王のピアノ独奏、和子内親王・貴子内親王の独唱等が披露された後、皇太子・三内親王と共に連吟をされる。○女官長日

昭和二十一年一月

記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、穂積重遠東宮奉仕日録、入江相政日記

二日 水曜日 天皇と共に御文庫において、和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と御昼餐を御会食になる。以後、この年も皇太子始め皇族・王公族・御親族としばしば御対面・御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

五日 土曜日 葉山町の三笠宮御仮寓所において崇仁親王妃百合子第一王子出産につき、天皇・皇后より崇仁親王・同妃に五種交魚代料を御贈進になる。この日誕生した王子は、七夜に当たたる十一日、寛仁と命名される。命名当日に際し、天皇・皇后より崇仁親王に白羽二重・酒・鮮鯛を賜う。また、二月三日の同妃の床払いに際して、天皇・皇后より三種交魚代料を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、省中日誌、皇親録、皇族身分録、贈賜録、官報

六日 日曜日 新年につき、皇太后の御機嫌奉伺のため天皇・皇后の御使始として侍従戸田康英を沼津御用邸西附属邸に差し遣わされる。皇太后よりも、御使始として権典侍清水水谷英子が差し遣わされ、午前、天皇と共に内廷庁舎において御対面になる。夜、天皇と共に御文庫において、帰京の戸田侍従より復命をお受けになる。以後、この年も、折に触れ、天皇・皇后あるいは皇后から皇太后の許に御使を差し遣わされ、また参内した皇太后御使に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、沼津御用邸西附属邸日誌

七日 月曜日 午後、天皇と共に表拝謁ノ間において、故邦彦王妃倪子御母・故依仁親王妃周子と御対面になり、新年の祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

八日 火曜日 午前、天皇と共に表拝謁ノ間において、雍仁親王妃勢津子と御対面になり、新年の祝

詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

午後、内廷庁舎御進講室において、先般事業御奨励のため金員を下賜した社会事業家聖園テレジアほか二名に謁を賜い、事業についての言上をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌

九日 水曜日 午前、天皇と共に御文庫において、参殿の盛厚王・同妃成子内親王・信彦王御孫と御対面

になり、新年の祝詞言上をお受けになる。終わって天皇及び盛厚王・同妃成子内親王・信彦王、さらに参殿の稔彦王御父邦彦  
王の弟・同妃聡子内親王と御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職

日誌、内舍人日誌

十一日 金曜日 午後、呉竹寮にお出ましになり、お庭における和子内親王・厚子内親王・貴子内親王の農作業を御覧になる。以後、この年もしばしば呉竹寮にお出ましになり、内親王方と過ごされる。

○女官長日記、女官日誌

十二日 土曜日 故町尻量基子爵町尻  
量弘嗣子の夫人由紀子邦憲王第  
一王女 昨日死去につき、皇室服喪令の規定により皇后

は七日の御服喪となる。ただし天皇のお許しにて平常どおりにお過ごしになる。なお、由紀子死去につき、皇后より菓子をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、皇親録、贈賜録、官報

十四日 月曜日 午後、表拝謁ノ間において、新任の侍医寮御用掛宮崎肇に謁を賜う。○女官長日記、女

官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

十五日 火曜日 午後、内廷庁舎において皇族情報懇談会にお出ましになり、外務省参事官武内竜次より「ソヴエイト事情に就いて」と題する講話をお聴きになる。宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王、

春仁王、朝融王御兄・同妃知子女王、稔彦王妃聡子内親王、盛厚王・同妃成子内親王、恒徳王・同妃光子が出席する。○女官長日記、女官日誌、菊栄親睦会録

十六日 水曜日 午後、御文庫において、信州方面へ疎開のところ今般帰京の元皇后宮女官宇野千代に謁を賜う。以後、この年も随時、元奉仕者の拝謁等がある。○女官長日記、女官日誌

十七日 木曜日 午前、表拝謁ノ間において、新任の宮内大臣松平慶民前宗秩、寮総裁及び前任の宮内大臣石渡莊太郎に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恩賜録、贈賜録、官報

十八日 金曜日 午後、内廷庁舎において皇族情報懇談会にお出ましになり、小島秀雄元海軍少将の「独逸より帰りて」と題する進講をお聴きになる。宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王、春仁王、盛厚王、朝

融王、鳩彦王御父邦彦、王の弟、恒徳王・同妃光子、故永久王妃祥子が出席する。○女官長日記、女官日誌、菊栄親睦会録  
昭和十八年に死去したフランス国特命全権大使シャルル・アルセーヌ・アンリーの夫人が北京に滞在

中のところ、今般来日し近く本国へ出発につき、皇后より同夫人に宝石箱漆花蝶文を下賜される。○贈賜録  
十九日 土曜日 午後、表拝謁ノ間において、この度退官の高尾公子三笠宮御用取扱に謁を賜う。○女官長日記、

女官日誌、侍従職日誌

天皇と共に御文庫において、元宮内大臣石渡莊太郎・元内記部長松平康昌・宮内大臣松平慶民ほかと御夕餐を共にされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二十日 日曜日 午前、天皇と共に御文庫において、鼻の手術後初めて参殿の皇太子と御対面になる。なお、皇太子は一昨十八日、昨年に続き学習院初等科への通学を開始する。○女官長日記、女官日誌、侍従

日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録

午後、天皇及び皇太子、和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と共に奥宮殿焼け跡にお出ましになり、自由学園男子部・女子部・初等科生徒による片付け作業を御覧になる。学園創立者の羽仁吉一及び同夫人もと子に謁を賜い、御静養室宮殿中、焼失を免れた部分ベランダに立たれ、生徒による明治天皇御製・青きドナウ・自由の歌・男子部讃歌の合唱と楽器の演奏をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、側近日誌

二十一日 月曜日 午前、表拝謁ノ間において、今般退官の元別当伏見宮付鳥巢玉樹・元別当閑院宮付谷口利三郎、及び転出の元皇子傅育官吉田良兼に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進退録  
二十二日 火曜日 午前、歌会始の儀が行われる。皇后は、御服喪中につき、御歌をお寄せにならず御欠席になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、儀式録

午後、内廷庁舎において皇族情報懇談会にお出ましになり、東京帝国大学教授板沢武雄より「神道に就いて 第一回」と題する進講をお聴きになる。宣仁親王、崇仁親王、春仁王・同妃直子、朝融王、鳩彦王、稔彦王妃聡子内親王、盛厚王・同妃成子内親王、恒徳王・同妃光子、李王垠・同妃方子女王が出席する。○女官長日記、女官日誌、菊栄親睦会録

二十三日 水曜日 午前、内廷庁舎において、東宮大夫兼東宮侍従長穂積重遠より「米国の国体」と題する進講をお聴きになる。以後、この年を通じ、同人より水曜日を中心に、定例の進講をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、穂積重遠東宮奉仕日録、穂積家文書

昭和二十一年一月

午前十一時四十五分御出門、赤坂離宮<sup>東宮御在所</sup>に行啓される。東宮職設置後初めての行啓につき、東宮大夫穂積重遠ほかに謁を賜い、離宮内の各間を御覧になる。下校後の皇太子と御対面になり、御昼餐を御会食になる。終わって御一緒に御庭を巡られ、東宮仮御所や青山御殿の焼け跡を御覧になる。午後四時七分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、幸啓録、官報、穂積重遠東宮奉仕日録

二十五日 金曜日 午前、内廷庁舎において、宮内省御用掛加藤虎之亮より『中庸』についての進講をお聴きになる。この年も、同人より漢文の進講を、金曜日を中心に約三十回にわたりお聴きになる。

○女官長日記、女官日誌、加藤虎之亮関係資料

内廷庁舎において、東京帝国大学教授板沢武雄より国史についての進講をお聴きになる。この年、同人による国史等についての進講を、一月二十二日・二十九日の皇族情報懇談会主催の神道についての進講を除き、金曜日を中心に、約二十回にわたりお聴きになる。○女官長日記、女官日誌

午後、内廷庁舎において皇族情報懇談会にお出ましになり、農地開発営団理事長村上竜太郎より「農地開発に就いて」と題する講話をお聴きになる。雍仁親王妃勢津子、宣仁親王妃喜久子、崇仁親王、春仁王・同妃直子、朝融王、故成久王妃房子内親王、恒徳王・同妃光子が出席する。○女官長日記、女官

日誌、侍従職日誌、菊栄親睦会録

表拝謁ノ間前廊下において、新任の禁衛府長官菊池盛登及び前任の禁衛府長官後藤光蔵ほかに謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進退録、恩賜録、贈賜録、官報

二十九日 火曜日 午後、内廷庁舎において皇族情報懇談会にお出ましになり、東京帝国大学教授板沢武雄より「神道に就いて 第二回」と題する進講をお聴きになる。宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親

王、春仁王・同妃直子、盛厚王・同妃成子内親王、故成久王妃房子内親王、恒徳王、李王垠・同妃方子女王が出席する。○女官長日記、女官日誌、菊榮親睦会録

三十日 水曜日 午前、内廷庁舎において、東宮大夫兼東宮侍従長穂積重遠より「議会民主主義化の問題」と題する進講をお聴きになる。午後、御文庫に同人をお召しになり談話会を催され、インフレ・シヨン及び総選挙についてお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、穂積重遠東宮奉仕日録、穂積家文書

三十一日 木曜日 午前、表拝謁ノ間において、この日廃官の元李王職次官兒島高信に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、省中日誌、進退録

## 二月

一日 金曜日 午後、内廷庁舎において皇族情報懇談会にお出ましになり、第一復員省業務局の細田熙より「山下裁判ノ状況並フィリッピンノ現状」と題する講演をお聴きになる。宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王、春仁王、恒憲王、鳩彦王、孚彦王鳩彦王の王子、稔彦王妃聡子内親王、盛厚王・同妃成子内親王、恒徳王・同妃光子が出席する。○女官長日記、女官日誌、菊榮親睦会録

表拝謁ノ間において、この度退官の前侍従職女官東貞子・前宮内省御用掛大迫セイほかに謁を賜う。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、進退録、恩賜録、贈賜録、官報

二日 土曜日 午後、呉竹寮にお出ましになり、この日より神戸絢を召され、ピアノの練習を行われる。また和子内親王・厚子内親王・貴子内親王の練習の様子を御覧になる。以後、しばしば呉竹寮においてピアノ等の練習を行われ、また三内親王のピアノを始め各種稽古を御覧になる。○女官長日記、女

昭和二十一年二月

官日誌

五日 火曜日 皇族親睦会の招きにより天皇と共に枢密院会議室にお出ましになり、雍仁親王妃勢津子を始め参集の皇族・王公族と午餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、菊栄親睦会録、高松宮日記、徳川義寛日記、私の自叙伝

六日 水曜日 御喪明け昨年十一月八日の三条西公正夫人信子の死去に伴う御服喪につき、午前、表拝謁ノ間において、侍従長藤田尚徳ほか総代より御機嫌奉伺をお受けになる。なお御喪明けにつき、沼津の皇太后の許へ侍従徳川義寛を差し遣わされ、万那料・菓子を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、贈賜録

内廷庁舎御進講室において、東宮大夫兼東宮侍従長穂積重遠より「英国婦人の参政権獲得」と題する進講をお聴きになる。午後、御文庫に同人をお召しになり談話会を催され、婦人問題についてお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、穂積重遠東宮奉仕日録、穂積家文書

八日 金曜日 午後、内廷庁舎において皇族情報懇談会にお出ましになり、在外同胞援護会理事長松田令輔より、同会の事業概要、並びに最近帰国者の状況についての講話をお聴きになる。宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王、朝融王・同妃知子女王、盛厚王・同妃成子内親王、恒徳王、李王埭妃方子女王が出席する。○女官長日記、女官日誌、菊栄親睦会録

十一日 月曜日 午前、紀元節祭につき、宮内省御用掛東貞子に御代拝を仰せ付けられる。天皇と共に表拝謁ノ間において、宣仁親王始め皇族・王族の拝賀をお受けになる。ついで葉山滞在中の正仁親王の御使として参内の皇子傳育官桑折英三郎の拝賀をお受けになる。さらに宮内大臣始め側近高等官の拝賀をお受けになる。夕刻の皇霊殿御神楽の儀も、東御用掛に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日

記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、儀式録、典式録

午後、天皇と共に講堂において、禁衛府主催による紀元節奉祝演奏会に御臨席になる。皇太子始め皇族・王族ほかが陪席する。禁衛府長官菊池盛登の詩吟、海童普門の尺八吹奏、皇宮奏楽隊による演奏、柳兼子の独唱などをお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、幸啓録、贈賜録

十二日 火曜日 支那事変以来の戦没者・殉職者に対し、思召しをもって御歌複本及び菓子を下賜されてきたところ、今後、菓子の下賜については廃止となる。これにより、準備されていた砂糖は、天皇の思召しにより厚生大臣所管の函館引揚援護局ほか十三施設に下賜されることとなり、二十五日、砂糖五万斤が厚生省に引き渡される。各引揚援護局において、この砂糖から羊羹が作られ、引揚民に配布される。○皇后陛下御歌下賜録、恩賜録

十三日 水曜日 午前、内廷庁舎において、東宮大夫兼東宮侍従長穂積重遠より、「明治初年の経済学」の題にて加藤弘蔵著『交易問答』についての進講をお聴きになる。午後、御文庫に穂積をお召しになり、時事問題歌道・思想・教育についての談話会を催される。○女官長日記、女官日誌、穂積重遠東宮奉仕日録、穂積家文書

十四日 木曜日 午後、内廷庁舎御進講室において、結核療養所清心療養園の岩佐倫、日本天主教関東地方教区教師社団桜町病院の岡村ふくに謁を賜い、兩人より事業経営の様子をお聞きになる。○

女官長日記、女官日誌、恩賜録

十五日 金曜日 午前、内廷庁舎において東京帝国大学教授板沢武雄より、魏の国における日本文献

昭和二十一年二月

についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌

午後、内廷庁舎において皇族情報懇談会にお出ましになり、ブーゲンビル島より帰還の元海軍大佐米内四郎より、「ブーゲンビル島より帰りて」と題する進講をお聴きになる。宣仁親王・同妃喜久子、恒憲王妃敏子、邦寿王、盛厚王・同妃成子内親王、恒徳王・同妃光子、李王垠・同妃方子女王が出席する。○女官長日記、女官日誌、菊栄親睦会録

十八日 月曜日 午後、内廷庁舎御進講室において、二葉保育園長徳永恕、相沢託児園長平野恒子、松葉保育園長涌井まつに謁を賜い、事業の様子をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、恩賜録

十九日 火曜日 午前、御文庫において故邦彦王妃侃子と御対面になり、近く熱海へ移転につき暇乞いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌

二十日 水曜日 午前、内廷庁舎において、東宮大夫兼東宮侍従長穂積重遠より「国際連合について」と題する進講をお聴きになる。宣仁親王妃喜久子が陪聴する。午後、御文庫に穂積をお召しになり、談話会を催される。預金非常措置問題、国字国語問題についての話などをお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、穂積重遠東宮奉仕日録、穂積家文書

二十一日 木曜日 午前、仁孝天皇百年式年祭につき、皇霊殿において御拝礼になる。午後、天皇と共に表拝謁ノ間において、文学博士中村孝也元東京帝国大学教授より仁孝天皇の御事蹟についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、儀式録、進講録

二十二日 金曜日 午前八時三十分御出門、恩賜財団済生会に行啓される。御到着後、御休所において総裁宣仁親王と御対面になり、会長島津忠重、芝病院長高雄徳竜以下に謁を賜う。それより宣仁親

王と共に看護婦養成所・芝病院・産院・乳児院を御巡覧になる。御視察の際、和製の薬品で不足はないかとの旨の御下問がある。また復員兵患者の枕元で立ち止まられ、体温表を御覧になった上、お言葉を賜う。内科診療室において結核患者を御慰問になり、さらに外科病室、産院、小児伝染病隔離病室を御視察になる。次に屋上に進まれ、付近一帯の戦災復旧住宅地を御覧になる。終わって、渋谷区宮代町の久邇宮本邸にお立ち寄りになる。同邸のお庭において御社に御拝礼の後、各室を御覧になる。続いて常磐松町の久邇宮別邸に移られ、故邦彦王妃倪子ほかと御昼餐を御会食になる。その後、恩賜財団戦災援護会双葉園に行啓され、園長高嶋巖一家に謁を賜う。また、園児による遊戯・唱歌などを御覧になる。午後三時五十七分還啓される。○女官長日記、女官日誌、幸啓録、官報、東京都同胞援護会のあゆみ

二十五日 月曜日 午後、天皇と共に御静養室前において、在外父兄救出学生同盟の東京帝国大学学生藤本照男・同木全純一・同吉原操・同金勝登、早稲田大学学生豊原兼一、拓殖大学学生原稔・同南方俊、東京慈恵会医科大学学生中野正高に謁を賜う。なお、皇后より引揚同胞援護のための医療用として、在外父兄救出学生同盟に薬品・衛生材料・医療用器具を下賜される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、贈賜録、側近日誌、毎日新聞、昭和

表拝謁ノ間において、前任の掌典長恒憲王並びに新任の掌典長徳大寺実厚に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、進退録、恩賜録、贈賜録、官報

天皇と共に内廷庁舎御進講室において談話会を催され、近來の行幸・行啓について、侍従長藤田尚徳・侍従職女官長保科武子以下供奉者より意見をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、側近日誌

昭和二十一年三月

二十六日 火曜日 午前、内廷庁舎において朝融王・同妃知子女王と御対面になり、去る二十二日の渋谷区宮代町・常磐松町の両久邇宮邸への行啓につきお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日記  
午後、内廷庁舎において皇族情報懇談会にお出ましになり、元第十八軍高級参謀陸軍大佐杉山茂よりニューギニアの状況についての進講をお聴きになる。雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王、稔彦王妃聡子内親王、恒徳王、故成久王妃房子内親王、李王垠・同妃方子女王が出席する。

○女官長日記、女官日記、菊栄親睦会録

二十七日 水曜日 午前、内廷庁舎において、東宮大夫兼東宮侍従長穂積重遠より「日本管理原則に就て」と題する進講をお聴きになる。併せて穂積より、去る二十二日の恩賜財団戦災援護会双葉園行啓の際の園児による行啓感想記二編についてお聴きになる。○女官長日記、女官日記、穂積重遠東宮奉仕日録、穂積家文書

昨年より葉山御用邸附属邸に転地中の正仁親王が、この日赤坂離宮に帰還する。午後、御文庫において、同親王と御対面になる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舍人日記

この月 大聖寺・宝鏡寺・曇華院・林丘寺・靈鑑寺・光照院・三時知恩寺・円照寺・水薬師寺・長福寺・中宮寺・法華寺・善光寺に乾海苔料を賜う。○贈賜録

### 三月

二日 土曜日 貴子内親王の誕生日につき、午後、天皇と共に内廷庁舎において、貴子内親王と御対面になる。ついで天皇及び貴子内親王と共に表拝謁ノ間において、宮内大臣始め総代、ついで侍従職

女官長始め侍従職女官等の拝賀をお受けになる。また参内の元内親王傅育掛大迫セイ、元皇后宮女官内山はるに謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、皇子保育録

四日 月曜日 午後、内廷庁舎御進講室において、この度復員の元第八艦隊司令長官鮫島具重元海軍、中將並びに元第八艦隊参謀長山澄貞次郎に謁を賜う。両名は元侍従武官につき、特に労いのお言葉がある。

○女官長日記、女官日誌

六日 水曜日 この日、満四十三歳のお誕生日を迎えられる。

午前、表拝謁ノ間において宮内大臣始め高等官一同の拝賀を、続いて雍仁親王妃勢津子始め皇族・王公族の拝賀を、さらに親任官・貴族院議長以下の拝賀をお受けになる。ついで講堂において宮内親任官待遇等の拝賀を、再び表拝謁ノ間において元皇后宮大夫河井弥八始め元皇后宮事務官及び元皇后宮女官の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、儀式録、典式録

七日 木曜日 厚子内親王の誕生日につき、午後、天皇及び厚子内親王と共に表拝謁ノ間において、侍従次長始め総代、続いて侍従職女官等の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、皇子保育録

九日 土曜日 この日、震災記念堂において東京都戦災殉難者一周年慰霊法要執行につき、天皇・皇后より東京都及び恩賜財団戦災援護会に生花を賜う。○恩賜録

十日 日曜日 信彦王初誕辰につき、天皇・皇后より皇太后に三種交魚代料を、稔彦王・同妃聡子内親王に三種交魚代料を、盛厚王・同妃成子内親王に五種交魚代料を、信彦王に鮮鯛代料・御台人形代料を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、贈賜録

昭和二十一年三月

十二日 火曜日 御風気のため、学習院初等科への行啓をお取りやめになる。十五日より御仮床に就かれ、同日予定されていた宮内省御用掛加藤虎之亮の進講は休講となる。○女官長日記、女官日誌、幸啓録、加藤虎之亮関係資料、側近日誌

二十日 水曜日 午前、天皇と共に御文庫において、この日学習院初等科を卒業の皇太子と御対面になり、卒業証書等を御覧になる。その際、天皇・皇后より皇太子にお品及び万那料等を御贈進になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮録、幸啓録

二十一日 木曜日 午前、春季皇霊祭及び同神殿祭につき、侍従職女官伊達璋子に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、儀式録、典式録

二十二日 金曜日 女子学習院において卒業式挙行につき、午前八時二十分御出門、護国寺内の女子学習院仮校舎に行啓される。御到着後、便殿において、皇族妃及び在学中の皇族と御対面になる。ついで院長下村寿一・護国寺貫首佐々木教純に謁を賜う。それより境内の音羽洋裁女学院の大教室に設えられた式場に臨御される。今般中等科を卒業の和子内親王、並びに光子女王の卒業証書授受を御覧になり、また高等科・中等科・初等科生徒への各卒業証書授与を御覧になる。下村院長・宮内大臣の告辞、各科卒業生代表者の謝辞、「月の桂」の奉唱、院長の閉会の辞をお聞きになり、式場を退出される。御少憩後、和子内親王・厚子内親王・貴子内親王の教室等を巡覧される。便殿において院長・貫首に学校の経営上のことについて種々御下問になった後、豊島岡墓地に向かわれ、和子内親王・厚子内親王と共に祐子内親王の墓所に御拝礼になる。ついで明治天皇の皇子女の墓所、さらに邦彦王<sup>御父</sup>の墓所に拝礼され、十一時五十七分還啓される。

午後、天皇と共に御文庫において、和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と御対面になり、行啓のお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、幸啓録、皇子保育録、御通学録、官報、学習院百年史

二十三日 土曜日 夕刻、天皇と共に御文庫において、内親王傅育掛長藤井種太郎に謁を賜い、和子内親王・厚子内親王・貴子内親王の成績、及び今後の教育につき言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、藤井種太郎日誌

二十五日 月曜日 午後、御文庫において、この日内親王傅育掛長を免じられた藤井種太郎、同じく内親王傅育掛を免じられた塘ミツに謁を賜う。ついで再度内親王傅育掛を仰せ付けられた名取はなに謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、省中日誌、進退録、恩賜録、贈賜録、官報、藤井種太郎日誌

二十七日 水曜日 来る三月三十一日をもって禁衛府官制廃止につき、午前、天皇と共に内苑門外において、廃官となる禁衛府長官菊池盛登以下、同府総務部及び皇宮衛士総隊の職員に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、重要雑録

内廷庁舎において、東宮大夫兼東宮侍従長穂積重遠より「戦争と英国の王室」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、穂積重遠東宮奉仕日録、穂積家文書

二十八日 木曜日 午前、内廷庁舎御進講室に御歌所寄人鳥野幸次をお召しになり、和歌の研究を行われる。○女官長日記、女官日誌

二十九日 金曜日 午後、天皇と共に内廷庁舎御進講室において、今般退官の元皇太后宮大夫大谷正男、新任の皇太后宮大夫坊城俊良に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、坊城俊良日記

昭和二十一年四月

三十日 土曜日 午前、吳竹寮にお出ましになり、ピアノの練習を行われる。その際、この年初めて安藤幸をお召しになり、同人の指導をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

午後、天皇と共に講堂において、今般の宮内省官制改正に伴う人員整理により退官する宮内高等官百三名に、順次謁を賜う。続いて宮内省庁舎を廻られ、本省三階、二階の各廊下において、各部局ごと  
の宮内判任官以下本省勤務の全職員に、一階廊下において今般退職の宮内判任官以下<sup>外局を</sup>に、それぞれ謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、典式録、重要雑録

#### 四月

一日 月曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午前十時二十分御出門、十一時四十分同邸に御到着になる。午後、正仁親王、和子内親王・厚子内親王・貴子内親王も葉山に参着、さらに雍仁親王妃勢津子、崇仁親王・同妃百合子も参邸につき、御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、省中日誌、秩父宮御用邸日誌、幸啓録、官報

二日 火曜日 午前、天皇及び和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と共に海岸にお出ましになり、小磯において正仁親王も加わり、貝・海藻等を御採集になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、皇子保育録

三日 水曜日 午前、天皇及び和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と共に海岸伝いに高松宮別邸に行啓され、同邸に逗留中の正仁親王と御対面になる。同邸にて御昼餐を御会食になり、午後、還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、皇子保育録

四日 木曜日 雍仁親王の病状お尋ねのため、午前、天皇と共に海岸伝いに秩父宮別邸に行啓される。

正午過ぎ還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、秩父宮御用邸日誌、秩父宮事務日誌、幸啓録、

皇子保育録

五日 金曜日 午後、天皇及び正仁親王・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と共に三笠宮別邸<sup>三井別邸</sup>

に行啓される。玄関において崇仁親王・同妃百合子、甯子内親王のお出迎えをお受けになり、その後御談話等にてお過ごしになる。夕刻還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、皇

子保育録

七日 日曜日 午前、天皇及び和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と共に葉山御用邸本邸敷地内の製塩所にお出ましになり、製塩作業を御覧になる。なお、同製塩所は、昨年九月十三日着工、同月二十日より試験通電により製塩を開始した。同年十一月二十日の竣工後は高圧通電により、同年中約七千キログラムを製塩した。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、幸啓録

午後一時三十一分御出門、神奈川県綜合社会事業施設第一金沢郷に行啓される。御着後、事務所において神奈川県知事内山岩太郎に謁を賜う。それより各寮において引揚民と戦災者の集団生活を御覧になり、收容者にお言葉を賜う。四時二十四分御用邸に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、幸啓録

八日 月曜日 皇太后御生母九条幾子<sup>野間幾子、浄操院</sup> 去る五日死去につき、喪儀のこの日、天皇・皇后より御

使の宮内省御用掛竹屋志計子を通じて菓子料・切り花をお供えになり、また皇太后に棹物を御贈進になる。九日には、天皇・皇后より公爵九条道秀<sup>幾子の孫、皇太后の御甥</sup> に金員を賜う。○女官長日記、重要雑録、御下賜金閣

昭和二十一年四月

係書類、貞明皇后実録正本

九日 火曜日 午前八時三十分御出門、聖心愛子会に行啓される。御着後、便殿において会長聖園テレジア、副会長加藤ユステイチア、神奈川県知事内山岩太郎ほかに謁を賜う。それより会長の先導にて階下へ進まれ、代表の大橋シスターより行啓のお礼言上をお受けになり、次室において各支部その他の記念写真等を御覧になる。その後、礼拝堂ほか各室、食堂、台所等を御巡覧になり、キンダーハウスでは、子供たちの唱歌をお聴きになる。午後零時四十五分御用邸に還啓される。○女官長日記、女官日誌、幸啓録

十日 水曜日 夜、天皇と共に、酵素肥料を研究中の手塚金助より酵素についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録

十二日 金曜日 午後一時十分天皇と共に葉山御用邸を御出門、二時四十五分宮城に還啓される。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、省中日誌、幸啓録、官報、内閣官房総務課資料

十三日 土曜日 天皇と共に御文庫において、今般退官又は転出の元侍従三井安弥宮内大臣官房人事課長・宮内大臣秘書官、元侍

従職女官東貞子宮内省御用掛、元皇后宮職御用掛竹屋志計子元皇后宮女官長、宮内省御用掛、ほかと御夕餐を共にされる。○女官長日

記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、省中日誌

十五日 月曜日 午前、天皇と共に表拝謁ノ間において、一昨十三日巢鴨拘置所から帰邸の守正王御父邦彦

及び同妃伊都子と御対面になり、収監中のお礼並びに獄中の模様につき言上をお受けになる。王の帰邸につき、天皇・皇后より王に万那料及び玉子・野菜を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日

誌、内舍人日誌、贈賜録

十六日 火曜日 午後、内廷庁舎御進講室において、今般退官の宮内省出仕桑折英三郎元皇子傳育官、元侍從武官・同内

藤政恒元皇子傳育官、元侍從・前掌典次長小出英経元侍從・元侍從三井安弥、並びに新任の宮内省出仕田端恒信に謁を

賜う。○女官日誌、侍從職日誌、内舍人日誌、省中日誌、恩賜録、贈賜録

十七日 水曜日 午後、天皇と共に表拝謁ノ間において、学習院長山梨勝之進及び主管の学習院教授

秋山幹・同鈴木弘一に謁を賜う。皇太子学習院初等科卒業につき、茶菓を供され、各人を御慰勞にな

る。○女官長日記、女官日誌、侍從日誌、侍從職日誌、内舍人日誌

十八日 木曜日 午前、内廷庁舎において、今般退任の元皇太后宮大夫大谷正男・元皇太后宮事務官

西邑清・同清閑寺良貞・元図書頭池田秀吉・元別当朝香森田宣・元別当秩父住山徳太郎・元別当北白川橋本

群・元別当久邇中村俊久・元別当竹田茨木清次郎・元別当高松石田馨・元別当梨本中島虎吉・元別当賀陽原常

成・元別当東久邇松本幹之介・元別当山階工藤壮平・元別当閑院小池竜二、及び新任の図書頭大場茂行・

宮内省出仕吉田武生に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍從職日誌、典式録、恩賜録、贈賜録

花蔭亭にお出ましになり、鳩彦王より返上の道具類故允子内親王の調度類を御覧になる。○女官長日記、女官日誌

午後、天皇と共に表拝謁ノ間において、女子学習院長下村寿一・女子学習院教授上甲二郎・同内山千

ヨ・元女子学習院長長屋順耳・元女子学習院長芝田徹心・元女子学習院教授射手矢貞三に謁を賜う。

和子内親王女子学習院中等科卒業につき、各人に茶菓を供され、御慰勞になる。○女官長日記、女官日誌、

侍從日誌、侍從職日誌、内舍人日誌、皇子保育録、御通学録

昭和二十一年四月

昭和二十一年四月

十九日 金曜日 午後、天皇と共に表拝謁ノ間において、孚彦王妃千賀子に伴われ初参内の美乃子女王昨年十一月二十四日誕生と御対面になる。天皇・皇后より鳩彦王及び孚彦王・同妃に三種交魚代料を、美乃子女王に鮮鯛料等を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

天皇と共に表拝謁ノ間において、東京帝国大学教授高木八尺より「米國憲法ニ於ケル民主主義」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録

二十三日 火曜日 午後、天皇と共に内廷庁舎御座所において、文学博士鈴木大拙より仏教についての進講をお聴きになる。翌日午後、天皇と共に表拝謁ノ間において、鈴木より進講の続きをお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録

二十四日 水曜日 午前、内廷庁舎御進講室に元別当山階宮付工藤壮平をお召しになり、御自ら書き写された詔勅をお見せになり、下げ渡される。後刻、再び同所において、工藤による御前揮毫を御覧になる。

○女官長日記、女官日誌

表拝謁ノ間において、京都在任華族総代の子爵水無瀬忠政に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、

内舍人日誌、典式録、贈賜録

二十五日 木曜日 午前、天皇と共に生物学御研究所において、柴田欣志より酵素についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、進講録

二十六日 金曜日 午前十時十五分御出門、赤坂離宮に行啓され、離宮内を御覧になる。午後、下校後の正仁親王と共に再び離宮内を御覧になる。夕刻還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、幸啓録、

側近日誌

二十七日 土曜日 午前、表拝謁ノ間において、米国基督教団体の招聘により今般米国に出発する日本基督教女子青年会会長植村環に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌

二十九日 月曜日 天長節につき、午前、内廷庁舎御進講室において宮内大臣・宮内次官・侍従長・内記部長、ついで雍仁親王妃勢津子始め皇族・王公族二十七方の拝賀を、さらに侍従職女官等の拝賀をお受けになる。後刻、内廷庁舎御進講室において元内親王傳育掛塘ミツのほか参賀の元皇后宮女官に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、典式録

三十日 火曜日 午後、天皇と共に表拝謁ノ間において、東京帝国大学教授田中耕太郎より「キリス卜教ニ就テ」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録

## 五月

三日 金曜日 寛仁親王の賢所初参拝につき、午前、天皇と共に表拝謁ノ間において、崇仁親王妃百合子及び寛仁親王と御対面になる。遅れて参内の崇仁親王とも御対面になる。初参内につき、天皇・皇后より崇仁親王・同妃百合子に五種交魚代料を、寛仁親王に鮮鯛代料・御台人形代料を御贈進になる。また、翌四日、箸初につき、天皇・皇后より崇仁親王・同妃に五種交魚代料を、寛仁親王に鮮鯛代料・御台人形代料を、さらに五日の初節句には三笠宮に三種交魚代料を、寛仁親王に御台人形代料・鯉料を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、贈賜録

内廷庁舎御進講室において、新任の侍従長大金益次郎、前侍従長藤田尚徳、新任の侍従次長稲田周一、前侍従次長木下道雄に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

午後、天皇と共に表拝謁ノ間において、京都帝国大学名誉教授小西重直より「広瀬淡窓ニ就テ」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録

内廷庁舎において、新任の侍従職女官道木菊重に謁を賜う。御文庫に戻られた後、前侍従職女官関松に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、贈賜録

七日 火曜日 午前、内廷庁舎御進講室に三井銀子をお召しになり、剪綵についてお尋ねになる。○女官長日記、女官日誌

午後、内廷庁舎御車寄前において、日本天主教福岡区長司教深堀仙右衛門・別府市愛国女塾塾長長田シゲほか二名に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌

内廷庁舎御進講室において、新任の侍従鈴木菊男に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、進退録  
天皇と共に表拝謁ノ間において、東京帝国大学教授斎藤勇より「プロテスタントニ就テ」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録

八日 水曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになる。昨七日の御養蚕始の儀に皇后のお出ましはなく、この日、残りの掃立てを行われる。○女官長日記、女官日誌

十日 金曜日 正午過ぎ、天皇と共に枢密院会議室における皇族懇話会にお出ましになり、宣仁親王始め皇族・王公族と午餐を御会食になる。ついで内廷庁舎参殿者休所において茶菓を共にされる。以降、天皇・皇后出御の上で、毎月一回お茶の会が催され、そのうち三箇月に一回は午餐が催されることとなる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、菊栄親睦会録、高松宮日記

十九日 日曜日 午前、天皇と共に御文庫において、この日赤坂離宮より内廷庁舎三階に移居の正仁

親王と御対面になる。午後、天皇及び正仁親王と内廷庁舎において、親王の御座所を御覧になる。正仁親王の移居につき、天皇・皇后より万那料を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、皇子保育録、幸啓録、贈賜録

二十日 月曜日 故載仁親王一周年祭につき、天皇・皇后より祭糝料を賜う。また、皇后宮使として宮内省出仕戸田康英侍を渋谷区常磐松町の宗秩寮分室元東伏見宮邸の権舎に差し遣わされ、玉串をお供えになる。豊島岡墓地における墓所祭には、皇后宮使として宮内省出仕久松定孝侍を差し遣わされ、玉串をお供えになる。なお、天皇・皇后より権舎に生花を、墓所に櫛を賜う。翌二十一日夕刻、天皇と共に御文庫において、春仁王・同妃直子と御対面になり、お礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、省中日誌、皇親録、典式録、贈賜録

二十二日 水曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌

この日、皇太子が赤坂離宮の東宮御在所から東京都北多摩郡小金井町の御仮寓所東宮御仮寓所へ移居するに当たり、天皇・皇后より皇太子に万那料を御贈進になる。また後日、天皇・皇后より皇太子にお品を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、幸啓録、贈賜録

二十三日 木曜日 午後、天皇及び和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と共に呉竹寮南側の畑地にお出ましになる。先着の正仁親王も交え、商工省関東信越地方商工局長吉田悌二郎ほかより献上された農耕器具カルチベーター日本特殊鋼株式会社製作による馬耕実演を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職

日誌、内舎人日誌、重要雑録、幸啓録、贈賜録

二十四日 金曜日 正午、天皇と共に内廷庁舎常侍官候所において、食糧問題に関する天皇のお言葉のラジオ放送をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二十五日 土曜日 夕刻、天皇と共に御文庫において、元侍従長藤田尚徳・元侍従次長木下道雄、及び元侍従職女官関松ほかと御夕餐を共にされる。御夕餐に先立ち、木下にお手許品を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、恩賜録、側近日誌

二十八日 火曜日 正午過ぎ、内廷庁舎御進講室において、元典侍竹屋津根子、元皇太后宮職御用掛岩倉桜子・同吉田鞆子、元権掌侍西京子に謁を賜う。宮内省御用掛を仰せ付けられた竹屋・西に對してはお言葉がある。また、天皇・皇后よりそれぞれに賜品があり、皇后よりもそれぞれにお手許品が下賜される。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

二十九日 水曜日 午前八時四十五分御出門、戸山町の女子学習院に行啓される。便殿において和子内親王・厚子内親王・貴子内親王を始め学生の皇族と御対面になり、院長下村寿一ほか教官二名に謁を賜う。それより各教室を巡覧される。その際、和子内親王・厚子内親王・貴子内親王の教室も廻られ、内親王方の勉強の様子を御覧になる。また、御休所において常磐会総代及び御同級生に謁を賜う。午後零時還啓される。なお後日、鏡三面、菓缶五個を女子学習院に下賜される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、幸啓録、贈賜録、官報

三十日 木曜日 午前、内廷庁舎御進講室において元御歌所寄人鳥野幸次をお召しになり、「麦」との題にて和歌の研究会を催される。○女官長日記、女官日誌

三十一日 金曜日 午前、内廷庁舎において東京帝国大学教授板沢武雄より、聖武天皇東宮時代の仏

教についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌

午後、呉竹寮にお出ましになる。元御歌所寄人鳥野幸次より、和子内親王と共に歌道についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌

## 六月

四日 火曜日 午後、天皇と共に内廷庁舎参殿者休所における皇族懇話会のお茶の会に御臨席になり、宣仁親王妃喜久子始め皇族・王公族十六方と茶菓を共にされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、菊栄親睦会録

五日 水曜日 午前、内廷庁舎において、多年正仁親王の病氣治療に従事の東京帝国大学教授高木憲次に謁を賜う。なお、天皇・皇后より高木ほか一名に賜物・賜金がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

紅葉山御養蚕所にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌

六日 木曜日 午後、旧主馬寮にお出ましになり、正仁親王の乗馬の様子を御覧になる。○女官長日記、女官日誌

七日 金曜日 午後、内廷庁舎において皇族情報懇談会にお出ましになり、農林大臣和田博雄より食糧事情についての進講をお聴きになる。雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王、春仁王・同妃直子、博恭王、鳩彦王、孚彦王、恒徳王・同妃光子が出席する。○女官長日記、女官日誌、菊栄親睦会録

昭和二十一年六月

九日 日曜日 この日久邇宮が渋谷区宮代町の本邸より常磐松町の久邇宮別邸に移転につき、皇后より野菜等を賜う。○女官長日記、女官日誌、贈賜録

十一日 火曜日 午後、天皇と共に表拝謁ノ間において、柳田国男元貴族院書記官長より「国語ニ就テ」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録

十五日 土曜日 午前、内廷庁舎において孚彦王妃千賀子と御対面になり、実兄伯爵藤堂高延死去後の忌明けにつきお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、皇親録

十六日 日曜日 去る三月より百日咳のため療養中の皇太子が今般全快したため、午前、天皇と共に御文庫において、皇太子と御対面になる。ついで天皇及び皇太子・正仁親王・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と御昼餐を御会食になる。御食後、お揃いにて内廷庁舎にお出ましになり、正仁親王の居室をお訪ねになる。なお昨十五日、天皇・皇后より皇太子に万那料を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、東宮職事務日誌、幸啓録、贈賜録

十七日 月曜日 天皇と共に沼津に行啓される。午前七時二十分御出門、九時四十分沼津御用邸西附属邸に御到着になる。直ちに皇太后と御対面になり、御団欒になる。天皇が市中の御視察に出発された後、皇太后と御昼餐を御会食になり、皇太后の御案内にて本邸の焼跡を御覧になる。また、南馬鈴薯の収穫が行われる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、省中日誌、沼津御用邸西附属邸日誌、幸啓録、貞明皇后実録正本、官報、久邇家所蔵資料、今上陛下と母宮貞明皇后

十八日 火曜日 午前、皇太后と御対面の後、御一緒に海岸にお出ましになる。御昼餐を御会食になり、午後四時四十五分皇太后と共に御出門、沼津駅に御到着になる。天皇御乗車のお召し列車に皇太

后と共に乗車され、車内にて天皇・皇太后と御歓談になる。皇太后御下車の後、同駅を御出発になり、東京駅を経て、七時十七分宮城に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、省中日誌、沼津御用邸西附属邸日誌、幸啓録、貞明皇后実録正本、官報、久邇家所蔵資料

十九日 水曜日 午前、内廷庁舎において、東宮大夫兼東宮侍従長穂積重遠より「建国の事情と万世一系の思想」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、穂積重遠東宮奉仕日録、穂積家文書

二十一日 金曜日 午前、内廷庁舎御進講室において、東京帝国大学教授板沢武雄よりキリスト教の発達についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌

二十二日 土曜日 去る十四日幸田延ピアニスト・ヴァイオリニスト死去につき、思召しをもって菓子をお供えになる。

○女官長日記、省中日誌、恩賜録

二十四日 月曜日 午前、天皇と共に表拝謁ノ間において、恒徳王妃光子に伴われ初参内の恒治王昭和十九年八月三日誕生と御対面になる。初参内につき、天皇・皇后より恒徳王・同妃に三種交魚代料を、恒治王に鮮

鯛代料・御台人形代料を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

二十六日 水曜日 午前、内廷庁舎において、東宮大夫兼東宮侍従長穂積重遠より「戦争犯罪裁判と平和思想」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、穂積重遠東宮奉仕日録、穂積家文書

二十八日 金曜日 夕刻、天皇と共に御文庫において、沼津御用邸西附属邸より御参殿の皇太后と御対面になる。ついで正仁親王・和子内親王・厚子内親王も交え、御晚餐を御会食になる。その後、天皇・皇太后と吹上御苑を御散策になり、蛩を御覧になる。この夜、皇太后は初めて花蔭亭に御一泊に

昭和二十一年七月

なる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、重要雑録、貞明皇后実録正本、官報、久邇家所蔵資料

二十九日 土曜日 朝、花蔭亭にお出ましになる。途中、御散策中の皇太后と御対面になり、御一緒に御文庫にお戻りになる。それより皇太后は多摩陵<sup>大正天皇陵</sup>に御参拝になり、その後、沼津御用邸西附属邸に戻られる。よって皇太后を奉送のため、午後、天皇・皇后より侍従久松定孝を品川駅に差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、重要雑録、貞明皇后実録正本、官報

## 七月

一日 月曜日 午前、内廷庁舎御進講室において、朝融王・同妃知子女王と御対面になり、先般常磐松町の久邇宮別邸に移居に際してのお仕向けにつきお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

二日 火曜日 午後、天皇と共に内廷庁舎参殿者休所における皇族懇話会の茶話会にお出ましになり、雍仁親王妃勢津子始め十七方と茶菓を共にされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、秩父宮御用邸日誌、菊栄親睦会録

元主馬頭公爵西園寺八郎昨一日死去につき、天皇・皇后・皇太后より祭糒料を下賜される。また、これより先、天皇・皇后より病氣お尋ねとしてカルグルト<sup>乳酪飲料</sup>・ビスケットを下賜される。○侍従職日誌、省中日誌、恩賜録、贈賜録、貞明皇后実録正本

三日 水曜日 午前、天皇と共に旧主馬寮覆馬場にお出ましになり、正仁親王の乗馬を御覧になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

内廷庁舎において、東宮大夫兼東宮侍従長穂積重遠より「第九十帝国議会の重要問題」と題する進講

をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、穂積重遠東宮奉仕日録、穂積家文書

**四日** 木曜日 午前九時十分御出門、学習院小金井校及び東宮御仮寓所に行啓される。学習院玄関前において職員・学生一同のお出迎えをお受けになり、便殿に入られる。院長山梨勝之進に謁を賜い、校務奏上をお受けになり、続いて学習院事務官、並びに皇太子の教育に当たる教授に謁を賜う。終わって皇太子の在籍する中等科一年一組の英語の授業を御覧になり、その後、二組、三組の授業、さらに二年の農耕作業を御覧になる。続いて光華殿に移られる。それより皇太子の案内にて御仮寓所を御覧になり、再び光華殿に戻られ、皇太子とお弁当を御会食になる。午後も再び御仮寓所ほかを御覧になり、皇太子と共に付近の雑木林等を御散策になる。午後三時五十二分還啓される。○女官長日記、女官日誌、幸啓録、官報、学習院百年史

**九日** 火曜日 午前、旧主馬寮覆馬場にお出ましになり、正仁親王の乗馬を御覧になる。○女官長日記、

女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

**十日** 水曜日 午前、内廷庁舎御進講室において、東宮大夫兼東宮侍従長穂積重遠より「ソ連の復興発展計画」と題する進講をお聴きになる。終わって、天皇と共に表拝謁ノ間において、穂積より皇太子の第一学期の成績についての言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、穂積重遠東宮奉仕日録、

穂積家文書

午後、天皇と共に表拝謁ノ間において、正仁親王の教育に関する座談会に臨まれる。侍従長大金益次郎、並びに皇子傳育掛東園基文・同松村康平ほか正仁親王の傳育関係者が出席する。○女官長日記、女官

日誌、侍従日誌、内舍人日誌、入江相政日記

昭和二十一年七月

十一日 木曜日 午前、和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と共に旧主馬寮の馬場にお出ましになり、正仁親王の乗馬訓練を御覧になる。○女官長日記、女官日誌

十二日 金曜日 午前、天皇と共に宮内省会議室において、今般退官の各宮家付職員六十五名に謁を賜う。その後、お一方にて内廷庁舎御進講室において、山座賤香秩父宮御用取扱・町野トキ高松宮御用取扱・大久保沢子

北白川宮御取扱・窪田悦子竹田宮御用取扱・五辻須美北白川宮御取扱に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恩賜録

十五日 月曜日 午前九時五分御出門、多摩陵に行啓される。御休所に御着の後、図書頭大場茂行の先導にて御拝座に進まれ、御拝礼になる。それより内正門階下において陵墓監より戦災被害についての奏上をお聞きになる。午後零時十八分還啓される。○女官長日記、女官日誌、幸啓録、重要雑録、官報

十七日 水曜日 午前、内廷庁舎御進講室において、今般退官の前久邇宮御取扱富永ワキ・同長崎佐恵子に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、恩賜録

内廷庁舎御進講室において、元別当山階宮付工藤壮平より伏見天皇の書道についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌

二十日 土曜日 午前、内廷庁舎御進講室において、今般退官の前東久邇宮御取扱事務嘱託菊地定子に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌

二十四日 水曜日 午前、内廷庁舎において、元別当山階宮付工藤壮平の進講をお聴きになる。○女官日誌

二十六日 金曜日 午後、内廷庁舎御進講室において、聖園テレジア並びに加藤ユステイチアに謁を

賜う。○女官長日記、女官日誌

二十九日 月曜日 竹内絢子<sup>御父邦彦  
王の姉</sup> 去る二十六日死去につき、同日より九十日服喪される。また、天

皇・皇后・皇太后より祭糝料を下賜される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、重要雑録、皇親録、皇族身分録、恩賜録、貞明皇后実録正本、官報

## 八月

一日 木曜日 天皇と共に御文庫において、この日那須御用邸へ出発の正仁親王と御朝餐を御会食に  
なる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

五日 月曜日 午前、御文庫において、那須より帰京の皇子傳育掛東園基文に謁を賜う。翌日沼津御  
用邸東附属邸に赴く東園に、同地滞在中の皇太子に御贈進のお品をお託しになる。○女官長日記、女官日誌、  
幸啓録

十二日 月曜日 午後、御文庫において、那須より帰京の侍従戸田康英に謁を賜い、正仁親王の近況  
についてお聞きになる。ついで同じく那須より帰京の侍従次長稲田周一に謁を賜い、同地に滞在中の  
正仁親王・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王の近況についてお聞きになる。○女官長日記、女官日誌

十五日 木曜日 この日、博恭王の病氣重体につき、天皇・皇后より御使として侍従長大益次郎を  
品川区上大崎の伏見宮邸へ差し遣わされる。また天皇・皇后・皇太后より侍医西野重孝を同邸へ差し  
遣わされる。なお、天皇・皇后・皇太后より病氣お尋ねとして葡萄酒を下賜される。○女官長日記、女官  
日誌、侍従日誌、侍従職日誌、省中日誌、重要雑録、皇親録、貞明皇后実録正本

昭和二十一年八月

十六日 金曜日 午前、盛厚王妃成子内親王内着帯につき、天皇・皇后より皇太后に五種交魚代料を、稔彦王・同妃聡子内親王に三種交魚代料をそれぞれ御贈進になる。また、皇后より盛厚王・同妃に三種交魚代料を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、贈賜録

博恭王この日薨去につき、この日より三日の宮中喪となる。弔問のため、天皇・皇后より勅使及び皇后宮使として侍従入江相政を伏見宮邸へ差し遣わされる。また、薨去に際し、天皇・皇后・皇太后より祭資を下賜される。連合国最高司令部より下賜は認められず、宮内省の立替金とされた 十八日、正寝移柩の儀につき、天皇・皇后・皇太后より

盛菓子を賜う。二十日、勅使及び皇后宮使として侍従戸田康英を同邸に差し遣わされ、天皇より白地錦・神饌・櫛を、皇后より白羽二重・櫛を賜う。同日夕刻、靈代安置の儀につき、勅使及び皇后宮使として侍従入江相政を同邸に差し遣わされ、玉串をお供えになる。二十一日、斂葬当日柩前祭の儀につき、勅使及び皇后宮使として侍従徳川義寛を伏見宮邸に差し遣わされ、玉串をお供えになる。葬場の儀には、皇后宮使として侍従久松定孝を豊島岡墓地へ差し遣わされ、玉串をお供えになる。

博恭王は明治八年に貞愛親王第一王子として誕生、明治三十年、徳川慶喜九女経子と結婚する。日露戦争には海軍少佐として出征し、黄海海戦において負傷する。以後海軍大学校長・艦隊司令長官等を歴任し、大正十一年には海軍大将、昭和七年には元帥府に列せられる。同年海軍軍令部長、翌八年軍令部総長に補される。十六年軍令部総長を辞する。この年六月頃より容体が悪化し、天皇・皇后・皇太后より種々お見舞いの品を下賜されたが、この日薨去する。享年七十二。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、重要雑録、皇親録、皇族身分録、慶弔録、墓誌銘録、官報、入江相政日記

十七日 土曜日 午後、天皇と共に御文庫において、雍仁親王妃勢津子と御対面になり、宮中喪の御

機嫌奉伺をお受けになる。また夕刻、天皇と共に御文庫において、故成久王妃房子内親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、秩父宮御用邸日誌、秩父宮事務日誌

二十七日 火曜日 午前、天皇と共に表拝謁ノ間において、宮内省御用掛寺崎英成夫人グエンに謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、昭和天皇独白録、寺崎英成・御用掛日記、太陽にかける橋

二十八日 水曜日 午前、表拝謁ノ間において、新任の掌典長甘露寺受長・帝室博物館総長安倍能成、並びに前任の帝室博物館総長土岐政夫に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、稲田周一関係資料

内廷庁舎御進講室において、元別当<sup>山階</sup>工藤壮平より書道並びに藤原顕輔・源頼政ほかについての進講をお聴きになる。○女官日誌

二十九日 木曜日 午前、天皇と共に御文庫において、昨日沼津御用邸東附属邸より帰京の皇太子と御昼餐を御会食になる。なお御昼餐に先立ち、天皇と共に同所において、東宮大夫穂積重遠に謁を賜い、沼津における皇太子の動静につき奏上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、穂積重遠東宮奉仕日録

三十日 金曜日 午前、内廷庁舎において、元御歌所寄人鳥野幸次より和歌御題の「ねむの花」についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌

## 九月

十一日 水曜日 天皇と共に枢密院会議室において、去る四月一日付をもって皇太子の学問に関する重要事項に参与することを仰せ付けられた帝室博物館総長安倍能成・東京帝国大学教授掛谷宗一、並

昭和二十一年九月

びに同じく教育の任に当たる学習院長山梨勝之進・東宮大夫兼東宮侍従長穂積重遠・宮内省御用掛野村行一東宮御学問主管ほかに御昼餐の御陪食を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、

宣召録、典式録、穂積重遠東宮奉仕日録

十八日 水曜日 午前、内廷庁舎御進講室において、東宮大夫兼東宮侍従長穂積重遠より「新憲法概要(一)」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、穂積重遠東宮奉仕日録、穂積家文書

二十日 金曜日 午前、天皇と共に表拝謁ノ間において、今般皇太子の家庭教師エリザベス・グレイ・ヴァイニングの接待役を仰せ付けられた松平信子元宮内大臣松平恒雄夫人、元皇后宮職御用掛に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従

日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

天皇と共に枢密院会議室における皇族懇話会にお出ましになり、宣仁親王始め皇族・王公族十九方と御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、菊栄親睦会録、典式録

二十一日 土曜日 午後、御文庫において、この日退官の元侍従次長稲田周一に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、省中日誌、贈賜録、官報、稲田周一関係資料

記、女官日誌、省中日誌、贈賜録、官報、稲田周一関係資料

二十二日 日曜日 午後、天皇及び皇太子・正仁親王・盛厚王・同妃成子内親王・厚子内親王・貴子内親王と共に旧主馬寮広場にお出ましになり、宮内記者会員対宮内省職員チームの対抗野球試合を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、幸啓録

二十三日 月曜日 午後、天皇と共に表拝謁ノ間において、司法省関係の社会事業功労者の財団法人六踏園園長中川庫吉・獅子吼園園長大塚日現・東京興仁会常務理事梅本竜海・財団法人新日本学院院長島田幹一に謁を賜い、事業概要についての奏上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職

日誌、内舎人日誌、省中日誌、典式録、恩賜録

二十五日 水曜日 午前、内廷庁舎において、東宮大夫兼東宮侍従長穂積重遠より、去る九月十八日に続き、「新憲法概要（二）」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積重遠東宮

奉仕日録、穂積家文書

二十六日 木曜日 午後、天皇と共に表拝謁ノ間において、厚生省関係の社会事業功労者の財団法人函館慈恵院常務理事宮崎大四郎・財団法人桜ヶ丘保養院長向山庄太郎・方面委員益池清助・財団法人馬淵聾哑学校理事長馬淵曜同校校長・方面委員佐伯藤之助・財団法人浴風会囑託相田良雄に謁を賜い、事業概要についての奏上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、典

式録、恩賜録

去る二十日、龍田正子伯爵龍田徳彦夫人、朝融王の王女が第一男子を出産する。誕生した男子は、七夜に当たるとこの日、徳久と命名される。命名当日に際し、天皇・皇后より龍田徳彦・同夫人正子に万那料・白羽二重を下賜される。○女官長日記、女官日誌、贈賜録

二十七日 金曜日 午前、内廷庁舎御進講室において、東京帝国大学教授板沢武雄よりキリスト教についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌

午後、天皇と共に表拝謁ノ間において、厚生省関係の社会事業功労者の方面委員下郷公平・社団法人救護会理事長中田駿郎・方面委員安藤謙治・同森田伊兵衛・財団法人大阪厚生事業協会常務理事林文雄・財団法人鳥取上村小児保護協会山本徳一岡山県済生顧問・方面委員中平常太郎に謁を賜い、事業概要につ

昭和二十一年十月

いての奏上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、典式録、恩賜録

二十八日 土曜日 午後、花蔭亭において、大谷智子御妹及び子息大谷光紹と御対面になり、光紹の大

学卒業についてお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

三十日 月曜日 和子内親王の誕生日につき、午後、天皇及び和子内親王と共に表拝謁ノ間において、

宮内大臣始め総代、侍従職女官等の拝賀をお受けになる。夕刻、天皇と共に御文庫において、正仁親

王・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と御夕餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍

従職日誌、内舍人日誌、皇子保育録

## 十月

一日 火曜日 午後、天皇と共に表拝謁ノ間において、宮内省御用掛芝葛盛元図書寮編修課長より「維新文書二

就テ」の題にて、今般侯爵木戸幸一より献上された「木戸家文書」についての進講をお聴きになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録、図書録、木戸幸一日記

二日 水曜日 午前、内廷庁舎において、新任の宮内省御用掛清水二郎学習院教授に謁を賜う。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌

内廷庁舎において、東宮大夫兼東宮侍従長穂積重遠より「法律改革の道德的意義」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、穂積重遠東宮奉仕日録、穂積家文書

三日 木曜日 午前、内廷庁舎御進講室において、日本赤十字社社長島津忠承に謁を賜い、終戦後の

同社の事業について奏上をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌

四日 金曜日 故博恭王五十日祭につき、天皇・皇后より勅使及び皇后宮使として侍従鈴木菊男を伏見宮邸における権舎の儀に差し遣わされ、玉串を供えられる。また、靈前に生花・野菜をお供えになる。併せて、勅使及び皇后宮使として侍従久松定孝を豊島岡墓地における墓所の儀に差し遣わされ、玉串をお供えになる。また、墓所に榊をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、省中日誌、皇親録、重要雜録

五日 土曜日 午前、内廷庁舎において、喪明けにつき参内の朝融王妃知子女王博恭王の王女と御対面になる。午後には、天皇と共に御文庫において、同じく喪明けにつき参殿の博明王博恭王の孫並びに故博義王妃朝子と御対面になり、お礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

七日 月曜日 午前、内廷庁舎御進講室において、去る五日退官の前学習院長山梨勝之進に謁を賜う。なお山梨は、引き続き東宮の学問に関する重要事項に参与すべしとの御沙汰を天皇から拝受する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、恩賜録、贈賜録、松平慶民手帖

天皇と共に表拝謁ノ間において、昭和二十二年歌会始の詠進歌選者を拝命の文学博士佐佐木信綱・窪田空穂・鳥野幸次元御歌所審人に謁を賜う。窪田より歌壇の現況についての奏上を、佐佐木よりお題は「あけぼの」が適当との言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、御歌録、入江相政日記

八日 火曜日 午前、天皇と共に旧主馬寮広場にお出ましになり、皇宮警察署運動会を御覧になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

午後、天皇と共に御文庫において、この日沼津より御帰京の皇太后と御対面になる。それより御一緒に内廷庁舎にお出ましになり、内廷庁舎第一休所において皇族懇話会に御臨席になる。雍仁親王妃勢津子を始め皇族・王公族二十七方と茶菓を共にされる。終わって、天皇・皇太后と共に、正仁親王の案内により親王の御座所・御寝所等を訪ねられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、

省中日誌、貞明皇后実録正本、官報

御文庫において天皇・皇太后、及び参殿の正仁親王・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と御夕餐を御会食になる。終わって皇太后と共に、この日皇太后が御宿泊になる花蔭亭にお出ましになり、暫時御談話になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、貞明皇后実録正本

九日 水曜日 昨夜花蔭亭に御宿泊の皇太后が御文庫に御参殿につき、午前、お庭において御対面になる。その後、天皇・皇太后と共に旧主馬寮広場にお出ましになり、皇宮警察署運動会を御覧になる。

また各種競技の間には余興として応援団行列を御覧になる。正午過ぎ、天皇・皇太后と共に御文庫に還御される。その後、天皇・皇太后と共に、参殿の盛厚王妃成子内親王・信彦王、正仁親王と順次御対面になり、御昼餐を御会食になる。御食後、皇太后は大宮御所に還啓される。○女官長日記、女官日誌、

侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、貞明皇后実録正本

十一日 金曜日 午前、内廷庁舎において、東京帝国大学教授板沢武雄より伝道の発展についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌

十二日 土曜日 午前、表拝謁ノ間において、この日行われた第九十回帝国議会閉院式に参列の婦人代議士に謁を賜い、議会が長引いたことにつき、労いのお言葉を賜う。この日は森山ヨネ・和崎ハル・

近藤鶴代・武田キヨ・紅露みつ・大石ヨシエ・中山たま・本多花子・今井はつ・田中たつ・菅原エ  
ン・山崎道子・松谷天光の婦人代議士が参内した。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

内廷庁舎御進講室において、松平綾子<sup>宗秩寮総裁松平康昌夫人</sup>に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

十六日 水曜日 午前、内廷庁舎において、東宮大夫兼東宮侍従長穂積重遠より、「蔭介石とトル  
マン」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、穂積重遠東宮奉仕日録、穂積家文書

十七日 木曜日 午後、天皇及び皇太子と共に表拝謁ノ間において、昨日宮内大臣との間で一箇年間  
の雇用契約を結んだ皇太子の家庭教師エリザベス・グレイ・ヴァイニングに謁見を仰せ付けられる。

皇后はヴァイニングに、皇太子を御紹介になる。また、内親王方へも英語だけでなく他の面の指導も  
願う旨のお言葉を賜う。なお、皇后からヴァイニングに花束を贈られる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、

侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、幸啓録、ヴァイニング関係資料、皇太子の窓

十八日 金曜日 午前、内廷庁舎において、東京帝国大学教授板沢武雄より島原天草一揆についての  
進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌

十九日 土曜日 午後、旧主馬寮覆馬場にお出ましになり、天皇及び皇太子・正仁親王の御乗馬を御  
覧になる。なおこの日、皇太子・正仁親王は花蔭亭に、夕刻参殿の和子内親王・厚子内親王・貴子内

親王は御文庫に宿泊する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、幸啓録

二十日 日曜日 午前、旧主馬寮覆馬場にお出ましになり、和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と  
共に、天皇及び皇太子・正仁親王の御乗馬を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍

人日誌、省中日誌

昭和二十一年十月

二十一日 月曜日 午前、花蔭亭において、今般疎開先より帰京の元女子学習院教授野口幽香に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、野口幽香関係文書

二十二日 火曜日 午後、御文庫において皇子傳育掛名取はなに謁を賜い、和子内親王・厚子内親王・貴子内親王の学期末成績についての奏上をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌

二十三日 水曜日 午前、内廷庁舎において、東宮大夫兼東宮侍従長穂積重遠より、元米国大統領夫人アンナ・エレノア・ルーズヴェルトについての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、穂積重遠東宮奉仕日録、穂積家文書

二十四日 木曜日 この日御喪明けにつき、午前、御文庫において、表職員総代の侍従久松定孝より、また奥職員総代の宮内省御用掛竹屋志計子より、御機嫌奉伺をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

二十五日 金曜日 午前、内廷庁舎において、東京帝国大学教授板沢武雄より天文学の歴史についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌

午後、呉竹寮にお出ましになり、和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と共に元御歌所寄人鳥野幸次の進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌

二十六日 土曜日 午前、御文庫に皇子傳育掛名取はなをお召しになり、和子内親王・厚子内親王・貴子内親王の成績につき御下問になる。○女官長日記、女官日誌

二十七日 日曜日 夕刻、天皇と共に御文庫において正仁親王と御対面になり、この日実施された学習院初等科運動会の成績についての報告をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

二十八日 月曜日 午前、内廷庁舎に宮内大臣松平慶民をお召しになり、皇太子の家庭教師エリザベ

ス・グレイ・ヴァイニングのことなどにつきお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、松平慶民手帖  
二十九日 火曜日 午後、内廷庁舎御進講室において、松平信子に謁を賜う。同人よりエリザベス・グレイ・ヴァイニングによる皇太子への指導の様子をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、松平慶民手帖  
三十日 水曜日 午前、内廷庁舎において、東宮大夫兼東宮侍従長穂積重遠より「労働組合と労働争議」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、穂積重遠東宮奉仕日録、穂積家文書  
三十一日 木曜日 この日、宗秩寮分室において故竹内絢子の葬儀執行につき、宮内省御用掛竹屋志計子を同室に差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌

## 十一月

一日 金曜日 午前、内廷庁舎において、東京帝国大学教授板沢武雄より、中世の医学及び医関係の思想についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌  
二日 土曜日 元東京繊維専門学校校長伊東広雄今般退官のところ、在職中紅葉山御養蚕所のことに関し種々尽力につき、酒肴料を下賜される。○贈賜録  
三日 日曜日 午前、天皇臨御のもと貴族院にて行われた日本国憲法公布記念式典の様子を、御文庫においてラジオよりお聴きになる。○女官長日記、女官日誌  
天皇と共に表拝謁ノ間において、皇太后御使の皇太后宮大夫坊城俊良に謁を賜い、明治節及び日本国憲法公布につき祝詞の言上をお受けになる。ついで皇太子御使の東宮大夫兼東宮侍従長穂積重遠に謁を賜い、同じく祝詞の言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、貞明皇后実録正本、穂

昭和二十一年十一月

積重遠東宮奉仕日録、坊城俊良日記

明治節につき、天皇と共に表拝謁ノ間において、崇仁親王始め皇族・王公族より、続いて宮内大臣以下・侍従長、侍従職女官等より拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

午後、天皇と共に宮城前広場にお出ましになり、東京都議会主催日本国憲法公布記念祝賀都民大会に御臨場になる。御帰途、正門鉄橋通称二重橋上において馬車を止められ、天皇と共に奉拝者の歓呼にお応え

になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録

五日 火曜日 午後、内廷庁舎御進講室において、元久邇宮侍女滝野繁尾に謁を賜う。○女官日誌

天皇と共に内廷庁舎参殿者休所における皇族懇話会のお茶の会に御臨席になり、崇仁親王始め皇族・王公族十七方と茶菓を共にされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、菊栄親睦会録

六日 水曜日 午前、内廷庁舎御進講室において、東宮大夫兼東宮侍従長穂積重遠より「古事記・日本書紀の新検討」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、穂積重遠東宮奉仕日録、穂積家文書

七日 木曜日 午後零時三十五分御出門、貴子内親王を伴われ多摩陵に行啓される。御休所において御少憩の後、御拝所に参進され、御拝座において御拝礼になる。ついで貴子内親王も初めて多摩陵に参拝する。終わって御休所に戻られ、図書頭大場茂行・陵墓監元田竹彦・東京都長官安井誠一郎ほか二名に謁を賜う。三時四十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、幸啓録、重要雜録、官報

十三日 水曜日 午前、内廷庁舎において東宮大夫兼東宮侍従長穂積重遠より、「新憲法と華族の廃止」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、穂積重遠東宮奉仕日録、穂積家文書

十四日 木曜日 午前、内廷庁舎御進講室において、松平幸子宮内大臣松平慶民夫人に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌

誌

正三位町田忠治去る十二日死去につき、この日、天皇・皇后・皇太后より賜物使として侍従鈴木菊男をその邸に差し遣わされ、皇后より花を下賜される。翌十五日葬送につき、天皇・皇后・皇太后より侍従入江相政を葬斎場護国寺に差し遣わされる。なおこれより先、同人の病気に際しては、お尋ねとして天皇・皇后より葡萄酒を下賜される。○侍従日誌、侍従職日誌、省中日誌、重要雑録、恩賜録、贈賜録

十五日 金曜日 午前、内廷庁舎御進講室において、東京帝国大学教授板沢武雄より日本医学の発達についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

午後、天皇と共に講堂において、式部寮楽部員によるビゼー作曲「アルルの女」、ヨハン・シュトラウス二世作曲「美しく青きドナウ」、ビゼー作曲「カルメン」の管弦楽演奏をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

天皇と共に表拝謁ノ間において、財団法人修養団理事蓮沼門三より修養団事業及び沿革についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録

十六日 土曜日 故博恭王百日祭につき、天皇・皇后より勅使及び皇后宮使として侍従戸田康英を権舍伏見宮邸内に差し遣わされ、玉串をお供えになる。また、靈前に生花・野菜をお供えになる。併せて、勅使及び皇后宮使として侍従久松定孝を墓所豊島岡墓地に差し遣わされ、玉串をお供えになる。また、墓所に榊をお供えになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、省中日誌、皇親録、典式録、贈賜録

昭和二十一年十一月

十七日 日曜日 午前、天皇及び皇太子・正仁親王と共に旧主馬寮覆馬場にお出ましになる。それより、先着の和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と御一緒に、天皇及び皇太子・正仁親王の御乗馬を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録

十八日 月曜日 沼津御用邸西附属邸に行啓のため、午後一時二十分御出門、三時五十分同邸に御到着になる。皇太后宮大夫坊城俊良のお出迎えをお受けになり、直ちに皇太后と御対面になる。それより皇太后と御夕餐を御会食になる。その後、余興として供奉員及び皇太后宮職職員による演技を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、幸啓録、官報

十九日 火曜日 午前、皇太后と共に海岸を御散策になり、運輸省製塩所にお立ち寄りになる。還御後、御昼餐を御会食になる。午後一時十分沼津御用邸西附属邸を御出門、三時三十六分宮城に還啓される。○女官長日記、女官日誌、幸啓録、官報

二十日 水曜日 午前、表拝謁ノ間において、京都在住華族総代の子爵唐橋在知に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

内廷庁舎御進講室において、東宮大夫兼東宮侍従長穂積重遠より「戦争とキリスト教」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、穂積重遠東宮奉仕日録、穂積家文書

午後、枢密院会議室において、式部頭武井守成の説明にて陳列された楽部の管弦楽器を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

二十一日 木曜日 午後、天皇と共に表拝謁ノ間において、川田順<sup>歌人</sup>より明治以後の現代短歌についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録

二十二日 金曜日 午前、内廷庁舎御進講室において、東京帝国大学教授板沢武雄より本草学についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌

二十五日 月曜日 午後、天皇と共に御文庫において、稔彦王・盛厚王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二十七日 水曜日 午前、内廷庁舎御進講室において、東宮大夫兼東宮侍従長穂積重遠より「日本経済再建の困難」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、穂積重遠東宮奉仕日録、穂積家文書

二十八日 木曜日 正仁親王の誕生日につき、午後、天皇と共に表拝謁ノ間において、正仁親王と御対面になる。その後、天皇及び正仁親王と共に宮内大臣・侍従長・宮内次官の拝賀、侍従職女官等の拝賀を順次お受けになる。また元宮内省御用掛大迫セイの拝賀をお受けになり、ついで表御座所前の御廊下において、元皇后宮大夫広幡忠隆・元侍従次長稲田周一・元侍従小出英経に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、皇子保育録

二十九日 金曜日 午後、天皇と共に表拝謁ノ間において、故依仁親王妃周子ほか皇族十八方と御対面になり、お茶を共にされる。なお、皇后のお出ましに先立ち、天皇から皇族に対し、皇室典範の改正に伴い、翌年以降、直宮を除き、他の皇族は臣籍降下のやむを得ざる事態となる旨の御説明がある。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、松平慶民手帖、私の自叙伝

この日、大聖寺において理栄宮<sup>後円融天皇皇女</sup>五百年御忌法要執行につき、御供養料・菓子を下賜される。○贈

賜録

昭和二十一年十一月

昭和二十一年十二月

十二月

二日 月曜日 盛厚王妃成子内親王着帯につき、午前、天皇・皇后より侍従職女官小倉満子をその邸に差し遣わされ、稔彦王・同妃聡子内親王に三種交魚代料を、天皇・皇后それぞれより盛厚王・同妃に鮮鯛代料を御贈進になる。また、皇太后に五種交魚代料を御贈進になる。午後、御文庫において、稔彦王妃聡子内親王・盛厚王と御対面になり、御使御差遣のお礼言上をお受けになる。後刻、天皇も御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

三日 火曜日 午前、内廷庁舎において、恩賜財団済生会理事長武井群嗣に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

四日 水曜日 午前、内廷庁舎御進講室において、東宮大夫兼東宮侍従長穂積重遠より「考古学と歴史学」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、穂積重遠東宮奉仕日録、穂積家文書

五日 木曜日 午前、内廷庁舎御進講室において、今般皇太后宮侍医を拝命の鳥飼竜生、宮内省御用掛を拝命の佐分利六郎に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌

午後、表拝謁ノ間において、日本赤十字社総裁宣仁親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌

六日 金曜日 午前、内廷庁舎御進講室において、東京帝国大学教授板沢武雄より、兵学についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌

七日 土曜日 御風気のため、この日より御仮床に就かれる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

九日 月曜日 この日、今福天洋堂社長今福武雄主催にて進駐軍に展覧する予定の日本画三十二点を、

事前に内廷庁舎参殿者休所及び枢密院会議室において御覧になる御予定のところ、御風気のためお取りやめになる。夕刻、御文庫においてこれを御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

十日 火曜日 午前十時三十五分御出門、日本赤十字社本社に行啓され、第五十四回通常総会に御臨席になる。社長島津忠承の開会宣言に続き、次の令旨を賜う。

日本赤十字社の第五十四回通常総会に当つて、全社員と全国婦人にと、告げたいと思います。全国にわたる戦災と終戦後の社会の急激な変化によつて、いまわが国民は非常な苦しみの中にあり、ことに戦災者や引揚者の中には、たいそう困つている人が多いと思います。父母を失い、夫や子を失つた人たちの悲しみと悩みは充分察することが出来ます。どうしたならば、そういう人たちの心の傷を少しでも軽くすることが出来るでしょうかと、日々心をいためております。また、このごろのように生活の困難なときに、妻として母として一家を守つて行く女性の苦勞は、なみ大低のことではなからうと思います。しかし家庭を明かるく楽しい所とする事は、婦人に与えられた貴い使命であると共に、これからの婦人は、強く正しい女性として社会に立つて行かねばならぬと思います。

この時に、日本赤十字社が態勢を新たに、して、平時の厚生事業に力を注ぎ、災害の救護、国民の保健、社会福祉の増進を進んでおこない、国際親善にも、ますます尽くそうとされていることを聞いて、喜びに堪えません。どうか、赤十字の使命とする博愛の事業が、すべての人たちの心にとどくように、いつそう努力するよう希望します。

総裁宣仁親王の奉答をお受けになり、御退場になり、この日参列した連合国最高司令部公衆衛生福祉

昭和二十一年十二月

局長クロフォード・F・サムス、赤十字社国際委員会代表マルゲリタ・スツレーラーほか来賓一同に御握手を賜う。十一時三十七分還啓される。

午後、御文庫において宣仁親王・同妃喜久子と御対面になり、親王より行啓のお礼言上を、同妃より、この日行われた東京慈恵会総会の報告をお聞きになる。なお、日本赤十字社通常総会における令旨は録音され、ラジオで放送される。また、皇后御退場後に再開された総会において、皇后は日本赤十字社名誉総裁に推戴される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、幸啓録、官報、事業年報（日本赤十字社）、日本赤十字社史料稿

十一日 水曜日 午前、内廷庁舎において、東宮大夫兼東宮侍従長徳積重遠より、「議會中心の民主主義政治」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、徳積重遠東宮奉仕日録、徳積家文書

午後、天皇と共に表拝謁ノ間において、北海道帝国大学教授中谷吉郎より雪の結晶に関する進講をお聴きになる。皇后は、霰と霰の違いについて御下問になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録、中谷吉郎御進講関係資料

内廷庁舎において、元別当山階工藤壯平をお召しになり、書について種々御下問になる。○女官長日記、女官日誌

十二日 木曜日 午後、天皇と共に御文庫において、故成久王妃房子内親王と御対面になる。その際、同内親王は、近く宗秩寮分室において催されるバザーの出品物を事前に皇后に披露するため、行啓を願ひ出る。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

十三日 金曜日 午前、内廷庁舎において、東京帝国大学教授板沢武雄より英国の極東進出について

の進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌

午後、天皇と共に内廷庁舎御座所において、日本銀行総裁一万田尚登より日本経済と金融機関についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録

十七日 火曜日 午前、内廷庁舎御進講室において、皇太子家庭教師エリザベス・グレイ・ヴァイニングに謁を賜う。宮内省御用掛高木多都雄が通訳として奉仕する。その際、クリスマスプレゼントとして、ヴァイニングにお品をお贈りになる。○女官長日記、女官日誌、贈賜録、入江相政日記

午後二時御出門、渋谷区常磐松町の宗秩寮分室元東伏見宮邸に行啓される。御着後、雍仁親王妃勢津子・宣仁

親王妃喜久子・恒憲王妃敏子・朝融王妃知子女王・恒徳王妃光子・春仁王妃直子・守正王妃伊都子・稔彦王妃聡子内親王・故成久王妃房子内親王・李鍵公妃誠子、並びに崇仁親王・恒徳王と御対面になり、陳列されたバザーの品々を御覧になる。また、御同級生等・常磐会会員に謁を賜う。四時十七分還啓される。○女官長日記、女官日誌、幸啓録、官報

十八日 水曜日 午前、内廷庁舎において、東宮大夫兼東宮侍従長穂積重遠より「解決至難の住宅問題」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、穂積重遠東宮奉仕日録、穂積家文書

午後、天皇と共に表拝謁ノ間において、宮内省御用掛加藤虎之亮より「大正天皇ノ御詩ニ就テ」と題する進講をお聴きになる。この進講は、来る二十五日の大正天皇二十年式年祭を前に、昭和十九年四月以降、公刊を目的に編纂された『大正天皇御製詩集』及び『大正天皇御製歌集』が完成したことを受け、詩集の編纂に参与した加藤により行われた。なお、両書は、二十日図書頭大場茂行より奉呈される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録、加藤虎之亮関係資料、大正天皇御製集謹輯録

昭和二十一年十二月

十九日 木曜日 午前、天皇と共に表拝謁ノ間において、社会事業家の財団法人藤倉学園園長川田貞治郎、山梨立正光生園園長加賀美日聡、春風寮寮長小塩孫八、財団法人慈生会理事長フランス・ヨゼフ・フロジャックに謁を賜う。川田より藤倉学園<sup>東京</sup>都における知的障害者の教育的治療及び保護收容の状況、加賀美より山梨立正光生園における軍人遺家族の授産や乳児哺育、戦災孤児・棄児の收容等、小塩より春風寮<sup>静岡</sup>県における少年保護・授産及び同胞援護事業、フロジャックより結核の予防、結核患者の診療・收容等の事業を行う慈生会<sup>東京</sup>都の概況についてお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、恩賜録

この日、皇太后が約一年にわたる沼津御滞在を終え、大宮御所に還啓される。よって、天皇・皇后より御使として宮内省御用掛竹屋志計子を大宮御所に差し遣わされ、天皇・皇后より五種交魚代料ほかを御贈進になる。大宮御所は昨年空襲により焼失したため、高輪南町御用邸の一部及び高松宮日本館の移築工事が行われていたところ、この度竣工につき、この日の還啓となる。昨日、天皇・皇后は、御移居の皇太后のため御贈進の品物を御選定になり、二十三日皇太后の御文庫御参殿を機に御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、省中日誌、贈賜録、貞明皇后実録正本、官報

二十日 金曜日 午前、内廷庁舎において東京帝国大学教授板沢武雄より、去る十三日に続き、英国の極東進出についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌

正午過ぎ、天皇と共に枢密院会議室における皇族親睦会にお出ましになり、皇族・王公族二十二方と御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、秩父宮御用邸日誌、菊栄親睦会録

二十一日 土曜日 午前、内廷庁舎において学習院教師レジナルド・ホレイス・ブライスに謁を賜い、皇太子の英語教育法につき御下問になる。その際、クリスマスプレゼントとして、ブライスにお品をお贈りになる。○女官長日記、女官日誌、贈賜録

天皇と共に表拝謁ノ間において、朝融王妃知子女王に伴われ初参内の朝宏王昭和十九年十月七日誕生と御対面になる。

初参内につき、天皇・皇后より朝宏王に鮮鯛代料・御台人形代料を、久邇宮に三種交魚代料を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

天皇と共に表拝謁ノ間において、この日宮内省御用掛を拝命の島津伊楚子公爵島津忠重夫人に謁を賜う。○女官長

日記、女官日誌、侍従日誌、進退録、松平慶民手帖

二十二日 日曜日 盛厚王妃成子内親王がこの日芝区高輪南町の東久邇宮邸において第一王女出産につき、天皇・皇后より盛厚王に白羽二重代料・酒代料・鮮鯛代料を、盛厚王・同妃に三種交魚代料・菓子、稔彦王・同妃聡子内親王に三種交魚代料を賜う。また、皇后より故邦彦王妃侘子に三種交魚代料を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、皇親録、盛厚王妃成子内親王御分婉の件、贈賜録

目白の侯爵徳川義親邸において開催のバザーに、宮内省御用掛河合りよう子・侍従職女官伊達璋子を差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌

二十三日 月曜日 皇太子の誕生日につき、午前、天皇と共に内廷庁舎において、皇太子と御対面になる。ついで天皇及び皇太子と共に表拝謁ノ間において、宣仁親王始め皇族・王族より拝賀をお受けになる。続いて宮内大臣始め総代、及び宮内省御用掛竹屋志計子以下より拝賀をお受けになる。その

後、天皇及び皇太子と共に御文庫において、御参殿の皇太后とお祝御膳を御会食になる。御食後、参殿の正仁親王・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王も交えて御団欒になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、東宮職務日誌、東宮録、幸啓録、贈賜録、貞明皇后実録正本、穂積重遠東宮奉仕日誌、官報

二十五日 水曜日 大正天皇二十年式年祭山陵の儀につき、午前九時十分御出門、天皇と共に多摩陵に行啓される。御着後、天皇に続き御拝礼になる。終わって午後零時五十分還啓される。またこの日午前、大正天皇二十年式年祭皇霊殿の儀につき、守正王妃伊都子に皇后御名代としての御代拝を仰せ付けられる。夕刻、同御神楽の儀につき、侍従職女官雪井よし子に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、幸啓録、典式録、重要雑録、官報

クリスマスにつき、天皇より連合国最高司令官ダグラス・マッカーサーに御贈進があり、皇后よりはマッカーサー元帥夫人に香盒金地梅蒔絵を、同子息アーサーに小箱ほかを御贈進になる。○贈賜録

二十六日 木曜日 午前、内廷庁舎において守正王妃伊都子と御対面になり、昨日の大正天皇二十年式年祭皇霊殿の儀における皇后御名代の復命をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

内廷庁舎において春仁王妃直子・李鍵公妃誠子と御対面になり、去る二十二日に開催のバザーの売上げ等につき言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二十七日 金曜日 この日、「皇室典範増補中改正ノ件」が公布される。午前、皇室典範増補中改正につき、賢所皇霊殿神殿に報告の儀が行われ、御拝礼になる。なお翌二十八日、皇室令をもって「皇族身位令中改正ノ件」「皇統譜令中改正ノ件」が公布・施行される。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、省

大宮御所再建完成及び御移居のお祝い、並びに歳末御挨拶のため、正午御出門になり、天皇と共に大宮御所に行啓される。天皇・皇太后と御昼餐を御会食になり、御所内各所を御覧になる。午後四時四十七分還啓される。なお皇太后御移居のお祝いとして、皇后から金蒔絵御料紙硯箱<sup>老松ニ桜ノ図</sup>及び鮮鯛代料をお贈りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、幸啓録、贈賜録、貞明皇后実録正本、官報

二十八日 土曜日 去る二十二日に誕生した盛厚王第一王女は七夜に当たるこの日、文子と命名される。命名当日に際し、天皇・皇后より故邦彦王妃倪子に三種交魚代料を、稔彦王・同妃聡子内親王に三種交魚代料を、盛厚王・同妃成子内親王に菓子を、文子女王に鮮鯛代料・産衣を御贈進になる。また、宮内省御用掛竹屋志計子を大宮御所に差し遣わされ、天皇・皇后より皇太后に五種交魚代料を御贈進になる。

午後、天皇と共に御文庫において、稔彦王妃聡子内親王・盛厚王と御対面になり、お仕向けに対するお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、皇親録、盛厚王妃成子内親王御分婉の件、贈賜録、貞明皇后実録正本、官報

去る二十一日に発生した南海地震による和歌山・高知・徳島その他各府県下の甚大な被害に対し、この日、天皇・皇后より厚生大臣に御救恤として金一封を下賜される。○省中日誌、恩賜録、氣象百年史

二十九日 日曜日 午前、天皇と共に表拝謁ノ間において、守正王・同妃伊都子、稔彦王妃聡子内親王、恒徳王妃光子、李王垠・同妃方子女王と御対面になり、歳末の祝詞言上をお受けになる。続いて

宮内大臣以下側近奉仕者に謁を賜い、歳末の祝詞言上をお受けになる。終わって天皇と共に御文庫において、皇太子、和子内親王・厚子内親王・貴子内親王より歳末の祝詞言上をお受けになる。午後、天皇と共に、参殿の故成久王妃房子内親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録

三十日 月曜日 午前、御文庫において宣仁親王・崇仁親王と御対面になり、歳末の祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

三十一日 火曜日 午前、内廷庁舎において、皇太后御使の掌侍高松千歳子に謁を賜い、歳末の祝詞言上をお受けになる。また歳末につき、天皇・皇后より大宮御所へ宮内省御用掛竹屋志計子を差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

この月 日本赤十字社本社中央病院御補助のため、天皇・皇后より金一封を下賜される。また日本赤十字社病院救助收容患者、恩賜財団済生会病院救助收容患者、東京慈恵会医院救助收容患者、財団法人福田会救助收容患者にお品代として金員を賜う。○恩賜録、贈賜録、官報、日本赤十字社社史稿

一月

一日 水曜日 新年につき、午前、天皇と共に表拝謁の間において、宮内大臣・宮内次官及び侍従長始め側近奉仕二等官待遇以上より拝賀をお受けになる。ついで天皇と共に同所において、宣仁親王・同妃喜久子始め在京の皇族・王公族及び正仁親王御使の皇子傳育掛東園基文の新年拝賀を、引き続き親任官・貴族院議長・衆議院議長、前官礼遇・貴族院副議長・衆議院副議長等の新年拝賀をお受けになる。その後、天皇と共に宮内省会議室において、宮内親任官待遇・一等宮内官・同待遇・麝香間祇候・錦鶏間祇候・二等宮内官・同待遇等の新年拝賀をお受けになる。終わって御文庫に戻られ、皇太子・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王より祝詞の言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮職事務日誌、儀式録、典式録、官報

二日 木曜日 午前、天皇と共に御文庫において、地方在住のためこの日参殿の雍仁親王妃勢津子・崇仁親王・同妃百合子・春仁王妃直子・鳩彦王<sup>御父邦彦の弟</sup>・孚彦王<sup>鳩彦王の王子</sup>・同妃千賀子と御対面になり、新年の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

三日 金曜日 午前、元始祭につき、宮内省御用掛東貞子に御代拝を仰せ付けられる。○省中日誌、儀式録、祭祀録、典式録、官報

天皇と共に表拝謁の間において、章憲王始め未成年皇族より新年の拝賀をお受けになる。ついで元皇

后宮女官等より新年の拝賀をお受けになる。午後、天皇と共に御文庫において、故成久王妃房子内親王と御対面になり、新年の祝詞言上をお受けになる。また、この誕生日を迎えた宣仁親王と御対面になり、お祝品拝領についてのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舍人日記、典式録、贈賜録

**四日** 土曜日 午後、御文庫において春仁王と御対面になり、新年の祝詞言上をお受けになる。王は天皇の命により昨年十二月二十八日より南海地震十二月二十一日発生被災地の香川県・徳島県・高知県に赴き、この日帰京、天皇に復命した後、御文庫に参殿する。○女官日記、侍従日記、内舍人日記、省中日誌

天皇と共に御文庫において、新年につき参殿の元内親王傳育掛塘ミツに謁を賜う。その後、稔彦王妃聡子内親王・信彦王参殿につき、御対面になり、祝詞の言上をお受けになる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舍人日記

**五日** 日曜日 午前、御文庫に皇太后御参殿につき、天皇と共に御対面になり、新年の御挨拶を交わされる。ついでお祝御膳の御昼餐を御会食になる。御食後、参殿の和子内親王・厚子内親王・貴子内親王を交えて過ごされる。皇太后御退出後、三内親王と御夕餐を御会食になる。以後、この年も概ね日曜日を中心として参殿の皇太子始め皇子女と随時、御対面・御会食になる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舍人日記、幸啓録、貞明皇后実録正本、官報

寛仁親王初誕辰につき、天皇・皇后より崇仁親王・同妃百合子に五種交魚代料を、寛仁親王に鮮鯛代料を御贈進になる。○女官長日記、贈賜録

**六日** 月曜日 午前十一時十五分天皇と共に御出門、この年初めて大宮御所に行啓される。皇太后と

お祝御膳の御昼餐を御会食になり、午後四時三十七分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、幸啓録、貞明皇后実録正本、官報

七日 火曜日 午後、天皇と共に表拝謁の間において、新年につき参内の故依仁親王妃周子、故邦彦王妃侘子御母と御対面になる。その後、お一方にて御進講室において両妃と過ごされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

夕刻、御文庫において宮内省御用掛竹屋志計子より、去る三日壬生篤子御父邦彦王の妹が死去した旨をお聞き

になり、皇室服喪令の規定に基づき九十日第一期二十日、第二期七十日服喪される。去る四日、皇后より万那・果物を、

この日、天皇・皇后・皇太后より祭糒料をそれぞれ下賜される。翌八日、渋谷区常磐松町の宗秩寮分室元東伏見宮邸において葬儀執行につき、皇后御使として宮内省御用掛竹屋志計子を差し遣わされ、拝礼させられる。また、榊・押物・盛菓子料・野菜・切り花をお供えになる。

壬生篤子は朝彦親王第八王女であり、皇后の御叔母に当たり、伯爵壬生基義元東宮武官兼侍従武官に嫁す。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恩賜録、重要雑録、名譽総裁御就任等関係、皇親録、貞明皇后実録正本、官報

十日 金曜日 この日伯爵葛城茂麿死去につき、皇室服喪令の規定に基づき五日服喪される。死去に当たり、十二日には天皇・皇后より盛菓子料を、皇后より切り花・野菜をお供えになる。

葛城茂麿は明治四十一年、菊麿王山階宮と同妃常子御母侘子の姉、島津忠義の息女との間に第五王子として生まれる。昭和四年十二月、願いにより臣籍に降下し、葛城の家名を賜わり伯爵を授けられる。享年四十。○女官長日記、

女官日誌、侍従職日誌、恩賜録、皇親録、重要雑録、官報、山階宮三代

十一日 土曜日 午前、皇霊殿及び山陵において英照皇太后五十年式年祭の儀が行われるも、御服喪中のため御拝礼・御代拝共になく、終日お静かに過ごされる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、儀式録、祭祀録、典式録

十三日 月曜日 去る九日、元東京帝国大学教授掛谷宗一統計数理研究所長が死去する。掛谷は昨年四月皇太子

の学問に関する重要事項に参与したため、天皇・皇后よりお花料を賜う。○東宮職務日誌、恩賜録、贈賜録  
十四日 火曜日 御服喪中のところ、午前、花蔭亭において松平信子元宮内大臣松平恒雄夫人に特に謁を賜い、エリ

ザバス・グレイ・ヴァイニングが葉山において皇太子に英語を教授した時の様子をお聞きになる。夕刻、御文庫に参殿の和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と御対面になり、翌日より葉山へ転地につき暇乞いをお受けになり、天皇及び三内親王と共に御夕食を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従

日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十五日 水曜日 故伯爵葛城茂麿の葬儀執行につき、天皇・皇后・皇太后の御使として侍従戸田康英を葬祭場の侯爵細川護立邸夫人敏子の実家に差し遣わされ、玉串をお供えになる。また、天皇・皇后・皇太后より祭糝料及び榊を賜う。これとは別に、天皇・皇后より盛菓子料を、皇后より切り花・野菜を賜う。なお、従来臣籍降下した元皇族が死去した場合には、賜物使として勅使・皇后宮使・皇太后宮使をそれぞれ差し遣わされていたところ、今回より天皇・皇后・皇太后の御使として侍従一名を葬場に御差遣のことに改められる。○侍従日誌、侍従職日誌、省中日誌、恩賜録、重要雑録、貞明皇后実録正本

十八日 土曜日 午前、御進講室において、日本赤十字社副社長原泰一に謁を賜い、種々言上をお聞

きになり、同社社長より願ひ出の名譽総裁への御就任を聴許される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍  
従職日誌、内舍人日誌、上奏モノ控簿、皇親録

二十日 月曜日 従来思召しをもつて戦死者に下賜されていた御歌複本は、今後これを取りやめるこ  
とを定められ、この日宮内大臣より厚生大臣・内務大臣に通牒される。○皇后陛下御歌下賜録

二十一日 火曜日 日本赤十字社において挙行の名譽総裁推戴式に御臨席のため、この日除喪される。  
午前十時三十五分御出門、同社に行啓される。総裁宣仁親王、及び参列の崇仁親王妃百合子、春仁王  
妃直子と御対面になり、宮内大臣松平慶民、副社長の原泰一・赤木朝治に謁を賜う。ついで原副社長  
より社業の現況をお聴きになる。その後、式場に臨御され、副社長の挨拶をお聞きになり、次の令旨  
を賜う。

このたび、日本赤十字社の名譽総裁になりましたので、この機会に社員一同にひとこと申し述  
べたいと思います。

さいきん、南海に大震災があつて、その地方の人々は、ずいぶんひどい災害をうけました。戦  
争の結果として悩むおゝくの人を思い、また、このあらたに災害をこうむつた人たちのことを考  
えると、ほんとうに心が曇ります。この、わが国にかつてない苦難の時代に、赤十字のことにた  
ずさわるわたくしたちは、めいめいが一生懸命に努力して、こういう人たちが、一日も早くまた  
立上ることが出来るように、慰めと力とを与えなければなりません。

これからの日本の赤十字は、いよいよ、国民の赤十字としての働きをしてほしいものです。赤  
十字は国民に奉仕して、国民の生活にふかく根ざしてゆくことが必要であります。心から人を愛

昭和二十二年一月

し人のためにつくすことによつて、おのこの人格が完成し、社会がより善くなつてゆくのだというところが、赤十字精神の根本であると思います。

こんご世界の人々と手をたずさえて、人類の平和と幸福とをまます築いてゆかなければならぬといわたくしたち日本人は、この赤十字精神をもつて日々の生活を営んでゆくことが、何よりも大切であります。

いま文化の日本が建設されようとしているとき、世間の人々の赤十字にたいする信頼と期待とは、たいそう大きいと思います。わが赤十字がこの信頼に正しくこたえ、人々の期待以上の大きな働きをすることを心から希望してやみません。

次に社員一同を代表して総裁より奉答をお受けになり、便殿に入御される。それより会議室において列立の連合国最高司令部代表及び米國赤十字関係者十五名に謁を賜い、御握手になる。その際、次のメッセージを御朗読になる。

わたくしは、世界の国々で赤十字の活動が年とともにますます盛んになりつゝあるということを知り、聞いて嬉しく思います。民族、宗教などの区別なく、人を愛し人のためにつくす赤十字精神を、全世界の人々が持つということが人類の理想であると思います。こんど、日本人がひろくこの赤十字精神を持つことによつて、世界の人々に幸福と喜びとを与え、またその人々の敬愛をうけることが出来るようになると、かたく信じております。

このように思いますので、このたびわたくしは日本赤十字社の名誉総裁になりました。いま、みなさんが日本の赤十字の改革と強化とのために援助して下さいたことを、深く感謝してお

ります。こんごも引きつゞき、みなさんがわが赤十字の活動をおたすけ下さるよう希望します。十一時四十五分還啓される。午後、御文庫に参殿の宣仁親王と御対面になり、この日行啓のお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、官報、事業年報（日本赤十字社）、日本赤十字社史稿

二十二日 水曜日 去る十五日元女子学習院長松浦寅三郎死去につき、この日天皇・皇后・皇太后より祭料を下賜される。○恩賜録、貞明皇后実録正本

二十三日 木曜日 午前、歌会始の儀が行われる。皇后は、御服喪中につき、御歌をお寄せにならず御欠席になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、御歌録、儀式録、典式録

夜、天皇と共に御文庫において、参殿の崇仁親王・同妃百合子とニュース映画を御覧になる。以後、この年も皇太子始め皇族・王公族・御親族としばしば御対面・御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二十四日 金曜日 午後、天皇と共に御文庫において、稔彦王妃聡子内親王・盛厚王稔彦王の王子・信彦王御孫と御対面になり、去る二十一日に行った盛厚王妃成子内親王の出産後の清めにつき、お礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二十五日 土曜日 午前、御進講室において、エリザベス・グレイ・ヴァイニングより英語の進講をお聴きになる。以後、この年は火曜日と土曜日を中心としてヴァイニングの英語の進講を三十九回にわたりお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二十七日 月曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、歌会始選者の佐佐木信綱・鳥野幸次に謁

昭和二十二年一月

を賜い、兩名より選歌選定等についてお聞きになる。ついで天皇と共に歌会始選者助手の植松寿樹以下に列立の謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

邦彦王の祥月命日につき、御文庫に還御後、終日静かに過ごされる。○女官長日記、女官日誌

東京慈恵会において資金募集のため、来る二月一日共立講堂において映画の会開催につき、会員券代として金一封を賜う。○贈賜録

二十八日 火曜日 午前、講書始の儀が行われる。皇后は、御服喪中につき、御欠席になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、儀式録、儀式祭典録、典式録

朝融王<sup>御兄</sup>・同妃知子女王参内につき、御進講室において御対面になり、昨日の邦彦王の祥月命日に際

してのお仕向けにつきお礼の言上をお受けになる。その後、葉山より帰京の正仁親王参内につき、天皇と共に御政務室において御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

御文庫において元侍従職女官伊地知ミキ、元内親王傳育掛大迫セイに謁を賜う。午後、元皇后宮女官内山はるに謁を賜う。以後、この年も随時、元奉仕者の拝謁等がある。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、進退録

この日、海外引揚者に対し、海外引揚援護局を経てお手縫いの羽織下二百四十七枚を賜う。○贈賜録

二十九日 水曜日 正午過ぎ、天皇及び御参内の皇太后と共に枢密院会議室における皇族懇話会に臨御され、雍仁親王妃勢津子始め皇族・王公族二十二方と御昼餐を御会食になる。終わって、天皇・皇太后と共に御文庫に戻られ、御団欒になる。午後四時三十分、皇太后は退出される。○女官長日記、女官

日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、貞明皇后実録正本、官報

二月

三日 月曜日 夕刻、正仁親王の居所にお出ましになり、親王が藤井元子より英語を習う様子を御覧になる。二月七日にも正仁親王の居所において英語の稽古を御覧になる。○女官長日記、女官日誌

四日 火曜日 午前、御進講室において、今般退官の警視總監鈴木幹雄に謁を賜う。ついで先般退官の元女子学習院長下村寿一に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恩賜録、官報

エリザベス・グレイ・ヴァイニング風気につき、この日の進講をお取りやめになり、思召しをもって切り花一束を賜う。午後、宮内省御用掛高木多都雄をお相手に語学を復習される。以後、折に触れて高木御用掛をお相手に語学を学ばれる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

五日 水曜日 午前、内廷庁舎において、法学博士穂積重遠東宮大夫兼東宮侍従長より「アメリカ人の生活と国民性」と題する進講をお聴きになる。以後、この年は水曜日を定例として同人より進講を二十八回にわたって

お聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積重遠東宮奉仕日録、穂積家文書

六日 木曜日 午後一時三十五分御出門、大宮御所に行啓される。皇太后と御一緒に庭園にお出ましになり、ツクシなどをお摘みになる。四時四十七分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、官報

夜、御文庫に宣仁親王参殿につき、天皇と共に御対面になる。ついでお揃いにて、親王持参の去る一月二十一日の日本赤十字社行啓に関するニュース映画を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

七日 金曜日 午前、天皇と共に内苑門外において、先般警視庁に皇宮警察移管につき、皇宮護衛官

昭和二十二年二月

に特に謁を賜う。翌日も天皇と共に同所において、皇宮護衛官に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、皇宮警察史

御進講室において、宮内省御用掛加藤虎之亮より漢文の進講として『孟子』について学ばれる。続いて、東京帝国大学教授板沢武雄より歴史の進講として「新憲法と皇室の御理念」についてお聴きになる。以後、この年は、金曜日を定例として加藤より二十一回にわたり漢文の進講を聴取され、主に『孟子』について学ばれる。また、不定期の金曜日に板沢より十八回にわたり歴史の進講をお聴きになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、加藤虎之亮関係資料

午後、天皇と共に宮殿焼け跡にお出ましになり、旧御畑口内に焼け残りの洋館<sup>元御静養室</sup>を正仁親王の住居用として改築した新御殿を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

天皇と共に表拝謁の間において、賀川豊彦より社会事業についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録

八日 土曜日 午後、御文庫に正仁親王参殿につき、天皇と共に御対面になる。親王より、この日新御殿に移居に当たり、万那料を拝受したことにつきお礼言上をお受けになる。その際、天皇・皇后より親王にお祝品を賜う。この日親王の移居に伴い、新御殿は義宮御殿と称される。なお十日、昨年五月に北多摩郡小金井町の御仮寓所に移居した皇太子に対しても、天皇・皇后よりお祝品を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録、幸啓録

九日 日曜日 天皇と共に御文庫において皇太子・正仁親王、昨年十二月の出産後初参殿の盛厚王妃成子内親王、この日葉山より帰京の和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と御対面になり、御昼餐を

御会食になる。成子内親王退出の後、お揃いにて義宮御殿にお出ましになる。以後、折に触れて義宮御殿にお出ましになり、正仁親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、

東宮職務日誌、幸啓録

十日 月曜日 午後、天皇と共に表拝謁の間において、京都府の和敬学園園長樋口琢堂、静岡県の三保松風寮寮長道家長松、茨城県の筑波学園園長岡野豊四郎、福岡県の神林少年塾塾長野上辰之助の社会事業功労者四名に謁を賜い、それぞれの事業状況についての奏上をお聴きになる。○女官長日記、女官

日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、典式録、恩賜録

この日思召しをもつて、戦災により合宿生活中の学習院教授・女子学習院教授その他に真綿一包ずつを賜う。ついで二十日には、同じく学習院教授その他に甘諸<sup>十二</sup>二俵を、女子学習院教授その他に甘諸<sup>十二</sup>三俵を賜う。○贈賜録

十一日 火曜日 この日紀元節なるも、午前の内廷庁舎における拝賀に出御なく、天皇と共に御文庫

において皇太子・正仁親王・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王より祝詞の言上、及び奥側近奉仕者より祝詞の言上のみお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、東宮職務日誌、儀式録、祭祀

録、典式録

十二日 水曜日 午前、内廷庁舎において、法学博士穂積重遠より「論語と現代世相」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積重遠東宮奉仕日誌、穂積家文書

午後、天皇と共に表拝謁の間において、近日スイス国へ帰国の赤十字国際委員会駐日代表マルグリタ・スツレーラーに謁見を仰せ付けられる。当初宮内省では同人の謁見は天皇のみに願うこととしたが、

同人が戦後日本赤十字社において二回にわたり皇后に謁見し、また婦人として戦時中我が国のために尽力したことにも鑑み、特別の詮議をもって天皇への謁見に際し、皇后も出御されることとなる。なお、皇后は御服喪中なるも、除喪されることなく出御される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、謁見録、典式録

十三日 木曜日 午後、天皇と共に表拝謁の間において、宮内省御用掛武内義雄より儒教についての第一回進講をお聴きになる。二十日に第二回、二十七日に第三回の進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録、贈賜録

今般熱海へ転地の崇仁親王・同妃百合子を御夕餐にお招きになり、天皇と共に御文庫において御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十四日 金曜日 午前、御進講室において、新任の警視総監広岡謙二に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、官報

この日、大聖寺・宝鏡寺・曇華院・林丘寺・靈鑑寺・光照院・三時知恩寺・円照寺・水薬師寺・長福寺・中宮寺・法華寺・善光寺に乾海苔料を賜う。○贈賜録

十九日 水曜日 午前、内廷庁舎において、法学博士穂積重遠より原子力問題についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積重遠東宮奉仕日録、穂積家文書

午後、呉竹寮にお出ましになる。この年も折に触れて呉竹寮にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二十一日 金曜日 夜、御風気につき、翌二十二日の大宮御所行啓のお取りやめを仰せ出される。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、幸啓録

二十四日 月曜日 午前、盛厚王妃成子内親王に伴われて文子女王<sup>御孫</sup>初参内のところ、御風気につき表拝謁の間には出御なく、天皇のみ御対面になる。なお、天皇・皇后より稔彦王・同妃聡子内親王に三種交魚代料を、盛厚王・同妃成子内親王に五種交魚代料を、文子女王に御所人形代料・鮮鯛代料をそれぞれ御贈進になる。その後、御文庫に成子内親王・信彦王・文子女王参殿につき、天皇と共に御対面になる。折柄正仁親王・和子内親王も参殿につき、御対面になり、一同と御昼餐を御会食になる。退出の際、成子内親王に反物料等を、信彦王・文子女王に玩具等を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、

侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

二十六日 水曜日 午前、和子内親王と共に御進講室において、法学博士穂積重遠より「福利事業の範囲と対象」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、穂積重遠

東宮奉仕日録、穂積家文書

二十七日 木曜日 午前、天皇と共に内廷庁舎御政務室において、帝室林野局長官岡本愛祐に謁を賜い、業務についての言上をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

この日、当分のうち、宮中諸儀式及び祭典の際の女子の服装について、通常服の代わりに白襟紋付でも差し支えないことが定められる。白襟紋付着用の際には縫紋を用いないこと、宮中喪の際には喪服を着用すること、羽織を用いないこと、白下着を襲ねること、襦袢の襟は白とすること、履物は草履とすることとされる。この取り扱いは、三月六日の皇后のお誕生日から適用される。○上奏モノ控簿、儀

式録、祭祀録、例規録

昭和二十二年三月

二十八日 金曜日 午前、内廷庁舎において、東京帝国大学教授板沢武雄より幕末のアメリカと開国についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

午後一時三十分御出門、大宮御所に行啓される。四時八分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、幸啓録、官報

### 三月

二日 日曜日 貴子内親王の誕生日につき、午前、天皇及び同内親王と共に表拝謁の間において、宮内大臣始め総代、ついで侍従職女官長始め侍従職女官等より拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

三日 月曜日 文子女王の初節句につき、天皇・皇后より盛厚王・同妃成子内親王に三種交魚代料を、女王に御台人形代料・万那料及び菓子を、皇后より女王に御台人形等を御贈進になる。○女官長日記、贈  
賜録

五日 水曜日 午前、内廷庁舎において、法学博士穂積重遠より「国際軍事裁判と日本側の主張」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積重遠東宮奉仕日録、穂積家文書

六日 木曜日 満四十四歳のお誕生日を迎えられる。

この日、拝賀・参賀をお受けになるため、除喪される。午前、表拝謁の間において、宮内大臣・宮内次官・式部頭、侍従長始め侍従職一・二等官の拝賀を、続いて雍仁親王妃勢津子始め皇族・公族の拝賀を、さらに親任官、貴族院議長・衆議院議長、前官礼遇、貴族院副議長・衆議院副議長及び以上の

者の夫人、元女官より拝賀をお受けになる。ついで御進講室において久邇宮家の元奉仕者等に謁を賜い、宮内省会議室において宮内親任官待遇・一等宮内官・同待遇及び以上の者の夫人、二等宮内官・同待遇の拝賀をお受けになり、再び表拝謁の間において元皇后宮大夫木下道雄・元皇后宮事務官岡本愛祐及びこれに準ずる者に謁を賜う。その後、天皇と共に御文庫において、皇太子・和子内親王・厚子内親王と御対面になり、祝詞言上をお受けになる。

午後、崇仁親王・同妃百合子と御対面になり、祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、東宮職事務日誌、典式録、儀式録、例規録、官報

七日 金曜日 午前、天皇と共に御文庫において、この日より関西地方へ旅行する皇太子と御対面になり、挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

午前十時三十分天皇と共に御出門、翌月の農林省への移管に先立ち、この日閉庁式を終えた帝室林野局に行啓される。皇后は御服喪中のところ、宮内省内部の行事のため、除喪されることなく行啓される。長官岡本愛祐の先導にて各種展示を御覧になった後、職員及び元長官三矢宮松に謁を賜い、功勞者・永年勤続者等に御会釈を賜う。午後零時二分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、省中日誌、官報

厚子内親王の誕生日につき、天皇及び同内親王と共に表拝謁の間において、総代の宮内大臣・宮内次官・侍従長の拝賀を、続いて侍従職女官長始め侍従職女官等の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

八日 土曜日 午後二時四十五分御出門、旧帝室林野局構内の宮内省診療所に行啓され、御先着の皇

昭和二十二年三月

太后と御一緒に施設内を御巡覧になる。皇太后をお見送りの後、四時四十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、官報

十日 月曜日 昨月二十五日、埼玉県入間郡高麗川村における列車転覆事故により多数の死者が発生したため、この日西光寺において合同慰霊祭執行につき、天皇・皇后より主催団体の埼玉県仏教会飯能支部・曹洞宗宗務庁埼玉県曹洞宗宗務所に生花を賜う。○恩賜録

十一日 火曜日 午後、天皇と共に第一休所における皇族懇話会に臨御され、宣仁親王を始め皇族・王公族十六方と御歓談になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、高松宮日記

十三日 木曜日 午後、天皇と共に御文庫において皇子傳育掛東園基文に謁を賜い、正仁親王の成績についてお聞きになる。○侍従日誌

十四日 金曜日 午前、内廷庁舎において、宮内省御用掛加藤虎之亮より、漢文の進講をお聴きになる。去月二十八日の進講後、真綿を下賜された加藤は、この日の進講開始に当たり、「皇后陛下蚕綿ヲ賜フヲ謝シ奉ル」と題する自作の詩を奉る。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、加藤虎之亮関係資料

十五日 土曜日 午後、呉竹寮にお出ましになり、和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と御対面、ピアノの稽古を御覧になる。以後、折に触れて呉竹寮において神戸絢の指導による三内親王のピアノの稽古を御覧になり、時に御自身も稽古をされる。その他、英語、茶道、書道等の稽古も御覧になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十八日 火曜日 午後一時天皇と共に御出門、帝室博物館に行啓される。本館において考古・金工・陶瓷・彫刻・絵画・漆工・染織・書蹟の展示品を御巡覧の後、表慶館に向かわれ、正倉院御物複製、

法隆寺献納御物等を御巡覧になる。なお、帝室博物館はこの年五月三日に文部省所管の国立博物館となり、御物は国有財産として同館に保管されることとなる。還啓の途次、隣接の東京都美術館における読売新聞社主催の泰西名画展覧会にお立ち寄りになり、ヨーロッパ近代絵画を御覧になる。三時五十八分還啓される。今回の行幸啓に際し、帝室博物館より説明展示品写真・複製版画・浮世絵絵葉書が、読売新聞社より泰西名画展覧会出陳目録・絵葉書が天皇・皇后に献上される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、幸啓録、官報

二十日 木曜日 女子学習院卒業式に行啓のため、除喪を仰せ出される。午前八時二十分御出門、女子学習院に御着後、便殿に入御され、稔彦王妃聡子内親王・宮内大臣・院長安倍能成、在学中の女子皇族と御対面になる。ついで別棟講堂の式場に臨御される。卒業証書授与、恩賜品伝達、院長・宮内大臣の告辞、学生総代謝辞、唱歌「月の桂」があり、女子学習院としての最後の卒業式三月三十一日学習院・女子学習院の両官制廢が終了する。東口において特に御同級生等に御会釈を賜い、校舎内部の改修状況を御巡覧になる。終わって、便殿において院長に謁を賜う。十時三十三分還啓される。

午後、御文庫においてこの日女子学習院中等科を卒業の厚子内親王、それぞれ進級の和子内親王・貴子内親王よりお札の言上をお受けになり、祝詞を述べられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、官報、学習院百年史

昨十九日故載仁親王妃智恵子重体につき、天皇・皇后・皇太后の御使として侍従戸田康英・侍医塚原伊勢松を神奈川県小田原市の閑院宮邸に差し遣わされる。また、天皇・皇后・皇太后より病氣お尋ねとして葡萄酒を賜う。同夜、故載仁親王妃薨去につき、この日、弔問のため勅使・皇后宮使として侍

昭和二十二年三月

従鈴木菊男を閑院宮邸に差し遣わされる。二十五日、渋谷区常磐松町の宗秩寮分室元東伏見宮邸において正寝移柩の儀執行につき、天皇・皇后・皇太后より盛菓子をお供えになる。なお、皇后より櫛を賜う。ついで靈代安置の儀につき、勅使・皇后宮使として侍従戸田康英を同所に差し遣わされ、玉串をお供えになる。二十六日、宗秩寮分室において斂葬当日柩前祭の儀執行につき、勅使・皇后宮使として侍従鈴木菊男を、また豊島岡墓地において葬場の儀執行につき、皇后宮使として侍従徳川義寛をそれぞれ差し遣わされ、玉串をお供えになる。なお、皇族に対する皇室からの補助については、連合国最高司令部の承認を得られないため、祭資の下賜は詮議されないこととなる。

故載仁親王妃智恵子は、三条実美の第二女子として明治五年に誕生、同二十四年に載仁親王と結婚、日本赤十字社篤志看護婦人会・愛国婦人会・大日本婦人教育会の各総裁等を務める。享年七十六。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、省中日誌、皇親録、慶弔録、重要雑録、墓誌銘録、貞明皇后実録正本、官報

二十二日 土曜日 御不例につき、終日御文庫において御仮床に就かれ、大宮御所への行啓をお取りやめになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

二十四日 月曜日 午前十一時三十分御出門、大宮御所に行啓される。皇太后と御昼餐を御会食になり、午後四時十八分還啓される。還啓の際、関西旅行より昨日帰京の皇太子のお出迎えをお受けになる。皇太子はこの月二十九日まで宮城内霜錦亭に滞在する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、幸

啓録、官報

御文庫において東宮大夫穂積重遠に謁を賜い、皇太子の本学年の成績並びに関西旅行中の様子等を聞きになる。○女官長日記、女官日誌、穂積重遠東宮奉仕日録

二十八日 金曜日 午前、内廷庁舎において、宮内省御用掛加藤虎之亮より、漢文の進講として『孟子』について学ばれる。終了後、大色紙に親筆にてお認めの御歌を特別の思召しをもって下賜される。

加藤虎之亮の詩にこたへて感謝の心をよめる

をしへたれし君そたふときはたちよりいつとせ近かきなかき日々によす

教うけてなほもきはめむなかき日をひしりのみちにしたしみしかと

ついで東京帝国大学教授板沢武雄より、前回に引き続き幕末のアメリカと開国についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、加藤虎之亮関係資料

二十九日 土曜日 この日東宮御仮寓所北多摩郡小金井町へ皇太子還啓につき、天皇と共に御文庫において御昼

餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

三十一日 月曜日 午前、御進講室において、京都在住華族総代の子爵梅園篤彦、新任の式部頭侯爵

松平康昌宗秩寮総裁兼宮内省出仕及び前任の式部頭男爵武井守成、新任の皇宮警察部長木村行蔵皇宮護衛官兼宮内省出仕に謁を賜う。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、官報

天皇と共に御文庫において翌日葉山へ転地の正仁親王と御対面になり、御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

#### 四月

二日 水曜日 午前、表拝謁の間において、去る三月三十一日をもって帝室林野局廃止につき退官の元同局長官岡本愛祐に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、官報

昭和二十二年四月

東宮大夫穂積重遠より、「東宮関西行啓歌日記（一）」と題する進講を和子内親王と共に聴きになる。

九日に第二回の進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積重遠東宮奉仕日録、穂積家文書

正午、天皇と共に御文庫において稔彦王妃聡子内親王・盛厚王・信彦王と御対面になり、盛厚王妃成子内親王の病気快方及びお見舞いに対するお礼言上をお受けになる。引き続き、和子内親王・厚子内親王・貴子内親王を交えて御一緒に御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内

舍人日誌、贈賜録

三日 木曜日 御喪明けにつき、御目覚後、御文庫においてお清めをされる。午前、神武天皇祭につき、侍従職女官伊達璋子に御代拝を仰せ付けられる。その後、総代として御文庫に参殿の侍従長、侍従職女官等に謁を賜い、御喪明けの祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、

儀式録、祭祀録、典式録

四日 金曜日 午前、内廷庁舎において、東京帝国大学教授板沢武雄よりペリ―来朝についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

六日 日曜日 午前、天皇と共に御文庫において御参殿の皇太后及び皇太子・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と御対面になる。皇太后から、昨日九条幾子<sup>野間幾子、浄操院、皇太后の御生母</sup>一周忌につき、天皇・皇后

よりの御贈進に対するお礼をお受けになる。御昼餐を御会食の後、お揃いにて旧主馬寮広場における宮内職員懇親運動大会に臨御される。天幕の御座所より高等馬術・琴平競技を始めとする競技等を御覧になった後、御文庫に還御される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮職務日誌、

省中日誌、幸啓録、贈賜録、貞明皇后実録正本、官報

八日 火曜日 午後、天皇と共に内廷庁舎における皇族懇話会に臨御され、崇仁親王を始め皇族・王族十三方と御談話になる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、内舍人日記、典式録

九日 水曜日 午後、御文庫に参殿の雍仁親王妃勢津子と御対面になり、総裁としての同妃より翌十日御予定の結核予防会行啓に対するお礼言上をお受けになる。○女官日記、侍従日記、内舍人日記、秩父宮事務

日誌、幸啓録

十日 木曜日 午前九時五十三分御出門、財団法人結核予防会に行啓される。便殿において総裁雍仁親王妃勢津子と御対面になり、会長島津忠承、厚生大臣河合良成、理事その他総勢二十五名に謁を賜う。会長の言上をお聞きの後、次室にて連合国最高司令部公衆衛生福祉局長クロフォード・F・サムス大佐、同結核主任アルバート・P・ナイト博士に謁見を仰せ付けられ、廊下において結核予防会上北沢予防所技師鈴木印夫以下の二十八名に謁を賜う。終わって、別室において理事隈部英雄の説明にて陳列品を御覧になる。引き続き第一健康相談所に出御され、所長寺尾雄治の説明にてレントゲン室・集団検診室等を御巡覧になる。その後、便殿に戻られ、総裁、会長にお言葉を賜う。午後零時五分還啓される。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舍人日記、幸啓録、官報

エリザベス・グレイ・ヴァイニングより英語の進講をお聴きになる。その後、御一緒に呉竹寮にお出ましになる。和子内親王・厚子内親王・貴子内親王のお出迎えをお受けになり、特にヴァイニングの秘書高橋たねに謁を賜う。それより御台人形を飾り付けた御遊戯室に移られ、三内親王と御一緒に雑料理の茶をヴァイニングに賜い、三内親王のピアノ演奏・合唱等にておもてなしになる。夕刻、ヴァイニング及び秘書退出後、御文庫に戻られる。以後、折に触れてヴァイニングと茶を共にされる。○

昭和二十二年四月

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

天皇・皇后・皇太后の宮城・大宮御所間の行幸啓時の鹵簿について、爾今当分の間、御料車一台・供奉車一台の自動車鹵簿とすること、前駆・後衛の警察官自動車を廃止し御警衛のために供奉車の直後及び御料車の前方約五十メートルの位置にそれぞれ側車警視庁警部又は警部補乗車一台を付けること随衛の側車は供奉車の直後を定位とするが、時宜により御料車の直後に進出、また、御道筋は、半蔵門・大宮御所正門間、又は半蔵門・赤坂離宮東門間のいずれかとすることが定められる。○省中日誌、例規録、幸啓録

一昨八日元女子学習院教授兼女子学習院事務官鈴木元美死去につき、この日天皇・皇后より祭葬料を下賜される。鈴木は、皇后の入内前、久邇宮御学問所において数学・物理・化学の講義を担当する。

○恩賜録

十一日 金曜日 昭憲皇太后祥月命日につき、午前の定例進講はお取りやめになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

十二日 土曜日 午後、和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と御一緒に講堂において開催中の侍従その他による狂言を観る会にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

十五日 火曜日 午前十一時三十五分御出門、天皇と共に大宮御所に行啓される。皇太后と御対面上、午餐を御会食になる。御食後、お揃いにて御内庭を御散策になる。午後四時三十八分還啓される。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、幸啓録、貞明皇后実録正本、官報

十六日 水曜日 午前、内廷庁舎において、法学博士穂積重遠より「日本婦人の国際婦人会議出席」

と題し、同会議へ出席の石垣綾子評論家のことにつき進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、

穂積重遠東宮奉仕日録、穂積家文書

十七日 木曜日 昨日朝子女王朝融王第二王女、御姪と従五位男爵島津斉視の納采の儀執行につき、この日、天皇・

皇后より久邇宮に三種交魚代料を御贈進になる。○女官長日記、久邇宮朝子女王殿下御婚嫁の件、贈賜録、重要雑録

十八日 金曜日 午前、内廷庁舎において、東京帝国大学教授板沢武雄より幕末の版画についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

午後、宣仁親王妃喜久子参内につき、御進講室において御対面になり、病氣全快の挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

十九日 土曜日 午前八時十五分御出門、天皇と共に多摩陵大正天皇陵に行啓される。天皇の御拝礼の後、

陵前に進まれ、御拝礼になる。終わって、東宮御仮寓所に立ち寄られ、皇太子と御対面になる。御昼餐を御会食の後、東宮大夫穂積重遠より同所の概況につき説明をお聞きになる。ついで皇太子の案内にて、内庭、学習院中等科小金井校舎、光華殿紀元二千六百年式典式場の移築の皇太子の教室、外庭を御巡覧になり、光

雲寮寄宿舎内の皇太子の部屋を御覧になる。それより御一緒に付近の栗林において野草を御採集になり、

光華殿南方の小金井堤においてサクラを觀賞される。東宮御仮寓所に戻られ、付近の畑にて收穫されたジャガイモを使用した蒸かし芋をお召し上がりになった後、午後五時五分還啓される。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、東宮職事務日誌、祭祀録、幸啓録、重要雑録、官報、穂積重遠東宮奉仕日録、学習院百年史、平成の天皇青春の日々

昭和二十二年四月

二十日 日曜日 文子女王箸初につき、稔彦王・同妃聡子内親王、盛厚王・同妃成子内親王に三種交魚代料を、文子女王に鮮鯛代料・御台人形代料を、それぞれ天皇・皇后より御贈進になる。○女官長日記、贈賜録

二十一日 月曜日 午後、御進講室において、今般米国より帰国の植村環日本基督教女子青年会会長に謁を賜い、米国

キリスト教婦人連盟特製の聖書の奉呈をお受けになる。その際、写真撮影をお受けになる。その後、暫時言上をお聞きになり、思召しをもって菓子を賜う。引き続き、天皇と共に表拝謁の間において、再び植村に謁を賜う。賜茶の席において、米国長老教会婦人会の招待により実施の北米旅行に関する話をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、入江相政日記、植村環著作集

二十三日 水曜日 午前、内廷庁舎において、法学博士穂積重遠より「新憲法概説（一）」と題する進講をお聴きになる。以後、合計五回にわたって同人より新憲法概説の進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、穂積重遠東宮奉仕日録、穂積家文書

午後、表拝謁の間において、川田順より和歌についての話をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌

二十四日 木曜日 午後、表拝謁の間において、新任の侍従次長鈴木一・帝室会計審査局長官矢島正昭・主殿頭大場茂行・図書頭城富次に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進退録、官報お召しの守正王・同妃伊都子、李王垠・同妃方子女王参内につき、天皇と共に御進講室において御対面になり、かねて梨本宮・李王より皇后に献上の雛人形を御覧になる。守正王・同妃退出後、天皇及び李王・同妃と共に宮殿跡を巡られ、また李王より献上のヤエザクラを植樹した場所を御覧になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、梨本伊都子日記

二十五日 金曜日 午前、内廷庁舎において、東京帝国大学教授板沢武雄より『宇下人言』についての進講をお聴きになる。以後、同人より合計十二回にわたって『宇下人言』についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

天皇と共に御文庫において病後初参殿の盛厚王妃成子内親王、及び同伴の文子女王と御対面になり、お礼の言上をお受けになる。御昼餐を御会食の後、夕刻まで御団欒になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二十七日 日曜日 御文庫において天皇及び皇太子・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と御昼餐を御会食の後、お揃いにて旧主馬寮広場にお出ましになる。去る六日の宮内職員懇親運動大会の一環として、この日開催の馬術競技の打毬などを御覧になる。その際、競技に参加の博明王と御対面になる。終了後、呉竹寮において御少憩になり、御文庫に還御される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮職務日誌

二十八日 月曜日 午前、御文庫に葉山より帰京の正仁親王参殿につき、天皇と共に御対面になり、御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録

従来実施の防空従事者と軍人・軍属等に対する祭料の下賜は、今般連合国最高司令部より禁止されたため、これを廃止し、別途天皇・皇后から御紋付土器盃を賜うこととなる。○上奏モノ控簿、恩賜録

二十九日 火曜日 午前、賢所御門前にお出ましになり、天長節祭の御拝礼を終えた天皇をお出迎えになる。それより御一緒に内廷庁舎にお出ましの途次、内苑門外において参賀の宮内省三等官以下の職員より奉拝をお受けになる。その後お一方にて御進講室において、総代の宮内大臣・宮内次官・侍

従長・侍従次長、及び侍従職女官一同より、ついで雍仁親王妃勢津子を始め皇族・王公族より祝詞の言上をお受けになる。その後、参賀の元皇后宮女官に謁を賜う。終わって、天皇と共に御文庫に戻られ、参殿の皇太子・正仁親王・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王より祝詞の言上をお受けになる。その後、お祝御膳を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、儀式録、典式録、官報

五月

二日 金曜日 午前、皇室典範及び皇室典範増補廃止につき賢所皇靈殿神殿に親告の儀が行われ、侍従職女官伊達璋子に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、祭祀録、儀式録、典式録、官報  
午後、表拝謁の間において、植村環の渡米に尽力のチャブレン・ワット夫人に謁見を仰せ付けられる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

この日をもって宮内省官制廃止につき、在官中の勤労が少なくないため、天皇・皇后・皇太后より宮内大臣松平慶民に賜品、侍従長大金益次郎ほかに賜品・賜金がある。これとは別に、天皇・皇后・皇太后より宮内大臣以下以下の職員に賜品・賜金がある。また、宮内省御用掛を免じられる木下道雄・八田善之進・武富邦茂にも、天皇・皇后よりそれぞれ賜金がある。○侍従職日誌、恩賜録、贈賜録

三日 土曜日 午後、天皇と共に表拝謁の間において、この日の日本国憲法施行に際し、王公家の権義に関する法律、王公家軌範等の廃止に伴い、王公族を離脱の李王垠・同妃方子女王・李鍵公・同妃誠子と御対面になる。李王垠よりお礼言上をお受けになり、天皇・皇后よりお言葉を賜う。なお、李

鍵公は桃山虔一、同妃誠子は桃山佳子、李沖は桃山忠久、李沂は桃山欣也、李沃子は桃山明子の仮称を使用することとなり、方子女王は昨日限りで女王の称号を拝辞する。各方退出後、お一方にて皇太后御使の皇太后宮女官長清水谷英子に謁を賜い、新憲法施行並びに皇室典範廃止につき御機嫌伺いをお受けになり、お札を述べられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、重要雑

録、例規録、官報

この日、宮内府発足に併せて宮内府法施行令が公布・施行され、長官官房・侍従職・皇太后宮職・東宮職・式部寮・図書寮・内蔵寮・主殿寮・京都地方事務所・御用掛が設置される。また、別に内廷に掌典職が設置される。この日宮内府の人事が発令され、保科武子が女官長に、小倉満子以下の六名が女官に、外山豊子が皇子傳育掛に、名取はな以下の三名が内親王傳育掛に任命される。○省中日誌、例規

録、進退録、官報

四日 日曜日 午前九時十五分御出門、天皇及び皇太子と共に旧明治神宮外苑競技場ナイルキニック・スタジアムに行啓され、新憲法施行記念第一回都民体育大会に御臨場になる。天皇・皇太子及び先着の正仁親王・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と共に特別観覧席に着かれ、陸上競技・重量挙げを御覧になる。十一時四十六分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、東宮職務日誌、

幸啓録、官報

六日 火曜日 正午、天皇と共に旧枢密院会議室における皇族懇話会に臨御され、崇仁親王を始め皇族・元王族十五方と御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

七日 水曜日 午前、御座所において今般貴族院議員を解任の河井弥八より拝謁をお受けになり、お

言葉を賜う。○侍従日誌、河井弥八日記

午後、内廷庁舎において、松平信子の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌  
故載仁親王妃智恵子五十日祭につき、勅使・皇后宮使として侍従徳川義寛を墓所に差し遣わされ、玉串をお供えになる。また、天皇・皇后より、墓前に榊を、神奈川県小田原市の閑院宮邸の権舎に生花・野菜をお供えになる。なお、閑院宮からの辞退の申し出により、権舎祭には勅使・皇后宮使を御差遣にならないこととされる。○侍従日誌、皇親録、贈賜録、典式録

十日 土曜日 午前、御文庫に皇太后御参殿につき、正仁親王と共に御対面になる。ついで内廷庁舎より還御の天皇をお出迎えになり、親王退出後、お三方にて御昼餐を御会食になる。御食後、皇太后と共に式部寮楽部に出御される。守正王妃伊都子のお出迎えをお受けになり、雅楽「催馬楽」を始め七番をお聞きになる。その後、舞楽面・樂器等を御覧になる。ついで舞楽「春庭花」「八仙」「散手」を鑑賞される。終わって、呉竹寮にお立ち寄りになる。和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と御対面の後、皇太后を案内されて寮内を御巡覧になる。皇太后をお見送りの後、御文庫に戻られる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、貞明皇后実録正本、官報

十二日 月曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕始の儀を行われる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

午後、花蔭亭に朝融王・同妃知子女王並びに近く降嫁の朝子女王をお招きになり、茶菓を供され、お祝品を贈られる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

十四日 水曜日 午前八時四十八分御出門、天皇と共に東京都美術館に行啓される。東京都・朝日新

聞社共催の新憲法実施並びに東京都美術館開館二十周年記念「現代美術展覧会」に臨まれ、日本画、彫塑、洋画、工芸の各作品を御覧になる。十一時二十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、幸啓録、官報

十五日 木曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、厚生省社会局長葛西嘉資より、アジア救援公認団体 ララの由来や物資の取り扱いの実情及びその恩恵等について説明をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、入江相政日記、ララ記念誌

十六日 金曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、今般連合国最高司令部の招請により日本の児童保護事業の進展に協力するため来日の米国人神父エドワード・ジョゼフ・フラナガンを御引見になる。フラナガンより、日本児童の境遇改善は健康状態・教育・精神訓練の向上により初めて実現できざる旨をお聞きになる。なお、御引見に先立つ十三日、フラナガンを主人公とした米国映画「少年の町」を天皇と共に御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、謁見録、典式録

午後、表拝謁の間において、旧堂上華族代表の元公爵鷹司信輔以下十名より拝謁をお受けになる。一同より天皇・皇后に川合玉堂筆の絵画が献上される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

十七日 土曜日 長年教育事業に尽力した跡見李子跡見花 蹊養女はこの年八十歳の賀を迎えるにつき、特に思召しをもって万那料等を賜う。○女官長日記、贈賜録

昭和二十二年五月

青森県青森市、長野県飯田市、茨城県那珂郡那珂湊町においてそれぞれ去月発生した火災により甚大な被害を受けた三県に、天皇・皇后より御救恤金を賜う。○恩賜録

十八日 日曜日 午前八時四十五分御出門、日本赤十字社において挙行の全国児童福祉大会厚生省・財団法人日本社会

事業協会・恩賜財団母子愛育会・恩賜財団同胞援護会・全日本民生委員連盟主催

副会長の厚生次官伊藤謹二厚生大臣代理並びに大会副会長の日本社会事業協会理事長赤木朝治の拝謁をお受けになる。ついで式場に出御され、開会の辞に引き続き、次のお言葉を賜う。

今日全国児童福祉大会が開かれましたことは、誠によるこばしいことと思えます。

新憲法が実施された此の門出に当って、これからの日本が、子供たちにとつて、本当に幸福な国になることが大切であると、心から思います。

此の頃は、一般に子供たちが、恵まれた環境にあるとは云われず、とりわけ、戦災や引揚の、孤児や遺児の身の上を思えば、何とかして、此の可憐な子供たちを幸福にすることは、出来ないものかと心が痛みます。

今はわが国全体が、非常に困つていますが、少しでも子供たちを幸福にすることは、わが国の前途のためにも、先づ考えなければならぬ大切なことでもあります。どうか子供たちが、将来の日本を背負うにふさわしい、明るい健やかな国民として育つために、また日本を子供たちの幸福な国にするために、凡ての人々が、児童保護事業の貴い意義と使命とを、十分に理解すると共に、本週間を機として、此の仕事が今後益々発展するよう、関係者一同の真心のこも

つた努力を希望致します。

ついで式辞・祝辞をお聞きになる。式後、別室において米国人神父エドワード・ジョゼフ・フラナガン、ララ<sup>アジア救援公認団体</sup>駐日代表のジョージ・アーネスト・バット、エスター・ビドル・ローズほか二名を御引見になり、フラナガンにお言葉を賜う。十時還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、官報、事業年報（日本赤十字社）

十九日 月曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、ララ<sup>アジア救援公認団体</sup>駐日代表のジョージ・アーネスト・バット、エスター・ビドル・ローズ、ミカエル・J・マキロップを御引見になる。○女官長日記、女

官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、謁見録、典式録

二十日 火曜日 午前九時御出門、日本赤十字社産院に行啓される。総裁宣仁親王・社長島津忠承以下の奉迎をお受けになった後、便殿に入御され、院長久慈直太郎より産院の現況につき言上をお聞きになり、顕微鏡にて人乳を御覧になる。その後、外来診察室、手術室、乳児室、分娩室を御巡覧になる。ついで同社中央病院に向かわれる。御着後、院長大島恒義を始め職員及び日本赤十字女子専門学校生徒の奉迎をお受けになり、便殿に入御される。宣仁親王と御対面、関係者の拝謁をお受けになり、院長より言上をお聞きになる。その後、院内の各科、病室、手術室等を御巡覧になり、廊下伝いに日本赤十字女子専門学校に御着、便殿に入御される。看護教育模範学院院长原泰一より言上をお聞きになり、看護実習室、第一教室等を御巡覧になる。便殿に入御後、連合国最高司令部公衆衛生福祉局員六名及び学院院长と御談話になる。十一時二十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内

舍人日誌、幸啓録、官報

昭和二十二年五月

午後、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、蚕の様子を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

夜、天皇及び正仁親王・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と共に宮城正門鉄橋通称二重橋内東側の堤上において、宮城前広場にて行われた新国会記念の花火大会憲法普及会・読売新聞社共催を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二十一日 水曜日 午前、内廷庁舎において、野口幽香より、祈りについての進講をお聴きになる。

○女官長日記、女官日誌、野口幽香関係文書

午後、御進講室において、新任の東宮御学問顧問坪井忠二・侍従高尾亮一の拝謁をお受けになる。○

女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮職務日誌、官報

二十二日 木曜日 午前、御進講室において、今般廃職の元宮内省御用掛石川岩吉の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

二十三日 金曜日 午後、参殿者休所において開催の侍従有志者による川田順を囲む和歌研究会に臨まれる。終わって、故成久王妃房子内親王参内につき、天皇と共に御政務室において御対面になる。

房子内親王は去月二十九日、神宮祭主に就任する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、祭祀録

二十六日 月曜日 去る十六日北海道空知郡三笠町幾春別において火災により甚大な被害発生につき、天皇・皇后より北海道に御救恤金を賜う。○恩賜録

二十九日 木曜日 午前、御参殿の皇太后と御対面になる。午前九時二十分、皇太后と御同車にて御出門、白木屋において開催中のシルクフェア<sup>一</sup>に行啓される。御着後、シルクフェア<sup>一</sup>会長の日本蚕

糸業会副会長吉田清二、同会局長永井得二、白木屋専務岡清蔵の拝謁をお受けになる。ついで会場を御巡覧になり、ファッション・ショーほかを御覧になる。その後、大宮御所に行啓される。御昼餐後、内庭にお出ましになり、炭焼を御覧になり、折柄赤坂離宮に行啓の皇太子と御対面になる。午後三時十三分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、官報

三十日 金曜日 午前九時四十五分御出門、恩賜財団済生会に行啓される。便殿において総裁宣仁親王と御対面になり、引き続き会長潮恵之輔、理事長武井群嗣、厚生次官伊藤謹二、厚生省社会局長葛西嘉資、済生会病院長高雄徳竜、同産院長兼同乳児院同附属小児科病院長中山安の拝謁をお受けになる。ついで創立三十六周年記念式典の式場に出御され、会長の式辞朗読後、お言葉従来の令旨を今回より「お言葉」とするを賜う。

済生会が、創立以来長い年月の間、医療保護のことに従い、立派な成績をあげて来ましたのは、まことよろこばしいことであります。

これから日本が、文化国家として発展してゆくためには、なによりも、まず、国民保健の向上を心がけなければなりません。そうして、特に医療の資にとぼしく、治療も十分にできない、きのどくな人たちのためには、心からの同情と誠意を以て、保護の手をさしのべてやりたいものであります。戦後の世相は、心を暗くするものが多いのですが、とりわけ、よるべない、ふしあわせな病者の上を思いますと、胸を痛めるのであります。この困難な時にあたり、済生会は、社会の情勢に対応して、事業の内容と運営とを更新したのであります。更に一層、力を合せ、心をひとつにして、本来の使命達成に、益々努力せられることを望みます。

昭和二十二年六月

引き続き御前に参進の総裁より奉答をお受けになる。終わって、御休憩室において理事長より復興計画その他につき説明をお受けになり、陳列品を御覧になる。それより病院に向かわれ、玄関において救急車を御覧になった後、階上・階下の各病室を御巡覧になる。引き続き産院・乳児院内を御巡覧になり、患者にもお言葉をお賜う。十一時四十五分還啓される。○女官長日記、女官日記、侍従職日記、内舎人日記、

幸啓録、官報、恩賜財団済生会五十年誌

## 六月

三日 火曜日 午前、天皇と共に紅葉山御養蚕所前庭にお出ましになり、宮内記者会会員十名の拝謁をお受けになり、日常生活に関する質問にお答えになる。これより先、去月二十日付『時事新報』に掲載の「人間皇后初のお答え」と題する皇后と時事新報記者の一问一答形式の記事に対し、外国人記者団が外務省を通じて事実の真否を照会したため、宮内府は事実と相違するとして時事新報社に取り消しを求める。今回の質疑応答は改めて同記事を否定する意味もあり実現する。この日、記者の質問に対し、養蚕の現状と今後の抱負、衣服新調の差し控えと古着の利用、市街地を御覧になった感想、趣味と嗜好、英語の学習、今後の日本女性への希望などについて述べられる。最後に今まで日本人記者と直接話したことはない旨をお答えになる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舎人日記、省中日誌、天皇記者会見、松平慶民手帖、入江相政日記、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、時事新報、天皇とともに五十年

午後、御進講室に河井道惠泉女学  
園創立者を召され、修養についての体験談をお聴きになる。○女官長日記、女官日記、

侍従職日記、内舎人日記

四日 水曜日 午前、御文庫において関西巡幸へ御出発の天皇をお見送りになる。その後、内廷庁舎において、法学博士穂積重遠より「純情愛日の米国婦人」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積重遠東宮奉仕日録、穂積家文書

女官日誌、侍従職日誌、穂積重遠東宮奉仕日録、穂積家文書

六日 金曜日 午後、内廷庁舎において、近く帰米のチャブレン・ワット夫人の謁見をお受けになり、お言葉を賜う。また、思召しにより賜品がある。なお、同人よりチョコレートの献上をお受けになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

戦災引揚孤児救済資金に充てる目的をもって、日本女流書道協会主催・読売新聞社後援の『愛の辻揮毫』が都内十一デパート<sup>三越・松坂屋その他</sup>において開催につき、次の御歌三首を同協会に下賜される。

あたゝかくはくゝまゝほしあはれにも世にめくまれぬみなし子たちを

父母のたまは汝か身にやとるなり心なほくものひよみなし子

我もまた手をさしのへてはくゝまむみよりすくなきひきあけの子を

なお、三首目の御歌は『読売新聞』に掲載される。○恩賜録、贈賜録、新聞発表綴、読売新聞

七日 土曜日 午後、紅葉山御養蚕所にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

十日 火曜日 午前、内廷庁舎において、この日帰京の宮内府事務官角倉志朗<sup>東宮侍従</sup>より関西巡幸中の天

皇の御様子をお聞きになる。午後、紅葉山御養蚕所にお立ち寄りの後、御文庫に戻られる。○女官長日

記、女官日誌、侍従職日誌

十一日 水曜日 午前、内廷庁舎において、法学博士穂積重遠より「生活保護法」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積重遠東宮奉仕日録、穂積家文書

かねて宮内府事務官皇子傳育掛外山豊子病気につき、去る三月二十二日にお尋ねとして天皇・皇后より野菜を、本月七日に天皇・皇后・皇太后より果物を下賜される。同日死去につき、九日天皇・皇后より盛菓子料を下賜される。ついでこの日、天皇・皇后・皇太后より祭筵料を下賜される。

外山豊子は皇后宮職御用掛・皇后宮女官・皇子御養育掛・皇子御用掛・皇子傳育掛を歴任し、皇后及び正仁親王に奉仕する。○女官長日記、省中日誌、贈賜録、恩賜録、貞明皇后実録正本

十三日 金曜日 午前、御文庫に皇太后御参殿につき、御対面になり、御昼餐を御会食になる。午後、御一緒に紅葉山御養蚕所にお出ましになり、繭掻きをされる。その後、お出迎えの正仁親王の案内にて義宮御殿の前庭を御散策になり、御殿内を御覧になる。終わって、お三方御一緒に御文庫に戻られ、お出迎えの和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と御対面になり、夕刻まで御一緒に過ごされる。○

女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、幸啓録、官報

十四日 土曜日 午後一時四十分、和子内親王・厚子内親王・貴子内親王を同伴されて御出門、多摩陵に行啓される。陵所御休所において凶書寮庶務課長本郷定雄・陵墓監元田竹彦の拝謁をお受けになる。その後、三内親王と共に御拝座に進まれ、御拝礼になる。ついで三内親王が拝礼する。五時二十二分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、重要雑録、官報

十五日 日曜日 夕刻、関西巡幸より還幸の天皇を正仁親王・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と御一緒に御文庫においてお出迎えになり、御夕餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍

従職日誌、内舍人日誌

十七日 火曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、引揚援護院長官齊藤惣一の拝謁をお受けに

なる。斉藤より引揚の概況、引揚者の保健問題、引揚の促進・援護状況等の説明をお聴きになる。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、恩賜録、典式録、朝日新聞、斉藤惣一とYMCA

十八日 水曜日 午前、内廷庁舎において、法学博士穂積重遠より「教育基本法と学校教育法」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積重遠東宮奉仕日録、穂積家文書

二十日 金曜日 午前十一時三十六分御出門、天皇と共に大宮御所に行啓される。御着後、皇太后と御昼餐を御会食になり、ついで御一緒に赤坂離宮御苑を御散策になる。その際、戦災跡地を利用した畑において麦刈りをされ、ヤギ等を御覧になる。それより赤坂離宮にお立ち寄りの後、午後四時五十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、幸啓録、貞明皇后実録正本、官報

二十四日 火曜日 天皇・皇后・皇太后より、今般死去の民生委員安藤謙治に対し、多年少年教護・社会教育等の社会事業への貢献多大につき、祭料を下賜される。○恩賜録、貞明皇后実録正本

二十五日 水曜日 皇太后のお誕生日につき、御昼餐前、天皇と共に御文庫において、女官長始め女官より祝詞の言上をお受けになる。午後、御文庫に正仁親王・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王参殿につき、天皇と共に御対面になり、祝詞の言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、

贈賜録

二十六日 木曜日 故載仁親王妃智恵子百日祭につき、勅使・皇后宮使として侍従入江相政を墓所に差し遣わされ、玉串をお供えになる。また、天皇・皇后より榊をお供えになる。なお、神奈川県小田原市の閑院宮邸権舎への御使は辞退により差し遣わされず、天皇・皇后より霊前に生花・野菜をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従職日誌、省中日誌、皇親録、贈賜録、典式録

昭和二十二年六月

二十八日 土曜日 毎日新聞社主催の第一回美術団体連合展覧会を御覧になるため、午前八時四十五分御出門、天皇と共に東京都美術館に行啓される。参加十二団体より出陳の展示品、招待作家、無所属作家による作品を御巡覧になり、十一時二十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、

内舎人日誌、省中日誌、幸啓録、官報、毎日新聞

この日午前、渋谷区常磐松町の久邇宮邸において朝融王妃知子女王薨去につき、午後、天皇・皇后より、弔問使として侍従山田康彦を久邇宮邸に御差遣になる。その後、御文庫に参殿の正仁親王・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王より御機嫌伺いと見送りをお受けになり、午後四時御出門、久邇宮邸に行啓され、御弔問、御永訣になる。行啓に際し、霊前に盛花・菓子料・桜桃をお供えになる。五時五分還啓される。なお、これより先、同妃の病気に際し、御使として女官長保科武子を差し遣わされ、皇后より万那料・野菜・牛乳を下賜される。また天皇・皇后・皇太后よりお尋ねとして葡萄酒を下賜される。

翌二十九日、霊前に盛花を供えられ、搔卷を御贈進になる。三十日御槽入りに先立ち、宮内府御用掛竹屋志計子を差し遣わされる。また、天皇・皇后より榊及び野菜を、皇后より料理を霊前にお供えになる。七月一日、女官長保科武子・女官曾禰治子を差し遣わされ、拝礼させられる。二日、女官小倉満子を差し遣わされ、菓子・枇杷を霊前にお供えになる。三日正寝移柩の儀につき、女官小倉満子を差し遣わされ、菓子・枇杷を霊前にお供えになる。別に天皇・皇后・皇太后より盛菓子を御供えになる。四日、天皇・皇后・皇太后より祭資を、皇后より榊を賜う。同日霊代安置の儀には勅使・皇后宮使として侍従永積寅彦を宗秩寮分室<sup>元東伏見宮邸</sup>に差し遣わされ、玉串をお供えになる。また、皇后より

野菜をお供えになる。五日斂葬当日、宗秩寮分室における柩前祭の儀に勅使・皇后宮使として侍従鈴木菊男を、豊島岡墓地における葬場の儀に皇后宮使として侍従徳川義寛を差し遣わされ、それぞれ玉串をお供えになる。

知子女王は、明治四十年に博恭王第三王女として誕生する。大正十四年に朝融王と結婚し、三男五女を儲ける。享年四十一。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、幸啓録、皇親録、重要雜録、墓誌銘録、貞明皇后実録正本、官報

二十九日 日曜日 午前、御進講室において、皇太后御使として参内の皇太后宮女官長清水谷英子より、朝融王妃知子女王薨去につき御機嫌伺いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌

三十日 月曜日 午前、御進講室において、故成久王妃房子内親王と御対面になり、朝融王妃知子女王薨去につき御機嫌伺いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

## 七月

二日 水曜日 午前、内廷庁舎において、法学博士穂積重遠より「労働基準法（一）」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、穂積重遠東宮奉仕日録、穂積家文書

御文庫において元侍医頭八田善之進より朝融王妃知子女王薨去につき御機嫌伺いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌

四日 金曜日 午前、内廷庁舎において、今般退官の前警視総監監広岡謙二及び後任の警視総監門叶宗雄の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恩賜録、官報

五日 土曜日 午後、御進講室において、侍従次長鈴木一を始め側近奉仕者と宮内府長官官房文書課長高尾亮一による輪読会に臨まれる。志賀直哉著『清兵衛と瓢箪』の朗読並びに解説、批判、感想の座談をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

六日 日曜日 昨日朝融王妃故知子女王の葬儀終了につき、この日お見舞いのため、女官長保科武子を久邇宮邸に差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

七日 月曜日 午前、紅葉山御養蚕所において、御養蚕納の儀が行われる。皇后はお出ましにならず、侍従次長・女官長以下が同儀に奉仕する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、新聞発表綴  
元皇后宮典侍園祥子病氣重体につき、天皇・皇后より万那料並びに野菜を賜う。同日死去につき、女官長保科武子をその邸に差し遣わされる。以後八日、十日、その他折に触れて女官等を御差遣になる。十日には天皇・皇后より祭資並びに野菜を、皇后より生花を賜い、別に園の実子に当たる故成久王妃房子内親王・稔彦王妃聡子内親王に対し、天皇・皇后より葬儀の資として金一封を賜う。十四日には天皇・皇后・皇太后より祭資料を賜う。十八日葬送につき、皇后より切り花・押し物を霊前に賜う。園祥子は明治十三年権掌侍として宮中に入り、明治天皇皇子の猷仁親王・輝仁親王、皇女の静子内親王・昌子内親王・房子内親王・允子内親王・聡子内親王・多喜子内親王を出産する。また、大正二年から五年まで皇后宮典侍を務める。○女官長日記、侍従職日誌、上奏モノ控簿、恩賜録、重要雑録、貞明皇后実録正本

九日 水曜日 午前、御進講室において、法学博士穂積重遠より「労働基準法(二)」と題する進講をお聴きになる。今回をもって夏季御休課となる。ついで侍従次長鈴木一を始め側近奉仕者と文書課長高尾亮一による『蜜柑』を題材とした輪読会に臨まれる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積重遠東宮

奉仕日録、穂積家文書

十日 木曜日 午前十一時御出門、大宮御所に行啓され、皇太后と御対面になり、朝融王妃知子女王薨去に伴うお仕向けに対するお礼を述べられる。午後零時十九分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍

従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、官報

十五日 火曜日 午前、御文庫に皇太后御参殿につき、天皇と共に御対面になる。引き続き皇太子・正仁親王・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王も加わり、御昼餐を御会食になる。午後から夕刻まで、御一緒に団欒の時をお過ごしになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、貞

明皇后実録正本、官報

十六日 水曜日 午前、呉竹寮にお出ましになり、野口幽香の「常に楽しむ」と題する話を和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と御一緒にお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、野口幽香関係文書  
午後、表拝謁の間において、大聖寺門跡の石野慈栄の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従

職日誌、内舎人日誌

内廷庁舎に侍従職嘱託鳥野幸次を召され、「金魚」と題する御歌研究会の進講をお聴きになる。この年は三回にわたり同人の進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

内廷庁舎において内親王傅育掛名取はなの拝謁をお受けになり、和子内親王・厚子内親王・貴子内親王の今学期の成績をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌

十七日 木曜日 午前九時二十五分天皇と共に御出門、去月竣工の神奈川県津久井郡与瀬町の相模ダムに行啓され、関連の施設を御視察になる。午後二時五十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従

昭和二十二年七月

日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、幸啓録、官報

十八日 金曜日 午前、御文庫に和子内親王・厚子内親王・貴子内親王参殿につき、天皇と共に御対面になり、この日より那須へお成りにつき暇乞いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、幸啓録

天皇と共に内廷庁舎御政務室において、東宮大夫穂積重遠の拝謁をお受けになり、皇太子の第一学期学事成績についてお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、穂積重遠東宮奉仕日録

二十一日 月曜日 夕刻、御文庫に東宮大夫穂積重遠参殿につき、天皇と共に拝謁をお受けになり、去る十八日からこの日までの皇太子の茨城県下への修学旅行の様子をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、東宮職務日誌、穂積重遠東宮奉仕日録

二十二日 火曜日 午前、御進講室において、輪読会に臨まれる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

二十三日 水曜日 午前、御文庫に皇太子参殿につき、天皇と共に御対面になり、学習院の水泳行事参加のためこの日より沼津に行啓の暇乞いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

三十一日 木曜日 午前、御進講室において、朝融王と御対面になり、同妃知子女王薨去後の忌明けにつきお礼言上並びに御機嫌伺いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

財団法人学習院に対し、皇太子・正仁親王並びに和子内親王・厚子内親王・貴子内親王通学につき、諸費御補助の思召しをもって、天皇・皇后より金一封を賜う。○省中日誌、恩賜録、贈賜録、官報

八月

一日 金曜日 午後、御文庫に皇太后御参殿につき、天皇と共に御対面になる。皇太后より、近く東北地方巡幸へ天皇御出発につき御機嫌伺いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内

舎人日誌、幸啓録、貞明皇后実録正本、官報

夕刻、御文庫に沼津より交代帰京の侍従戸田康英参殿につき、天皇と共に拝謁をお受けになり、皇太子の様子をお聞きになる。続いて那須より交代帰京の内親王傳育掛牧滋の拝謁をお受けになり、和子内親王・厚子内親王・貴子内親王の様子をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌

二日 土曜日 午前、内廷庁舎において、アルフォンス・ドーデ著『アルザスの一少年の物語』の輪読会に臨まれる。○女官長日記、女官日誌

三日 日曜日 午前九時二十分御出門、天皇と共に後楽園球場に行啓され、第十八回都市対抗野球大会毎日新聞開会式に臨まれる。ついで第一試合の大日本土木岐阜対豊岡物産埼玉戦を試合終了まで御観戦にな

る。十一時三十七分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、幸啓録、官報、毎日新聞、都市対抗野球大会四十年史

五日 火曜日 午前、東北地方巡幸へ御出発の天皇を見送られる。午後、内廷庁舎において侍従次長鈴木一の拝謁をお受けになり、沼津滞在中の皇太子・正仁親王の動静をお聞きになる。○女官日誌

六日 水曜日 午前十一時三十分御出門、大宮御所に行啓される。皇太后と御対面になり、翌々八日より那須行啓につき御挨拶の後、御昼餐を共にされる。午後四時五十八分還啓される。○女官長日記、女

官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、官報

昭和二十二年八月

七日 木曜日 午後、御文庫に盛厚王妃成子内親王参殿につき、御対面になる。成子内親王より、翌日より那須行啓につき御機嫌伺い、及び信彦王の病氣お尋ねに対するお礼の言上をお受けになる。○

女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

八日 金曜日 那須御用邸に行啓される。午前八時二十五分御出門、原宿駅を御発、黒磯駅御着、午後零時二十五分御用邸に御到着になり、和子内親王・厚子内親王・貴子内親王のお出迎えをお受けになる。御昼餐後、参邸の李垠より御機嫌伺いをお受けになる。夕刻、三内親王参邸につき、御夕餐を御会食になる。那須御滞在中、御用邸又は三内親王の御仮寓所鹿島別邸旧鹿島正次郎邸等において共にお過ごしになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、幸啓録、那須行幸啓録、官報

九日 土曜日 午前、和子内親王・厚子内親王・貴子内親王の御仮寓所鹿島別邸にお出ましになり、和子内親王・厚子内親王手製の御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、幸啓録、那須行幸啓録

十二日 火曜日 午前、参邸の李方子・李玖より御機嫌伺いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、幸啓録、那須行幸啓録、栃木県庁所蔵資料

十三日 水曜日 この日、那須ゴルフ場において和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と御昼餐を御会食の後、お揃いにて李垠別邸にお立ち寄りになる。李垠・李方子・李玖の案内にて邸内を御覧になった後、御用邸に戻られる。○女官長日記、女官日誌、幸啓録、那須行幸啓録、栃木県庁所蔵資料

十五日 金曜日 午後、御用邸正門外において那須郡鍋掛村青年団員に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、幸啓録、那須行幸啓録

朝融王妃故知子女王五十日祭につき、勅使・皇后宮使として侍従久松定孝を権舎並びに墓所に差し遣

わされ、玉串をお供えになる。また、天皇・皇后より靈前に生花・野菜を、墓所に榊をお供えになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、皇親録、重要雜録、贈賜録

十六日 土曜日 故博恭王一周年祭につき、勅使・皇后宮使として侍従村井長正を権舎並びに墓所に差し遣わされ、玉串をお供えになる。また、天皇・皇后より権舎に生花及び野菜を、墓所に榊をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、皇親録、典式録、贈賜録

十八日 月曜日 去る十二日元李王職次官兒島高信死去につき、この日天皇・皇后・皇太后より祭料を賜う。兒島は昭和十五年に李王職次官に任じられ、同二十年には李王職長官事務取扱を仰せ付けられる。同二十一年一月の同職官制廃止後は宮内省御用掛を務める。○恩賜録、貞明皇后実録正本

十九日 火曜日 午後、東北巡幸より還幸の天皇をお出迎えのため、皇太后御使として皇太后宮大夫坊城俊良参邸につき、拝謁をお受けになる。その後、還幸の天皇と共に皇太后御使を案内されて御用邸内を巡られる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人供奉日誌、那須御用邸管理事務所日誌、幸啓録、那須行幸啓録、栃木県庁所蔵資料、坊城俊良日記

二十日 水曜日 正午頃、李垠・李方子・李玖参邸につき、天皇と共に拝謁をお受けになり、御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、那須御用邸管理事務所日誌、栃木県庁所蔵資料

夕刻、天皇と共に嚶鳴亭にお出ましになり、植物をお調べになる。以後、御用邸御滞在中は天皇に從われて植物御調査等にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、那須行幸啓録

二十一日 木曜日 午前、天皇と共に御用邸を御出門、鹿島別邸を御訪問になる。同邸において和子内親王・厚子内親王・貴子内親王手製の料理にて御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、

昭和二十二年八月

内舎人供奉日誌、那須御用邸管理事務所日誌、幸啓録、那須行幸啓録、栃木県庁所蔵資料

二十二日 金曜日 夕刻、沼津より皇太子・正仁親王が、鹿島別邸より和子内親王・厚子内親王・貴子内親王がそれぞれ参邸につき、天皇と共に御対面になり、御夕餐を御会食になる。皇太子・正仁親王は三十一日まで附属邸に滞在する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人供奉日誌、那須御用邸管理事務所日誌、幸啓録、那須行幸啓録、栃木県庁所蔵資料

従来思召しにより東京慈恵会医院及び東京都養育院に各々年二回にわたり御補助金として下賜のところ、前者は無料診察等を廃止して有料診療を開始のため、後者は私立から都立となつて院の経営を全部東京都が担うため、いずれも賜金を停止する。○例規録

二十四日 日曜日 午前、参議院議長松平恒雄参邸につき、拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、幸啓録、那須行幸啓録

二十七日 水曜日 午前、和子内親王・厚子内親王参邸につき、天皇と共に御対面になり、この日より翌々二十九日まで軽井沢ヴァイニング別邸へお成りにつき暇乞いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、那須行幸啓録、栃木県庁所蔵資料

二十九日 金曜日 午後一時四十五分、天皇及び皇太子・正仁親王・貴子内親王と共に御出門、広谷地放牧場を経て栃木県水産指導所に行啓される。御到着後、養魚池においてカワマス・ニジマスなどの釣りをされる。それより事務所において水産指導所に関する資料を御覧になつた後、四時四十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、那須御用邸管理事務所日誌、幸啓録、那須行幸啓録、栃木県庁所蔵資料

エリザベス・グレイ・ヴァイニングを御晩餐に招かれ、天皇及び皇太子・正仁親王・貴子内親王、並びに軽井沢より帰還の和子内親王・厚子内親王と御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、那須御用邸管理事務所日誌、那須行幸啓録、皇太子の窓

三十日 土曜日 午前、天皇及び参邸の皇太子・正仁親王・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王、並びにエリザベス・グレイ・ヴァイニングと御一緒に嚶鳴亭にお出ましになり、御昼餐を御会食になる。終わって御散策になり、附属邸において皇太子・正仁親王・ヴァイニングとお別れになり、御帰邸になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、那須御用邸管理事務所日誌、幸啓録、那須行幸啓録、栃木県庁所蔵資料、皇太子の窓

三十一日 日曜日 午前、この日軽井沢へ帰還のエリザベス・グレイ・ヴァイニング参邸につき、天皇と共に暇乞いの挨拶をお受けになる。ついで天皇と共にヴァイニングを伴われて展望台にお出ましになり、四方の景色をお見せになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、那須行幸啓録、皇太子の窓

皇太子・正仁親王参邸につき、天皇と共に御対面になる。皇太子よりこの日帰京の暇乞いを、正仁親王よりこの日沼津へお成りの暇乞いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人供奉日誌、那須御用邸管理事務所日誌、幸啓録、那須行幸啓録、栃木県庁所蔵資料

## 九月

二日 火曜日 午後五時十五分御出門、天皇と共に鹿島別邸を訪問され、和子内親王・厚子内親王・貴子内親王手製の御夕餐を御会食になる。九時十分御帰邸になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人

昭和二十二年九月

供奉日誌、那須御用邸管理事務所日誌、幸啓録、那須行幸啓録、栃木県庁所蔵資料、入江相政日記

三日 水曜日 午前、天皇及び参邸の和子内親王と共に謁見所において、全国種鶏協会常務理事松本徹より日本の養鶏事業についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸

啓録、那須行幸啓録

船舶運営会所属船賀茂丸以下七隻の戦時事故による死者四百四十四名に対し、天皇・皇后より運輸大臣を通じて御救恤金を賜う。また戦時中の空襲による死者非防空従事者一万四千五百七十五名に対し、天皇・

皇后より内務大臣を通じて御救恤金を賜う。○恩賜録、賜与録

四日 木曜日 この日より六日まで天皇の栃木県下巡幸に当たり、初日は宇都宮付近のみの御視察であり、御泊所も那須御用邸であるため、新例を開き、皇后も御同列にて行啓されることとなる。午前八時、天皇と共に那須御用邸を御出門、黒磯駅より御乗車、宇都宮駅にて御降車、株式会社日本製鋼所宇都宮製作所に行啓され、ミシンの製造過程を御視察になる。次に宇都宮農林専門学校を訪問され、各種研究状況を御覧になる。ついで栃木県庁において市民等の奉迎をお受けになり、市街の戦災復興状況を御展望、県下の物産を御覧になる。御昼餐後、宇都宮市生徒児童奉迎場栃木師範学校男子部校庭にて奉迎をお受けになり、宇都宮母子寮を御慰問になる。ついで隣接の宝木寮に向かわれる。その途次、母子寮と宝木寮との間に設けられた国本村村民奉迎場において村民等に御会釈を賜う。宝木寮御着後、その中の松寮にお入りになり、天皇は主に西側の各室を、皇后は主に東側の各室を訪ねられ、戦災者・海外引揚者に種々御慰問のお言葉を賜う。続いて国立栃木病院戸祭分室、城山村大谷石材採掘場を順次御

訪問になる。さらに鹿沼町民奉迎場鹿沼町立北小学校校庭にお立ち寄りの後、帝国織維株式会社鹿沼工場を御視察に

なる。終わって鹿沼駅より御乗車になり、黒磯駅にて御降車、午後五時五十九分、天皇と共に那須御用邸に還御される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人供奉日誌、省中日誌、那須御用邸管理事務所日誌、幸啓録、那須行幸啓録、官報、栃木県庁所蔵資料、入江相政日記、栃木県御巡幸誌、巡幸余芳

五日 金曜日 午前、和子内親王・厚子内親王・貴子内親王参殿につき、御対面になり、この日帰京につき暇乞いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、那須行幸啓録

八日 月曜日 天皇と共に那須・塩谷両郡下に行啓のため、午前八時三十分那須御用邸を御出門になる。まず那須郡西那須野町の農林省畜産試験場那須支場を御視察になる。次に塩谷郡塩原町の財団法人失明者保護協会塩原光明寮元塩原御用邸を慰問される。御昼餐後、同寮運動場において塩原町民の奉迎をお

受けになる。それより那須郡民奉迎場狩野村立三島小学校に立ち寄られ、続いて那須村の財団法人慈生会那須農場を御視察になる。那須村民奉迎場那須村立高久小学校、大日向帰農組合付近において順次奉迎をお受けになり、海

道上採草地において選抜優良産馬を御覧になった後、午後四時五十五分、天皇と共に那須御用邸に還御される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、省中日誌、那須御用邸管理事務所日誌、幸啓録、

那須行幸啓録、栃木県庁所蔵資料、那須村役場所蔵資料、入江相政日記、栃木県御巡幸誌、巡幸余芳

十日 水曜日 午前八時四分、天皇と共に那須御用邸を御出門、午後零時五分宮城に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、省中日誌、那須御用邸管理事務所日誌、那須行幸啓

録、官報

昭和二十二年九月

十二日 金曜日 天皇及び正仁親王・和子内親王と共に花蔭亭にお出ましになり、今般一時帰国のエリザベス・グレイ・ヴァイニングと御昼餐を共にされる。なお同人は、来る十月十五日に皇太子家庭教師としての契約期間が満了するに当たり、この日、十月十六日から一年間期間を更新する契約書を宮内府長官松平慶民と取り交わす。これにより、同人は引き続き皇后及び皇太子にそれぞれ一週二回英語を教授し、また皇太子及び他の皇子の教育を助長するため、学習院において一週十時間を超えない教授を行うこととなる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、ヴァイニング関係資料、皇太子の窓

十五日 月曜日 午後、御文庫において、去る九日に誕生日を迎えた雍仁親王妃勢津子と御対面になり、鮮鯛代料下賜についてのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、贈賜録  
十六日 火曜日 午後、内廷庁舎に設置された皇室会議の皇族議員・予備議員互選投票所において、御投票になる。開票の結果、皇族議員として宣仁親王・雍仁親王妃勢津子が、予備議員として崇仁親王・宣仁親王妃喜久子がそれぞれ選出される。その後、天皇と共に皇族懇話会に臨御され、雍仁親王妃始め十九方と御談話になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、秩父宮事務日誌、皇室会議皇族議員互選録、官報、高松宮日記、入江相政日記、朝日新聞

崇仁親王妃百合子内着帯につき、天皇・皇后より崇仁親王・同妃に万那料を賜う。○女官長日記、女官日誌、贈賜録

二十日 土曜日 今般台風カスリーン台風による関東地方の水害罹災者を診療するため、この日、天皇・皇后の思召しにより、宮内府に恩賜救護診療班三箇班が編成され、埼玉県方面及び東京都向島方面に派遣

される。この恩賜救護診療は三十日まで行われる。○省中日誌、恩賜録、朝日新聞

二十五日 木曜日 午前、内廷庁舎において、天皇の東京都下水害地御視察に同行する崇仁親王と御対面になる。その後、天皇及び親王の御出発をお見送りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

日誌

二十八日 日曜日 午前九時四十五分御出門、東京女子高等師範学校において開催中の第二回関東女子総合バレーボール選手権大会に行啓される。先着の和子内親王・厚子内親王・貴子内親王のお出迎えをお受けになり、便殿に入られる。大会名誉会長福田英助東京新聞社社長、東部排球協会会長佐々木道雄東京帝國

大学、東京女子高等師範学校校長藤本万治の拝謁をお受けになる。それより三内親王と御一緒に校庭の御覽所にお出ましになり、佐々木会長の説明にて競技を御覧になる。十一時四十六分還啓される。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、官報

正午過ぎ、天皇及び皇太子・正仁親王・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と共に花蔭亭にお出ましになり、学習院講師レジナルド・ホレイス・ブライスを御引見の後、御昼餐を共にされる。○女官長

日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮職事務日誌、典式録

二十九日 月曜日 午後、正仁親王・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と共に講堂にお出ましになり、楽部洋楽部主催の演奏会に臨まれる。五十分にわたり四曲をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

この日、戦争中の空襲による死亡者に対し、天皇・皇后より内務大臣を通じて御救恤金を賜う。○恩賜録

昭和二十二年十月

三十日 火曜日 午前、御文庫に宣仁親王・同妃喜久子参殿につき、天皇と共に御対面になる。親王より今般天皇の御名代として栃木・群馬・茨城各県下の水害地を視察したことについての復命、並びに近日九州へ出発の挨拶をお受けになる。ついで御一緒に御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、重要雑録

和子内親王の誕生日につき、午後、天皇及び同内親王と共に表拝謁の間において、宮内府長官始め総代、及び女官長始め女官、元側近奉仕者より拝賀をお受けになる。夜、御文庫において、天皇及び正仁親王・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王とお祝御膳を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌

元枢密院議長清水澄去る二十五日死去<sup>自決</sup>につき、天皇・皇后・皇太后より祭糒料及び生花を賜う。○恩賜録、贈賜録、貞明皇后実録正本

## 十月

一日 水曜日 午前、内廷庁舎において、法学博士穂積重遠より「民法改正の要点（一）」と題する進講をお聴きになる。八日に第二回の進講を、十五日に第三回の進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積重遠東宮奉仕日録、穂積家文書

午後零時四十五分御出門、天皇と共に日比谷公会堂に行啓され、恩賜財団同胞援護会ほか四団体主催の全国社会事業大会に御臨席になる。社会事業功労者に対する表彰状授与等を御覧になった後、一時二十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、幸啓録、官報

三日 金曜日 午前九時三十七分御出門、天皇と共に日本民芸館に行啓され、陶器、染織、雑貨、大津絵等を御覧になる。終わって、玄関脇において米国アリゾナ州のフェニックス市美術研究所所長ブレイク等に御会釈を賜う。午後零時十三分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人

日誌、省中日誌、幸啓録、官報

今般台風に伴う豪雨により甚大な被害を受けた東京都・埼玉県・群馬県・栃木県・茨城県・宮城県・岩手県に対し、天皇・皇后より厚生大臣を通じて御救恤金を賜う。○恩賜録

四日 土曜日 大東亜戦争中空襲その他敵の襲撃により死亡した国民に対しては、昭和十七年以来天皇・皇后より御救恤金を下賜のところ、既に終戦後相当の時日経過につき、この日をもって一応打ち切りとされる。○例規録、贈賜録

五日 日曜日 夜、御文庫においてラジオ放送を通じて、去る一日全国社会事業大会における天皇のお言葉の録音をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌

朝融王妃故知子女王百日祭につき、勅使・皇后宮使として侍従永積寅彦を権舎並びに墓所に差し遣わされ、玉串をお供えになる。天皇・皇后より霊前に生花・野菜を、墓所に榊をお供えになる。なお、別に皇后より権舎に菓子料をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、省中日誌、皇親録、贈

賜録、典式録

六日 月曜日 午前、御文庫に皇太后御参殿につき、天皇と共に御対面になり、御昼餐を御会食になる。その後、正仁親王・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王参殿につき、お揃いにて御対面になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、贈賜録、貞明皇后実録正本、官報

先般岩手・宮城両県の水害地視察へ御差遣の崇仁親王を御慰労のため、御文庫に親王及び同妃百合子を招待され、天皇と共に御夕食を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌  
この日、内廷庁舎の「皇族休所」を「一の間」に、「第一休所」を「二の間」に、「旧枢密院会議室」を「三の間」にそれぞれ改称する。○例規録

七日 火曜日 午前、長野・新潟・山梨三県下巡幸へ御出発の天皇を御文庫においてお見送りになる。その後、故邦彦王妃侘子参殿につき、御対面になり、病氣全快のお礼言上をお受けになる。ついで御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

八日 水曜日 午前、御進講室において今般水害により罹災の元侍医松永琢磨よりお仕向けに対するお礼言上をお受けになる。午後、御文庫において水害地へ賜うお手許の布地をお探しになる。○女官長日記、女官日誌、贈賜録

九日 木曜日 午前十時、正仁親王を同伴されて御出門、大宮御所にお立ち寄りになり、皇太后御同乗の上、東宮御仮寓所に行啓される。皇太子と御対面になり、御昼餐を御会食になる。午後、皇太子の案内にて芋掘りを御覧になり、付近の栗林において栗拾いをされる。茶菓を共に召された後、東宮御仮寓所を御出発、大宮御所にて皇太后とお別れになり、午後五時二分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、官報、徳積重遠東宮奉仕日録

十日 金曜日 午前十一時御出門、大宮御所に行啓され、皇太后と御昼餐を御会食になる。午後四時五十六分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、幸啓録、官報

十一日 土曜日 昭和十九年六月十四日東シナ海方面において大阪商船株式会社所有船台南丸の戦時

事故により死者百五十四名発生につき、この日天皇・皇后より運輸大臣を通じて御救恤金を賜う。○

恩賜録

十二日 日曜日 午前八時四十五分御出門、学習院初等科運動会に行啓され、正仁親王を始め生徒による各種競技を御覧になる。皇太子・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王も陪覧する。十一時二十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、官報、学習院百年史

十四日 火曜日 午前十時十五分御出門、日本赤十字社に行啓される。便殿において総裁宣仁親王と御対面になり、社長島津忠承以下の拝謁をお受けになる。それより同社名誉総裁として親授式に臨まれ、社業功労者・篤志者の総代矢後松誉ほか五名に対し、有功章又は特別社員章及び各章記を御親授になる。ついで第五十五回通常総会につき、次の令旨を賜う。

震災をうけたわが国に、昨年には南海震災があり、この度はまた、関東と東北とに水害が起つたことは、まことに傷ましい極みでありまして、数百万の罹災者のうえを思いますと、お気の毒に堪えません。

このような、災害に備えるために、ちかく災害救助法が実施されましてわが日本赤十字社もいままで行っていた医療救護のほかに、各種の救護団体の連絡や調整をおこない、その中心になつて活動するという、重大な責任を負うことになりました。

従つてこの度全国各地につくられる赤十字奉仕団も、国民みんながこれに参加して、災害のときは勿論平時に於ても真に人々の力となり助けとなるようなはたらきをするものになつてほしいと思ひます。

昭和二十二年十月

そして、みんなが赤十字精神をもつことによつて、終戦後のすきんだ社会が浄化され、わが日本が平和で文化の香り高い国となり、世界の人びとの幸福をも増すようになることを、望んでやみません。

ついで総裁より奉答をお受けになる。その後、便殿隣室において連合国最高司令部公衆衛生福祉局長クロフォード・F・サムスほか四十五名の謁見を二回に分けてお受けになり、御握手を賜う。日本赤十字社御車寄において記念撮影の後、十一時三十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、官報、事業年報（日本赤十字社）

**十五日** 水曜日 午後、正仁親王・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と共に御文庫において、長野・新潟・山梨三県下巡幸より還幸の天皇をお出迎えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌  
**十八日** 土曜日 去る十四日、雍仁親王・宣仁親王・崇仁親王の三直宮家を除く、十一宮家五十一方の皇籍離脱が宮内府より告示される。この日午後一時、天皇と共に表拝謁の間において、今般皇籍を離脱の元皇族のうち三十三方の参内朝見の儀に臨まれる。まず天皇が東伏見周子より謝恩の辞をお受けになり、勅語を賜う。ついで皇后が同人より謝恩の辞をお受けになり、次のお言葉を賜う。

今後とも御幸福をお祈り致します

以上の所作を伏見<sup>朝子、博明、光子、章子</sup>、賀陽<sup>恒憲、敏子、邦寿、治、憲、章憲、文憲、宗憲</sup>、久邇<sup>朝融、倪子、邦昭、朝子、通子、英子、静子</sup>、梨本<sup>守正、伊都子</sup>、朝香<sup>朝彦</sup>、東久邇<sup>聡子、盛厚、成、俊彦</sup>、北白川<sup>房子、祥子、道久、肇子</sup>、竹田<sup>恒徳、直子</sup>、閑院<sup>春仁</sup>の各旧宮家<sup>代表一人</sup>毎に繰り返される。終わって一旦入御の後、天皇と共に三の間に出御され、御着席になる。御饌を元皇族一同に供され、天皇に続き御盃を執られ、御一献後、一同に御盃を賜う。ついで一同が御盃を執り、起立して一献する。その後、御箸を立てら

れ、一同がこれに倣う。終わって入御される。なお、参内朝見の儀に不参の元皇族に対し、天皇・皇后より御盃と御饌を賜う。また皇籍離脱の各旧宮家に対し、天皇・皇后・皇太后より美術工芸品の御物並びに鮮鯛代料を、元王公族にも御物を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、儀式録、重要雜録、典式録、東伏見宮外十宮家皇籍離脱の件、名譽総裁御就任等關係、官報

今般皇籍を離脱の元皇族等と御晚餐を御会食のため、午後五時三十分御出門、天皇と共に赤坂離宮に行啓される。御着後、天皇及び御先着の皇太后と共に花鳥の間に出御される。御晚餐には雍仁親王・

同妃勢津子、宣仁親王、崇仁親王・同妃百合子が臨席し、元皇族二十一方東伏見周子、伏見朝子、同博明、賀陽恒憲・同敏子、同邦寿、同治憲、久邇倪子、同朝

融、同朝子、同静子、梨本守正・同伊都子、朝香鳩彦、東久邇盛厚・同成子、北白川房子、同祥子、竹田恒徳、閑院春仁・同直子が皇族の資格にて、また元王公族四方李垠・同方子、桃山度一・同佳子が出席

する。御食後、旭の間において茶菓を共にされる。その際、吹上御苑においてお手ずから切り取りのコスモスの花束を皇太后を始め各方に御贈進になる。八時十二分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍

従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、幸啓録、宣召録、貞明皇后実録正本、官報

十九日 日曜日 午前、天皇と共に旧主馬寮馬場にお出ましになり、国際乗馬倶楽部の第一回馬術大会に臨まれる。琴平競技を始め六種目を御覧になった後、御文庫に還御される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二十一日 火曜日 午後、天皇と共に表拝謁の間において、故ジョージ・アチソン元対日理事会議長夫人を御引

見になる。二十三日、宮内府御用掛高木多都雄をアチソン夫人邸に差し遣わされ、吹上御苑のコスモスを賜う。二十六日にも高木御用掛をアチソン夫人邸に差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、

昭和二十二年十月

侍従職日誌、内舎人日誌

二十二日 水曜日 午前、表拝謁の間において、新任の警視総監齋藤昇及び前任の警視総監門叶宗雄の拝謁をお受けになる。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、恩賜録、官報

法学博士穂積重遠<sup>東宮大夫</sup>より、「ヴァイニング夫人の日本少年観」と題する進講をお聴きになる。二十九

日、第二回の進講が行われ、主としてヴァイニングによる皇太子の人物評についてお聴きになる。○

女官長日誌、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、穂積重遠東宮奉仕日録、穂積家文書

二十三日 木曜日 午前、北陸三県巡幸に御出発の天皇を御文庫においてお見送りになる。○女官長日

記、女官日誌

二十四日 金曜日 午前、内廷庁舎において、東京大学教授板沢武雄より現代歴史観に関する進講を

お聴きになる。○女官長日誌、女官日誌、侍従職日誌

二十六日 日曜日 午前十時五十分御出門、大宮御所に行啓される。皇太后と御昼餐を御会食の後、御一緒に赤坂離宮に出御され、今般皇籍離脱の元皇族、及び元王公族をお招きになり、皇太后と共にお茶の会を催される。会には皇太子・正仁親王・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王・崇仁親王・同妃百合子・甯子内親王が臨席、元皇族・元王公族四十二方が出席する。舞踏室において洋茶菓をお召し上がりになり、彩鸞の間において手品を御覧になる。ついで庭にお出ましになり、記念撮影に臨まれる。それより一同と共に皇太后御主催のくじの魚釣りに興じられ、引換所において賞品をお受け取りになる。また、芝生のお席において、模擬店より供された汁粉・お茶をお召し上がりになる。その後、皇后よりくじの品に椎茸一包を添えられ、退出の一同に下賜される。不参の元皇族にも賜物が

ある。終わって、東御座所において、皇太后及び皇太子・正仁親王・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と御夕餐を御会食になる。御食後、皇太子・正仁親王・三内親王による謡曲「紅葉狩」「鶴亀」が披露される。午後八時二十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、重要雑録、

東伏見宮外十宮家皇籍離脱の件、官報、梨本伊都子日記、穂積重遠東宮奉仕日録、坊城俊良日記

二十七日 月曜日 午前、花蔭亭通用門にお出ましになり、東京都・鹿児島県の新嘗祭献穀者の拝謁をお受けになる。午後、栃木県の献穀者の拝謁をお受けになる。この年より行事等の差し支えがない限り、皇后お一方又は天皇と共に新嘗祭献穀者の拝謁をお受けになり、昭和五十五年十月二十五日まで続けられる。○女官長日記、女官日誌

和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と共に講堂にお出ましになり、楽部演奏会に臨まれる。ロッシーニ作曲「アルジェのイタリア人」等をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二十八日 火曜日 午前、花蔭亭にお出ましになり、参亭の久邇倪子・同朝子と御対面になる。朝子より翌日島津斉視と結婚につき暇乞いをお受けになり、御昼餐を御会食になる。なお結婚に際し、天皇・皇后より朝子の父久邇朝融に対し、白羽二重・清酒・鮮鯛代料を下賜される。また、皇后より朝子に金員及びお祝いの品を賜う。○女官長日記、女官日誌、贈賜録

午後三時五分、和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と共に御出門、日比谷公会堂における毎日新聞社主催の第十六回音楽コンクール本選会に行啓される。毎日新聞社総務森正蔵の案内にて階上正面の御席に着かれ、審査員萩原英一の説明にて五人のピアノ演奏をお聴きになる。五時三分還啓される。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、官報

十一月

一日 土曜日 午後二時五十五分御出門、原宿駅構内において開催の厚生省主催公衆衛生列車展覧会に行啓される。先着の日本赤十字社総裁宣仁親王、結核予防会総裁雍仁親王妃勢津子と御対面になり、厚生省公衆衛生保健局長三木行治、連合国最高司令部公衆衛生福祉局長クロフォード・F・サムス大佐ほか三名の拝謁をお受けになる。ついで列車内の公衆衛生に関する陳列品等を御巡覧になる。三時五十五分還啓される。その後、参殿の雍仁親王妃と御対面になり、この日の行啓につきお礼の言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、官報

二日 日曜日 夜、皇太子・正仁親王と共に御文庫において、北陸三県巡幸より還幸の天皇をお出迎えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌

三日 月曜日 明治節につき、午前、天皇と共に表拝謁の間において、皇族及び元皇族・元王公族より祝詞言上をお受けになる。引き続き、宮内府長官始め部局長及び側近奉仕者等より拝賀を、さらに皇太后宮大夫ほか元側近奉仕者等より拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、坊城俊良日記

午後一時二十分御出門、学習院女子部運動会に行啓され、和子内親王・厚子内親王・貴子内親王を始め学生の競技数番を御覧になる。三時二十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、官報

五日 水曜日 午前、内廷庁舎において、法学博士穂積重遠より「児童福祉法」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、穂積重遠東宮奉仕日録、穂積家文書

七日 金曜日 去る一日に誕生した竹田恒徳第三男子は、七夜に当たるこの日、恒和つよかずと命名される。よって天皇・皇后より恒徳に鮮鯛代料・白羽二重を賜う。○贈賜録

八日 土曜日 午後、内廷庁舎において、侍従次長鈴木一より、日本赤十字社のバザーへ下賜の品をお下げ渡しになる。○女官長日記、女官日誌

九日 日曜日 午前、花蔭亭にお出ましになり、参亭の島津斉視・同夫人朝子より先般結婚式終了につきお礼の言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

十日 月曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、今般来日の世界基督教女子青年会世界Y W C A会長リラ・レイド・バーンズほか同会各国代表及び幹事十二名を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、謁見録、典式録

御文庫に皇太后御参殿につき、天皇と共に御対面になり、ついで御昼餐を御会食になる。午後、御一緒に吹上御苑を御散策になり、再び御文庫に戻られ、参殿の正仁親王・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王を交えて、北陸三県巡幸に関するニュース映画を御一緒に御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、貞明皇后実録正本、官報

十一日 火曜日 今般関東・東北地方の水害に際し、この日義捐品六十八点を日本赤十字社に賜う。

○女官長日記、女官日誌、事業年報（日本赤十字社）

十二日 水曜日 午前、内廷庁舎において、法学博士穂積重遠より「満洲開拓団引揚実話」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積重遠東宮奉仕日録、穂積家文書

十四日 金曜日 午後、御文庫に雍仁親王妃勢津子参殿につき、天皇と共に御対面になり、天皇より

昭和二十二年十一月

殿邸資金補助金を賜う

翌十五日、高松宮・三笠宮にそれぞれ殿邸資金補助金を賜う。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、秩父宮事務日誌、皇

親録

十五日 土曜日 午後、皇太后御参内につき、天皇と共に御進講室において御対面になる。ついでお揃いにて二の間・三の間において、第一回菊栄親睦会大会に御臨席になる。宣仁親王、崇仁親王・同妃百合子並びに東伏見周子、伏見朝子、賀陽恒憲・同夫人敏子、久邇朝融、梨本守正・同夫人伊都子、東久邇聡子・東久邇盛厚・同夫人成子、北白川房子・同祥子、竹田恒徳、閑院春仁・同夫人直子、李垠・同夫人方子、桃山虔一、以上二十一方と御対面になる。ついで持ち寄りの茶菓を御一緒に召され、余興として下位春吉の漫談「天国と地獄」をお聴きになる。終わって御進講室に入御され、天皇・皇太后と御歓談になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、菊栄親睦会録、典式録、貞明皇后実録正本

去る十二日正二位山本達雄<sup>元内務大臣</sup>死去につき、この日天皇・皇后・皇太后の御使として侍従入江相政を

その邸に差し遣わされ、天皇・皇后・皇太后より神饌及び榊を賜う。翌日の葬儀には天皇・皇后・皇

太后の御使として侍従山田康彦を葬斎場<sup>山本邸</sup>に差し遣わされ、玉串をお供えになる。○侍従日誌、省中日誌、

恩賜録、貞明皇后実録正本

十六日 日曜日 今般大手門内の旧主馬寮馬場に新設のパレステニスクラブのコート開きに当たり、第一回全国朝日招待庭球大会開催につき、午後、天皇及び皇太子・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と共に御出ましになる。男子シングルス決勝・女子ダブルスエキシビジョン・男子ダブルス決勝

の各試合を御覧になる。閉会式後、還御される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

十七日 月曜日 東京都美術館において開催の文部省主催第三回日本美術展覧会、国立博物館において開催の同館主催西洋美術名作展覧会を御覧になるため、午前八時四十五分天皇と共に御出門になる。

最初に東京都美術館に御着、日本画、工芸、彫刻、西洋画を御巡覧になる。終わって国立博物館に向かわれ、表慶館において絵画、彫刻等を御覧になる。午後零時三十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、幸啓録、官報

和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と共に講堂において、折柄参内の久邇朝融・同邦昭と御対面になる。ついで楽部職員によるウェーバー作曲「魔弾の射手」序曲、サン・サーンス作曲「アルジェリア組曲」、ビゼー作曲「カルメン組曲」等の演奏をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

十八日 火曜日 午後、御文庫に宣仁親王妃喜久子参殿につき、御対面になり、病気全快につきお礼の挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

十九日 水曜日 午前、御進講室において、法学博士穂積重遠より「仮名手本忠臣蔵」についての進講をお聴きになる。二十六日に第二回の進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積重遠

東宮奉仕日録、穂積家文書

二十日 木曜日 午後一時三十五分天皇と共に御出門、品川区上大崎長者丸の三笠宮邸に行啓される。御着後、崇仁親王・同妃百合子・甯子内親王のお出迎えをお受けになり、階上書齋の隣室において御歓談になる。それより各室の案内をお受けになった後、階下食堂において茶菓を召される。ついで甯

昭和二十二年十一月

子内親王・寛仁親王の部屋において団欒の時を過ごされ、四時三十五分還啓される。この日の行幸啓に当たり、天皇・皇后より三笠宮に万那料及び果物・洋菓子等を賜う。なお、去る四月に三笠宮家が葉山より同所へ転居した際、天皇・皇后より三種交魚代料等を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、幸啓録、贈賜録、官報

全国の私設社会事業施設の資金造成のため、社会事業共同募金中央委員会において共同募金を実施につき、天皇・皇后・皇太后より御奨励金を賜う。○恩賜録、貞明皇后実録正本

新朔平門院仁孝天皇女御、皇太后御子 山陵百年式年祭の儀につき、天皇・皇后・皇太后より宮内府京都地方事務所長

飛鳥井雅信を後月輪陵に差し遣わされ、御代拝を仰せ付けられる。また、天皇・皇后より山陵に榊料を、泉涌寺靈明殿に色花料をお供えになる。○祭祀録、典式録、貞明皇后実録正本

二十七日 木曜日 午前、内廷庁舎において開催の輪読会に臨まれ、侍従次長鈴木一・侍従入江相政より歌舞伎についての説明を、ついで夏目漱石著『虞美人草』の輪読をお聴きになる。○女官長日記、女

官日誌

二十八日 金曜日 正仁親王の誕生日につき、午前、内廷庁舎において、元侍従小出英経より祝賀をお受けになる。天皇は去る二十六日より中  
国地方巡幸中につき御不在 午後、御文庫において、元侍従職女官伊地知ミキ・元内親王傳育掛

大迫セイの祝賀をお受けになる。その後、正仁親王と共に表拝謁の間において、宮内府の代表者、側近奉仕者、元側近奉仕者より相次いで拝賀をお受けになる。夕刻、御文庫において、正仁親王・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王とお祝御膳を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二十九日 土曜日 午前十一時十五分、御参内の皇太后と共に御出門、東京劇場に行啓される。御休

所において松竹株式会社社長大谷竹次郎の拝謁をお受けになった後、直ちに場内に出御される。その際、廊下において松竹顧問遠藤為春・松竹相談役向山庄太郎に御会釈を賜う。御着席の後、「仮名手本忠臣蔵」を五段目より御覧になる。中休みに御休所に入御され、皇太后と御会食になる。文部大臣森戸辰男の拝謁をお受けになった後、再び場内に出御され、七段目を御覧になる。再び御少憩の際、大谷社長と同道の俳優代表尾上菊五郎の拝謁をお受けになる。その後三たび出御され、九段目を御覧になる。五時五分、皇太后と共に還啓される。その後、御文庫において、皇太后及び正仁親王・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と御夕餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、幸啓録、官報、徳積重遠東宮奉仕日録、坊城俊良日記、入江相政日記

## 十二月

一日 月曜日 午後一時四十分御出門、赤坂離宮に行啓される。御先着の皇太后と御対面になり、映画「小島の春」を御一緒に御覧になる。終わって大宮御所に移られ、御夕餐を御会食になる。御食後、皇太后お手製の薄茶を召され、九時還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、幸啓録、官報、坊城俊良日記

二日 火曜日 午前九時三十五分御出門、学習院女子部に行啓される。便殿において院長安倍能成・女子部長三谷隆信、エリザベス・グレイ・ヴァイニング等の拝謁をお受けになる。その後、講堂における初等科学芸会に臨御され、貴子内親王の対話「山びこ」をお聴きになる。それより和子内親王を始め高等科二年生による理科の実験、厚子内親王の家政の授業を参観される。御昼餐後、図書閲覧室

の成績品、各教室の授業を御巡覧になる。ついで校庭にお出ましになり、野外運動を御覧になる。和子内親王・厚子内親王等によるバスケットボールを御覧後、便殿に入御される。午後二時三十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、幸啓録、官報、学習院百年史

三日 水曜日 午前、内廷庁舎において、法学博士穂積重遠より、「最近の東宮進講より」と題する進講をお聴きになる。正午、御文庫に参殿の北白川房子より天皇お留守中十一月二十六日より十二月十二日まで中国地方巡幸の御機嫌

伺いをお受けになり、御昼餐を御会食になる。夜、御文庫において時節柄電気の節約につき種々御研究になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積重遠東宮奉仕日録、穂積家文書

四日 木曜日 午前、御文庫に久邇侘子参殿につき、御対面になり、熱海別邸より帰京の挨拶と天皇お留守中の御機嫌伺いをお受けになり、御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

五日 金曜日 午後、御進講室において、夏目漱石著『虞美人草』の第二回輪読会に臨まれる。○女官長日記、女官日誌

六日 土曜日 御文庫において御昼餐の際、側近奉仕者より東久邇成子の誕生日の祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、贈賜録

夜、御風気につき、御仮床に就かれる。以後、十三日まで御静養になる。御体調の回復まで、定例進講はお取りやめになる。なお、東京大学教授板沢武雄は公職追放の対象者に指定されたため、同人の進講は終了となる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

十四日 日曜日 夜、天皇と共に御文庫において、社会事業共同募金の短編映画並びに引揚者援護学生同盟を主題にした映画「いつの日か花咲かん」を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

誌、内舎人日誌

十五日 月曜日 夕刻、賢所御神楽につき、女官雪井よし子に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、

女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、儀式録、祭祀録、典式録

十六日 火曜日 午後、御文庫に皇太子・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王参殿につき、天皇と共に御対面になり、英国王女エリザベス結婚当日の天然色映画を御一緒に御覧になる。三内親王退出後、皇太子と御夕餐を御会食になる。皇太子はこの日より十九日まで花蔭亭に宿泊する。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

十八日 木曜日 今般賜暇帰国より再来日のエリザベス・グレイ・ヴァイニングを召され、天皇と共に花蔭亭において御晚餐を催される。皇太子・正仁親王・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王が出席する。なお、天皇・皇后よりクリスマススの御贈進品として粉地茄子形香盒をヴァイニングに賜う。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、贈賜録

十九日 金曜日 午前、天皇と共に御文庫において、小金井の東宮御仮寓所へ帰還の皇太子より暇乞いをお受けになる。ついで葉山へ転地の正仁親王、和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と御対面になり、それぞれ暇乞いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

年末に際し、引揚者・戦災者並びに一般都民の病苦に悩む者を対象として、東京都下官公私の社会事業団体が協力して歳末無料診療を実施するため、特に思召しをもって金一封を東京都に賜う。○恩賜録  
二十二日 月曜日 東久邇文字初誕辰につき、天皇・皇后より東久邇稔彦・同夫人聡子に三種交魚代料を、東久邇盛厚・同夫人成子に五種交魚代料を、東久邇文字に鮮鯛代料及び御台人形代料を御贈進

昭和二十二年十二月

になる。○女官長日記、贈賜録

二十三日 火曜日 皇太子の誕生日につき、午前、天皇と共に内廷庁舎において、皇太子と御対面になる。ついで天皇及び皇太子と共に表拝謁の間において、崇仁親王・同妃百合子、並びに伏見朝子始め元皇族・元王族の拝賀を、続いて宮内府長官始め総代、女官長始め女官、元側近奉仕者の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮職事務日誌

クリスマスに当たり、天皇・皇后より連合国最高司令官ダグラス・マッカーサー及び同夫人に七宝焼花瓶春の花鳥紋様を、学習院講師レジナルド・ホレイス・ブライスに仙徳花瓶を贈られる。○贈賜録

二十四日 水曜日 菊栄親睦会会員二十四名をお召しになり、正午より天皇と共に午餐の御陪食を賜う。二の間において御会食後、三の間において団欒の時を過ごされる。なお、天皇・皇后より菊栄親睦会に同会の基金として金員を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、秩父宮事務日誌、

宣召録、贈賜録、典式録

日本赤十字社病院御補助のため、天皇・皇后より同社に金一封を賜う。また、皇后より同社中央病院救助入院患者治療費御補助として金一封を、さらに財団法人結核予防会の事業御奨励として金一封をそれぞれ賜う。なおこの月、向寒に際し、皇后より日本赤十字社病院救助収容患者、恩賜財団済生会病院救助収容患者、財団法人福田会救助収容患者に対し、お品代として金一封を賜う。○恩賜録、贈賜録、

事業年報（日本赤十字社）、日本赤十字社社史稿

二十六日 金曜日 午前、天皇と共に御文庫において、雍仁親王妃勢津子と御対面になり、歳末の祝詞言上をお受けになる。夕刻、天皇と共に御文庫において、この日誕生日を迎えた宣仁親王妃喜久子

と御対面になり、鮮鯛代料下賜についてのお礼言上、及び歳末の御機嫌伺いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、秩父宮事務日誌、贈賜録

二十七日 土曜日 午後、御進講室において、今般公職追放令により御用を免じられた東京大学教授板沢武雄をお召しになり、思召しをもって各種の品を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、贈賜録

講堂にお出ましになり、楽部の演奏による皇太子降誕奉祝歌を始め四曲をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二十八日 日曜日 歳末のため、午前、御文庫に皇太后御参殿につき、天皇と共に御対面になり、御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、貞明皇后実録正本、官報

二十九日 月曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、東伏見周子、久邇侁子・同朝融、梨本守正・同夫人伊都子、東久邇盛厚・同夫人成子、北白川祥子、竹田恒徳・同夫人光子、李垠・同夫人方子の元皇族・元王族総勢十四方より歳末の祝詞言上をお受けになる。また宮内府長官を始め総代、女官長・元宮内官総代<sup>元侍従次長</sup>稲田周一<sup>等より</sup>歳末の祝詞言上をお受けになる。終わって、北白川房子・東久邇聡

子参内につき、天皇と共に歳末の祝詞言上をお受けになる。その後、皇太子参内につき、天皇と共に御対面になり、歳末祝詞の言上をお受けになる。なお従来、歳末祝詞言上のため、有位有勲者・二級官待遇以上の官吏・有爵者優遇者など宮中席次を有する者が参内し、三級官同待遇は各庁に参賀する慣例のところ、日本国憲法の施行を機に皇族及び宮内官を除き、この年よりこれを廃止する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、儀式録、典式録、例規録

午前十一時、天皇及び皇太子と共に御出門、大宮御所に行啓され、皇太后と御対面になり、歳末の御

昭和二十二年十二月

祝詞を述べられる。ついでお揃いにて御昼餐を御会食になる。午後四時四十八分還啓される。○女官長

日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、幸啓録、典式録、貞明皇后実録正本、官報

三十日 火曜日 午前、御文庫に宣仁親王・崇仁親王妃百合子参殿につき、天皇と共に御対面になり、

歳末の挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

三十一日 水曜日 午前、御文庫に正仁親王・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王参殿につき、天皇と共に御対面になり、葉山より帰京の挨拶及び歳末の祝詞言上をお受けになる。それよりお一方にて皇太后御使の皇太后宮女官長清水谷英子より歳末の祝詞言上をお受けになる。これに対し、天皇・皇后の御使として宮内府御用掛東貞子を大宮御所に差し遣わされ、歳末の御挨拶をお申し入れになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

一月

一日 木曜日 天皇と共に新年拝賀に臨まれる。午前、表拝謁の間において天皇と共に、宣仁親王以下の皇族、元皇族・元王公族内儀抜いの者も含む、内閣総理大臣・最高裁判所長官・衆議院議長・参議院議長等の拝賀をお受けになる。ついで宮内府会議室において、宮内府二級官待遇以上の者等より拝賀をお受けになる。また、新年拝賀の前後、もしくは各拝賀の間に、宮内府長官始め侍従長その他、元側近奉仕者の拝賀をお受けになる。

御文庫において、天皇及び参殿の皇太子・正仁親王・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と御昼餐を御会食になる。以後、この年も皇太子始め皇族・御親族としばしば御対面・御会食になる。○女官長

日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

宮城において初めて一般の新年参賀が行われ、正午より午後四時まで正門内広場石橋と鉄橋の間の記帳所の参賀簿にて、宮城内に参入した参賀者の署名が受け付けられる。この際、皇太后への参賀も宮城において受け付けることとなる。なおこの年より、新年の一般参賀に併せて記帳をお受けになることが恒例となる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、儀式録、典式録、官報

二日 金曜日 昨日に引き続き、午前九時より午後四時まで宮城において一般の新年参賀が行われる。

参賀者が長蛇の列をなしたため、午後一時四十七分、天皇について内廷庁舎<sup>旧侍医寮</sup>屋上にお出ましになり、天皇とお揃いで参賀者にお応えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、儀式録、典式録、官報

三日 土曜日 午前、元始祭につき、女官伊達璋子に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、儀式録、恒例祭祀録、典式録

新年につき、天皇と共に表拝謁の間において、伏見博明始め未成年の元皇族・元王族の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

天皇と共に表拝謁の間において、元皇后宮女官等の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、典式録

午後、天皇と共に表拝謁の間において、この日誕生日を迎えた宣仁親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

天皇と共に表拝謁の間において、東伏見周子<sup>故依仁親王妃</sup>・久邇侬子<sup>御母</sup>・伏見朝子<sup>故博義王妃</sup>・北白川祥子<sup>故永久王妃</sup>より拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、典式録

表拝謁の間において、御学友一名の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

五日 月曜日 新年につき、午前、天皇と共に御文庫において、この日上京の雍仁親王妃勢津子と御対面になり、拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

六日 火曜日 新年につき、午後、天皇と共に御文庫において、北白川房子・東久邇聡子の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

七日 水曜日 午前、天皇と共に御文庫において、新年御挨拶のため参殿の皇太后と御対面になる。

御昼餐にお祝御膳を御会食になり、夕刻まで種々御歓談になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、典式録、貞明皇后実録正本

八日 木曜日 午後、御文庫において元内大臣牧野伸顕の拝謁をお受けになり、新年の挨拶をお受けになる。続いて元皇后宮女官津軽理喜子ほか一名の拝謁をお受けになる。以後、この年も随時、元奉仕者の拝謁等がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

九日 金曜日 新年の御挨拶のため、午前十一時十五分御出門になり、天皇と共に大宮御所に行啓される。皇太后と御対面の後、お祝御膳を御会食になる。午後三時四十四分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、幸啓録、典式録、貞明皇后実録正本、官報

十日 土曜日 御文庫において天皇と共に、侍従次長鈴木一及び侍従等をお召しになつての土曜恒例の御夕食御相伴に臨まれる。なお、これに先立ち鈴木侍従次長・侍医塚原伊勢松・侍従入江相政に対し、一昨年来の巡幸に関して、種々の労苦を満足に思われ、天皇の御沙汰によつて皇后よりお言葉を賜い、さらにそれぞれにお品を賜う。また後日、他の側近奉仕者にも賜品がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十一日 日曜日 午前、昨日千葉県の視察旅行より還啓の皇太子と、御文庫において天皇と共に御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、葉山行幸啓書類綴、朝日新聞

十二日 月曜日 午後、呉竹寮へお出ましになる。久邇<sup>御</sup>峴子・久邇朝融<sup>兄</sup>及び同子女の邦昭・通子・英子・朝建をお招きになり、正仁親王・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と共に御歓談になる。

昭和二十三年一月

○女官長日記、女官日誌

十三日 火曜日 午前、御進講室においてエリザベス・グレイ・ヴァイニング<sup>皇太子家  
庭教師</sup>より英語の進講をお受けになる。この年も主に火曜日と木曜日、しばしば同人より英語の進講をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

葉山御用邸に天皇と共に行啓のため、午前十時五十分御出門になり、午後零時五十四分御用邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、省中日誌、幸啓録、葉山行幸啓書類綴、典式録、官報

十四日 水曜日 崇仁親王妃百合子着帯につき、天皇・皇后より崇仁親王・同妃にそれぞれ三種交魚代料を賜う。○女官長日記、贈賜録

十五日 木曜日 午前、木戸ツル<sup>元内大臣木  
戸幸一夫人</sup>の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓書類綴

エリザベス・グレイ・ヴァイニングの拝謁をお受けになり、ついでヴァイニング及び宮内府御用掛高木多都雄に御昼餐の御陪食を賜う。御食後、ヴァイニングより英語の進講をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓書類綴

十六日 金曜日 午後、松浦治子<sup>東久邇成子の  
茶道の指導者</sup>参邸につき、拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、幸啓録、葉山行幸啓書類綴

十九日 月曜日 午前十時三十分葉山御用邸御出門、天皇と共に黒崎海岸にお出ましになり、天皇の

海洋生物御採集に御同行になる。午後には海藻を御採集になり、三時二十二分御用邸に還啓される。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓書類綴

二十日 火曜日 葉山御用邸より天皇と共に還啓のため、午後一時三十分御出門になり、三時十六分宮城に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、省中日誌、幸啓録、

葉山行幸啓書類綴、典式録、官報

二十三日 金曜日 午前、表拝謁の間において天皇と共に、財団法人慈生会理事長フランシス・ヨゼフ・フロジャック<sup>神</sup>を御引見になる。この度の御引見は、フロジャックが、ローマ法王庁等に日本カトリック教会の現状を報告するため、約四十年ぶりに帰国することによる。なお同人は、一昨年十二月十九日内廷庁舎において財団法人慈生会の事業概況について天皇・皇后に奏上し、昨年九月八日の慈生会那須農場行幸啓の折には、同所についての説明等を行った。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、謁見録、典式録

二十四日 土曜日 午後、表拝謁の間において天皇と共に、シンガポール駐在英国東南アジア特別弁務官マイルズ・ウェッダーバーン・ランブソン<sup>キラー</sup>及び同夫人を御引見になる。ランブソンは、天皇が皇太子時代の大正十年に御訪英になった際の接伴員につき、お茶を共にされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、謁見録

二十八日 水曜日 午前十時、天皇と共に三の間において、講書始の儀に臨まれる。国書は正四位勲三等安藤正次より「東京語の源流」、漢書は文部教官倉石武四郎より「朱子語類「為学之方」、洋書は文部事務官安倍能成より「西洋文化の特質」と題する進講をお聴きになる。なお、本儀は皇室儀制

昭和二十三年一月

令廃止後の最初の講書始で、式次第は原則的には従来と同様とするも、皇室儀制令では天皇出御の後に皇后が出御される規定であったところ、この度より天皇・皇后御同列にて出御されることに改められる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、儀式録、講書始録、典式録、官報

御進講室において、宣仁親王妃喜久子と御対面になる。去る一日に同妃の父の兄である池田仲博が死去したことを受け、その忌明けのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、皇親録

午後、呉竹寮にお出ましになり、元別当<sup>山階</sup>工藤壮平の指導にて和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と共に書道の稽古を行われる。以後、しばしば呉竹寮にお出ましになり、内親王の書道の稽古を御覧になる。また御自身も随時稽古に励まれる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

二十九日 木曜日 午前十時、天皇と共に三の間において、歌会始の儀に臨まれる。この年のお題は「春山」にて、皇后宮御歌は次のとおり。

#### 皇后宮御歌

ふきのたうつむ手やすめて春霞たなひくをちの山をみるかな

なお、本儀は皇室儀制令廃止後の最初の歌会始で、儀式は従来と原則変わらないが、講書始と同様、天皇・皇后御同列で出御されることに改められる。儀終了後、天皇と共に旧北御車寄門内において、預選者の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、儀式録、歌会始

録、典式録、官報

三十日 金曜日 午前、孝明天皇例祭につき、皇霊殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍

従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録

表拝謁の間において天皇と共に、昨日の歌会始で選者を務めた日本芸術院会員齋藤茂吉・同窪田空穂・吉井勇・鳥野幸次の拝謁をお受けになり、選歌の状況についてお聞きになる。川田順は病のため欠席する。引き続き、同所において選者助手四名の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、

侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

三十一日 土曜日 午前、呉竹寮に神戸絢をお召しになり、ピアノの指導をお受けになる。一旦御文庫に入御の後、午後、再び呉竹寮にお出ましになり、和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と御対面になり、内親王方のピアノ練習を御覧になる。この年もしばしば神戸絢の指導による内親王方のピアノ練習を御覧になり、また御自身もピアノの指導をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

正二位倉富勇三郎去る二十六日死去につき、天皇・皇后・皇太后より祭糒料及び白羽二重、供物代料・お花代料を賜う。なお、福岡県の倉富邸への御使を同県知事杉本勝次に依頼される。倉富は大正二年に法制局長官となり、その後、宮内省において帝室会計審査局長官、十五年から昭和九年まで枢密院議長を務め、退任後前官礼遇を受けた。なお倉富は前官礼遇者につき、従前ならば誅又は御沙汰が下賜されるべきところ、現下の諸情勢から見送られた。○賜与録、贈賜録

## 二月

二日 月曜日 午前、内廷庁舎に文学博士和辻哲郎<sup>文化</sup>委員をお召しになり、古代日本の歴史の見方についての進講をお聴きになる。以後、月曜日を定例として、四月五日までしばしば同人より古代日本歴史の見方及び考古学上からみた日本歴史についての進講をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

昭和二十三年二月

入江相政日記

午後、花蔭亭において、皇太后御使の宮内府御用掛竹屋津根子の拝謁をお受けになる。この年も、折に触れ、参殿の皇太后御使の拝謁をお受けになり、また、天皇・皇后あるいは皇后から大宮御所に御使を遣わされる。○女官長日記、女官日誌

義宮御殿にお出ましになり、正仁親王が英語の勉強に取り組まれる様子を御覧になる。○女官日誌、内舍人日誌

六日 金曜日 午前、内廷庁舎において宮内府御用掛加藤虎之亮より「孟子」に関する漢文の進講をお受けになる。以後、この年も夏季休業を挟み十二月三日まで、金曜日を定例として加藤より進講をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、加藤虎之亮関係資料

大聖寺・宝鏡寺・曇華院・林丘寺・靈鑑寺・光照院・三時知恩寺・円照寺・水薬師寺・長福寺・中宮寺・法華寺・善光寺に、恒例により乾海苔料を賜う。○贈賜録

十日 火曜日 午後一時三十分御出門になり、天皇と共に大宮御所に行啓される。御到着後、皇太后と御対面になり、御歓談になる。四時十一分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、幸啓録、貞明皇后実録正本、官報

十一日 水曜日 午前、紀元節祭につき、女官伊達璋子に御代拝を仰せ付けられる。夕刻、皇霊殿御神楽の儀につき、同じく伊達女官に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録

午前十一時、表拝謁の間において天皇と共に、雍仁親王妃勢津子・宣仁親王及び元皇族・元王公族、

ついで宮内府長官・宮内府次官・侍従長ほか側近二級官以上の者、さらに元側近奉仕者の拝賀をお受けになる。なお、紀元節祭当日は従前の皇室儀制令により紀元節の儀として参賀の儀を行っていたが、日本国憲法施行後に一定の有資格者のみに参賀資格を限定することは適当ではないとして、この年から参賀の儀は廃止となる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、儀式録、典式録

この日、崇仁親王妃百合子第二王子出産につき、天皇・皇后より皇太后に五種交魚代料を、崇仁親王・同妃それぞれに三種交魚代料を御贈進になる。また、皇太后より天皇・皇后に五種交魚代料が贈られる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、贈賜録、官報

**十三日** 金曜日 御風気につき、宮内府御用掛加藤虎之亮の進講、並びに勤勞奉仕者への御会釈を見合わされる。十四日には定例の土曜御相伴をお取りやめとされる。○女官長日記、女官日誌

**十七日** 火曜日 皇太后御参殿につき、御文庫において天皇と共に御対面になり、ついで御昼餐を御会食になる。午後には和子内親王も参殿し、御一緒に夕刻までお過ごしになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、貞明皇后実録正本

去る十一日に誕生した崇仁親王第二王子の命名の儀が行われ、よしひと宜仁と命名される。午後、天皇・皇太后及び和子内親王と共に御文庫において崇仁親王と御対面になり、お礼言上をお受けになる。七夜に当たるこの日、天皇・皇后より皇太后に五種交魚代料を、崇仁親王に白羽二重・酒・鮮鯛代料を、崇仁親王・同妃百合子それぞれに鮮鯛代料を、宜仁親王に産衣を御贈進になる。また、皇太后より天皇・皇后に五種交魚代料が贈られる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、皇親録、贈賜録、貞明皇后実録正本、

官報

昭和二十三年三月

十八日 水曜日 御風氣御用心のため、終日御仮床に就かれる。翌日以降も御仮床に就かれ、二十五日まで外出を控えられる。○女官長日記、女官日誌

従来、古技保存並びに御奨励のために行われていた東京糸竹会管絃楽研究・京都糸竹会同・蹴鞠保存会蹴鞠保存並びに研究

絵画講習所京都在住元華族絵画講習・向陽会京都在住元華族歌道奨励・興風会歌道奨励・歌御会講師講頌練習会同に対する天皇の御下賜金

のうち、今般絵画講習所・向陽会・興風会への賜金が廃止される。ただし向陽会については、後日、歌道御奨励の思召しにより、この年より毎年十二月に皇后から金一封を下賜されることとされる。これは、同会が明治十年岩倉具視の尽力により、明治天皇の聖旨を奉戴して歌道の研究と披講の練習を目的として創立されたものであること、終戦後、御歌所の選者が新派から選ばれ、古風な歌道の維持に困難が予想されることによる。○例規録、賜与録、入江相政日記

### 三月

一日 月曜日 御夕餐後、御文庫において天皇と共に、法学博士田中耕太郎参議院議員  
元文部大臣の説明にて、田中

の撮影による南米・北米旅行の映画を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二日 火曜日 貴子内親王の誕生日につき、午後、内廷庁舎において天皇と共に内親王と御対面になる。ついで表拝謁の間において天皇及び貴子内親王と共に、宮内府長官始め総代の拝賀を、続いて女官長始め女官等の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

六日 土曜日 この日、満四十五歳のお誕生日を迎えられる。

午前、天皇と共に内廷御車寄内廊下において、侍従職三級官以下の奉拝をお受けになる。その後、お一方にて、表拝謁の間において宮内府長官・同次長・式部頭・侍従長及び侍従職一、二級官等の拝賀をお受けになる。ついで同じく表拝謁の間において雍仁親王妃勢津子始め皇族、元皇族、元王公族、続いて内閣総理大臣・衆議院議長等及びその夫人の拝賀参議院議長・最高裁判所長官は不参を、宮内府会議室において一級宮内官・同待遇及びその夫人、二級宮内官・同待遇の拝賀をお受けになり、再び表拝謁の間において元皇后宮大夫・元皇后宮事務官等の拝賀をお受けになる。続いて御学友一名、元久邇宮侍女滝野繁尾に謁を賜い、奥御進講室において元皇后宮女官等に謁を賜い御談話になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、儀式録、典式録

七日 日曜日 厚子内親王の誕生日につき、午前、天皇と共に内廷庁舎において、同内親王と御対面になる。ついで天皇及び厚子内親王と共に表拝謁の間において、宮内府長官始め総代、ついで女官・御用掛等の拝賀をお受けになる。後刻、御政務室において、女官長始め女官の拝賀をお受けになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

八日 月曜日 午前、祐子内親王二十年式年祭につき、天皇と共に表拝謁の間において、宮内府長官始め総代、続いて女官長その他の拝謁をお受けになる。皇后宮使として宮内府御用掛竹屋志計子を豊島岡墓地の同内親王墓所に差し遣わされ、御代拝を仰せ付けられる。また、天皇・皇后より墓所に榊をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、臨時祭祀録、典式録、祭典録

十五日 月曜日 葉山御用邸に天皇と共に行啓のため、午後二時五分御出門になり、三時五十分御用邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、省中日誌、幸啓録、葉

昭和二十三年三月

山行幸啓書類綴、官報

十六日 火曜日 午前、天皇と共に南邸にお出ましになり、ツクシ・ショウロなどを御採集になる。

以後、御用邸御滞在中、折に触れて天皇の御採集に同行される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓書類綴

十九日 金曜日 午後、天皇と共に、極東の視察旅行の途中共日した米国インターナショナル・ニュース・サービス社主バリー・ファリス<sup>主筆</sup>及び同夫人を御引見になる。ファリスは、連合国最高司令官副官シドニー・L・ハフ<sup>陸軍大佐</sup>及び同夫人の案内により参邸した。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、省中日誌、謁見録、典式録、幸啓録、葉山行幸啓書類綴

故載仁親王妃智恵子一周年祭につき、勅使・皇后宮使として侍従徳川義寛を権舎<sup>宗親課分室</sup>並びに墓所<sup>豊島岡墓地</sup>に差し遣わされる。また、天皇・皇后より権舎に生花・野菜を、墓所に榊をお供えになる。○侍従職日誌、重要雑録

二十三日 火曜日 午前、エリザベス・グレイ・ヴァイニングより、英語の進講をお受けになる。ついで天皇及び皇太子<sup>去る二十一日参邸</sup>、ヴァイニングと御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍

人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓書類綴、皇太子の窓

二十四日 水曜日 午前九時四十分御出門、天皇及び皇太子と共に東京大学理学部附属臨海実験所に行啓される。御到着後、和船にて海上にお出ましになり、潜水作業及び採集品を御覧になる。実験所に戻られ御昼餐の後、実験所前の海岸を御散策になり、ついで実験所に設けられた水族館を御見学、

さらに実験所内を巡覧される。午後四時十五分御用邸にお戻りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓書類綴

二十八日 日曜日 葉山御用邸より天皇と共に還啓のため、午後一時三十分御出門、三時十五分宮城に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、省中日誌、幸啓録、葉山行幸啓書類綴、官報

二十九日 月曜日 昭和二十二年度学習院中等科・高等科卒業式男女合同に天皇と共に御臨席のため、午前

九時二十分御出門、学習院女子部に行啓される。御到着後、便殿において、卒業式に臨席する崇仁親王、ついで学習院在学中の皇太子中等科第二学年修了・正仁親王初等科卒業・和子内親王女子部高等科選修了・厚子内親王女子部高等科第一学年修了・

貴子内親王初等科第三学年修了と御対面になる。ついで学習院長安倍能成ほかの拝謁をお受けになった後、式場に臨まれ、和子内親王を始めとする中等科・高等科学生への卒業証書授与、侍従による高等科優等卒業生総代への恩賜賞伝達、天皇のお言葉など式の様子を御覧になる。終わって、十一時三十五分還啓される。なお、従来学習院卒業式に際しては、天皇から初等科卒業生並びに中等科及び高等科の各優等卒業生に対して賜品があり、また女子学習院卒業式に際しては、皇后から初等科・中等科・高等科卒業生全員に対して賜品があったが、この年の卒業式より、学習院男女学生とも高等科優等卒業生にのみ恩賜品を賜うことに改められる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、幸啓録、例規録、贈賜録、官報、学習院百年史

夕刻、御文庫において、天皇及び皇太子・正仁親王・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と御夕餐

昭和二十三年四月

を御会食になる。この日学習院女子部高等科選修修了の和子内親王には天皇・皇后より賜物がある。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

去る二十七日の皇室経済会議の議決により、学習院の維持・経営のため天皇・皇后より財団法人学習院に対し金一封を下賜される。○省中日誌、幸啓録、賜与録、皇室経済会議録

三十日 火曜日 午前、表拝謁の間において天皇及び和子内親王と共に、元侍従長百武三郎及び同夫人まち子の拝謁をお受けになる。昨日学習院女子部高等科選修を修了した和子内親王は、この度家事修養のため、来る五月二十一日より百武家に預けられることとなり、百武夫妻は和子内親王の補導役を仰せ付けられる。同内親王の移居に際し、天皇・皇后より百武三郎にお品を賜う。なお同内親王は、百武の居住する千代田区紀尾井町の宮内府官舎に翌年七月十八日まで寄寓する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、贈賜録、百武三郎日記、侍従長の昭和史

天皇と共に御文庫において、東久邇盛厚及び同夫人成子と御対面になり、正仁親王初等科卒業のお悦びの挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

#### 四月

二日 金曜日 午前、内廷庁舎御座所において、東宮大夫穂積重遠の拝謁を天皇と共にお受けになり、皇太子の成績についての報告をお受けになる。○侍従日誌、穂積重遠東宮奉仕日誌

三日 土曜日 午前、神武天皇祭につき、宮内府御用掛東貞子に御代拝を仰せ付けられる。○侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録

午後、御文庫において天皇と共に、東久邇聡子、並びに今般学習院高等科を卒業した同子息俊彦の拝謁をお受けになる。天皇・皇后より聡子に万那料等を、俊彦に洋服地及び万那料を賜う。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

**四日 日曜日** 東京都西多摩郡青梅町で举行される森林愛護連盟・全日本観光連盟共催の記念植樹式に天皇と共に御臨席のため、午前九時御出門になり、式場近くの青梅小学校に御到着になる。便殿において農林大臣永江一夫より林政についての奏上をお聞きになり、ついで永山公園の式場に天皇と共にお出ましになり、天皇のお手植えに続き、東京都林業会長武市昇太郎の介添えによりヒノキ苗をお手植になる。御帰途、三田村居住の日本画家川合玉堂御絵の指導者の拝謁をお受けになり、お言葉を賜う。天皇よりも御会釈がある。青梅小学校に戻られ、御休所において御昼食をお召し上がりになった後、午後二時三十五分還啓される。この度の植樹式は、森林愛護連盟が戦災等により緑を失った国土を再建するため、「緑の一週間」を設定し、全国的緑化運動を展開する一環として行われたもので、期間中の四日目に当たる愛林日山の緑の日に実施された。翌二十四年にも同様に実施される。○女官長日記、女官日誌、

侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、幸啓録、官報、青梅市役所所蔵資料

**五日 月曜日** 午後、表拝謁の間において、聖心愛子会会長聖園テレジア・同会副会長加藤ユスティチアの拝謁をお受けになる。その際、聖園より、先頃病気の折に度重なるお見舞いへのお礼言上をお受けになり、種々お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

**七日 水曜日** お庭のサクラが満開のため、元女子学習院教授野口幽香をお召しになり、拝見をお許しになる。その際、同人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

昭和二十三年四月

八日 木曜日 午前、表拝謁の間において、元内大臣牧野伸顕以下の松影会宮内省・宮内府元部局長以上の親睦会 会員三十九

名の拝謁をお受けになり、御仮床にある天皇に代わり天皇のお言葉をお伝えになる。○女官長日記、女官

日誌、侍従日誌、内舎人日誌、省中日誌、典式録

九日 金曜日 皇后・皇太后が各所に行啓の際、これまで事前及び事後に官報報告をする例であったが、今後非公式の場合はこれを行わないこととされる。ただし天皇と御同列の場合は報告することとし、また、皇后が日本赤十字社名誉総裁として行啓される場合は公式と見なし報告することとされる。

○秘書課日誌

十二日 月曜日 今般国立博物館において公開四月一日より五月三十一日まで開催の日本美術史総合展にて展示された高野山明王院蔵の国宝

「絹本着色不動明王二童子像赤不動」が帰山するに際し、この日午前、内廷庁舎において同作品を御覧になる。明王院住職より同作品の来歴についての説明をお受けになり、種々御質問になる。○女官長日記、

女官日誌、侍従職日誌、東京国立博物館百年史

十三日 火曜日 午後、久邇典子が学習院初等科入学につき、花蔭亭に久邇侃子・久邇朝融・同子女の邦昭・通子・英子・典子をお召しになり、茶菓を共にされる。典子にお品を賜い、ほかの参会者にも賜品がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌

十四日 水曜日 午前、御進講室において、小宮豊隆ドイツ文学者より芭蕉を中心とした俳句についての進講をお受けになる。以後、十月四日まで月曜日を中心に、しばしば同人より進講をお受けになる。○女官

長日記、女官日誌、内舎人日誌

十七日 土曜日 元内閣総理大臣鈴木貫太郎元侍この日死去につき、天皇・皇后より弔問使として侍従

鈴木菊男を千葉県の鈴木貫太郎邸に差し遣わされる。皇后より切り花等をお供えになる。二十三日葬儀

執行につき、天皇・皇后より御使として侍従徳川義寛を葬儀場文京区護国寺に差し遣わされ、焼香させられる。

天皇・皇后・皇太后より祭糒料及び供物・花を賜い、天皇・皇后より菓子を賜う。なおこれより前、鈴木

木危篤に際しては病氣お尋ねのため天皇・皇后・皇太后より御使として侍従入江相政・侍医塚原伊勢松

を鈴木邸に差し遣わされ、葡萄酒を賜う。鈴木は大正十二年海軍大将、十三年聯合艦隊司令長官、十四

年海軍軍令部長を経て、昭和四年一月予備役となり、以降十一年十一月まで侍従長を務め、その間、四

年二月から枢密顧問官となり、十九年八月には枢密院議長に就任する。二十年四月から八月まで内閣総

理大臣を務め、今次大戦を終戦に導いた。その後、同年十二月から翌年六月まで再び枢密院議長を務め

た。○侍従日誌、侍従職日誌、省中日誌、重要雑録、恩賜録、賜与録、貞明皇后実録正本

二十一日 水曜日 元内閣総理大臣米内光政昨二十日死去につき、この日、天皇・皇后より弔問使と

して侍従永積寅彦をその邸に差し遣わされる。二十四日葬儀執行につき、天皇・皇后より侍従入江相

政を同邸に差し遣わされ、焼香させられる。また天皇・皇后・皇太后より祭糒料及び供物・花を賜う。

なお、これより先、米内光政の病氣お尋ねのため天皇・皇后より清酒・果物缶詰・野菜を賜い、その

危篤に際しては天皇・皇后より御使として侍従山田康彦・侍医西野重孝を同邸に差し遣わされ、天

皇・皇后より米内に葡萄酒を、皇后より果物を賜う。米内は、昭和十一年十二月聯合艦隊司令長官、

十二年二月より林内閣、続く第一次近衛内閣、平沼内閣の海軍大臣となる。同年四月海軍大将に進級、

十五年一月に予備役となり、同月より七月まで内閣総理大臣を務める。現役復帰して十九年七月には

昭和二十三年四月

小磯内閣の海軍大臣となり、以後鈴木内閣・東久邇宮内閣・幣原内閣でも留任し、終戦工作や海軍の戦後処理に関与した。○侍従日誌、侍従職日誌、重要雑録、賜与録、贈賜録、貞明皇后実録正本、毎日新聞

二十四日 土曜日 日本で永年にわたり布教に従事してきた米国の宣教師マーベル・フランシスが今般一時帰国につき、午前、表拝謁の間において、御仮床にある天皇に代わり御引見になる。従来、外国人女性に対する皇后の御引見は、天皇の御引見が許される者の夫人に限り夫君同伴で御引見になることを例とし、また、夫君ではなく当該女性本人の資格により天皇が御引見になる場合は皇后の御引見はないこととなっていたが、今回は、夫君を伴わない外国人女性を皇后が御引見になった新例となる。○女官長日記、女官日誌、謁見録、典式録、外交贈答録

二十六日 月曜日 午後、御進講室に植村環<sup>日本基督教女子青年会会長</sup>をお召しになり、宗教界における女性についての進講をお受けになる。以後、しばしば植村より聖書等についての進講をお受けになる。なお植村は以後約四年にわたり皇后及び和子内親王・厚子内親王・貴子内親王に聖書等についての進講を行う。

○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、進講録、植村環著作集、主婦之友

二十七日 火曜日 夕刻、御文庫において天皇と共に、元皇后宮大夫広幡忠隆の拝謁をお受けになり、先に広幡を通じ制作を御依頼になった、川合玉堂の子息修二制作による茶碗に玉堂が絵付けを行った茶碗<sup>蘆雁模様</sup>及び玉堂夫人富子の手縫いによる包ふくさの献上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

二十八日 水曜日 午前、御文庫において天皇と共に、去る二十四日御殿場より上京し、この日参殿した雍仁親王・同妃勢津子と御対面になり、御昼餐を御会食になる。ついで去る七日以来御不例の天

皇と御一緒に広芝へお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

二十九日 木曜日 天長節につき、午前、御進講室において宮内府長官始め総代の拝賀を、ついで雍仁親王始め皇族・元皇族・元王公族の拝賀をお受けになる。続いて元女官等の拝謁をお受けになる。

なお、この年より新年の参賀に倣い天長節参賀が実施され、正門内広場において記帳の受け付けが行われる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、儀式録、典式録

三十日 金曜日 午後、和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と御一緒に講堂にお出ましになり、楽部の演奏をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

## 五月

二日 日曜日 午後、国際乗馬倶楽部主催の東京馬術大会に天皇及び御参殿の皇太后と共に御臨場のため、日本丸馬場にお出ましになる。先着の皇太子・正仁親王と御一緒に、高等馬術、東京八大学<sup>早稲田大</sup>

<sup>学・慶応義塾大学・明治大学・立教大学、法政大学・中央大学・専修大学・東京大学</sup>の学生等による障害飛越競技對抗戦等を御覧になる。終わって、この日

出馬の女性参加者二名より、皇后及び皇太后にそれぞれ花束の献上がある。優勝者への賞品授与を御覧になった後、還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、幸啓録、貞明皇后

実録正本

三日 月曜日 午後、呉竹寮にお出ましになり、エリザベス・グレイ・ヴァイニング並びに同伴の英国駐日代表部員の息女デイナーを御引見になる。遊戯室の飾り人形の拝見を許され、和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と御一緒に過ごされる。途中、皇太子・正仁親王が参寮し、夕刻天皇が合流さ

昭和二十三年五月

れる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌

五日 水曜日 午前、表拝謁の間において、連合国最高司令部先任参謀P・E・ピーボディー夫人マーガレットを御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、謁見録

御進講室において関屋衣子元宮内次官関屋貞三郎夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

宜仁親王初節句につき、天皇・皇后より同親王に鯉料・御台人形代料を、三笠宮に三種交魚代料を御贈進になる。○女官長日記、贈賜録

六日 木曜日 午前、崇仁親王妃百合子が出産後初めて参殿につき、御文庫にて御対面になり、種々御歓談になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

七日 金曜日 日本赤十字社において挙行の親授式並びに同社第五十六回通常総会に名誉総裁として御臨席のため、午前十時二十五分御出門、同社に行啓される。便殿において総裁宣仁親王と御対面になり、ついで東京都知事安井誠一郎・日本赤十字社社長島津忠承の拝謁をお受けになる。それより式場にお出ましになり、有功章・特別社員章を総代六名に御親授になり、終わって次の令旨を賜う。

日本赤十字社、第五十六回の通常総会に当って、全国の社員に告げたいと思います。

終戦以来国民は、荒廃した国土の再建につとめながら、苦難の途をたどつて来ましたが、年と共に世界の理解と援助とに依つて、国の前途に明るい希望が認められ、やがて国際社会にも参加出来る日の近づきつゝあることは、誠に喜ばしいことであります。

わが赤十字が、現在行っている医療救護や、災害救助などの、国内事業に付ては勿論であります。更に赤十字の国際性に鑑みて、世界の人々の生活や、気持を知つて、平和の愛好と、人類の

福祉とに一層努力しなければならぬと思います。

かようにして、全世界の人々が、赤十字の旗によつて結ばれ、大人も子供も、人種、民族、宗教を超越して、互に睦みあい、扶けあつて、人類の理想である平和な世界を建設し、此の世の樂土を築き上げるよう、皆さんの心からなる貢献を切望してやみません。

総裁宣仁親王より奉答をお受けになり便殿に入御される。ついで便殿隣の総裁室において、連合国最高司令部公衆衛生福祉局長クロフォード・F・サ姆斯准将以下連合国最高司令部関係者及び米国赤字駐日代表部極東地域米赤実施部長H・L・ジェーンウエー以下米国赤字関係者等に御握手を賜い、サ姆斯准将及びジェーンウエーにはお言葉がある。終わつて門内広場において一同と記念撮影をお受けになり、十一時三十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、幸啓録、官報、事業年報（日本赤十字社）、日本赤十字社社史稿

午後、表拝謁の間において天皇と共に、日本聖公会総裁主教八代斌助・同東京教区主教蒔田誠・同大阪教区主教柳原貞次郎の拝謁をお受けになる。八代以下は、英国聖公会のカンタベリー大主教の招待を受け、この月、英国ロンドン市で開催される世界聖公会会議（第八回ランベス会議）に出席のため渡英し、その際、

英国国王・王妃に謁見する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、日本聖公会百年史

八日 土曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕始の儀を行われる。終わつて御養蚕所前において、有泉善三（御養蚕奉仕者）及び助手四名の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人

日誌

九日 日曜日 母の日につき、午後、正仁親王から母の日の感想短文を、和子内親王・厚子内親王・

昭和二十三年五月

貴子内親王からそれぞれ手製の菓子の御贈進をお受けになり、御団欒にて過ごされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌

内廷西玄閣前において、「母の日」大会厚生省、東京都、恩賜財団母子愛育会主催の参列者約二千二百名に御会釈を賜う。代表の練馬婦人会近藤多恵子より挨拶、続いて花束をお受けになり、次のようなお言葉を賜う。

皆さんお心づくしのお花をありがとうございます。苦しいことや辛いことも多いと思いますがどうか立派な母親としてのつとめをはたし心も身体も健全な子供達を育て上げるようにしてほしいと思います

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、賜与録

東久邇盛厚・同夫人成子が港区鳥居坂へ移居するに当たり、この日、天皇・皇后より三種交魚代料・清酒等を賜う。また後日、天皇・皇后よりお品を賜う。○女官長日記、侍従職日誌、贈賜録

十一日 火曜日 午後、御文庫において天皇と共に、元侍従小倉庫次の拝謁をお受けになる。小倉は大日本育英会会長田島道治次期宮内府長官に内定と面識があるとのことにて、翌日同人が天皇に拝謁するに先立ち参

殿した。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、入江相政日記

侍従長・女官長始め側近奉仕者が催す御夕餐に御出席のため、天皇と共に花蔭亭にお出ましになり、御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、入江相政日記

十三日 木曜日 午後三時二十分御出門、和子内親王を伴われ紀尾井町の元侍従長百武三郎邸に行啓される。百武三郎及び同夫人始め家族のお出迎えをお受けになり、二階に案内され拝謁をお受けになる。ついでお茶を共にされる。四時五十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、幸啓録

十五日 土曜日 午前、表拝謁の間において天皇と共に、今般渡米する社会教育家一柳米来留旧名ウイリアム・メレル

ル・ヴォーリズ 及び同夫人まきの拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

午後一時三十分御出門、大宮御所に行啓される。御着後、皇太后と御対面になる。ついで皇太后と共に庭にお出ましになりヤギの出産の様子を御覧になる。それより御一緒に茶菓を召され、四時二十二分還啓される。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、幸啓録

十六日 日曜日 午前、天皇及び皇太子・正仁親王・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王、並びに東久邇盛厚・同夫人成子・同子息信彦・同息女文子と御一緒に、お庭においてお写真の撮影をお受けになる。その後、御参内の皇太后も加わられ、花蔭亭のテラス及び室内において御一緒にの撮影に応じられる。花蔭亭において御昼餐の後、御一同及び東久邇聡子と共に宮内府会議室にお出ましになり、東京アマチュア・マジシャンズ・クラブ会員による奇術を御覧になる。菊栄親睦会会員も陪観する。

終わって皇太子・正仁親王が退出の後、天皇・皇太后及び和子内親王・厚子内親王・貴子内親王、並びに東久邇聡子・東久邇盛厚・同夫人成子・同子息信彦・同息女文子と共に御進講室に進まれ、お茶を共にされる。また夕刻には、東京アマチュア・マジシャンズ・クラブ会員五名を同室にお召しになり奇術を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、幸啓録、貞明皇后実録正本  
TAMC五〇年のあゆみ

十七日 月曜日 葉山御用邸へ天皇と共に行啓のため、午前九時五分御出門になる。途中、神奈川県模範愛育村に指定されている中郡高部屋村の愛育保健館恩賜財団母子愛育会神奈川  
県支部高部屋村分会運営にお立ち寄りになり、館

昭和二十三年五月

内を御巡覧になる。次に愛甲郡厚木町の神奈川県立鹼検定所にお立ち寄りになる。便殿において御昼餐の後、所内を御視察になる。さらに高座郡有馬村の神奈川県種畜場を通過され、車中からララ<sup>アジア</sup>救援公

<sup>認団</sup>より寄贈の種牛等を御覧になる。さらに茅ヶ崎市浜之郷において農作の実情等を御視察になる。午

後三時四十二分葉山御用邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供

奉日誌、省中日誌、幸啓録、葉山行幸啓書類綴、官報

十八日 火曜日 午前、葉山御用邸の南邸前の海岸を天皇と共に御散策になり、ハマヒルガオ・ハマ

エンドウ等を御採集になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓書類綴

十九日 水曜日 午前、小磯方面を天皇と共に御散策になる。御帰途、御用邸前の海岸において、万

能入子<sup>金属製改  
良櫓</sup>の献上者の株式会社岩木造船鉄工所取締役社長岩木秀雄、及び考案者の同社技術研究所

長坂上富平ほかに御会釈を賜う。岩木社長より説明をお聞きになり、ついで御座船もも<sup>和</sup>船に取り付けた

実物を御覧になった後、坂上所長の説明をお受けになりつつ天皇と共に御試乗になる。○女官長日記、女

官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓書類綴

二十日 木曜日 載仁親王三年祭につき、午前中はお出ましを控えられ、またピアノの練習も御遠慮

になる。○女官長日記、女官日誌

二十一日 金曜日 午前、御座船ももにて名島にお出ましになり、先着されていた天皇の御採集に御

同行になる。御用邸御滞在中、しばしば天皇の海洋生物等の御調査に同行される。○女官長日記、女官日誌、

侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓書類綴

午後三時五十七分御出門、鎌倉の元皇后宮大夫広幡忠隆邸に行啓される。広幡は不在につき、同夫人  
文子始め家族一同のお出迎えをお受けになる。五時四十五分御用邸に還啓される。○女官長日記、女官日誌、  
侍従日誌、内舍人供奉日誌

二十二日 土曜日 午後、天皇と共に海岸御散策の折、近く帰米の連合国最高司令部天然資源局勤務  
リチャードに御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓書類綴

二十四日 月曜日 葉山御用邸から天皇と共に還啓のため、午後一時三十分御出門になる。還啓の途  
次、品川区の東京地方専売局直轄工場を御視察になる。四時四十分宮城に還啓される。○女官長日記、女  
官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、省中日誌、幸啓録、葉山行幸啓書類綴、官報

御文庫において天皇と共に、元侍従長百武三郎の拝謁をお受けになる。天皇・皇后は、去る二十一日  
結婚の準備として家事修養のため和子内親王を百武家にお預けになった。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、  
百武三郎日記

二十五日 火曜日 日本美術史総合展を天皇と共に御覧になるため、午前九時五分御出門になり、国  
立博物館に行啓される。東大寺所蔵の国宝「阿弥陀如来像<sup>法華堂本</sup>」等の展示品を御巡覧になる。十一  
時五十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、幸啓録、官報、日本美術史

総合展図録、東京国立博物館百年史、朝日新聞

翌日の元正天皇千二百年式年祭に先立ち、午後、表拝謁の間において天皇と共に、東京大学教授坂本  
太郎より元正天皇の御事蹟に関する進講をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍  
人日誌、進講録

二十六日 水曜日 午前、御文庫において久邇朝融と御対面になり、種々御懇談になる。ついで同伴した天皇の御学友一名の拝謁もお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

午後、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、有泉善三<sup>御養蚕奉仕者</sup>より蚕の生育についての説明をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

二十七日 木曜日 午前、御進講室において、御参内の皇太后と御対面になる。正午、天皇及び皇太后と共に二の間において、菊栄親睦会会員と午餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、宣召録、典式録、幸啓録、菊栄親睦会録、貞明皇后実録正本

二十八日 金曜日 午前十時二十七分御出門、大宮御所に行啓される。皇太后と御昼餐を御会食になり、午後零時五十分大宮御所を御出門、学習院初等科において開催の常磐会総会に皇太后と共に行啓される。御着後、先着の和子内親王・厚子内親王、宣仁親王妃喜久子と御対面になる。ついで会場に出御され、同会会員による合唱・仕舞、及び山本東次郎の狂言を御鑑賞になる。終わって御休憩の間、元皇族並びに御同級生の拝謁をお受けになる。再び会場に臨まれ、舞踏・金剛石の歌を鑑賞される。続いて校内の二百三高地と呼ばれる高台付近を御散策になり、皇太后をお見送りの後、四時七分宮城に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、幸啓録、貞明皇后実録正本

二十九日 土曜日 午前、表拝謁の間において、近日帰国予定の駐日インド国代表ラマ・ラウ大使夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、謁見録、芦田均日記

午後、紅葉山御養蚕所にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌

三十日 日曜日 午後、天皇と共に旧本丸馬場にお出ましになり、関西八大学

京都大学・同志社大学・大阪商科大学・関西大学・立命館大学・大

谷大学・大阪大学・神戸経済大学 馬術連合主催の第一回関西八大学馬術競技大会に臨まれ、障害飛越競技を御覧になる。

ついで旧主馬寮広場へお出ましになり、第二回宮内府職員懇親運動大会に臨まれ、仮装競走・百足競走・スプーン競走・パン喰競走等を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、幸啓録

## 六月

三日 木曜日 午後三時二十七分御出門、紀尾井町の元侍従長百武三郎邸に行啓される。御着後、和子内親王、並びに百武三郎及び同夫人、家族一同のお出迎えをお受けになる。御休所にて御少憩の後、内親王の居室・寢室などの様子を御覧になる。それより内親王とお茶を共にされる。百武及び女官長・侍従次長に御相伴を仰せ付けられる。終わって邸内を御巡覧になる。それより和子内親王を伴われ、同地の官舎に居住する三井安弥・石川忠・犬丸実の自宅を玄閑内まで訪ねられ、在宅の家族に御会釈を賜う。さらに宮内府次長加藤進・侍従長大金益次郎の自宅では部屋に上がられ、間取りなどを御覧になり、在宅の家族に御会釈を賜う。内親王を百武邸まで送られ、五時四十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、幸啓録

四日 金曜日 多摩陵<sup>大正天皇</sup>に天皇と共に御参拝のため、午前九時四十五分御出門になり、同陵に行啓される。御着後、天皇に続き御拝礼になる。御休所において御昼食を召された後、林業試験場浅川支場にお立ち寄りになる。午後四時三十六分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人

日誌、省中日誌、臨時祭祀録、幸啓録、官報、天皇と生物学研究

昭和二十三年六月

五日 土曜日 午前、表拝謁の間において天皇と共に、米国アンダーバー神学校校長ボーン・ダブニー及び同夫人を御引見になる。同校は同志社の創立者新島襄の母校であり、ダブニーはこの度同志社大  
学慰問のために特派された。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、謁見録、典式録  
御進講室において、新任の宮内府長官田島道治・侍従長三谷隆信、前任の宮内府長官松平慶民・侍従  
長大金益次郎の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

六日 日曜日 午前、紅葉山御養蚕所に天皇と共にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍  
従職日誌、内舍人日誌

七日 月曜日 雍仁親王・同妃勢津子が御殿場の秩父宮別邸から上京につき、御文庫において天皇と  
共に御晚餐を催される。宣仁親王・同妃喜久子・崇仁親王・同妃百合子が出席する。○女官長日記、女官  
日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、秩父宮事務日誌、雍仁親王実紀

八日 火曜日 毎日新聞社主催の第二回美術団体連合展覧会を天皇と共に御覧になるため、午前八時  
三十五分御出門になり、東京都美術館に行啓される。御到着後、連合展に参加する洋画十三団体の千  
点近い作品を御巡覧になる。十一時二十九分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍  
人日誌、省中日誌、幸啓録、官報

九日 水曜日 午前、御進講室において、去る四月十七日に死去した故元内閣総理大臣鈴木貫太郎の  
夫人タカの評謁をお受けになり、忌明けのお礼言上をお受けになる。途中、天皇もお出ましになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

十日 木曜日 宣仁親王初参内につき、午前、表拝謁の間において天皇と共に、同親王及び崇仁親王

妃百合子と御対面になる。これに先立ち、宜仁親王の賢所皇靈殿神殿に謁するの儀が行われる。初参内につき、天皇・皇后より三笠宮に五種交魚代料を、宜仁親王に鮮鯛代料・御台人形代料を賜う。またこの日、同親王の箸初につき、天皇・皇后より三笠宮に五種交魚代料を、宜仁親王に鮮鯛代料・御台人形代料を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、臨時祭祀録、贈賜録

天皇と共に御文庫において、宮内府長官田島道治・前宮内府長官松平慶民・侍従長三谷隆信・前侍従長大金益次郎・侍従次長鈴木一・女官長保科武子をお召しになり、御夕餐を共にされる。天皇・皇后より松平にお品を、大金にお品及び金員を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、贈賜録、松平慶民手帖、田島道治日記、三谷隆信回顧録

十一日 金曜日 午後三時三十六分御出門、大宮御所に行啓される。皇太后と御対面になり、埼玉・群馬両県への行啓この月三日から七日までについてのお話をお聞きになる。五時二十三分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、幸啓録

十二日 土曜日 那須御用邸に天皇と共に行啓のため、午前八時五十分御出門になる。途中、昨年九月の台風九号カスリーン台風による水害地の復旧状況を御視察のため、埼玉県へお立ち寄りになる。埼玉鴨場において御少憩の後、北葛飾郡幸手町の志手橋において復旧状況についての説明をお受けになり、ついで北埼玉郡東村の利根川堤防の決壊現場を視察され、工事状況の説明をお受けになる。また罹災地の状況について説明をお受けになり、周囲を御展望になる。それより栗橋駅よりお召し列車に御乗車になる。御昼食をお取りになり、黒磯駅にて下車され、午後二時四十分御用邸に御到着になる。○女官

長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、省中日誌、幸啓録、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務

昭和二十三年六月

所日誌、官報

十五日 火曜日 午前、天皇の植物御調査に同行され、嚶鳴亭まで御散策になる。同亭において御昼餐の後、午後にも御散策になる。以後、連日天皇の植物御調査に同行される。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録

十六日 水曜日 午前、宮内府次長加藤進・侍従次長鈴木一・侍従入江相政・女官長保科武子・女官雪井よし子・同道木菊重をお召しになり、夏目漱石著『虞美人草』の輪読会を催される。昨年十一月二十七日、十二月五日以来の開催にて、この日も続きをお読みになる。二十日にも輪読会を催される。

○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、入江相政日記

十七日 木曜日 午後、御散策よりお戻りの際、御用邸正門内において天皇と共に、大田原町長益子万吉以下の那須郡北部地方の町長・村長等に御会釈を賜う。以後、那須御用邸御滞在中、折に触れて栃木県関係者等に御会釈を賜う。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、那須行幸啓録

十八日 金曜日 この日、東京工業倶楽部において、東京カトリック婦人倶楽部主催により病院・孤児院等に贈る慈善金募集のためビンゴ・パーティー開催につき、東京カトリック婦人倶楽部に小箱<sup>詩繪</sup>を御寄贈になる。○贈賜録

二十一日 月曜日 那須御用邸より天皇と共に還啓のため、午前八時五十分御出門になる。午後一時五分宮城に御到着になる。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、省中日誌、幸啓録、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、官報

二十二日 火曜日 朝日新聞厚生事業団・生業資金指導連絡委員会主催による引揚者等の更生産業展

示会を御覧になるため、午前八時五十五分御出門、天皇と共に日本橋三越本店に行啓される。三階展示場において、北海道から鹿児島県までの全国都道府県の更生産業会社の出品物無煙豆炭・ホームスパン  
服地・街頭用写真機などを御巡覧になり、さらに四階即売場を御覧になる。十時十五分還啓される。なお、産業御奨励の思召により、天皇・皇后は出品物のうち優秀品をお買い上げになり、九月三日それを御覧になる。同月七日には、それらお買上用品を、この種の製作に従事する団体の参考資料として引揚援護庁にお下げ渡しになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、幸啓録、賜与録、官報

二十三日 水曜日 皇太后御参殿につき、午前、御文庫において天皇と共に御対面になる。ついで和子内親王・貴子内親王も加えられ御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、幸啓録、貞明皇后実録正本

二十五日 金曜日 皇太后のお誕生日につき、女官長始め女官等の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

二十六日 土曜日 午後、紅葉山御養蚕所にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌

夕刻、御文庫において天皇と共に、この度退職の皇太后宮職御用掛竹屋津根子の拝謁をお受けになり、お言葉を賜う。引き続き竹屋と御夕餐を共にされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二十八日 月曜日 午後、御文庫において、この度退官した女官曾禰治子の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

朝融王妃故知子女王一周年祭につき、勅使・皇后宮使として侍従永積寅彦を元宗秩  
寮分室権舎豊島岡  
墓地及び墓所豊島岡  
墓地に差し遣わされる。また、天皇・皇后より権舎に生花・野菜を、墓所に榊をお供えになる。また皇后よ

昭和二十三年七月

りお花料のお供えがある。○侍従日誌、侍従職日誌、重要雑録

二十九日 火曜日 午前、御進講室において、今般退職の皇太后宮職御用掛西京子に御会釈を賜う。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

三十日 水曜日 午前、表拝謁の間において天皇と共に、貿易庁長官永井幸太郎の拝謁をお受けになり、翌日の日本輸出工芸展覧会行幸啓に関する事前の言上をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

## 七月

一日 木曜日 貿易庁及び日本輸出工芸協会主催の日本輸出工芸展覧会を天皇と共に御覧になるため、午前十時御出門、東京都美術館に行啓される。展覧会場において選抜された陶器・象牙製品・織物等の美術工芸作品、及び全国の産業工芸品など輸出される工芸品を御覧になる。また実演室において木版刷り・刺繍・鎌倉彫などの実演を御覧になり、参考室においてアメリカ工芸品の参考写真を御覧になる。午後零時二分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、幸啓録、

官報

この日、宮内府告示第十三号をもつて皇居を宮城と称する告示明治二十一年十月二十七日宮内省告示第六号が廃止される。以後、

一般に皇居と称される。○省中日誌、官報

二日 金曜日 午前、内廷庁舎御政務室において天皇と共に、東宮大夫穂積重遠の拝謁をお受けになり、東宮侍医緒方安雄の辞任に関する言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、穂積重遠東宮奉

仕日録

天皇と共に表拝謁の間において、財団法人慈生会理事長フランシス・ヨゼフ・フロジャック神父を御引見になる。同人は、先般ローマ法王庁等に日本のカトリック教会の現状を報告することを機に帰国し、

この度再び来日した。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、謁見録、典式録

三日 土曜日 午後、天皇と共に御文庫において、元女官曾禰治子の拝謁をお受けになり、この度退官につきお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

四日 日曜日 午前十時御出門になり、小金井町の東宮御仮寓所に天皇及び貴子内親王と共に行啓される。御到着後、皇太子及び前日より滞在の正仁親王、先着の和子内親王のお出迎えをお受けになり、ついで御一緒に庭にお出ましになり、皇太子愛用のスクーターに御試乗になる。御昼餐御会食の後、皇太子の案内により光華殿北側雑木林の中を御散策になり、シオデ等を御採集になる。途中、宮内記者会等の写真撮影に応じられる。午後五時二十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、東宮職事務日誌、幸啓録、官報、穂積重遠東宮奉仕日録

五日 月曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕納の儀を行われる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

七日 水曜日 午前、天皇と共に内廷庁舎御政務室において、元侍従長百武三郎の拝謁をお受けになり、和子内親王の御修養の経過についてお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、百武三郎日記  
御進講室において、植村環より、新約聖書についての進講をお受けになる。この日は天皇も臨席される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、進講録

昭和二十三年七月

八日 木曜日 午前、謁見所において、米国マザー・チャーチ在日代表のヘレン・ロス・フートを御引見になる。同人を通じ、マザー・チャーチよりメリー・ペーカー・エディ著『科学と健康―付聖書の鍵』の献上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、謁見録、外交贈答録、科学と健康

夕刻、天皇と共に御文庫において、福井県及び石川県視察より帰京した崇仁親王と御対面になり、御夕餐を御会食になる。同親王は去る六月二十八日の福井地震の被災地である両県へ天皇の御使として差遣され、この日復命のため参殿した。なお、福井地震につき甚大な被害を受けた両県に対し天皇・皇后から御救恤金があり、同親王が現地にて伝達した。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、重要雑録、賜与録

九日 金曜日 午前十一時四十分御出門、天皇と共に大宮御所に行啓される。皇太后と御対面の後、御昼餐を御会食になり、午後四時三十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、幸啓録、貞明皇后実録正本、官報

十日 土曜日 この日、御料室の名称について、「内廷庁舎御政務室」が「表御座所」に、「御文庫御政務室」が「御書齋」に、「三階の御書齋」が「庁舎御書齋」に改称される。○例規録

十三日 火曜日 天皇と共に御文庫において、北白川房子<sup>明治天皇の皇女</sup>・東久邇稔彦・同夫人聡子<sup>明治天皇の皇女</sup>と御対面になり、御昼餐を御会食になる。北白川始め三名は、昨昭和二十二年七月七日に死去した園祥子

<sup>北白川房子・東久邇聡子の生母</sup>の一周忌終了につき、お礼言上のため参殿した。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌

十五日 木曜日 元内蔵頭岩波武信昨十四日死去につき、この日、天皇・皇后・皇太后より祭糝料を賜う。なお、勅使差遣については辞退の申し出がある。○恩賜録、貞明皇后実録正本

十六日 金曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、元貴族院議員原口初太郎元陸軍中将の拝謁をお受

けになる。この度の拝謁は、来る十九日の米軍第八軍司令官ロバート・ロレンス・アイケルバーガー

陸軍中将の御引見に先立ち、原口が同人と親しいことにより行われる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日

誌、内舍人日誌

午後、講堂にお出ましになり、和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と共に楽部の演奏をお聴きになる。○女官長日記、女官日記、内舍人日誌

十七日 土曜日 皇太子の家庭教師エリザベス・グレイ・ヴァイニングをお招きになり、花蔭亭において天皇及び皇太子・正仁親王・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と共に御夕餐を御会食になる。終わって、お揃いでヴァイニングが撮影した天然色写真の幻灯、及び幼少時の皇太子を撮影した十六ミリ映画を御覧になる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、典式録

十八日 日曜日 元宮内府長官松平慶民この日の早暁死去につき、弔問のため天皇・皇后の御使として侍従徳川義寛が松平邸へ差し遣わされる。また天皇・皇后より霊前に菓子・野菜新宿御苑産の、皇后より

切り花のお供えがある。二十日には、天皇・皇后・皇太后より祭糒及び神饌・榊を賜う。二十一日の葬儀には、天皇・皇后の御使として侍従永積寅彦が葬齋場青山齋場へ差し遣わされる。松平は、大正元年

に侍従となり、式部長官・宗秩寮総裁などを経て、昭和二十一年宮内大臣、翌二十二年宮内府長官に就任し、この年六月まで務めた。○女官長日記、侍従日記、侍従職日誌、省中日誌、恩賜録、重要雑録

十九日 月曜日 午前、天皇と共に表御座所において、東宮大夫穂積重遠より、皇太子の第一学期の

成績についての報告をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、徳積重遠東宮奉仕日録

天皇と共に表拝謁の間において、来る八月四日に離任帰国する米國第八軍司令官ロバート・ロレンス・アイケルバーガー及び同夫人を御引見になる。ついで第一食堂において、天皇と共に午餐を催される。なお、外国人の御陪食は、昭和十九年以来中止されていたが、アイケルバーガーが日本占領の陸上部隊総指揮官であることを考慮し、中止前とは異なる形式を採用の上、この度行われることとなった。同夫妻の離任帰国に当たり、天皇・皇后より賜品がある。また、八月三日には、天皇・皇后より同夫妻に対しこの日撮影の写真を、皇后より夫人に対し花束を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、謁見録、宣召録、典式録、外交贈答録、贈賜録、ロバート・アイケルバーガー文書

二十日 火曜日 午後、天皇と共に御文庫において、元宮内大臣松平恒雄<sup>参議院議長</sup>・同夫人信子の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

この日、国民の祝日に関する法律が公布・施行される。なお、従来、皇室の祭祀と国家の祝祭日とは密接な連関があつたが、この法律は皇室の祭祀と切り離して制定された。○庁規例規朝儀諸綴、例規録、官報、御署名原本、公文類聚

二十一日 水曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午後五時御出門、六時四十五分御用邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、省中日誌、幸啓録、官報

二十二日 木曜日 午前、天皇は御座船に、皇后ははやぶさ丸に御乗船になり、名島方面へお出ましになる。名島にて天皇とお別れの後、皇后はお一方にて、逗子・森戸海岸方面を御回遊になる。途中、はやぶさ丸故障のため、進駐軍の協力を得て、なぎさ丸にて名島にお戻りになる。それより天皇と共に

に、御用邸に還御される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録

二十三日 金曜日 午前、天皇と共に御座船ももにて長者ヶ崎へお出ましになり、天皇の海洋生物御採集に同行される。午後、御用邸にお戻りになる。以後この夏の葉山御滞在中は、しばしば天皇の海洋生物御調査に同行される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録

二十六日 月曜日 正午過ぎ、天皇と共に葉山御用邸附属邸にお出ましになり、宣仁親王始め菊栄親睦会会員及びその家族・親戚と御対面になる。午後にもお一方にてお出ましになり、参加者と記念撮影をされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓書類綴、菊栄親睦会録

二十七日 火曜日 これより先、家庭雑誌『婦人の光』の創刊に当たり、社団法人桜菊会理事長森本光男より皇后の御歌を掲載したい旨の依頼があり、この日、次の御歌をお示しになり、掲載をお許しになる。

をみならのなほくやさしきこころもてすさめる世をもなごめたらなむ

後日、『婦人の光』創刊号に、侍従次長鈴木一の「皇后さまの御日常」と題する一文と共に、女官長の筆により右の御歌が掲載される。○女官長日記、女官日誌、重要雑録、幸啓録、婦人の光

二十八日 水曜日 午後、天皇と共に、元特命全権大使堀内謙介より、米国事情並びに去る六月二日から日本代表として出席した同国ロサンゼルスにおけるMRA<sup>道徳再武</sup>装運動<sup>装運動</sup>十周年記念の世界大会についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、進講録、幸啓録

二十九日 木曜日 天皇と共に葉山御用邸より還啓のため、午後四時三十分御出門、六時四分皇居に到着される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、省中日誌、幸啓録、官報

昭和二十三年八月

三十一日 土曜日 午前、御進講室において、日本赤十字社社長島津忠承の拝謁をお受けになる。島津は来る八月二十日より開催の第十七回赤十字国際会議に出席のため渡欧する。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

午後、天皇と共に御文庫において、沼津より帰京した皇子傳育掛東園基文の拝謁をお受けになる。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌

葉山御用邸に天皇と共に行啓のため、午後四時三十五分御出門、六時十二分御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、官報

## 八月

一日 日曜日 午前、夏目漱石著『坊っちゃん』の輪読会に臨まれる。天皇も御臨席になり、侍従長三谷隆信・侍従次長鈴木一・女官長保科武子ほかが出席する。三日にも輪読会を行われ、続きをお読みになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、入江相政日記

午後、拝謁の間において天皇と共に、連合国最高司令官付軍医D・B・ケンドリック<sup>陸軍中佐</sup>及び同夫人を御引見になる。ついでお茶の席を設けられる。この度の御引見は、同人が来る四日帰国することによる。なお、その帰国に際し、皇后から同夫人に花束を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓書類綴、外交贈答録、贈賜録

二日 月曜日 午後、この日発令の新任の宮内府次長林敬三、前任の宮内府次長加藤進の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓書類綴

三日 火曜日 元帝室会計審査局長官本多猶一郎去る七月三十一日死去につき、天皇・皇后・皇太后より祭染料を、天皇・皇后より盛菓子料を賜う。なお勅使差遣については、辞退の申し出がある。本多は、大正十一年宮内書記官となり、主馬頭・大膳頭等を歴任し、昭和二十年より翌年まで帝室会計審査局長官を務めた。○恩賜録、贈賜録、貞明皇后実録正本

六日 金曜日 天皇と共に、前任の宮内府次長加藤進、及び宮内府長官田島道治・侍従長三谷隆信・侍従次長鈴木一・女官長保科武子をお召しになり、御夕餐を共にされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、

内舍人供奉日誌、葉山行幸啓書類綴

九日 月曜日 午後、沼津から参邸の東宮大夫穂積重遠の拝謁を天皇と共にお受けになる。穂積より皇太子の動静をお聞きになり、また皇太子・正仁親王からの書簡をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、

侍従日誌、葉山行幸啓書類綴、穂積重遠東宮奉仕日録

元皇子傳育官弥富破摩雄去る七月二十三日死去につき、天皇・皇后・皇太后より祭染料を賜う。○恩賜録、貞明皇后実録正本

十五日 日曜日 午後、山階芳麿日本鳥類保護連盟会長の拝謁を、天皇と共にお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍

従日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓書類綴

二十三日 月曜日 天皇と共に葉山御用邸より還啓のため、午後四時三十分御出門になり、六時六分皇居に御到着になる。御出門に先立ち、拝謁の間において天皇と共に、新任の国家地方警察長山崎喜雄ほか一名の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、

内舍人供奉日誌、省中日誌、幸啓録、葉山行幸啓書類綴、官報

昭和二十三年八月

昭和二十三年八月

二十四日 火曜日 午前、表拝謁の間において天皇と共に、日本基督教青年会日本Y M C A 同盟名誉主事ラッ

セル・L・ダーギン北米基督教青年会  
同盟日本駐在代表及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、

内舎人日誌、省中日誌、謁見録、典式録、日本Y M C A史

表御座所において天皇と共に、東宮大夫兼東宮侍従長穂積重遠より沼津御用邸に滞在中の皇太子の動  
静についてお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、穂積重遠東宮奉仕日誌

二十五日 水曜日 午前、表拝謁の間において天皇と共に、先般米国より帰国の引揚援護庁長官斉藤

惣一日本基督教青年  
会同盟総主事の拝謁をお受けになる。斉藤より進講形式にて米国での見聞を種々お聴きになる。斉

藤は、北米基督教青年会北米Y M C A 同盟の招聘により、去る五月から約三箇月米国に滞在し、デトロイト市

での北米Y M C A主事会総会、グランドラピッド市での北米Y M C A同盟年会、ニューヨーク市での

世界青年復興援助委員会に出席し、日本基督教青年会日本Y M C A 同盟の復興援助資金募集等に努めた。○女

官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、典式録、賜与録、斉藤惣一とY M C A、日本Y M C A史

二十六日 木曜日 午前、花蔭亭において元侍従長百武三郎の拝謁をお受けになり、和子内親王の近  
状についてお聞きになる。○女官長日記、女官日誌

二十七日 金曜日 午前、御進講室において、参内の宣仁親王妃喜久子・梨本伊都子と御対面になり、

篤志看護婦人会の解散について言上をお受けになる。なお、去る七月十九日に光輪閣において、同会  
の解散式が会食も兼ねて行われ、日本赤十字社社長島津忠承及び篤志看護婦人会元名誉会員である皇  
族妃や元会長等が参加した。○女官長日記、女官日誌、梨本伊都子日記

二十九日 日曜日 午後、皇居内パレステニスクラブコートに天皇と共にお出ましになり、パレステニスクラブ・朝日新聞社共同主催の第二回全国招待庭球大会に御臨席になる。男子のシングルス模範試合・ダブルス決勝などを御観戦になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、朝日新聞

## 九月

一日 水曜日 この日、墨田区横網の震災記念堂において都内災変遭難者慰霊祭が挙行される。この年は関東大震災二十五周年に当たるため、特に思召しをもって、天皇・皇后・皇太后より慰霊祭主催の財団法人東京都慰霊協会に生花を賜う。○省中日誌、賜与録、貞明皇后実録正本

六日 月曜日 午前、表拝謁の間において天皇と共に、社会福祉事業家ヘレン・アダムス・ケラー<sup>米国人</sup>を御引見になる。和子内親王・厚子内親王・貴子内親王が同席する。ケラーは視覚障害・聴覚障害があるため、御会話はケラーの秘書ポリ・トムソンとの指話法を介して行われる。皇后はケラーのために香をお焚きになり、御引見後、御使用になった銀製香炉・香盒、並びに静岡産煎茶・新宿御苑産花束を同人に賜う。またケラーから天皇・皇后に対し、岩橋武夫著『ヘレン・ケラー伝』・岩橋武夫編『ヘレン・ケラーアルバム』の献上がある。さらに、皇后はケラーに随伴したポリ・トムソンに対しても、その労をねぎらわれ、後日ハンドバッグほかを賜う。これに対し、十月二十四日付にてお礼の書簡が寄せられる。なお、ケラーの来朝を期として、我が国の盲聾啞者や身体障害者の福祉と救護のため種々の事業が実施されるに当たり、去る四日、天皇・皇后・皇太后は御奨励のため、同事業を実施するヘレン・ケラー・キャンペーン委員会に金一封を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職

昭和二十三年九月

日誌、内舍人日誌、省中日誌、謁見録、典式録、外交贈答録、賜与録、贈賜録、貞明皇后実録正本

正午過ぎ、内廷庁舎より御文庫へ還御の途中、花蔭亭前において天皇と共に、法務庁法制長官佐藤達

夫<sup>植物学研究者</sup>の拝謁をお受けになる。○侍従日誌、侍従職日誌

七日 火曜日 午前十一時御出門、天皇と共に大宮御所に行啓される。皇太后と御対面の後、午餐を

御会食になり、午後四時四十二分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日

誌、幸啓録、貞明皇后実録正本、官報

八日 水曜日 午前、表拝謁の間において天皇と共に、文学博士天野貞祐<sup>元京都帝国大学教授</sup>より「人生観につい

て」と題する進講をお受けになる。ついでお茶の席を設けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職

日誌、内舍人日誌、進講録

九日 木曜日 午前、表拝謁の間において天皇と共に、宮内府二級官以上の転退官者の拝謁をお受け

になる。同人たちは、去る五月二十五日に閣議決定した行政整理に関する件に基づき、転退官するこ

ととなったものである。翌日も三階会議室において宮内府三級官以下の転退官者の拝謁を天皇と共に

お受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、典式録、重要雑録、閣議・事務次官

等会議資料

十日 金曜日 午前、皇太后御参内につき、御進講室において御対面になる。その後、旧北御車寄門

内において三陛下お揃いにて、新規採用された婦人皇宮護衛官に御会釈を賜う。去る七月一日、皇宮

警察局は初めて女性の護衛官を採用した。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、

宣召録、幸啓録、貞明皇后実録正本、官報、皇宮警察史

天皇及び皇太后と共に旧本丸馬場にお出ましになり、国際乗馬倶楽部・全国高等学校体育連盟馬術部共同主催の馬術競技会に御臨場になる。学習院対第六高等学校の決勝戦を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、幸啓録、貞明皇后実録正本

**十二日** 日曜日 夕刻、雍仁親王妃勢津子参殿につき、御文庫において天皇と共に御対面になり、御夕餐を御会食になる。この日雍仁親王妃は、昨日の診断により、雍仁親王には腎臓の手術が必要となつた旨を言上する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、秩父宮事務日誌、供御日録、供御録、秩父宮雍仁親王、雍仁親王御事蹟資料

**十五日** 水曜日 全国教育用品協会主催の新学制教育用品展示会並びにアルコール商工懇話会主催のアルコール専売十周年記念アルコール工業展示会を御覧になるため、午前八時五十分御出門、天皇と共に日本橋三越本店に行啓される。十時三十八分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、幸啓録、官報、家庭科教育

宮内府の各部屋の名称について、「三階会議室」を「表三の間」に、「三階談話室」を「表二の間」に、「三階第一食堂」を「表一の間」に、「三階元御歌所室」を「表休所」に改称する。なお表休所は、正式の行事がない場合は、当分の間、第一食堂の代用室として使用されることとなる。十七日、各部署に対して秘書課より通知される。○例規録

**二十日** 月曜日 午前、表拝謁の間において天皇と共に、世界キリスト教連盟キリスト教青年会長老シャーウッド・エディ<sup>米国</sup>人及び同夫人を御引見になる。エディより天皇・皇后に献上品があり、皇后はチョコレートの献上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、謁見録、

昭和二十三年九月

典式録、外交贈答録

二十三日 木曜日 秋季皇靈祭及び同神殿祭につき、女官伊達璋子に御代拝を仰せ付けられる。○女官

長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、典式録、祭典録

二十七日 月曜日 正午、皇太后が御参内につき、御進講室にて御対面になり、さらに表御座所において天皇と共に御対面になり、ついで表拝謁の間において御昼餐を御会食になる。

午後、表三の間において皇太后と共に、日本赤十字社篤志看護婦人会解散につき、その元名誉会員である宣仁親王妃喜久子・崇仁親王妃百合子及び梨本伊都子元総裁ほか元皇族、元同会副会長始め関係者のための茶会に臨まれる。なお、参会者に対し皇后・皇太后から賜品がある。○女官長日記、女官日誌、侍従

日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、宣召録、幸啓録、贈賜録、貞明皇后実録正本、坊城俊良日記、九十年のあゆみ

二十九日 水曜日 この度の台風アイオ台風二十一号のため甚大な被害を受けた長崎県・佐賀県に、この日天皇・皇后より御救恤金が下賜される。○省中日誌、賜与録、贈賜録

中央共同募金委員会が全国における私設社会事業施設の資金造成のため共同募金を実施するに当たり、御奨励の思召しをもって、天皇・皇后・皇太后より同委員会に金員を賜う。○省中日誌、賜与録、貞明皇后実録正本

三十日 木曜日 和子内親王の誕生日につき、午後、同内親王と御対面になる。続いて天皇及び同内親王と共に表拝謁の間において、宮内府長官始め総代、女官長始め女官、元皇后宮女官等の拝賀をお受けになる。ついで天皇と共に表御座所において、元侍従長百武三郎及び同夫人の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

午後、天皇と共に内廷庁舎内の廊下において、エリザベス・グレイ・ヴァイニングの秘書高橋たねに御会釈を賜う。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

## 十月

五日 火曜日 日本新聞協会主催の新聞文化展を御覧になるため、午前八時五十五分御出門、天皇と共に日本橋三越本店に行啓される。展覽会場において協会加盟百三十四社及び外国新聞通信二十五社から出品された新聞文化に関する記録や写真、テレタイプの操作などを御覧になる。また連合国最高司令部が出品した展示の前において、外国新聞関係者に御握手を賜う。十時三十八分還啓される。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、幸啓録、官報

六日 水曜日 午後一時三十分御出門、大宮御所に行啓される。四時三十七分還啓される。○女官長日誌、女官日誌、内舍人日誌、幸啓録、坊城俊良日記

八日 金曜日 社会事業を御視察のため、共同募金の赤い羽根を左の胸に付けられ、午前九時御出門、天皇と共に東京都下の各施設に行啓される。最初に文京区の東京盲学校を御視察になる。次に品川区の東京都立聾啞学校、続いて渋谷区の中央社会館を視察される。御昼食後、目黒区の財団法人愛隣会目黒厚生寮、ついで戦災孤児等の收容施設である世田谷区の財団法人東京育成園を御視察になり、午後三時二十五分還啓される。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、幸啓録、官報

夕刻、御文庫において天皇と共に、宮城県及び岩手県の視察より帰京した崇仁親王と御対面になり、御夕餐を御会食になる。同親王は先般台風二十一号アイオにより甚大な被害を受けた両県に天皇の御使

昭和二十三年十月

として差遣され、この日復命のため参殿した。なお、両県に対し天皇・皇后から御救恤金があり、同親王が現地にて伝達した。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、重要雑録、賜与録、贈賜録

十日 日曜日 この日京都市の宝鏡寺において如大無着尼六百五十年忌法要執行につき、同寺に菓子及び御供養料を賜う。○贈賜録

十一日 月曜日 午前、内廷庁舎において、児島喜久雄美術史家より西洋美術についての進講をお受けになる。以後、十一月八日まで月曜日に、同人より進講をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

午後、旧北御車寄門内において天皇と共に、全国社会事業大会で表彰された社会事業功労者等に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、典式録、賜与録

旧北御車寄門内において天皇と共に、鶏献上の新潟県種鶏場長岡重蔵・同県養鶏農業協同組合長笹川孝助ほかに御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

十三日 水曜日 来る三十日・三十一日に学習院において同院復興バザーが開催されるため、この日、皇太子始め皇族の通学関係により、天皇・皇后は主催する学習院父母会・財団法人学習院に金一封を寄付される。○贈賜録、学習院百年史

十七日 日曜日 神嘗祭につき、女官小倉満子に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録

十九日 火曜日 夕刻、天皇と共に花蔭亭にお出ましになり、御風気のため御延期となっていたお月の宴を催され、侍従長以下側近者と御夕餐を共にされる。終わって喫煙室あるいはベランダにてお

月見をされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

久邇倪子七十歳の誕生日につき、天皇・皇后よりお重の内料理を重箱に詰めた御贈答を賜う。また、皇后より庭のコス

モス等を賜う。○女官長日記、女官日誌、贈賜録

二十日 水曜日 財団法人学習院に対し、皇太子・正仁親王・厚子内親王・貴子内親王の通学に当たり諸費御補助の思召しとして、天皇・皇后より金一封を賜う。○賜与録

二十一日 木曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、日本聖公会総裁主教八代斌助・同東京教区主教蒔田誠・同大阪教区主教柳原貞次郎の拝謁をお受けになる。英国からの帰国挨拶をお受けになり、同国事情等についてお聞きになる。八代以下は、去る五月、同国ロンドン市にて開催された世界

聖公会会議に出席した。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

二十二日 金曜日 午前、表拝謁の間において、参殿の斎藤春子元内閣総理大臣斎藤実夫人の拝謁をお受けになる。○

女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

午後、天皇と共に表拝謁の間において、去る二十日米国より帰国した『リーダーズ・ダイジェスト』

日本版編集長鈴木文史朗より、米国事情についての進講をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、

侍従職日誌、内舍人日誌、進講録

二十三日 土曜日 この日、体育御奨励の思召しをもって、国民体育大会を開催する財団法人大日本体育会に皇后より御紋付トロフィーを賜う。第三回国民体育大会以降、皇后からのトロフィーは女子種目総合得点の優勝都道府県に「皇后杯」として授与されることとなる。○省中日誌、賜与録

二十四日 日曜日 小金井町の東宮御仮寓所に天皇と共に行啓のため、午前十時四十分御出門になる。

昭和二十三年十月

皇太子及び先着の正仁親王・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王、東久邇盛厚・同夫人成子・同子女信彦・文子、さらに遅れて御到着の皇太后と御団欒になり、午後五時五十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、東宮職事務日誌、幸啓録、貞明皇后実録正本、官報

二十六日 火曜日 午後、内廷庁舎において、米国人フローレンス・パウダーメーカーを御引見にする。パウダーメーカーはコロンビア医科大学精神病学会員にして、連合国最高司令官顧問等を務める。

○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、謁見録

御進講室において天皇と共に、川合玉堂の拝謁をお受けになる。その際、川合に絵の揮毫を御依頼になり、賜と真弓、鶏頭花、鍋鶴の三枚の席画を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

二十七日 水曜日 午後、天皇と共に奥三の間において、この日天皇との御昼餐御陪食を終えた社会事業功労者とお茶の席に臨まれ、それぞれより言上をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、宣召録、典式録

二十八日 木曜日 午前、御進講室において、去る十月二日ヨーロッパより帰国した日本赤十字社社長島津忠承の拝謁をお受けになる。ついで天皇と共に表拝謁の間において同人の拝謁をお受けになり、第十七回赤十字国際会議等の視察談をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、御昼餐前、皇太后御参内につき、御進講室において御対面になる。正午、表一の間に天皇及び皇太后と共にお出ましになり、菊栄親睦会会員と午餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、宣召録、典式録、幸啓録、貞明皇后実録正本

二十九日 金曜日 午後、講堂にお出ましになり、和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と共に楽部の演奏をお聴きになる。エリザベス・グレイ・ヴァイニングにも陪席を許される。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

### 十一月

三日 水曜日 午前、御文庫において天皇と共に、この日学習院生徒の修学旅行のため群馬県伊香保に出発する皇太子・正仁親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、省中日誌、幸啓録

六日 土曜日 崇仁親王妃百合子の父高木正得死去につき、弔問のため、女官長を三笠宮邸へ差し遣わされる。八日の葬儀には、天皇・皇后の御使として非公式に侍従徳川義寛が高木邸に差し遣わされる。高木は、去る七月八日遺書を残して失踪し、十一月一日西多摩郡氷川町七ツ石山中にて遺体で見された。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、重要雑録

七日 日曜日 和子内親王・厚子内親王・貴子内親王の招待により、午前、天皇及び皇太子・正仁親王と共に呉竹寮にお出ましになる。御一緒に御昼餐を取られた後、ピンポンなどをして団欒の時を過ごされる。夕刻、天皇と共に御徒歩にて御文庫に還御される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、東宮職務日誌

十二日 金曜日 今般百武三郎の孫が結婚することをお聞きになり、夕刻、御文庫において、和子内親王に伴われ参殿した百武三郎夫人まち子及び同孫の拝謁をお受けになる。その際、同孫にお品を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

十三日 土曜日 午前、御文庫よりお出ましの際、百武三郎及び同孫の拝謁を天皇と共にお受けになる。○侍従日誌

午後、参殿した皇太后御使の皇太后宮大夫坊城俊良より女官長に、昨日をもつて極東国際軍事裁判が終了につき、皇太后より皇后への御機嫌奉伺のお申し入れがある。これを受け、皇后は坊城を通じて皇太后にお礼をお申し入れになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、坊城俊良日記

十五日 月曜日 午後、厚子内親王・貴子内親王と楽部の演奏会にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌

十七日 水曜日 午前、表拝謁の間において京都在住旧堂上華族総代清岡長言の拝謁をお受けになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、贈賜録

午後、表拝謁の間において天皇と共に、俳人富安風生より俳句の季題についての進講をお受けになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録、俳句研究

十九日 金曜日 午前、講堂にお出ましになり、天皇と共に宮内府職員組合文化部及び宮内府絵画部主催の宮内府職員秋季総合美術展覧会を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、省中日誌  
午後、内廷庁舎において、文学博士辰野隆よりフランス文学に関する進講をお受けになる。十一月二十五日及び十二月二日にも同人より進講をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

二十日 土曜日 午前、天皇と共に御文庫において、東久邇盛厚・同夫人成子・同子女信彦・文子と御対面になり、文子の七五三祝いの挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌

二十二日 月曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、松影会会員の拝謁をお受けになり、元宮

内大臣松平恒雄参議院議長よりお札並びに会の現況につきお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職

日誌、内舍人日誌、典式録

二十四日 水曜日 午前、花蔭亭通用門外において、新嘗祭における賢所勤勞奉仕者に天皇と共に御会釈を賜う。この年より、行事等の差し支えがない限り天皇と御一緒に御会釈を賜うようになり、昭和五十九年まで続けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

天皇と共に表一の間において、近く帰国する極東国際軍事裁判国際検事団首席検事ジョセフ・ベリー・キーンナンに午餐の御陪食を賜う。天皇・皇后よりキーンナンに黒地吉野竜田山蒔絵料紙箱を賜う。また米国ハリー・S・トルーマン大統領の息女への贈り物として銀製ボンボニエール鳥甲型を託される。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、謁見録、宣召録、典式録、外交贈答録

二十六日 金曜日 午後、内廷庁舎において、ノラ・ウォーンを御引見になる。この御引見はエリザベス・グレイ・ヴァイニングの推薦による。この御引見の様子は、後日、ウォーンが特派員を務める『サタデー・イブニング・ポスト』誌に同人によって寄稿され、皇后が、米国及び英国での生活について、また英国の国王・王妃の有様などについてお尋ねになり、王妃エリザベスにお目に掛かりたい旨の御希望を述べられたこと、日本人の生活や食料・住宅事情について、昨年九月より日本で暮らすウォーンの所感をお尋ねになったこと、また、日本占領は女性に新しい機会をもたらした旨のお言葉を述べられたことなどが記される。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、謁見録、Saturday Evening Post、静岡新聞

二十八日 日曜日 午前、覆馬場にお出ましになり、天皇及び皇太子の御乗馬の様子を御覧になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

昭和二十三年十二月

正仁親王の誕生日につき、天皇及び正仁親王と共に表拝謁の間において、宮内府長官始め総代、女官長始め女官等の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二十九日 月曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、無教会主義キリスト教伝道者塚本虎二より、内村鑑三の生涯と事蹟についての進講をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内

舍人日誌、進講録、聖書知識

## 十二月

三日 金曜日 午後、義宮御殿にお出ましになり、正仁親王の英語の勉強を御覧になる。○女官長日記、

女官日誌

夜半、侍医塚原伊勢松より、皇太子が盲腸炎のため手術を要することについての言上を天皇と共にお受けになり、これをお許しになる。○侍従日誌

四日 土曜日 昨夜、盲腸炎のため宮内府互助会病院に入院した皇太子は、今暁侍医小島憲による手術を受ける。午前八時、御文庫において天皇と共に、侍医塚原伊勢松より皇太子の容体につき報告をお聞きになる。御朝餐後には天皇と共に、宮内府長官、東宮大夫穂積重遠からも皇太子の様子をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外交贈答録

皇太后御使の皇太后宮大夫坊城俊良の拝謁をお受けになり、皇太子の病状につきお見舞いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、坊城俊良日記

午後三時過ぎ、天皇と共に宮内府互助会病院にお出ましになり、皇太子をお見舞いになる。○女官長日

記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

この日、女子体育御奨励の思召しにより、日本バスケットボール協会に御紋付トロフィーを賜う。同トロフィーは同協会主催の全日本女子バスケットボール総合選手権大会において「皇后杯」として優勝チームに授与されることとなる。○賜与録、贈賜録

五日 日曜日 午前、御文庫において天皇と共に、北白川房子と御対面になり、皇太子の手術につきお見舞いの言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌

御夕食後、御文庫において侍医塚原伊勢松より皇太子のその後の経過をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌

六日 月曜日 来る十日の花園天皇六百年式年祭に先立ち、午前、花園天皇の御学問を主なテーマとする第二十八回図書寮展示会を開催中の宮内府図書寮に天皇と共にお出ましになり、花園天皇の宸翰・宸記などを御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

火災予防週間運動の一環として開催中の皇宮警察局主催展示会を御覧になるため、天皇及び東久邇聡子と共に講堂にお出ましになり、火災予防強化宣伝のためのポスター・標語・川柳等の優秀作品、火災に関する統計表などを御巡覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、濟寧

この日皇太子は宮内府互助会病院を退院し、内廷庁舎御書齋に移転する。これを受け、午後、天皇と共に内廷庁舎の皇太子病室にお出ましになり、皇太子をお見舞いになる。この日より十一日まで毎日、お一方にて、又は天皇と共に皇太子をお見舞いになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌

七日 火曜日 去る四日の皇太子の手術につき、この日、連合国最高司令官ダグラス・マッカーサー

の代理として同副官ロレンス・エリオット・バンカーが宮内府に來訪し、天皇・皇后及び皇太子へのお見舞いを宮内府長官田島道治に伝える。これに対し、同日中に田島長官が連合国最高司令部を訪問し、天皇・皇后及び皇太子のお礼をバンカーに伝える。○外交慶弔録

八日 水曜日 午前、内廷庁舎において、植村環の聖書についての進講をお受けになる。この日は天皇も御一緒にお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

九日 木曜日 翌日の花園天皇六百年式年祭に先立ち、午前、表拝謁の間において天皇と共に、文学博士辻善之助より花園天皇の御事蹟に関する進講をお受けになる。終わって花園天皇の御宸翰等を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録、辻善之助関係資料、辻善之助日記

御進講室において、参殿の久邇侃子と御対面になり、皇太子の病気につき御機嫌奉伺をお受けになる。

○女官長日記、女官日誌

十日 金曜日 午前、花園天皇六百年式年祭につき、侍従職御用掛東貞子に御代拝を仰せ付けられる。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、臨時祭祀録、典式録、祭典録

午後、御進講室において参殿の北白川房子と御対面になり、皇太子の病気につき御機嫌奉伺をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

十一日 土曜日 午後一時五十分御出門、大宮御所に行啓され、皇太后と御対面になる。五時還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、幸啓録

この日東伏見周子の東京邸<sup>常磐松</sup>火災につき、炊き出し用として天皇・皇后より白米ほかを賜う。○女官長

日記、女官日誌、贈賜録、読売新聞

日本赤十字社病院救助収容患者<sup>八百三</sup>・恩賜財団済生会病院救助収容患者<sup>五百八</sup>・財団法人福田会救助収

容患者<sup>五十</sup>に、襦袢地一枚ずつを賜う。○贈賜録、日本赤十字社社史稿

十二日 日曜日 午前、庁舎御書齋において天皇と共に、この日床払いとなり小金井の東宮御仮寓所に還啓する皇太子と御対面になり、先着の和子内親王・厚子内親王・貴子内親王を交えて御団欒になる。なお皇太子の還啓に際し、天皇・皇后より皇太子に万那代料及び<sup>赤</sup>こわご飯を賜う。また床払いに

当たり、天皇・皇后より皇太后に五種交魚代料の御贈進があり、天皇・皇后・皇太子より秩父宮・高松宮・三笠宮・北白川家・東久邇家・久邇家にそれぞれ三種交魚代料を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍

従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮職事務日誌、東宮録

夕刻、義宮御殿に天皇と共にお出ましになり、風気により療養中の正仁親王をお見舞いになる。○侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

十三日 月曜日 午前、表拝謁の間において天皇と共に、東宮御学問顧問の安倍能成・小泉信三・坪井忠二より、今後の皇太子の教育方針につき、それぞれの言上をお聞きになる。その際、皇太子は来年度学習院高等科に進学することなどの報告もお受けになる。言上の場には、宮内府長官・宮内府次長・侍従長・侍従次長のほか、東宮大夫・女官長・東宮侍従角倉志朗・同栄木忠常・東宮職御用掛野村行一も同席しており、正午より表一の間において一同と御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、

侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、宣召録、典式録、穂積重遠東宮奉仕日録、小泉信三日記

午後、宮内府図書館における第二十八回図書館展示会を御覧になった後に参殿された皇太后に、御文

昭和二十三年十二月

庫において天皇と共に御対面になる。ついで参殿の宣仁親王・同妃喜久子・崇仁親王・同妃百合子・和子内親王を加えられ、御夕餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、貞明皇后実録正本、坊城俊良日記

**十四日** 火曜日 午後、表拝謁の間において天皇と共に、小説家長与善郎より清朝初期における欧州文化の東漸の歴史的概況について進講をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録

**十五日** 水曜日 夕刻、賢所御神楽につき御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録

**十六日** 木曜日 正午、旧北御車寄門内において天皇と共に、賢所御神楽における賢所勤勞奉仕者に御会釈を賜う。この年より、行事等の差し支えがない限り天皇と御一緒に御会釈を賜うようになり、昭和五十七年まで続けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

午後、花蔭亭にお出ましになり、同所にて開催の俳句の会に出席中の崇仁親王と御対面になる。ついで宮内府長官等及び富安風生の拝謁をお受けになり、同親王始め出席者の成績をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、入江相政日記

翌十七日から二十三日までの一週間にわたり、各社会事業団体・教化団体等が協力して引揚者及び未帰還者の遺族並びに留守家族を援護するための「引揚援護愛の運動」が全国的に展開されるに当たり、天皇・皇后より厚生大臣に金一封を賜う。○省中日誌、賜与録、贈賜録

翌十七日から二十三日までの一週間にわたり、病苦に悩む引揚者・戦災者その他一般都民を対象とし

て、都下各社会事業団体が協力して歳末無料診療を実施するに当たり、東京都に対し金一封を賜う。

○賜与録、贈賜録

十七日 金曜日 午後、天皇と共に表拝謁の間において、米国聖公会教務院総裁代理の主教ジョン・

B・ベントレー及び同夫人を御引見になる。ベントレーは、米国聖公会員の代表として日本聖公会復興事業視察のため来日した。この御引見は、日本聖公会東京教区主教蒔田誠の推薦による。○女官長日

記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、謁見録、典式録

二十一日 火曜日 午後、御進講室において、エリザベス・グレイ・ヴァイニング及び同姉ヴァイオ

レット・ゴルドン・グレイの拝謁をお受けになる。その際、兩人にお品を賜う。さらにヴァイニン

グには、天皇・皇后からクリスマスに当たつてのお品の賜りがある。また、同姉の来日に際し、ヴァ

イニングに切り花を賜う。○女官長日誌、女官日誌、内舎人日誌、贈賜録

和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と共に講堂にお出ましになり、楽部の演奏をお聞きになる。○

女官長日誌、女官日誌、内舎人日誌

二十二日 水曜日 午後、天皇と共に表拝謁の間において、大谷大学教授鈴木大拙より、思想問題に

ついての進講をお受けになる。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録

この年二月十八日の決定に基づき、歌道御奨励のため向陽会に金一封を賜う。○例規録

二十三日 木曜日 皇太子の誕生日につき、午前、天皇と共に表拝謁の間において、宣仁親王始め皇

族、元皇族・元王族の拝賀を、ついで宮内府長官始め総代、女官長始め女官等、元宮内大臣・元側近

奉仕者の拝賀をお受けになる。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、東宮職務日誌、

昭和二十三年十二月

東宮録、徳積重遠東宮奉仕日録

クリスマスに当たり、天皇・皇后より連合国最高司令官ダグラス・マッカーサー及び同夫人、同子息アーサー、学習院講師レジナルド・ホレイス・ブライスにそれぞれお品を賜う。○贈賜録

二十五日 土曜日 事業御奨励のため、財団法人結核予防会に金一封を賜う。また、日本赤十字社中

央病院補助のため、天皇・皇后より日本赤十字社に金一封を賜う。○省中日誌、賜与録、日本赤十字社社史稿

二十六日 日曜日 午前、御文庫において天皇と共に、雍仁親王妃勢津子と御対面になり、歳末の挨拶をお受けになる。終わって参殿の和子内親王・東久邇盛厚・同夫人成子・同子女信彦・文子を加えられ御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、秩父宮事務日誌

夕刻、御文庫において、この誕生日を迎えた宣仁親王妃喜久子と御対面になり、天皇・皇后より賜わった鮮鯛代料についてのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

二十七日 月曜日 午前、義宮御殿脇において、大正天皇祭における賢所勤勞奉仕者に天皇と共に御会釈を賜う。この年より、行事等の差し支えがない限り天皇と御一緒に御会釈を賜うようになり、昭和五十九年まで続けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

午後、北白川房子、東久邇聡子参殿につき、御文庫において御対面になり、歳末の挨拶をお受けになる。途中より天皇も御同席になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌

御夕餐後、御文庫において天皇と共に、宣仁親王・同妃喜久子・崇仁親王と御対面になる。その際、去る七月三十一日付にて日本赤十字社総裁を辞任した宣仁親王に、皇后が万那料及びお品をお贈りに

なる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

二十八日 火曜日 御文庫において天皇と共に、皇太后と御対面になり、ついで御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、貞明皇后実録正本

二十九日 水曜日 午前、表拝謁の間に天皇と共に御出され、皇太子御使の東宮大夫、ついで宮内府長官始め総代、女官長始め女官等より歳末の祝詞言上をお受けになる。さらに同間において梨本守正及び同夫人伊都子より歳末の挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、

典式録、穂積重遠東宮奉仕日録

午前十一時三十分御出門になり、天皇と共に大宮御所に行啓される。御到着後、皇太后に歳末祝詞の御挨拶を述べられ、ついで御昼餐を御会食になる。終わって、参殿の和子内親王を加えられ、団欒の時間を過ごされる。午後四時三十三分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、

省中日誌、幸啓録、典式録、貞明皇后実録正本、官報

三十日 木曜日 午前、御文庫において天皇と共に、参殿の久邇侘子・同朝融、ついで東伏見周子より歳末の挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

午後、内廷庁舎へお一方にてお出ましの際、北御車寄御門前において竹田恒徳及び同夫人光子と御対面になり、歳末の挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

三十一日 金曜日 午前、御文庫に侍従長三谷隆信をお召しになり、同人に、今般米寿を迎えた牧野伸頭<sup>元内大臣</sup>への賜物として皇后御染筆の大正天皇御製詩の軸物ほかを託される。○女官長日記、女官日誌

午後、御文庫において天皇と共に、今井浜にて過ごす皇太子の許より帰京の東宮侍従栄木忠常の拝謁

昭和二十三年十二月

をお受けになり、皇太子の動静をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌  
御文庫において、皇太后御使の皇太后宮女官高松千歳子の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌  
夕刻、御文庫において天皇と共に、参殿の宣仁親王・同妃喜久子・崇仁親王と御対面になり、歳末の  
挨拶をお受けになる。終わって女官長始め女官より、歳末の祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女  
官日誌、侍従日誌、内舎人日誌

昭和二十四年（西曆一九四九年） 四十六歳

一月

一日 土曜日 天皇と共に新年拝賀に臨まれる。午前、表拝謁の間において、皇族、元皇族・元王公族、内閣総理大臣・参議院議長等の拝賀をお受けになる。ついで表一の間において、一級宮内官及び同夫人・二級宮内官・二級皇宮護衛官の拝賀をお受けになる。また新年拝賀の前後に、天皇と共に宮内府長官始め侍従長その他、皇太子不参のため参内の東宮使柴木忠常<sup>東宮職事、  
務主管</sup>、元側近奉仕者の拝賀をお受けになる。なお、午後の内廷庁舎<sup>旧侍  
医寮</sup>屋上よりの参賀者への御会釈には、天皇のみが出御される。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、儀式録、典式録、東宮職事務日誌、官報

二日 日曜日 午前、天皇と共に御文庫において、元皇族より新年の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

天皇と共に御文庫において、正仁親王と御昼餐を御会食になる。以後、この年も皇太子始め皇族・御親族としばしば御対面・御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌

三日 月曜日 午前、元始祭につき、賢所・皇霊殿・神殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、恒例祭祀録、省中日誌

午前、天皇と共に表拝謁の間において、伏見博明始め未成年の元皇族より新年の拝賀をお受けになる。

ついでお一方にて、エリザベス・グレイ・ヴァイニング<sup>皇太子家  
庭教師</sup>を御引見になり、新年の祝詞言上をお

受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

午後、天皇と共に表拝謁の間において、東伏見周子<sup>故依仁  
親王妃</sup>・北白川祥子<sup>故永久  
王妃</sup>・伏見朝子<sup>故博義  
王妃</sup>・久邇侘子

<sup>御</sup>母より新年の拝賀をお受けになる。続いて、この日誕生日を迎えた宣仁親王、及び新年の拝賀のため

参内の北白川房子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、贈賜録

五日 水曜日 天皇と共に御文庫において、御参殿の皇太后とお祝御膳を御会食になる。その後、宣

仁親王妃喜久子も交え御歓談になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、省中日誌、

貞明皇后実録正本

六日 木曜日 午前十一時二十分御出門、天皇と共に大宮御所に行啓され、皇太后とお祝御膳を御会

食になる。午後四時十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、省中日誌、

貞明皇后実録正本、官報

七日 金曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、雍仁親王妃勢津子と御対面になり、新年の祝

詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、秩父宮事務日誌

天皇と共に表拝謁の間において、この度国立国会図書館へ転出の元東宮侍従角倉志朗の拝謁をお受け

になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録、官報

天皇と共に表拝謁の間において、元皇后宮女官等より新年の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、

侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

午後、天皇と共に表拝謁の間において、宮内府次長林敬三より英国ウインザー公エドワードの著作 *The*

*Story of the Education of a Prince* 英国王子教育の物語 を題材とした進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

八日 土曜日 午後、天皇と共に御文庫において、この日伊豆より還啓の皇太子、葉山御用邸附属邸より帰京の正仁親王、沼津御用邸西附属邸より帰京の和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と御対面になる。ついで花蔭亭にお出ましになり、御夕餐を御会食になる。エリザベス・グレイ・ヴァイニング、同姉ヴァイオレット・ゴールドン・グレイに御陪食を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、幸啓録、東宮職務日誌、皇太子の窓

十日 月曜日 天皇と共に御文庫において、皇太后及び宣仁親王・同妃喜久子と御夕餐を御会食になる。その後、正仁親王・厚子内親王・貴子内親王も加わり、昨年英国ロンドン市で開かれた第十四回オリンピック競技大会の天然色映画等を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、省中日誌

十一日 火曜日 東園栄子 御父邦彦 王の姉 去る九日死去につき、同日より九十日 第一期二十日、第二期七十日 服喪される。また、この日の多喜子内親王 明治天皇第十皇女 五十年式年祭における侍従職御用掛東貞子による御代拝をお取りやめになる。なお、天皇・皇后より同内親王墓所に榊をお供えになる。

午後、御文庫において、皇太后の御使として参殿の皇太后宮女官長清水谷英子から東園死去につき御機嫌伺いをお受けになる。同人の死去に際して、天皇・皇后・皇太后より祭糒料を賜う。また皇后よ

り霊前に切り花・菓子を賜う。十四日の葬儀には、皇后宮御使として侍従職御用掛竹屋志計子を差し遣わされ、拝礼させられ、色花・果物・菓子をお供えになる。さらに十五日初七日につき、御使の侍従職御用掛東貞子を通じて、霊前に野菜・乾麺を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、贈賜録、皇親録、

貞明皇后実録正本

十二日 水曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午前十時八分御出門、十一時三十三分同邸に御到着になる。なお御出発に先立ち、天皇と共に御文庫において、皇太后の御使として参殿の皇太后宮大夫坊城俊良の拝謁をお受けになる。この年も、折に触れ、参内した皇太后御使の拝謁をお受けになり、また、天皇・皇后あるいは皇后から大宮御所に御使を遣わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、

侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、省中日誌、葉山行幸啓書類綴、幸啓録、官報

十三日 木曜日 御夕餐後、元侍従武官平田昇の拝謁をお受けになる。以後、この年も随時、元奉仕者の拝謁等がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、葉山行幸啓書類綴

十八日 火曜日 午前、エリザベス・グレイ・ヴァイニングより英語の進講をお聴きになる。御昼餐は天皇と共にヴァイニングと御会食になる。その後、天皇と共に、皇太子の教育等についてヴァイニングとお話しになる。なお、この年皇后は、火曜日又は木曜日に同人の進講をしばしばお聴きになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓書類綴、幸啓録、皇太子の窓

二十日 木曜日 午後、天皇と共に拝謁の間において、対日理事会議長ウィリアム・ジョセフ・シールト及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓書類綴、謁見録、

幸啓録、省中日誌、日本占領外交の回想

二十二日 土曜日 午後二時天皇と共に葉山御用邸を御出門、三時三十分皇居に還啓される。○女官長

日記、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人供奉日誌、内舎人日誌、省中日誌、葉山行幸啓書類綴、幸啓録、官報

二十四日 月曜日 この日除喪され、午前十時、天皇と共に表一の間において歌会始の儀に臨まれる。

この年のお題は「朝雪」にて、皇后宮御歌は次のとおり。

#### 皇后宮御歌

あさひかけうらゝにさしてみほりへの松のこすゑのゆきそかゝよふ

終わって旧北御車寄門内において預選者の拝謁をお受けになる。なお翌二十五日午前、天皇と共に表拝謁の間において、選者、選者助手の拝謁をそれぞれお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、儀式録、典式録、歌会始録、例規録、省中日誌、皇親録、官報

二十五日 火曜日 元内大臣牧野伸顕この日死去につき、天皇・皇后より弔問使として侍従徳川義寛を牧野邸に差し遣わされる。去る十四日には、危篤につき天皇・皇后・皇太后より侍従村井長正・侍医西野重孝を牧野邸に差し遣わされ、病氣お尋ねとして葡萄酒を賜う。二十七日には天皇・皇后・皇太后より祭資及び神饌・榊を、天皇・皇后より菓子を、皇后より切り花を賜う。二十八日、告別式当日に当たり、午前、牧野邸へ天皇・皇后・皇太后より柩前使として侍従永積寅彦を差し遣わされ、玉串をお供えになる。午後、告別式場の青山斎場に皇后宮使として侍従山田康彦を差し遣わされ、拝礼させられる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、賜与録、重要雑録、省中日誌、貞明皇后実録正本

二十六日 水曜日 御結婚満二十五年をお迎えになる。御祝儀につき、除喪される。午前、賢所皇靈殿神殿の儀が行われ、併せて大正天皇山陵の儀が行われる。天皇・皇后より侍従入江相政を多摩陵大正天皇

陵に差し遣わされ、御代拝を仰せ付けられる。

天皇と共に表拝謁の間において、宮内府長官始め部局長等、侍従長始め侍従職一・二級官の拝賀を、ついで同所において御成婚当時奉仕の側近高等官の拝賀を、続いて講堂において宮内府職員・皇宮警察職員の拝賀をお受けになる。その後表拝謁の間において、皇族・元皇族・元王公族の拝賀をお受けになる。またほかに、常磐会代表松平信子その他の拝賀をお受けになる。終わって表御座所において、皇太后と御対面になる。

午後、天皇・皇太后と共に表一の間において、皇族・元皇族・元王公族との内宴に臨まれる。その後表二の間・表三の間において、御成婚当時奉仕の側近高等官ほかに茶を賜う。ついで天皇・皇太后及び皇太子・正仁親王・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王、東久邇盛厚・同夫人成子と共に花蔭亭において、側近奉仕者による余興を御覧になる。御夕餐は、御文庫においてお祝御膳を御会食になる。なお、天皇・皇后の御使として、侍従長三谷隆信を大宮御所に差遣され、皇太后に鮮鯛代料等を、侍従職御用掛竹屋志計子を久邇家に差遣され、久邇侁子に鮮鯛代料等を、それぞれ御贈進になる。また、天皇・皇后より侍従永積寅彦を豊島岡墓地の邦彦王<sup>御</sup>墓所に差し遣わされ、御代拝を仰せ付けられる。その節、菓子・果物をお供えになる。さらに、天皇・皇后より皇太子・正仁親王・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王、元皇族の各家及び御親族に鮮鯛代料をそれぞれ賜う。また皇太子・正仁親王・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王より天皇・皇后にお祝いの鮮鯛目録の贈進がある。天皇・皇后より皇大神宮及び豊受大神宮に幣帛料・神饌料をそれぞれお供えになる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、

侍従職日記、内舍人日記、典式録、儀式録、臨時祭祀録、祭典録、重要雑録、名誉総裁御就任等関係、省中日誌、皇親録、東宮職事

二十七日 木曜日 邦彦王二十年式年祭に当たり、午前、御文庫において女官長始め女官の御機嫌伺いをお受けになる。この日、靈殿並びに墓所へ侍従職御用掛竹屋志計子を差し遣わされ、拝礼させられる。また、靈殿に菓子・果物を、墓所に菓子を、写真に切り花・菓子を供えになる。なお皇后は御服喪中のため、御代拝は適宜の時刻に式外の拝礼として行われ、またお供えの品も祭典終了後に式外の扱いとして供えられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、贈賜録

二十八日 金曜日 この日除喪され、午前十時、天皇と共に表一の間において講書始の儀に臨まれる。

国書は日本芸術院会員柳田国男より「富士と筑波 常陸風土記の一節」、漢書は同長谷川万次郎如是より

「礼」、洋書は東京大学教授伝染病研究所長田宮猛雄より「リツケツチアに関する研究」と題する

進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、儀式録、典式録、講書始録、省中日誌、

皇親録、官報

二十九日 土曜日 午前、御文庫において久邇侁子及び同朝融御兄と御対面になり、一昨日の邦彦王二十年式年祭のお仕向けに対するお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

## 二月

四日 金曜日 午前、内廷庁舎において、加藤虎之亮文学博士より漢文の進講をお聴きになる。この年は金曜日に同人より、孟子等に関する進講を計十九回お聴きになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、贈賜録、

昭和二十四年二月

加藤虎之亮関係資料

五日 土曜日 夕刻、天皇及び皇太子・正仁親王と共に呉竹寮にお出ましになり、和子内親王・厚子内親王・貴子内親王による御結婚満二十五年のお祝いの内宴に臨まれる。東久邇盛厚・同夫人成子も交え御会食になる。終わって、同寮奉仕者全員による余興を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、

侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、東宮職事務日誌

九日 水曜日 午前、内廷庁舎において、植村環日本基督教女子青年会会長より聖書についての進講をお聴きになる。

この年は水曜日に同人より、聖書等に関する進講を計十九回お聴きになる。○女官長日記、女官日誌、贈賜録

夕刻、天皇と共に御文庫において、御参殿の皇太后、皇太子・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王・東久邇盛厚・同夫人成子ほかと米国映画「愛の調べ」を御覧になる。その後、御夕餐を御会食になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、幸啓録、貞明皇后実録正本

十日 木曜日 午前、内廷庁舎において、法政大学教授谷川徹三よりゲートルについての進講をお聴きになる。十七日、二十四日にも、同人よりゲートル作『ファウスト』についての進講をお聴きになる。

○女官長日記、女官日誌

十一日 金曜日 午前、御文庫において、北白川房子神宮祭主の拝謁をお受けになり、紀元節の日に当たつての御機嫌伺い、及び翌十二日伊勢へ出発につき暇乞いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌

宜仁親王初誕辰につき、天皇・皇后より三笠宮に五種交魚代料を、宜仁親王に鮮鯛代料を賜う。○女官

長日記、女官日誌、侍従職日誌、贈賜録

十二日 土曜日 午後、呉竹寮にお出ましになり、厚子内親王・貴子内親王のピアノの稽古を御覧になる。以後、しばしば呉竹寮にお出ましになり、内親王方の、元別当工藤壮平元山階宮付の指導による書道、神戸絢の指導によるピアノの稽古を御覧になる。また、御自身も折に触れて稽古をされる。○女官長日記、女官日誌、贈賜録

十四日 月曜日 午後一時三十分御出門、大宮御所に行啓され、皇太后と御対面になる。四時四十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、幸啓録、新聞発表綴、貞明皇后実録正本

十五日 火曜日 午後、天皇と共に賢所通用門外において、法務総裁から表彰される全国少年保護団体代表者等に御会釈を賜う。法務行政長官佐藤藤佐より挨拶をお受けになり、天皇に続き、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、省中日誌、宣召録

十六日 水曜日 夕刻、花蔭亭にお出ましになり、崇仁親王、侍従入江相政、水原秋桜子ほかが参加の俳句の会に臨まれる。○女官長日記、女官日誌、入江相政日記

十八日 金曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午前十時御出門、十一時三十分同邸に御到着になる。午後、小磯における天皇の海洋生物御採集に同行される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓書類綴、幸啓録、例規録

二十日 日曜日 午後二時天皇と共に御出門、三時三十二分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓書類綴、幸啓録

二十三日 水曜日 午前、御文庫において、伊勢より帰京の北白川房子神宮祭主の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

昭和二十四年三月

二十四日 木曜日 去る十六日に山梨県南都留郡小立村にて発生した火災により甚大な被害が生じたため、天皇・皇后より同県に御救恤金を賜う。○賜与録、省中日誌

二十五日 金曜日 午後、御文庫において、翌日付で転出となる東宮大夫穂積重遠の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、官報、穂積重遠東宮奉仕日録

二十六日 土曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、小泉信三の拝謁をお受けになる。小泉は、東宮教育の重要事項につき常時参与を仰せ付けられる。その後お一方にて、新任の東宮大夫野村行一・前任の東宮大夫穂積重遠の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、贈賜録、小泉信三日記

二十八日 月曜日 午前、御進講室において、侍従入江相政より『源氏物語』の進講をお聴きになる。

この年はお一方又は内親王方と共に同人より、『源氏物語』、和歌等に関する進講をしばしばお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、贈賜録、入江相政日記

この月 大聖寺・宝鏡寺・曇華院・林丘寺・光照院・三時知恩寺・円照寺・水薬師寺・長福寺・中宮寺・法華寺・善光寺に対し、恒例により乾海苔料を賜う。○贈賜録

### 三月

一日 火曜日 天皇と共に東京都内社会事業施設を御視察のため行啓される。午前九時四十分御出門、東京都養育院、東京都中央児童相談所、小石川授産場を御視察になる。ついで恩賜財団母子愛育会を御訪問になり、御到着の際に同会総裁の崇仁親王妃百合子のお出迎えをお受けになる。所内を御視察

になり、同所において御昼餐の後、崇仁親王妃と御対面になり、同所を御出発になる。続いて世光寮児童養護施設及び財団法人あそか会あそか病院を御慰問になる。午後二時四十八分還啓される。○女官長日記、侍

従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、幸啓録、官報、神の国をめざして

二日 水曜日 貴子内親王の誕生日につき、午前、天皇及び貴子内親王と共に表拝謁の間において、宮内府長官始め総代、女官長始め女官等の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

去月二十日に秋田県能代市にて発生した火災により甚大な被害が生じたため、天皇・皇后より同県に御救恤金を賜う。○賜与録、省中日誌

三日 木曜日 天皇と共に表一の間において、新東宮大夫野村行一・前東宮大夫穂積重遠、東宮教育担当の参与小泉信三に御昼餐の御陪食を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、穂積重遠最高法官日記、小泉信三日記

六日 日曜日 満四十六歳のお誕生日を迎えられる。

この日除喪され、午前、表拝謁の間において、皇族、元皇族・元王族、衆議院議長・参議院議長等並びに以上の者の夫人の拝賀をお受けになる。続いて表一の間において、一級宮内官並びにその夫人、二級宮内官、二級皇宮護衛官の拝賀をお受けになる。またこの日、表拝謁の間において宮内府長官・同次長・侍従長始め侍従職の一級官・二級官の拝賀、同所において元皇后宮大夫ほかの拝謁、御進講室において元皇后宮女官・御学友の拝謁等を、それぞれお受けになる。

午後、天皇及び皇太子・正仁親王・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と共に花蔭亭にお出ましに

なり、侍従永積寅彦による手品など、側近奉仕者による皇后お誕生日奉祝の余興を御覧になる。○女官

長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、儀式録、典式録、例規録、贈賜録

七日 月曜日 御風気のため御飯床に就かれる。十日まで御静養になり、この日の厚子内親王の誕生

日の拝賀や、翌日のナイオン・タツカー<sup>実業家</sup>及び同夫人御引見へのお出まし等をお取りやめになる。○

女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、謁見録

十一日 金曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午後二時御出門、三時三十分同邸に御到着に

なる。○女官長日記、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓書類綴、幸啓録、省中日誌

十八日 金曜日 一時御帰京のため、午後二時天皇と共に葉山御用邸を御出門、三時三十分皇居に還

啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓書類綴、省中日誌、幸啓

録

十九日 土曜日 学習院女子部学芸会を御覧になるため、午前九時四十分御出門、大宮御所に立ち寄

られ、皇太后と共に学習院女子部に行啓される。和子内親王・厚子内親王・貴子内親王のお出迎えを

お受けになった後、学習院長安倍能成の先導にて便殿に入られ、安倍院長・女子高等科長金子彦二郎・

女子中等科長土手重雄・初等科戸山校主任堀米次の拝謁をお受けになる。その後会場に臨まれ、合唱

等の発表を御覧になる。便殿において御昼餐の後、陳列室にて美術・書道等の成績品を御覧になり、

続いて校舎を御巡覧になる。再び会場にお出ましになり、ヴァイオリン独奏等の発表を御覧になる。

大宮御所にお立ち寄りの後、午後二時五十二分還啓される。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、幸啓録、貞明

皇后実録正本

再び葉山御用邸に行啓のため、天皇及び正仁親王と共に三時十五分御出門、四時四十五分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、省中日誌

二十二日 火曜日 午前、天皇及び、御用邸に滞在中の皇太子・正仁親王と共に御出門、黒崎における海洋生物御採集に同行される。夕刻還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓書類綴、皇親録

天皇・皇后より財団法人学習院に対し、維持経営のため金員を賜う。○賜与録、省中日誌、皇室經濟會議録、

#### 公文類聚

二十三日 水曜日 午後二時天皇及び正仁親王と共に葉山御用邸を御出門、三時二十六分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓書類綴、省中日誌、幸啓録

二十四日 木曜日 午前十時二十分御出門、天皇と共に日本放送協会の放送会館に行啓される。各スタジオ、主調整室等を御巡覧になり、十一時三十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、省中日誌、官報、日本放送史、日本放送協会報

夕刻、天皇と共に御文庫において、皇子傳育掛東園基文より正仁親王の成績についてお聞きになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二十五日 金曜日 正午過ぎ、天皇と共に御文庫において、東宮大夫野村行一より皇太子の成績についてお聞きになる。○侍従日誌

二十六日 土曜日 行啓につき、除喪される。午前九時二十五分御出門、天皇と共に学習院女子部に行啓される。便殿において伏見朝子の拝謁をお受けになった後、同院卒業式に臨席され、皇太子及び

昭和二十四年三月

厚子内親王への卒業証書授与を御覧になる。また、高等科・中等科の卒業証書授与及び高等科卒業生のうち優等者に対する下賜品授与をそれぞれ御覧になる。十一時四十五分還啓される。この日、皇太子は中等科を、厚子内親王は女子高等科をそれぞれ卒業する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、皇親録、省中日誌、官報、学習院百年史

皇太子・厚子内親王の卒業につき、御文庫において、天皇及び皇太子・正仁親王・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王とお祝いの御夕餐を御会食になる。これに先立ち、お一方にて御文庫において、お祝いのため参殿した元内親王傅育掛の塘ミツ・大迫セイの拝謁をお受けになる。なお、天皇・皇后より、皇太子・厚子内親王それぞれに万那料及びお祝いの品を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮職事務日誌、供御日録、東宮録

二十七日 日曜日 天皇と共に御文庫において、翌日より沼津御用邸西附属邸に行啓の皇太后と御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、贈賜録、貞明皇后実録正本

二十八日 月曜日 午後一時十五分御出門、天皇と共に東京音楽学校に行啓され、創立七十周年記念演奏会に御臨席になる。四時三十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、幸啓録、官報、東京芸術大学百年史

二十九日 火曜日 天皇と共に表一の間において、皇太子の教育に関わった参与の安倍能成<sup>学習院長</sup>・小泉信三・坪井忠二、東宮職御用掛の武内義雄・杉村欣次郎・諸橋轍次・久松潜一・小谷正雄・児玉幸多、学習院教授猿木恭経に午餐の御陪食を賜う。御食後、表三の間において、陪食者より皇太子の教育につき種々お聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮職事務日誌、典式録、宣召録

三十日 水曜日 午前、天皇と共に御文庫において、この度新潟医科大学へ転出する皇太后宮侍医鳥飼童生の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

御文庫において、忌明けのお礼言上のため参殿の牧野伸通故牧野伸  
顯嗣子の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

## 四月

二日 土曜日 第一回日本花道展覧会を御覧になるため、午前十時御出門、東京都美術館に行啓される。各流七十四席の生花を、草月流家元勅使河原蒼風及び各作者の説明にて御巡覧になる。十一時四十分還啓される。○女官長日記、内舎人日誌、幸啓録

東久邇成子の内着帯につき、天皇・皇后より東久邇稔彦・同夫人聡子に三種交魚代料を、皇后より東久邇盛厚・同夫人成子に三種交魚代料をそれぞれ賜う。なお、天皇・皇后と皇太后の間にもお祝い品等の御贈答がある。○女官長日記、贈賜録、貞明皇后実録正本

四日 月曜日 神奈川県足柄下郡仙石原村において挙行される愛林日記念植樹式に御臨場、及び沼津御用邸西附属邸に行啓のため、午前十時二十分天皇と共に御出門になる。東京駅より御乗車、小田原駅にて御降車、それより自動車にて仙石原愛林日記念植樹式場に向かわれる。道中、風祭付近において下車され、沿道にて奉迎の国立箱根療養所入所者に御会釈を賜い、戦傷による障害者を御慰問になる。御着後、お野立所付近を御展望になり、それより式に臨まれ、森林愛護連盟会長徳川宗敬の介添えにて、天皇に続き、ヒノキの苗三本をお手植えになる。終わって芦ノ湖に向かわれ、湖尻渡船場よ

昭和二十四年四月

り元箱根渡船場まで発動船にお乗りになる。ついで箱根離宮跡において御少憩の後、午後四時二十分沼津御用邸西附属邸に到着される。その後、御滞在中の皇太后と御対面になる。この日は、同附属邸に御宿泊になる。○女官長日記、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、沼津御用邸西附属邸日誌、省中日誌、貞明皇后実録正本、官報

**五日 火曜日** 午前九時十分天皇と共に沼津御用邸西附属邸を御出門、秩父宮別邸駿東郡御殿場町に行啓される。雍仁親王・同妃勢津子のお迎えをお受けになった後、別邸内の綿羊放牧場等にて御一緒に過ごされる。午後二時三十三分天皇と共に同邸を御出発、御殿場駅より東京駅を経て、五時五分皇居に還啓される。○女官長日記、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、省中日誌、沼津御用邸西附属邸日誌、秩父宮事務日誌、貞明皇后実録正本、官報

**八日 金曜日** 午前、天皇と共に花蔭亭において、松影会宮内省・宮内府元部局長以上の親睦会会員の拝謁をお受けになる。

○女官長日記、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

午後、天皇と共に御文庫において雍仁親王妃勢津子と御対面になり、先日の御殿場の秩父宮別邸への行幸啓につきお礼言上をお受けになる。○女官長日記、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、秩父宮事務日誌

**十一日 月曜日** 午前、御文庫において、関西地方への旅行からこの日帰京の皇太子・正仁親王と御対面になる。○女官長日記、新聞発表綴

**十二日 火曜日** 天皇と共に、エリザベス・グレイ・ヴァイニング及び学習院講師レジナルド・ホレイス・ブライスをお招きになり、表一の間において午餐の御陪食を賜う。東宮教育担当の参与小泉信三、東宮大夫野村行一・元皇后宮職御用掛松平信子その他も出席する。○女官長日記、侍従日誌、侍従職日誌、

内舎人日誌、宣召録、典式録

十三日 水曜日 夕刻、天皇と共に旧本丸西貝塚の発掘現場にお出ましになり、発掘状況を御覧になる。五月二日午後、天皇と共に再度同所へお出ましになる。○女官長日記、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、重要雑録

十四日 木曜日 午前、表拝謁の間において、新任の皇宮警察本部長藤田次郎及び前任の皇宮警察本部長木村行蔵の拝謁をお受けになる。○女官長日記、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌

天皇と共に表拝謁の間において、この度米国より帰国の一柳米来留<sup>ウィリアム・メレル・ヴォーリズ</sup>及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宣召録、典式録、省中日誌

十五日 金曜日 午後、天皇と共に花蔭亭にお出ましになり、久邇家主催の御結婚満二十五年奉祝音楽会に御臨席になる。皇太子・正仁親王・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王、久邇侷子・同朝融・東久邇成子・大谷光暢・同夫人智子<sup>御妹</sup>ほかに参加する。○女官長日記、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

十六日 土曜日 葉山御用邸に行啓のため、天皇・正仁親王と共に午前十時五分御出門、十一時三十分同邸に到着される。午後、昨日より葉山に滞在中の和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と共に鮫島へお出ましになり、海洋生物を採集される。○女官長日記、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓書類綴、幸啓録、省中日誌

この度国際基督教大学建設のため、同大学建設後援会に対し、天皇・皇后より金員を賜う。○賜与録、省中日誌

十七日 日曜日 午後、天皇及び正仁親王の御採集に同行され、笠島方面へお出ましになる。○女官長

昭和二十四年四月

日記、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓書類綴、幸啓録

十八日 月曜日 午後二時天皇と共に葉山御用邸を御出門、三時三十五分皇居に還啓される。○女官長

日記、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓書類綴、省中日誌、幸啓録

二十一日 木曜日 午前、内廷庁舎において、文学博士野上豊一郎より能についての進講をお聴きになる。翌月六日、十三日にも同人の進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

二十四日 日曜日 菊栄親睦会主催の銀婚式奉祝春季大会に御臨席のため、午前十一時二十五分御出門、天皇と共に高松宮邸並びに光輪閣に行啓される。同宮邸に御着後、雍仁親王妃勢津子・宣仁親王・同妃喜久子と御昼餐を御会食になる。続いて光輪閣に移られ、皇太子・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王等と御対面になり、会員及びその家族等の拝謁をお受けになる。その後、邸内中庭における学習院初等科生徒ほかの運動会の催し等を御覧になる。午後四時三十分還啓される。○女官長日記、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、省中日誌、菊栄親睦会録

二十五日 月曜日 午前、表拝謁の間において、この度帰米する教育長等講習会の講師ドロテア・F・

サリヴァン 米国ワシントン市国立カソリック社会事業学校行政官 及び同マーガレット・トオイ 全アメリカ・ガール・スカウト連盟本部長 を御引見になる。両人は、

本邦ガール・スカウト結成への尽力等、女子教育に貢献した。○女官長日記、内舎人日誌、謁見録

二十六日 火曜日 午後、花蔭亭において宣仁親王妃喜久子と御対面になり、去る二十四日の行幸啓についてのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、内舎人日誌

甯子内親王着袴につき、天皇・皇后より三笠宮に五種交魚代料を、甯子内親王に鮮鯛代料及び御台人形代料をそれぞれ賜う。○女官長日記、侍従職日誌、贈賜録

二十九日 金曜日 天皇誕生日につき、午前、御進講室において、宮内府長官始め総代、皇族・元皇族・元王公族の拝謁をお受けになる。またこの日、女官長始め女官等の拝謁をお受けになる。夕刻、天皇及び皇太子・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王、東久邇盛厚・同夫人成子と共に花蔭亭にお出ましになり、側近奉仕者による奉祝の催しを御覧になる。皇后御自身も、内親王三方と共に「聖寿無窮」等を合唱される。○女官長日記、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、儀式録、典式録、省中日誌

## 五月

三日 火曜日 午前十一時御出門、天皇と共に皇居前広場に行啓され、日本国憲法施行記念式典に御臨場になる。十一時三十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、省中日誌、官報

四日 水曜日 天皇と共に東京都内の社会事業施設を御視察になる。午前九時三十五分御出門、東京都大原寮（傷痍者保護対策事業の一環として昨年設立）、国立東京第二病院、財団法人浴風会浴風園（関東大震災後に生活扶助施設及び医療保護施設として設置）を御訪問になる。

同所において御昼食の後、国立東京光明寮、同胞援護会東京都支部武蔵野母子寮を御訪問になる。午後三時五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、省中日誌、官報

六日 金曜日 午前、表拝謁の間において、米国基督教女子青年会（Y.W.C.A.）全国委員会理事ハーパー・シブレー夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録

八日 日曜日 午後、内廷西玄関前において、日比谷公会堂にて開催された「母の日」大会（東京都主催） 参会

昭和二十四年五月

者約三千名に御会釈を賜う。代表者から挨拶と花束をお受けになり、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、宣召録、読売新聞

九日 月曜日 午前九時三十分天皇と共に御出門、多摩陵に行啓され、天皇に続き御拝礼になる。終

わつて、林業試験場浅川支場に立ち寄られ、裏山を散策される。また、標本室を御覧になる。午後四

時三十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、省中日誌、臨時祭祀録、官報

十一日 水曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕始の儀を行われる。○女官長日記、女

官日誌、侍従日誌、内舎人日誌

十二日 木曜日 午後、和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と共に講堂において、楽部による洋楽

演奏をお聴きになる。特別出演の伊東昭子によるピアノ独奏等も鑑賞される。エリザベス・グレイ・

ヴァイニングほか陪聴する。○女官長日記、女官日誌

十三日 金曜日 午前九時三十四分御出門、天皇と共に東京都美術館に行啓され、第三回美術団体連

合展覧会毎日新聞社主催を御鑑賞になる。午後零時三分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内

舎人日誌、幸啓録、省中日誌、官報

十四日 土曜日 午前九時御出門、天皇と共に日本貿易博覧会神奈川県・横浜市共催の神奈川会場神奈川県反町に行啓され、

各貿易館及び外国館内に展示された各種工業品を始め、農林水産物その他資料類を御巡覧になる。午

後零時十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、省中日誌、官報

十七日 火曜日 午前、皇太子と共に御文庫において、九州巡幸に御出発の天皇をお見送りになる。

なお、正仁親王・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王も天皇の御出発前に御機嫌伺いのため参殿す

る。○女官長日記、女官日誌、省中日誌、官報

午後、内廷庁舎において、ガントレット恒日本基督教婦人矯風会会頭より社会事業についての進講をお聴きになる。○

女官長日記、女官日誌

十八日 水曜日 日本赤十字社において挙行の親授式並びに第五十七回通常総会に名誉総裁として御臨席のため、午前十時二十五分御出門、同社に行啓される。御着後、便殿において厚生大臣代理葛西嘉資厚生次官・東京都知事安井誠一郎・日本赤十字社社長島津忠承・同副社長伊藤謹二の拝謁をお受けになる。それより式場に出御され、親授式に臨まれる。社長の挨拶の後、有功章受章者総代二名・特別社員章受章者総代四名に各章を御親授になる。続いて通常総会に移り、社長による開会の辞に続き、次の令旨を賜う。

日本赤十字社の第五十七回の通常総会に当つて、社員のみなさんにひとこと申しのべたいと思  
います。

終戦このかたほとんど四年になりますが国民のたゆまない努力と世界各国の理解ある援助によつて、わが国も各方面にわたつて、復興のきざしを見せてきましたが、前途には、まだ幾多の困難が予想されます。ことに、家庭に病人のある方や、夫を亡くした方、また、最近の引揚者の方や、不慮の災害にあつた方たちの生活のことを思うと、お気の毒に堪えません。

わたくしは、こういう時代にこそ、赤十字は真にその使命達成のために、活動しなければなら  
ないと思ひます。みなさんも、いろいろと困難がありましようが、ほかの社会事業団体ともよく  
協力して、どうかこういふ方たちに、温かな愛の手をさし延べ、みんなで明るい社会生活ができ

昭和二十四年五月

るようになして上げて下さい。

赤十字の事業も一年、一年と盛んになって来ましたが、お互の努力でこの日本に、楽しい社会と平和な国とを早く作りあげたいものです。そしてまた、各国の赤十字とも、いよいよ親密になつて、全世界の赤十字の力で、人類の幸福に貢献したいものであると思ひます。

社長の奉答の後、便殿に入御される。ついで総裁室において、連合国最高司令部公衆衛生福祉局・米国赤十字等の関係者を御引見になる。その後玄関前広場において記念撮影をお受けになり、十一時三十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、幸啓録、事業年報（日本赤十字社）

午後、紅葉山御養蚕所にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌

去る十日に古平郡古平町にて発生した火災により甚大な被害が生じたため、天皇・皇后より北海道に御救恤金を賜う。○賜与録

十九日 木曜日 午後、呉竹寮において、和子内親王・厚子内親王・貴子内親王、並びに御台人形を拝観のため参寮のエリザベス・グレイ・ヴァイニング、同姉ヴァイオレット・ゴルドン・グレイ及び高橋たねヴァイニングの秘書と茶菓を共にされる。○女官長日記、女官日誌

二十一日 土曜日 午後、御文庫において雍仁親王妃勢津子と御対面になり、来る二十四日、日本赤十字社神奈川県支部社員総会並びに親授式に御名代として御差遣につき御沙汰を賜う。二十四日、同妃より復命をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

二十四日 火曜日 午前、内廷庁舎においてエリザベス・グレイ・ヴァイニングより英語の進講をお聴きになつた後、同人を紅葉山御養蚕所に御案内になる。○女官長日記、女官日誌

二十八日 土曜日 常磐会総会に御臨席のため、午後零時四十分御出門、学習院初等科に行啓される。御着後、和子内親王・厚子内親王・貴子内親王、元皇族のお出迎えをお受けになり、常磐会会長松平信子の先導にて便殿に入られる。その後、御到着の皇太后と御対面になる。また、北白川房子・東久邇聡子・北白川祥子の拝謁をお受けになる。それより式場にお出ましになり、合唱、謡曲、ピアノ独奏等の催しを御覧になる。途中の休憩の際には、便殿において久邇倂子と御対面、東伏見周子・梨本伊都子・伏見朝子の拝謁をお受けになり、皇太后、和子内親王・厚子内親王、元皇族と茶菓を召される。またその前後に、御同級生、元女子学習院長その他に御会釈を賜う。催しの後、同校新校舎を御覧になり、皇太后と共に御発、午後四時五分大宮御所にお立ち寄りになる。御夕餐を御会食になり、八時四十分還啓される。なお行啓の節、皇后・皇太后より常磐会に金一封を賜う。○女官長日記、女官日誌、

幸啓録、新聞発表綴、行啓録、貞明皇后実録正本

三十日 月曜日 午前、内廷庁舎において、法政大学教授谷川徹三より茶道についての進講をお聴きになる。翌月六日、十日にも、同人より茶道の進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌

三十一日 火曜日 御文庫において、御参殿の皇太后と御昼餐を共にされる。その後、皇太后とお揃いにて紅葉山御養蚕所にお出ましになり、有泉善三<sup>御養蚕奉仕者</sup>の説明にて養蚕の様子を御覧になる。終わって、同所竣工より三十五年相当につき、皇太后と共に同所前のお庭において、有泉・皇太后宮大夫坊城俊良・侍従次長鈴木一・皇太后宮女官長清水谷英子・女官長保科武子にお茶の御相伴を仰せ付けられる。なお、有泉に対し、皇后から御養蚕所製一越縮緬等を賜う。○女官長日記、女官日誌、供御日録、貞明皇后実録正本

元別当鳥巢玉樹去る二十一日死去につき、天皇・皇后・皇太后より祭料を賜う。鳥巢は、大正十三年より翌年まで東宮職御用掛を、昭和十三年より二十年まで伏見宮付別当を務めた。○恩賜録、貞明皇后  
実録正本

六月

一日 水曜日 この日、国家行政組織法の施行に伴い、宮内府法及び宮内府法施行令等が改正され、宮内府は宮内庁として新たに発足する。宮内府法・宮内府法施行令は、宮内庁法・宮内庁法施行令に改められる。また、総理府設置法の施行により、宮内庁は総理府の外局となる。この改正により、旧来の式部寮・図書寮・主殿寮・京都地方事務所の呼称は式部職・書陵部・管理部・京都事務所に、同じく宮内府長官・宮内府次長・宮内府長官秘書官は宮内庁長官・宮内庁次長・宮内庁長官秘書官に、宮内府事務官・宮内府技官は総理府事務官・総理府技官に、式部頭・図書頭・主殿頭は式部官長・書陵部長・管理部長にそれぞれ改められる。なお、従前の部局及び職員は、この日より別途に辞令を用いることなく宮内庁法に基づく相当の部局及び職員に移行し、従来との同一性をもって存続することとなる。○例規録、官報、連合国軍関係職員表

二日 木曜日 去る五月三十日に夕張市にて発生した火災により甚大な被害が生じたため、天皇・皇后より北海道に御救恤金を賜う。○賜与録、省中日誌

三日 金曜日 午後、花蔭亭において、宣仁親王妃喜久子、伏見朝子・賀陽敏子・東久邇聡子・閑院直子、李方子に茶を賜う。その後、お揃いにて表三の間において、日本美術協会展覧会五月十七日から三十一日まで銀座三越に

おいて  
開催 に出陳された作品のうち二十一点を、同協会理事秋山光夫の説明により御覧になる。○女官長日記、

女官日誌、重要雑録

五日 日曜日 学習院輔仁会運動大会を御覧になるため、午後零時四十五分御出門、学習院<sup>白目</sup>に行啓される。輔仁会会長安倍能成<sup>学習院院長</sup>の先導にて運動会場テント内に進まれ、内親王方のお出迎えをお受けになる。それより学習院教授猿木恭経ほかの説明にて、皇太子・正仁親王出場の種目等を御覧になる。途中からは皇太后も同席される。終わって校舎に入られ、皇太子の教室等を御覧になる。五時二十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、幸啓録、新聞発表綴、行啓録、皇親録、貞明皇后実録正本

六日 月曜日 午後、和子内親王・厚子内親王と共に花蔭亭にお出ましになり、お招きの崇仁親王妃百合子、東久邇成子・北白川祥子・竹田光子・桃山佳子と茶菓をお召し上がりになる。○女官長日記、女

官日誌

七日 火曜日 午前十一時二十分御出門、雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子・崇仁親王妃百合子の招きにより高松宮邸に行啓され、御昼餐を御会食になる。午後四時三十分還啓される。○女官長日記、

女官日誌、幸啓録、新聞発表綴

八日 水曜日 手工芸展覧会<sup>手工芸教育研究会、手工芸協会主催</sup>を御覧になるため、午後二時御出門、大宮御所にお立ち寄りになり、皇太后と共に東京都美術館に行啓される。同展覧会会長野田俊作<sup>参議院議員</sup>の先導にて進まれ、同

展覧会総委員長岡登貞治の説明により、第一室から第六室まで刺繍・袋物・編物等の作品を御巡覧になる。また、坂野敏子の指導による九重織、青木武の指導によるペインテックス、玉置智重子の指導

昭和二十四年六月

による紹刺の実演を御覧になる。大宮御所にお立ち寄りの後、四時四十五分還啓される。○女官長日記、

女官日誌、幸啓録、皇親録、貞明皇后実録正本

九日 木曜日 午前、表拝謁の間において、カナダ合同教会婦人伝道協会総主事S・R・コーテスを御引見になる。○女官長日記、女官日誌、謁見録、外交贈答録

十二日 日曜日 夜、皇太子・正仁親王・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と共に御文庫において、九州巡幸より還幸の天皇をお出迎えになる。○女官長日記、女官日誌、官報

十八日 土曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午前十時御出門、十一時三十分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓書類綴、幸啓録、省中日誌、

官報

二十日 月曜日 午後二時天皇と共に葉山御用邸を御出門、三時三十分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓書類綴、幸啓録、省中日誌、官報

二十二日 水曜日 天皇と共に御文庫において、御参殿の皇太后と御昼餐をお召し上がりになる。なお御会食に先立ち、天皇の九州巡幸からの還幸及び皇太后の長野県行啓からの還啓につき、それぞれ御機嫌伺いの挨拶が交わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、貞明皇后実録正本

二十三日 木曜日 午前、内廷庁舎において、伊勢より帰京の北白川房子神宮祭主の拝謁をお受けになる。

○女官長日記、女官日誌

二十五日 土曜日 午前、御進講室において、この日お誕生日につき御参内の皇太后と御対面になる。

ついで表御座所に移られ、天皇を交え御対面になる。なお、この年より皇太后誕生日の諸儀式は、大

宮御所が手狭であり、かつ旧赤坂離宮も国立国会図書館として利用されていることなどの理由により、皇居において行われる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、典式録、儀式録、幸啓録、贈賜録、貞明皇后実録正本

二十六日 日曜日 午後、天皇と共に内廷庁舎において開催の菊栄親睦会に臨まれる。余興として表三の間における石田天海及び同夫人その他の奇術を御覧になり、ついで表一の間において会員と茶菓をお召し上がりになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、菊栄親睦会録

二十八日 火曜日 正午御出門、天皇と共に大宮御所に行啓される。新築完成の謁見所にて皇太后と御対面になり、ついで御昼餐を御会食になる。後刻、崇仁親王も参殿する。午後四時四十分還啓される。なお大宮御所謁見所新築につき、天皇・皇后から皇太后に万那料等を御贈進になる。皇太后からは、天皇・皇后に万那料が贈られる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、幸啓録、貞明皇后実録正本

## 七月

一日 金曜日 午前、天皇と共に花蔭亭通用門外において、前日の大祓の儀等における賢所勤勞奉仕者に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

この度台風二号<sup>デラ</sup>により甚大な被害を受けた鹿児島県・宮崎県・福岡県・大分県・愛媛県に対し、天皇・皇后より御救恤金を賜う。○賜与録、省中日誌

四日 月曜日 天皇と共に花蔭亭において、この度侍従職御用掛を退任した寺崎英成及び同夫人グエ

昭和二十四年七月

ンをお召しになり、御昼餐の御陪食を賜う。なお、皇后より一時帰米の夫人に対し、この日友禪縮緬を、また別以後日花束等を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

六日 水曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕納の儀を行われる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌

午後、皇太子、和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と共に講堂において、楽部による演奏、原智恵子によるピアノ独奏等をお聴きになる。宣仁親王・同妃喜久子、李垠・同夫人方子、エリザベス・グレイ・ヴァイニングほか陪聴する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、省中日誌

七日 木曜日 午前、天皇と共に旧北御車寄門内において、有泉善三<sup>御養蚕奉仕者</sup>及び助手四名に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

九日 土曜日 午後、御文庫において久邇侁子と御対面になり、風気療養中のお仕向けに対するお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

十一日 月曜日 御夕餐後、天皇・宣仁親王・同妃喜久子と共に御文庫において、九州巡幸の映画のほか、日本赤十字社社長島津忠承の説明により第十七回赤十字国際会議<sup>昨年八月スウェーデン国ストックホルムにおいて開催</sup>の映画を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、読売新聞

十二日 火曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午前十時三分御出門、十一時三十分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、省中日誌、葉山行幸啓書類綴、

幸啓録

十四日 木曜日 午前、天皇と共に、国際赤十字会議去る四月よりスイス国ジュネーブにおいて開催に出席した大使館参事官朝海

浩一郎より「赤十字条約改正に関する国際会議より帰来て」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓書類綴、朝海浩一郎日記、読売新聞

十六日 土曜日 午後、天皇及び皇太子この日参邸の海洋生物御採集に同行され、鮫島にお出ましになる。

この夏の御用邸御滞在中も、天皇の御採集にしばしば同行される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、省中日誌、葉山行幸啓書類綴、幸啓録

十八日 月曜日 午前、東伏見周子の拝謁をお受けになり、病氣お尋ねに対するお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓書類綴

二十二日 金曜日 一時御帰京のため、午前八時天皇と共に葉山御用邸を御出門、九時三十一分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、省中日誌、葉山行幸啓書類綴、幸啓録

天皇と共に御文庫において、元侍従長百武三郎の拝謁をお受けになる。昨年五月より百武邸に居住の和子内親王が、去る十八日呉竹寮へ帰還したこと、及び修養経過の概略につき説明をお聞きになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、百武三郎日記

天皇と共に御文庫において、東宮教育担当の参与小泉信三及び東宮大夫野村行一の拝謁をお受けになり、皇太子の成績についてお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

昭和二十四年度日本選手権水上競技大会に御臨場のため、午後四時四十七分御出門、天皇と共に明治神宮プールに行啓される。先着の宣仁親王・同妃喜久子・崇仁親王妃百合子と共に開会式及び各種競

昭和二十四年七月

技を御覧になる。六時四十六分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、幸啓録、官報

天皇と共に御文庫において、御参殿の皇太后と御夕餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、幸啓録、貞明皇后実録正本

二十三日 土曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午前八時御出門、九時三十分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓書類綴、幸啓録、省中日誌

二十九日 金曜日 午後五時天皇と共に葉山御用邸を御出門、六時三十分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、省中日誌、葉山行幸啓書類綴、幸啓録、例規録

東久邇成子第二男子出産につき、この日、天皇・皇后より皇太后に五種交魚代料を、東久邇盛厚・同夫人成子に三種交魚代料及び菓子を、東久邇稔彦・同夫人聡子に三種交魚代料を御贈進になり、皇后より久邇侷子に三種交魚代料を御贈進になる。また、皇太后より天皇・皇后に五種交魚代料が贈られる。この日誕生した男子は、八月四日に秀厚ひでひこと命名される。命名当日に際し、天皇・皇后より皇太后に五種交魚代料を、東久邇稔彦・同夫人聡子に三種交魚代料を、東久邇盛厚・同夫人成子に鮮鯛代料・清酒・白羽二重等を、東久邇秀厚に鮮鯛代料・産衣を、久邇侷子に三種交魚代料を御贈進になる。また、皇太后より天皇・皇后に五種交魚代料が贈られる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、葉山行幸啓書類綴、贈賜録、貞明皇后実録正本

三十日 土曜日 午前、明治天皇例祭につき、皇靈殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録

午後、花蔭亭において、中宮寺門跡の一条尊昭の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

夕刻、天皇と共に御文庫において、東久邇聡子及び東久邇盛厚・同子女信彦・文子の拝謁をお受けになり、成子の安産並びにお仕向けに対するお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍

従職日誌、内舍人日誌

三十一日 日曜日 午前、天皇と共に宮内庁病院にお出ましになり、一昨日男子を出産した東久邇成子をお見舞いになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

再び葉山御用邸に行啓のため、午前八時十分天皇と共に御出門、九時三十五分同邸に御到着になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓書類綴、幸啓録

## 八月

六日 土曜日 午前、元日本YWCA同盟委員長辻まつより、米国の婦人についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、葉山行幸啓書類綴

十一日 木曜日 来る十三日東本願寺門司教会福岡県門司市及び小松町公園愛媛県周桑郡小松町において台風二号デラにより沈没した青葉丸の遭難者合同慰霊祭川崎汽船株式会社主催を執行につき、この日天皇・皇后より運輸大臣にお花料を

賜う。○賜与録、省中日誌

十三日 土曜日 午前、木戸ツル元内大臣木戸幸一夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、葉山行幸啓書類綴

十八日 木曜日 夕刻、天皇と共に、宮内庁長官田島道治・参与東宮教首担当小泉信三・東宮大夫野村行一の

昭和二十四年九月

拝謁をお受けになり、皇太子が軽井沢町のエリザベス・グレイ・ヴァイニングの滞在先を訪問した模様などにつきお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓書類綴

二十三日 火曜日 午前九時二十分葉山御用邸を御出門、天皇の海洋生物御採集に同行され、海路にて浜諸磯に御到着になる。御昼餐は東京大学理学部附属海実験所においてお召しになり、その後天皇が御採集の間、皇后は海上保安庁所属艇にて城ヶ島沖を遊覧される。五時御帰邸になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓書類綴

二十八日 日曜日 午後五時天皇と共に葉山御用邸を御出門、六時三十分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、省中日誌、葉山行幸啓書類綴、幸啓録

## 九月

一日 木曜日 この度台風九号ジュディにより甚大な被害を受けた佐賀県・鹿児島県・宮崎県・福岡県・長崎県に対し、天皇・皇后より御救恤金を賜う。○賜与録、省中日誌

二日 金曜日 午前、表拝謁の間において、新任の宮内庁管理部長塚越虎男及び前任の管理部長大場茂行の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

三日 土曜日 天皇と共に花蔭亭において、今般渡米の大谷光暢及び同夫人智子と御昼餐を御会食になる。大谷夫妻はこの月五日渡米し、十一月二十一日に帰国する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録、読売新聞

五日 月曜日 午前、天皇と共に旧北御車寄門内において、全米水上選手権大会昨月米國ロサンゼルス市にて開催に参加し

た日本選手団一行に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、宣召録、典式録

九日 金曜日 午前、御進講室において日本赤十字社社長島津忠承の拝謁をお受けになり、「日本赤十字社の事業の現況」についての説明をお聴きになる。その後、旧北御車寄門内において、過日米国赤十字社より日本赤十字社へ寄贈された救急自動車を同人の説明にて御覧になる。○女官長日記、女官日誌、宣召録

午後、天皇と共に御文庫において、第二男子出産後初めて参殿の東久邇成子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

十日 土曜日 午前、御文庫において、昨九日に誕生日を迎えた雍仁親王妃勢津子と御対面になる。

○女官長日記、女官日誌、贈賜録

この度台風十号キティ台風により甚大な被害を受けた東京都・神奈川県・群馬県・千葉県に対し、天皇・皇后より御救恤金を賜う。○賜与録、省中日誌、新聞発表録

十二日 月曜日 宇治橋造替竣工につき、神宮大宮司に天皇・皇后・皇太后より金一封を賜う。皇大神宮入口の五十鈴川に架かる宇治橋は、これまで神宮式年遷宮の際に造替しており、この年の遷宮の延期に伴い宇治橋造替も延期とされたが、腐朽破損が甚だしいため、式年遷宮と切り離してこの年実施される。○賜与録、省中日誌、庁規例規朝儀諸綴、貞明皇后実録正本

十三日 火曜日 天皇と共に御文庫において、御参殿の皇太后と御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、幸啓録、贈賜録、貞明皇后実録正本

昭和二十四年九月

十四日 水曜日 午前、天皇と共に表御座所において、伊勢より帰京の北白川房子神宮祭主の拝謁をお受け

になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

正午過ぎ、表拝謁の間において、去る十日退官の元女官伊達璋子ほかの拝謁をお受けになる。○女官長

日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

十六日 金曜日 午後、天皇と共に御文庫において、御参殿の皇太后、及び和子内親王・厚子内親王と英国映画「ハムレット」を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、

幸啓録、貞明皇后実録正本

十八日 日曜日 午後零時五十分御出門、天皇と共に横浜市野毛山プールに行啓され、第四回国民体育大会夏季水泳大会を御覧になる。四時五十三分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、

内舎人日誌、省中日誌、幸啓録、官報、日本体育協会五十年史

二十三日 金曜日 午前、秋季皇霊祭及び同神殿祭につき、女官小倉満子に御代拝を仰せ付けられる。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、恒例祭祀録、祭典録

二十四日 土曜日 午後三時二十五分御出門、天皇及び皇太子・正仁親王と共に日比谷公園ドウルツトル運動場に行啓され、第一回全日本ボーイスカウト大会を御覧になる。四時二十八分還啓される。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、東宮侍従日誌、東宮職事務日誌、幸啓録、官報、日本ボーイスカウト運動史、昭和天皇とボーイスカウト運動

来る十月一日より昭和二十四年度国民たすけあい共同募金運動を実施する財団法人中央共同募金委員会に、天皇・皇后・皇太后より金一封を賜う。○賜与録、省中日誌、新聞発表綴、貞明皇后実録正本

二十六日 月曜日 午前、天皇と共に内廷庁舎屋上にお出ましになり、東京上空を旋回する米国パン・

アメリカン航空所属の世界最大級の旅客機<sup>ボーイング三七七ス</sup>トラトクルーザー<sup>ボーイング三七七ス</sup>を御覧になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、

内舎人日誌、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞

午前、天皇と共に表拝謁の間において、東久邇盛厚・同夫人成子、及び初参内の同子息秀厚と御対面になる。秀厚初参内につき、天皇・皇后より東久邇稔彦・同夫人聡子に三種交魚代料、東久邇盛厚・同夫人成子に五種交魚代料、東久邇秀厚に御所人形代料及び鮮鯛代料を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

二十七日 火曜日 午前十一時五十分御出門、天皇と共に大宮御所に行啓され、皇太后と御昼餐を御会食になる。午後四時五十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、幸啓録、貞明皇后実録正本

三十日 金曜日 和子内親王の誕生日につき、午後、天皇及び和子内親王と共に表拝謁の間において、宮内庁長官始め総代、女官長始め女官、元侍従長百武三郎及び同夫人ほかの拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

## 十月

二日 日曜日 午後、天皇及び和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と共に皇居内のパレステニススコートにお出ましになり、第三回全国招待庭球大会<sup>パレステニスクラブ</sup>を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従

日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録

昭和二十四年十月

五日 水曜日 午後、天皇と共に表拝謁の間において、国際ロータリー会長パーシー・ホッチソン及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、謁見録、典式録、外交贈答録

六日 木曜日 夕刻、天皇と共に花蔭亭において、天皇の御著書『相模湾産後鯉類図譜』出版のお祝いを兼ねたお月見の催しに臨まれ、侍従長三谷隆信始め側近奉仕者と御夕餐を共にされる。御食後、侍従による詩吟や手品等の余興を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、入江相政日記

十日 月曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、法政大学教授谷川徹三より「小泉八雲について」の進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録

十三日 木曜日 午後、天皇と共に表一の間において、菊栄親睦会会員と茶菓をお召し上がりになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、菊栄親睦会録

十五日 土曜日 午後、和子内親王・厚子内親王と共に旧主馬寮広場の覆馬場にお出ましになり、馬術競技を御覧になる。皇太子が琴平競技、毬投競技に出場する。○女官長日記、女官日誌

十七日 月曜日 午前、神嘗祭につき、御文庫において神宮を御遙拝になる。続いて賢所において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、典式録、省中日誌

十九日 水曜日 社会事業施設御視察のため、天皇と共に東京都区内並びに神奈川県横浜市内に行啓される。午前九時三十分御出門、品川民生館隣保事業、附保育園、子供の家機恵子寮を御視察になる。それより神

奈川県へ向かわれ、神奈川県庁において御昼食を取られた後、ララ倉庫日興物、産倉庫、財団法人横浜訓盲院、

財団法人神奈川県乳児保護協会、恩賜財団済生会神奈川県病院を御視察になる。午後三時四十七分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、省中日誌、官報

二十日 木曜日 午前九時御出門、天皇と共に日本橋三越本店に行啓され、「日本の資源計画展示会」連合国最高司令部天然資源局・経済安定本部資源調査会・朝日新聞社共催 を御覧になる。十一時十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、幸啓録、官報、朝日新聞

午後、天皇と共に表拝謁の間において、旧堂上会理事長鷹司信輔ほか同会役員の拝謁をお受けになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

二十一日 金曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、昨年五月より自邸に和子内親王をお預かりしていた元侍従長百武三郎及び同夫人の拝謁をお受けになる。なお和子内親王は去る七月十八日呉竹寮に帰寮した。本月二十四日には、天皇と共に花蔭亭において、同夫妻と御昼餐を共にされる。天皇・皇后より百武三郎に金員を、夫妻それぞれにお品を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、贈賜録、百武三郎日記

午後、御進講室において、日本芸術院会員吉田文五郎<sup>文楽人形遣い</sup>の拝謁をお受けになり、文楽人形の操り方の説明をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、宣召録

二十三日 日曜日 学習院初等科運動会を御覧になるため、午後零時五十分御出門、大宮御所にお立ち寄りになり、皇太后と共に学習院初等科に行啓される。学習院長安倍能成の先導にて運動場テント内に進まれ、正仁親王・和子内親王・厚子内親王、北白川房子ほかの同席にて、貴子内親王出場の種目等を御覧になる。大宮御所にお立ち寄りの後、四時十二分還啓される。○女官長日記、女官日誌、幸啓録、

昭和二十四年十月

行啓録、貞明皇后実録正本

二十五日 火曜日 天皇と共に表一の間において、天皇が御陪食を賜うこととなった日本赤十字社社長島津忠承ほか社会事業中央団体の代表者との午餐の席に臨まれる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宣召録、典式録、省中日誌

二十六日 水曜日 御進講室において北白川房子神宮祭主と御昼餐を御会食になり、神宮に関する復命をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌

来る二十八日の陽成天皇千年式年祭に先立ち、午後、天皇と共に表拝謁の間において、文学博士辻善之助より陽成天皇の御事蹟についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録、辻善之助関係資料、辻善之助日記

二十七日 木曜日 午前、表拝謁の間において、京都在住旧堂上華族総代梅園篤彦の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、贈賜録

二十八日 金曜日 午前、陽成天皇千年式年祭につき、女官東貞子に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、臨時祭祀録、典式録、祭典録、贈賜録

大聖寺において、如大無着尼大聖寺尼門跡開山六百五十年忌並びに同寺第七世古鑑光院覚鎮宮後柏原天皇皇女四百年忌の法要をこの日から三日間にわたり奉修につき、同寺に対し、各法要に当たり菓子・御供養料をそれぞれ賜う。○贈賜録

三十日 日曜日 午後四時三十分御出門、天皇と共に明治神宮外苑東京ラグビー場に行啓され、第四回国民体育大会秋季大会開会式に御臨場になる。六時五分還啓される。なお、天皇・皇后お揃いによ

る同大会開会式御臨場は、この日をもって嚆矢とする。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、幸啓録、官報、国民体育大会の歩み

三十一日 月曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、国際友和会IFOR会長ジョン・ネヴィン・セイヤー及び同夫人を御引見になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、謁見録、省中日誌

## 十一月

三日 木曜日 人形文化資料展覧会を御覧になるため、午後零時四十五分御出門、大宮御所に立ち寄られ、皇太后と共に国立国会図書館に行啓される。館長金森徳次郎の先導にて二階演劇場に進まれ、和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と御対面の後、八王子車人形日高川入相花王及び阿波人形浄瑠璃傾城阿波鳴門、巡礼歌之段を御覧になる。一旦御休所に入られ、館長・副館長・館幹部の拝謁をお受けになる。ついで廊下において人形浄瑠璃関係者に御会釈を賜い、展覧会場に移られる。東久邇成子と御対面の後、各時代及び各地方の人形を御覧になる。途中からは、宣仁親王妃喜久子が随従する。またこの日、人形美術の功労者等にも御会釈を賜う。皇太后と共に御発、大宮御所に立ち寄られ、後刻到着の三内親王及び宣仁親王妃を交え御歓談になる。五時三十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、幸啓録、貞明皇后実録正本、読売新聞

四日 金曜日 午前、天皇と共に旧北御車寄門内において、全日本健康優良児童表彰会朝日新聞社主催特選児童等に御会釈を賜う。会長長谷部忠朝日新聞社社長より挨拶をお受けになり、天皇より男子児童及び付添いの父

昭和二十四年十一月

兄並びに教師へ、皇后より女子児童へ、それぞれお言葉を賜う。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宣召録、省中日誌、朝日新聞

五日 土曜日 お茶の水女子大学において挙行の創立七十五周年並びに同大学開学記念式に御臨席のため、午前八時四十五分御出門、同大学に行啓される。御着後、玄関内にて文部大臣高瀬荘太郎、学校幹部等の奉迎を、便殿において学長野口明<sup>元侍</sup>の拝謁をお受けになる。ついで式場にお出ましになり、君が代合唱、学長式辞に続き、次のお言葉を賜う。

今日この式典に臨んで親しく皆さんにお会いすることが出来ましたことを誠に喜ばしく思います。

本校が過去七十五年の長い間女子教育に多大の貢献をした事は世のひとしく認める所であります。

この由緒深い伝統を生かし、新しい時代に即し女子最高の学府として益々輝かしい成果を挙げよう望んでやみません。

文部大臣、学生生徒児童幼児総代、卒業生総代の各祝辞等の後、御退場になり、便殿に入御される。同所において、英国詩人ブランデン及び同夫人、C I E 女子高等教育課員ホスプ、同バットを御引見になり、ついで元校長三名の拝謁をお受けになる。それより学芸会場にお出ましになり、附属中学校生徒による管楽合奏その他を御覧になる。便殿に入御され、卒業生として出席の北白川祥子ほかの拝謁をお受けになる。その後展覧会場にお出ましになり、同大学に関する資料等を御覧になる。十一時五十七分還啓される。○女官長日記、女官日誌、幸啓録

六日 日曜日 午後、天皇及び皇太子・正仁親王・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と共に旧主馬寮馬場にお出ましになり、宮内職員懇親運動会を御覧になる。天皇・皇后・皇太后より同運動会に、賞品費として金一封を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

七日 月曜日 午前十一時二十八分御出門、天皇と共に大宮御所に行啓される。先着の宣仁親王・同妃喜久子・崇仁親王妃百合子、東久邇成子のお出迎えをお受けになり、皇太后と御昼餐を御会食になる。御食後、天皇・皇太后・宣仁親王妃・崇仁親王妃と共に紅葉を賞でながらお庭を御散策になり、また大宮御所職員による賀茂競馬・仕度競争等の余興を御覧になる。午後五時三分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、省中日誌、貞明皇后実録正本

八日 火曜日 午後、天皇と共に旧北御車寄門内において、全国社会事業大会にて表彰の社会事業功労者等に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宣召録、省中日誌

九日 水曜日 午前、天皇と共に花蔭亭において、文学博士和辻哲郎・文部技官石田茂作国立博物館  
陳列課長・文

部事務官原田治郎・同原田淑人をお招きになり、日本古代の文化財に関する座談会形式の進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録

午後、天皇と共に表拝謁の間において、石川欣一サン写真新  
聞社社長より、エドワード・シルヴェスター・モース

明治十年大森貝塚を発掘した米国の動物学者の日本に関する業績についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録、サン写真新聞

十一日 金曜日 午前八時三十分御出門、天皇と共に東京都美術館に行啓され、崇仁親王と御対面の

昭和二十四年十一月

後、御一緒に第五回日本美術展覧会を御覧になる。正午還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍

従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、省中日誌、官報

午後、御進講室において横河下枝の拝謁をお受けになり、同人の謡曲「俊寛」及び「蟬丸」をお聴きになる。○女官長

日記、女官日誌

十四日 月曜日 午前九時二十分御出門、天皇と共に国立博物館に行啓され、先着の久邇朝融・同邦

昭御と御一緒に正倉院特別展を御覧になる。十一時五十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、

侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、省中日誌、官報、東京国立博物館百年史

十五日 火曜日 午前九時三十分天皇と共に御出門、多摩陵に行啓され、天皇に続き御拝礼になる。

終わって、林業試験場浅川支場に立ち寄られ、野外を御散策になる。午後四時三十分還啓される。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、省中日誌、臨時祭祀録、多摩森林科学園所蔵資料

参議院長松平恒雄雍仁親王 妃の父 昨十四日死去につき、この日、天皇・皇后より弔問使として侍従永積寅彦

を同邸に差し遣わされる。また霊前に、天皇・皇后より菓子、皇后より切り花をお供えになる。こ

れに先立ち、同人の危篤に際しては、天皇・皇后・皇太后より病氣お尋ねとして侍従徳川義寛及び侍

医塚原伊勢松を松平邸に差し遣わされ、葡萄酒を賜う。十六日、天皇・皇后・皇太后より賜物使とし

て侍従入江相政を差し遣わされ、祭資を賜う。十七日、参議院官舎において参議院葬挙行につき、皇

后より葬場使として侍従村井長正を差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、重要雑録、

贈賜録、賜与録、皇親録、秩父宮事務日誌、省中日誌、貞明皇后実録正本

十六日 水曜日 午後、天皇と共に表拝謁の間において、安田靫彦より「岡倉天心の話」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録

天皇と共に御文庫において、御参殿の皇太后、及び正仁親王・厚子内親王・貴子内親王と御夕餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、貞明皇后実録正本

この度学習院復興バザー開催につき、主催者の学習院父母会及び学習院に対し、金一封を賜う。○贈賜録、学習院百年史

十七日 木曜日 天皇と共に東京都産業振興共進会を御視察のため、午前九時御出門、第一会場の東京都農業試験場、ついで第二会場の東京都繊維工業試験場に行啓される。午後四時五十八分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、省中日誌、官報

十八日 金曜日 午後、厚子内親王・貴子内親王と共に講堂において、楽部によるバダジエフスカ作曲「乙女の祈り」のピアノ独奏等の演奏をお聴きになる。エリザベス・グレイ・ヴァイニングほか陪聴する。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

十九日 土曜日 葉山御用邸に行啓のため、天皇・正仁親王と共に午前十時御出門、十一時三十分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、省中日誌、葉山行幸啓書類綴、幸啓録

二十一日 月曜日 午前、木戸ツルの拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、葉山行幸啓書類綴  
午後二時天皇及び正仁親王と共に葉山御用邸を御出門、三時三十分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓書類綴、省中日誌、幸啓録

昭和二十四年十一月

二十二日 火曜日 午前、御進講室において、善光寺得淨明院門跡の二条誓康の拝謁をお受けになる。

○女官長日記、女官日誌、贈賜録

天皇と共に花蔭亭において、今般米国より帰国の大谷光暢及び同夫人智子と御昼餐を御会食になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

天皇と共に御文庫において、東久邇成子及び同子女信彦・文子・秀厚と御対面になる。信彦は、去る十五日着袴終了につき、この日袴を召して参殿する。十五日の信彦五歳の祝いに当たっては、天皇・皇后から信彦に鮮鯛代料及び御台人形代料を、盛厚及び同夫人成子に五種交魚代料を、稔彦及び同夫人聡子に三種交魚代料をお贈りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

元内閣総理大臣若槻礼次郎去る二十日死去につき、この日、天皇・皇后・皇太后より弔問使として侍従永積寅彦を静岡県伊東市の若槻別邸に差し遣わされる。翌二十三日、天皇・皇后・皇太后より賜物使として侍従入江相政を護国寺に差し遣わされ、柩前に拝礼させられ、祭糝料・供物・花を賜う。また、皇后より葬場使として侍従徳川義寛を同寺に差し遣わされ、焼香させられる。○侍従日誌、侍従職日誌、

賜与録、重要雑録、省中日誌、貞明皇后実録正本

二十五日 金曜日 午前、講堂において、宮内職員による美術展覧会を御覧になる。○女官長日記、女官日誌

二十六日 土曜日 この年喜寿を迎える侍従職御用掛鳥野幸次詠進歌  
選者に、この日、お品等を賜う。○女官

長日記、贈賜録

二十八日 月曜日 正仁親王の誕生日につき、午後、天皇と共に内廷庁舎において同親王と御対面に

なる。ついで天皇及び正仁親王と共に表拝謁の間において、宮内庁長官始め総代、女官長始め女官、元奉仕者の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

## 十二月

二日 金曜日 午前、天皇と共に表御座所において、北海道大学教授中谷吉郎より米国の科学・文化その他社会一般について、幻灯を用いた進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録、読売新聞

午後、天皇と共に御進講室において、東久邇聡子の拝謁をお受けになり、信彦着袴の際の賜品についてのお礼言上をお受けになる。その後、天皇及び聡子と共に、この日誕生日を迎えた崇仁親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

三日 土曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、連合国最高司令官経済顧問ジョセフ・モレル・ドツジ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、省中日誌

六日 火曜日 午後、表拝謁の間において、ヒルダ・バターフィールドを御引見になる。同人は、インターナショナル・フレンドシップ・フラッグの募集運動を行うため来日した。○女官長日記、女官日誌、省中日誌、謁見録

七日 水曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、スイス国チューリッヒ大学教授エミール・ブルンナー及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、謁見録

昭和二十四年十二月

省中日誌

午後、天皇と共に表拝謁の間において、東京工業大学教授谷口吉郎より「タウトについて」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録

九日 金曜日 午後一時三十分御出門、大宮御所に行啓され、皇太后と御対面になる。四時四十分大宮御所を御出門になり、還啓される。○女官長日記、女官日誌、幸啓録、貞明皇后実録正本

十四日 水曜日 午後、天皇と共に表拝謁の間において、慶応義塾大学教授小泉丹より「野口英世について」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録、入江相政日記

十五日 木曜日 夕刻、賢所御神楽につき御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、省中日誌

来る十九日より一週間にわたり、東京都下社会事業関係医療施設その他の協力を得て歳末診療を実施する東京都に対し、金一封を賜う。○賜与録、新聞発表綴

十六日 金曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、参与松平信子の拝謁をお受けになる。松平は、東宮の教育に関する重要事項への参与を命じる御沙汰の拝受、及び夫恒雄死去後の忌明けの挨拶のため参内した。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

元式部頭武井守成一昨十四日死去につき、天皇・皇后・皇太后より祭筵料を賜う。○恩賜録、省中日誌、貞明皇后実録正本

十七日 土曜日 午後、天皇と共に賢所通用門前において、文部省主催関東地区教育長等講習会の受

講者に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、典式録、宣召録、省中日誌

二十日 火曜日 昨夜来の御風気のため、午前中は御仮床に就かれる。二十六日、二十九日にも御仮床に就かれる。○女官長日記、女官日誌

天皇と共に表一の間において、東宮教育に関する参与の小泉信三・安倍能成・松平信子、東宮職御用掛の天野貞祐・山中謙二・杉村欣次郎・小谷正雄・久松潜一・諸橋轍次、学習院教授鍋島能弘・同渡辺末吾に午餐の御陪食を賜う。御食後、天皇と共に表御座所において、東宮教育担当の参与小泉信三、東宮大夫野村行一、及び宮内庁長官田島道治より、皇太子の成績についてお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、典式録、宣召録、省中日誌

天皇と共に花蔭亭において、皇太子・正仁親王・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王、及びお招きのエリザベス・グレイ・ヴァイニングと御夕食を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宣召録、省中日誌、東宮侍従日誌、皇太子の窓

財団法人結核予防会に対し、事業御奨励のため金一封を賜う。○賜与録、新聞発表綴

二十一日 水曜日 天皇及び皇太子・正仁親王・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と共に表御座所において、御参内の皇太后と御対面になる。それより表一の間に移られ、菊栄親睦会会員に午餐の御陪食を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、東宮侍従日誌、宣召録、典式録、幸啓録、菊栄親睦会録、貞明皇后実録正本

午後、皇太后及び和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と共に講堂において、楽部による洋楽の演奏をお聴きになる。エリザベス・グレイ・ヴァイニングほか陪聴する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、

昭和二十四年十二月

内舎人日誌、貞明皇后実録正本

二十三日 金曜日 皇太子の誕生日につき、午前、天皇と共に表御座所において、皇太子と御対面になる。ついで天皇及び皇太子と共に表拝謁の間において、皇族・元皇族・元王族、宮内庁長官始め総代、女官長始め女官等、元奉仕者の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、東宮侍従日誌、東宮職務日誌、東宮録

二十四日 土曜日 天皇・皇后より日本赤十字社に御補助金を賜う。なお、従来天皇・皇后から下賜の同社病院の維持費、及び皇后から下賜の救助患者治療費は、この年以降、天皇・皇后から同社事業御補助の賜金として一本化される。○賜与録、例規録、省中日誌、事業年報（日本赤十字社）、日本赤十字社史稿

二十五日 日曜日 午前、大正天皇祭皇霊殿の儀につき、女官東貞子に御代拝を仰せ付けられる。夕刻、同御神楽の儀につき、同女官に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、省中日誌

午前、天皇と共に御文庫において、大正天皇祭に参列した宣仁親王・崇仁親王、北白川房子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、祭典録

クリスマスに当たり天皇・皇后より、連合国最高司令官ダグラス・マッカーサー及び同夫人・子息、エリザベス・グレイ・ヴァイニング、学習院講師レジナルド・ホレイス・ブライスにそれぞれお品をお贈りになる。○典式録、贈賜録

二十七日 火曜日 午前、天皇と共に旧北御車寄門内において、天皇からの賜金を拝受のため参内した優良私設社会事業団体の代表者に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、

典式録、賜与録、省中日誌

昨二十六日発生の地震今市地震により甚大な被害を受けた栃木県に対し、天皇・皇后から御救恤金を賜う。

○賜与録、省中日誌

日本赤十字社病院救助收容患者千百七、十一名、並びに恩賜財団済生会病院救助收容患者六百二、十九名に対し、反物料を

賜う。○贈賜録、賜与録、事業年報（日本赤十字社）

二十八日 水曜日 午前、御進講室において日本赤十字社社長島津忠承の拝謁をお受けになり、同社事業についての報告等をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、贈賜録

天皇と共に御文庫において、御参殿の皇太后と御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、幸啓録、貞明皇后実録正本

この日午後七時過ぎ、北多摩郡小金井町の東宮御仮寓所食堂より出火し、御仮寓所は光華殿及び東宮職事務室を除き焼失する。なお、皇太子は昨二十七日より正仁親王と共に葉山御用邸に滞在中であり、無事であった。翌二十九日午後、この火災につき、天皇と共に御文庫において、参与小泉信三・東宮大夫野村行一よりお詫びの言上をお受けになる。同日、火災のお見舞いとして、天皇・皇后より皇太子に文房具料を賜う。また三十日には天皇と共に御文庫において、東宮傳育官戸田康英より東宮御仮寓所火災後の様子をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、東宮侍従日誌、贈賜録、貞明皇后

実録正本、皇宮警察史、朝日新聞、読売新聞、毎日新聞

川合玉堂この年喜寿に当たり、お品等を賜う。○女官長日記、贈賜録

二十九日 木曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、元皇族・元王族より歳末の祝詞言上をお

受けになる。引き続き天皇と共に同所において、宮内庁長官始め総代、女官長始め女官等より歳末の祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、儀式録

午後、天皇と共に御文庫において、東伏見周子、東久邇聡子、東久邇盛厚・同夫人成子・同子女信彦・文子、北白川房子より歳末の祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人

日誌

三十日 金曜日 午前十一時四十五分御出門、天皇と共に大宮御所に行啓され、皇太后と御昼餐を御会食になる。後刻、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子も参殿する。午後四時四十二分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、省中日誌、貞明皇后実録正本

三十一日 土曜日 天皇と共に御文庫において、この日葉山御用邸から帰京の皇太子・正仁親王、及び和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と御昼餐を御会食になる。後刻、皇太子は火災後の東宮御仮寓所に行啓する。この後皇太子は皇居内の義宮御殿に移居し、翌年二月十一日に常盤松御用邸<sup>渋谷区常盤松町百一番</sup>

地に移転するまで、同御殿を居所とする。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、東

宮侍従日誌、官報、読売新聞、朝日新聞、毎日新聞

この月 財団法人福田会に対し毎年六月・十二月の二期に下賜されていた継続金が、この年十二月期をもって廃止される。○賜与録

昭和二十五年（西曆一九五〇年） 四十七歳

一月

- 一日 日曜日 天皇と共に元旦拝賀<sup>昭和二十二年から昨年まで用いられた「新年拝賀」より改称</sup>に臨まれる。午前、表拝謁の間において、皇族、元皇族・元王族、内閣総理大臣・参議院議長・最高裁判所長官等の拝賀をお受けになる。ついで表休所において、一級宮内庁職員及び同夫人・二級宮内庁職員・一級及び二級の皇宮護衛官の拝賀を、講堂において、三級以下の宮内庁職員・三級以下の皇宮警察本部職員の拝賀をお受けになる。なお、元旦拝賀の前後又は各拝賀の間に、宮内庁長官始め侍従長その他、元側近奉仕者の拝賀をお受けになる。午後の内廷庁舎<sup>旧侍医寮</sup>屋上よりの参賀者への御会釈には、昨年来の御風気のため皇后のお出ましはなく、天皇のみが出御される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、儀式録、官報
- 二日 月曜日 午前、天皇と共に御文庫において和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と御対面になり、この日葉山御用邸附属邸へお成りにつき挨拶をお受けになる。夜、天皇と共に同所において、皇太子・正仁親王とお祝御膳を御会食になる。この年も、しばしば皇太子始め皇族、又は御親族と御対面・御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、供御日誌
- 三日 火曜日 午前、元始祭につき、女官小倉満子に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、恒例祭祀録、祭典録、典式録

昭和二十五年一月

天皇と共に表拝謁の間において、伏見博明博義王の王子始め未成年の元皇族・元王族等の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、儀式録、典式録

午後、天皇と共に御文庫において、久邇侁子御母、閑院春仁・同夫人直子、東伏見周子故依仁親王妃、北白川房子故成久王妃の拝賀をお受けになる。また、この日誕生日を迎えた宣仁親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録、典式録

五日 木曜日 午前、天皇と共に花蔭亭通用門外において、年末年始の賢所諸祭儀奉仕者に御会釈を賜う。この年より、行事等差し支えがない限り天皇と御一緒に御会釈を賜うようになり、昭和六十年まで続けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

天皇と共に御文庫において、御参殿の皇太后とお祝御膳を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、貞明皇后実録正本

六日 金曜日 午前十一時二十分御出門、天皇と共に大宮御所に行啓され、皇太后とお祝御膳を御会食になる。午後四時二十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、典式録、貞明皇后実録正本

七日 土曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、元皇后宮女官等より新年の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

天皇と共に表御座所において、元旦拝賀を欠席した崇仁親王の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

九日 月曜日 天皇と共に御文庫において、長野県から今暁還啓の皇太子と御昼餐を御会食になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

十日 火曜日 午前、内廷庁舎において、エリザベス・グレイ・ヴァイニング皇太子家  
庭教師より英語の進講

をお聴きになる。以後この年は十二月の帰米まで、概ね火曜日又は木曜日に同人の進講をしばしばお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午後二時五分御出門、三時四十五分同邸に御到着になる。○女官

長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓書類綴、幸啓録

夕刻、元錦鶏間祇候国分三亥元久邇宮  
宮務監督の拝謁をお受けになる。以後、この年も随時、元奉仕者の拝謁等

がある。○女官長日記、女官日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓書類綴

十一日 水曜日 昭憲皇太后月命日につき、終日お慎みになる。○女官長日記、女官日誌、葉山行幸啓書類綴

十七日 火曜日 天皇と共に、参邸のエリザベス・グレイ・ヴァイニングに御昼餐の御相伴を仰せ付

けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌

十九日 木曜日 御風気のためこの日より御仮床に就かれ、二月十四日の御床払いまで静養される。

翌二十日には天皇も御風気のため御仮床に就かれる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、葉山行

幸啓書類綴

二十五日 水曜日 この日宮内庁より、この年の講書始の儀は天皇・皇后の御風気のためお取りやめ  
となる旨が発表される。同儀は当初二十四日に予定のところ、二十八日に延期されていた。○典式録、

講書始録、新聞発表綴、官報

昭和二十五年二月

二十六日 木曜日 この日宮内庁より、和子内親王と鷹司平通元公爵鷹司信輔の子息の結婚の内約が成立した旨が発

表される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、葉山行幸啓書類綴、新聞発表綴

二十八日 土曜日 元女子学習院教授野口幽香昨日死去につき、女官小倉満子の御使にて、霊前に菓子料・野菜・切り花を賜う。また別に、天皇・皇后・皇太后より祭筵料を賜う。なお去る二十日には、同人病氣危篤につき、小倉女官の御使にて果物・万那料の賜りがある。同人は二葉幼稚園を設立したほか、華族女学校教授、学習院教授、女子学習院教授等を務めた。また、皇后の学習院女学部幼稚園在園時には保母主任を務め、昭和十七年から同二十二年までは、キリスト教による修養等について皇后に進講した。○女官長日記、贈賜録、恩賜録、朝日新聞、野口幽香の生涯

三十一日 火曜日 午前、皇居において、歌会始の儀当初二十六日に予定のところ、天皇・皇后の御風気によりこの日に延期が行われる。昨日葉山御用邸より還幸の天皇、及び皇太后が出御され、皇后は御風気により引き続き御用邸に御滞在のため出席を控えられる。この年のお題は「若草」にて、皇后宮御歌は次のとおり。

皇后宮御歌

とりかねもとほくきこえてあけそむるみそのうつくし若草のいろ

なお、天皇はこの日再び葉山御用邸に行幸される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、典式録、官報

## 二月

十一日 土曜日 昨日、和子内親王と鷹司平通の結婚が裁可される。天皇と共に、この日参邸の和子内親王と御昼餐を御会食になる。午後、天皇と共に、鷹司信輔・同夫人綏子・同子息平通の拝謁を

お受けになる。ついで天皇・和子内親王及び鷹司夫妻・平通とのお茶の席に臨まれる。なおこの度の参邸につき、天皇・皇后より鷹司信輔・綏子・平通に万那料及び白羽二重等を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓書類綴、孝宮御婚儀録、上奏モノ控簿

この日、皇太子は昨年十二月北多摩郡小金井町の東宮御仮寓所火災以来居住の皇居内義宮御殿から、渋谷区常磐松町の常盤松御用邸に移転する。よつて天皇・皇后より皇太子に万那料及びお品を賜う。十八日には宮内庁より、皇太子の居所を渋谷区常磐松町百一番地常盤松御用邸内に定め、東宮仮御所と称することが告示される。○贈賜録、例規録、東宮職事務日誌、官報

十四日 火曜日 この日、御床払いになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓書類綴

二十日 月曜日 午後二時天皇と共に葉山御用邸を御出門、三時三十分皇居に還啓される。なお、皇后の還啓は当初一月二十三日の予定であったところ、御風気によりこの日に延期された。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓書類綴、幸啓録

この日道覚親王後鳥羽天皇皇子七百年祭に当たり泉涌寺靈明殿において法要執行の趣につき、天皇・皇后それぞれより色花料・菓子料をお供えになる。○贈賜録

二十二日 水曜日 天皇と共に御文庫において、故松平恒雄元宮内大臣、雍仁親王妃の父の喪明け第二期につきお礼に参殿した雍仁親王妃勢津子と御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、皇親録、秩父宮事務日誌

二十三日 木曜日 午前、天皇と共に表御座所において、伊勢より帰京の北白川房子神宮祭主の拝謁をお受

昭和二十五年三月

けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

表拝謁の間において、去る十日退官の元皇室経済主管塚越虎男の拝謁をお受けになる。なお退官につき、天皇・皇后から賜品がある。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録、官報

二十六日 日曜日 壬生種子<sup>壬生基</sup>病氣入院中につき、女官雪井よし子の御使にて、お尋ねとして万那料等を賜う。○女官長日記、贈賜録

二十七日 月曜日 天皇と共に御文庫において、御参殿の皇太后と御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録、貞明皇后実録正本

二十八日 火曜日 午後一時三十分御出門、大宮御所に行啓され、皇太后と御対面になる。四時七分還啓される。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、幸啓録、皇親録、貞明皇后実録正本

この月 大聖寺・宝鏡寺・曇華院・林丘寺・靈鑑寺・光照院・三時知恩寺・円照寺・水薬師寺・長福寺・中宮寺・法華寺・善光寺に対し、恒例により乾海苔料を賜う。○贈賜録

### 三月

二日 木曜日 貴子内親王の誕生日につき、午前、天皇と共に表御座所において、同内親王と御対面になる。ついで天皇及び貴子内親王と共に表拝謁の間において、宮内庁長官始め総代、女官長始め女官等の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

三日 金曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、和子内親王と鷹司平通の婚約に当たつての納采の儀に臨まれる。天皇及び和子内親王と共に、宮内庁長官から鷹司家の使者の口上をお聞きになり、

鷹司家よりの幣贄を御覧になる。儀終了後、天皇及び同内親王と共に表御座所において、元皇后宮職御用掛岡本愛祐の拝謁をお受けになる。ついでお三方にて再び表拝謁の間において、皇族・元皇族・元王族、続いて宮内庁長官始め総代、女官長始め女官、元側近奉仕者の拝賀をお受けになる。

午後、天皇と共に表拝謁の間において、お礼言上のため参内した鷹司信輔・同夫人綏子・同子息平通の拝謁を、続いて皇太后の御使として参内した皇太后宮女官高松千歳子の拝謁をお受けになり、ついで天皇と共に表御座所において、元東宮傳育官石川岩吉の拝謁をお受けになる。この日、天皇・皇后より皇太后に鮮鯛を、和子内親王に鮮鯛代料を御贈進になる。また、皇太后より天皇・皇后に五種交魚代料が贈られ、和子内親王より天皇・皇后それぞれに鮮鯛<sup>録目</sup>が進献される。なお、納采の儀の奉告のため、天皇・皇后が御使として侍従村井長正を多摩陵<sup>大正天皇陵</sup>に差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌、

侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、孝宮御婚儀録、和子内親王殿下御婚儀一件、慶弔録、貞明皇后実録正本、官報

六日 月曜日 満四十七歳のお誕生日を迎えられる。

午前、表拝謁の間において、皇族、元皇族・元王公族、内閣総理大臣・衆議院議長・最高裁判所長官等及び以上の夫人の拝賀をお受けになる。続いて三ノ間において、一級の宮内庁職員・皇宮護衛官、及び以上の夫人、ついで二級の宮内庁職員・皇宮護衛官の拝賀を、講堂において三級以下の宮内庁職員・皇宮警察本部職員の拝賀をお受けになる。またこの日、表拝謁の間において宮内庁長官・同次長・侍従長始め侍従職の一級官・二級官の拝賀を、御進講室において御学友・御同級生の拝謁を、表拝謁の間において元皇后宮大夫等の拝謁を、御進講室において元皇后宮女官の拝謁をそれぞれお受けになる。夕刻、天皇及び正仁親王・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と共に花蔭亭にお出ましになり、

昭和二十五年三月

側近奉仕者による手品や合唱等の余興を御覧になる。その後、御文庫において、皇太子も加わりお祝御膳を御会食になる。

なお、皇后のお誕生日について、宮内庁においては、法律で定められたもの以外はできるだけ敬語・敬称を省かないようにしたいという意見に基づき、「国民の祝日に関する法律」昭和二十三年七月制定において定め

られた「天皇誕生日」に対応した「皇后誕生日」ではなく、「皇后陛下御誕生日」と称されることとなる。併せて、昨年改めた「皇太后誕生日」の名称も、この年より庁内においては「皇太后陛下御誕生日」とされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、儀式録

七日 火曜日 午前、天皇と共に表御座所において、この日誕生日の厚子内親王と御対面になる。ついで天皇及び厚子内親王と共に表拝謁の間において、宮内庁長官始め総代、女官長始め女官等の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

表拝謁の間において、新任の皇室経済主管近藤直人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌

皇太后来る九日より沼津御用邸西附属邸に行啓につき、午後、御文庫において、皇太后の御使として参殿の皇太后宮女官大原慶子の拝謁をお受けになる。この年も、折に触れ、参殿の皇太后宮御使の拝謁をお受けになり、また、天皇・皇后から大宮御所に御使を遣わされる。○女官長日記、女官日誌、贈賜録

八日 水曜日 社会福祉事業家エダ・ハンナ・ライト去る二月二十六日死去につき、天皇・皇后・皇太后より祭料を賜う。同人は明治二十九年に来日し、熊本回春病院院長を務めるなど、本邦救らい事業に多年にわたり尽力した。○賜与録、読売新聞、毎日新聞、藤楓協会創立三十周年誌

九日 木曜日 第十一回フローレンス・ナイチンゲール記章授与式に名誉総裁として御臨席のため、午前十時二十分御出門、日本赤十字社に行啓される。便殿において宣仁親王妃喜久子・崇仁親王・同妃百合子と御対面になり、続いて厚生大臣林譲治、日本赤十字社社長島津忠承、同副社長伊藤藤二の拝謁をお受けになる。それより式場に生まれ、社長の挨拶の後、看護婦の久野恵津赤十字本部産院・東山アキエ

大阪赤十字病院・福井アイ同・戸村よしを福井赤十字病院に記章を御親授になり、次のお言葉を賜う。

日本赤十字社の看護婦の人たちが、常に豊かな博愛の精神にあふれ、傷ついた人々や病める人々を、たゆまず看護して、世間から感謝と信頼とを得ていることを心からうれしく思います。

このたび久野恵津、東山アキエ、福井アイ、戸村よしをの四人の方々が、世界の看護婦として、最高の名誉の象徴であるフローレンス、ナイチンゲール記章を、赤十字国際委員会から贈られます。たことは、本人の榮譽はもとより、日本赤十字社としても、まことに喜ばしいことであります。

どうか、これからも一層この道に尽されますと共にすべての看護婦の方々も、これを模範としてその職に励まれるのみならず、更に教養を高められて、国際社会に、人道の華とうたわれるようになることを希望してやみません。

続いて赤十字国際委員会駐日代表・連合国最高司令部公衆衛生福祉局長・米国赤十字駐日代表・厚生大臣・助産婦看護婦保健婦協会長の各祝詞、受章者代表久野恵津の答辞、看護婦生徒による「四方の国」の合唱がある。御退場後、総裁室において、赤十字国際委員会・最高司令部公衆衛生福祉局・米赤十字等の関係者の謁見をお受けになる。十一時三十八分還啓される。なお、同記章第十一回の授

昭和二十五年三月

章は、規則フローレンス・ナイ  
チンゲール記章規則では昭和十六年に行われることとされていたが、赤十字国際委員会により戦争終了後の平和回復時まで延期するという処置がとられた。昭和二十二年、第十一回の授章が各国に對し再開されたが、赤十字国際委員会から寄せられていた通達の伝達を最高司令部が一年以上にわたりに停止していたことから、日本ではこの年に授与式が開催された。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、幸啓録、皇親録、官報、日本赤十字社社史稿

午後、御進講室において宣仁親王妃喜久子と御対面になり、宣仁親王の負傷昨日山形県にてスキー  
中に右肩を脱臼に対する御心配へのお礼をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、読売新聞、朝日新聞

十日 金曜日 午後、天皇と共に表拝謁の間において、翌月帰英予定の東京大学講師エドマンド・ブランデン詩人及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、外交贈答録

十一日 土曜日 午前、日本丸跡付近において、全国未亡人代表者会議参加者に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、宣召録、GHQ/SCAP Records

吳竹寮にお出ましになり、内親王方と御対面になり、ピアノの稽古を御覧になる。以後、しばしば吳竹寮にお出ましになり、元別当山階  
宮付工藤壮平の指導による書道、神戸絢の指導によるピアノなど内親王方の各種稽古を御覧になる。また、御自身も折に触れて稽古をされる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、贈賜録

天皇及び皇太子・正仁親王・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と共に、御文庫において御夕餐を

御会食になる。その後、日本赤十字社社長島津忠承の説明により赤十字社創立者アンリ・デュナンの生涯を描いた映画「人間同志」を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

十二日 日曜日 天皇がこの日より地方事情御視察のため香川・愛媛・高知・徳島各県下並びに兵庫県下淡路島へ行幸につき、午前、皇太子・正仁親王・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と共に御文庫においてお見送りになる。○女官長日記、女官日誌、官報

十三日 月曜日 午後、花蔭亭において、皇太子・正仁親王・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王、東久邇盛厚・同夫人成子、鷹司信輔・同夫人綏子・同子息平通と茶菓を共にされる。この席は、皇太子・正仁親王及び東久邇夫妻が、鷹司夫妻・平通と未だ対面の機会がなかったことから設けられる。

○女官長日記、女官日誌

十八日 土曜日 午後二時四十五分正仁親王と共に御出門、常盤松御用邸内の東宮仮御所に初めて行啓される。皇太子と御対面になり、後から到着の和子内親王・厚子内親王・貴子内親王も交え、各室及び庭を巡覧される。その後、御夕餐を御会食になる。八時四十九分お一方にて還啓される。○女官長日記、女官日誌、幸啓録、皇親録、業務日誌

十九日 日曜日 午後、御文庫において皇太子及び正仁親王と御対面になり、この日夜長野県・群馬県行啓に出発の皇太子より暇乞いの挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

二十一日 火曜日 午前、春季皇霊祭及び同神殿祭につき、女官小倉満子に御代拝を仰せ付けられる。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、恒例祭祀録、祭典録、典式録

昨日午後九時五十分頃、皇居内の局女官等女性  
職員の宿舎から出火し、同棟約三百坪を焼失、十時三十五分頃鎮火す

昭和二十五年三月

る。この火災につき、午前には参殿の崇仁親王・同妃百合子より、午後には和子内親王・厚子内親王・貴子内親王より御機嫌伺いをお受けになる。なお、この火災に対応した宮内庁次長林敬三・侍従職職員・警察関係者に清酒等を、罹災した女官・雑仕ほかに食料・衣類等を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、重要雑録、朝日新聞、毎日新聞

二十二日 水曜日 沼津に行啓のため、午前十時四十分頃御出門、正午葉山御用邸附属邸にお立ち寄りになる。御昼餐の後、午後一時同邸を御発、四時十分沼津御用邸西附属邸に御到着になる。同邸に御滞在中の皇太后と御対面になり、御夕餐を御会食になる。以後御滞在中は皇太后との御散策、御会食等にてお過ごしになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、幸啓録、皇親録、業務日誌、貞明皇后実録正本

二十四日 金曜日 皇太后と御昼餐を御会食の後、還啓につき暇乞いの挨拶をされる。午後一時沼津御用邸西附属邸を御出門、四時前、葉山御用邸附属邸に立ち寄られる。正仁親王と御対面になり、お揃いにて六時五十分頃皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、幸啓録、皇親録、業務日誌

二十七日 月曜日 学習院卒業式に御臨席のため、午前九時二十分過ぎ御出門、同院に行啓される。御着後、皇太子・正仁親王・和子内親王・厚子内親王、伏見朝子・北白川祥子・李方子のお出迎えをお受けになる。便殿において、学習院長安倍能成より学習院の現況等についての奏上を、ついで文部事務次官伊藤日出登<sup>文部大臣代理</sup>、学習院理事始め同院関係者の拝謁をお受けになる。それより式場に臨まれ、

高等科卒業学生への証書の授与、優等者への賜品<sup>天皇・皇后よりの置時計の目録</sup>伝達等を御覧になる。十一時二十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、幸啓録、皇親録、新聞発表表綴、例規録

午後、賢所通用門脇において、教員養成学部家政科担当者の研究集会文部省主催教員養成学部教官の研究集会において開催の受講者等二十三名に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、宣召録

#### 四月

一日 土曜日 夕刻、皇太子・正仁親王・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と共に、四国各県等への巡幸を終え皇居に到着された天皇をお出迎えになる。その後御文庫において、和子内親王・厚子内親王・貴子内親王より、翌日から神宮参拝を兼ねて関西地方へお成りにつき暇乞いの挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、新聞発表綴、官報、読売新聞

四日 火曜日 山梨県甲府市で行われる植樹祭国土緑化推進委員会・山梨県共催に御臨場のため、天皇と共に同県に行啓される。午前十時御出門、原宿駅より甲府駅を経て、甲府市山宮町の恩賜林内に設置の記念植樹場に御

到着になる。第一お野立所植栽地に進まれ、国土緑化推進委員会副委員長河井弥八林業議員懇話会総代・元皇后宮大夫・山梨県

知事吉江勝保の介添えにて、天皇に続き、ヒノキの苗を御植樹になる。ついで第二お野立所苗圃地に移ら

れ、国土緑化推進委員会副委員長徳川宗敬国土計画協会会長・吉江知事の介添えにて、天皇に続き、ヒノキ・ス

ギの種を御播種になる。次に恩賜林資料展覧会場山梨県議会議事堂にて展示資料を御巡覧になる。ついで舞鶴公

園謝恩碑前広場における緑化促進県民大会に参加の老齢者・林業篤行者その他に御会釈を賜い、同碑

台上において吉江知事による恩賜林の状況や二度の台風昭和二十二年のカスリーン台風、及び同二十三年のアイオン台風被害からの復興状況等

の説明をお受けになりつつ市内を御展望になる。終わって、甲府駅より原宿駅を経て、午後七時四十

昭和二十五年四月

分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、賜与録、官報、山梨県庁所蔵資料、山梨県恩賜県有財産御下賜五十周年記念誌

五日 水曜日 午前、天皇と共に旧北御車寄門内において、今般の四国地方巡幸のお礼言上のため参内した愛媛県議会議長立川明・高知県議会議長北村保・徳島県議会議員田岡半平に御会釈を賜う。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

六日 木曜日 午前、天皇と共に旧北御車寄門内において、神武天皇祭における賢所奉仕者に御会釈を賜う。この年より、行事等差し支えがない限り天皇と御一緒に御会釈を賜うようになり、昭和六十年まで続けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

表拝謁の間において、去る三日退官の元東宮傳育官栄木忠常の拝謁をお受けになる。なお退官につき、天皇・皇后から賜品がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録、官報

七日 金曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午前十時御出門、十一時三十五分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓書類綴、幸啓録

九日 日曜日 午前・午後共に、天皇の海洋生物御採集に同行される。天皇が笠島あじ藻場にて御採集の間には、海上保安庁の巡視艇にて江ノ島付近まで遊覧される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓書類綴

十一日 火曜日 昭憲皇太后祥月命日につき、終日お慎みになる。○女官長日記、女官日誌、葉山行幸啓書類綴

十二日 水曜日 午後、天皇と共に、聖心愛子会会長聖園テレジア・同会副会長加藤ユステイシア・元侍従次長木下道雄の拝謁をお受けになる。聖園テレジアより、四国地方巡幸の際の聖園マリヤ園<sub>聖心愛子</sub>

会高知支  
部運営 御訪問のお礼言上がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓書類綴

天皇・皇后・皇太后より財団法人学習院に対し、この度大学設置に当たり設備費等として金一封を賜う。○賜与録、貞明皇后実録正本

この日泉涌寺派管長に平野竜法が就任につき、後日皇后・皇太后より白羽二重・昆布料を賜う。○贈賜録、貞明皇后実録正本

十三日 木曜日 午前十時十五分葉山御用邸を御出門、天皇及びこの日参邸の皇太子と共に、海上保

安庁の巡視船にて熱海沖まで御周遊になる。午後三時五十分葉山御用邸にお帰りになる。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓書類綴

十四日 金曜日 午前九時三十四分天皇及び皇太子と共に葉山御用邸を御出門、十一時皇居に還啓される。御文庫において和子内親王・厚子内親王のお出迎えをお受けになり、関西旅行より帰京のお礼

言上をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓書類綴、

幸啓録

天皇と共に御文庫において、この度退官の皇子傳育官<sup>元内親王  
傳育掛</sup>牧滋の拝謁をお受けになる。退官に当た

り、天皇・皇后から賜品等がある。○女官長日記、女官日誌、贈賜録

十六日 日曜日 午後二時七分御出門、天皇と共に常盤松御用邸内の東宮仮御所に行啓される。皇太子と御対面になり、その後各室及び庭を御巡覧になる。五時十六分還啓される。○女官長日記、女官日誌、

侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、東宮職事務日誌

去る十三日静岡県熱海市にて発生した火災により甚大な被害を受けた同県に、天皇・皇后から御救恤

昭和二十五年四月

金を賜う。○賜与録

十七日 月曜日 午前、表拝謁の間において、新任の皇宮警察本部長樺山俊夫、ついで前任の同本部長藤田次郎の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

十八日 火曜日 午前、花蔭亭前において、松影会宮内省・宮内府・宮内庁  
元部局長以上の親睦会 会員約四十名に御会釈を賜う。○

女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

十九日 水曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、東宮教育担当の参与小泉信三、東宮大夫野村行一の拝謁をお受けになり、皇太子の成績についての言上をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍

従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、田島道治日記

二十一日 金曜日 午後、表拝謁の間において、昨二十日宮内庁講師の職を免じられた松村康平元皇子  
傅育掛

の拝謁をお受けになる。天皇・皇后より賜品がある。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、贈賜録

二十四日 月曜日 午前、内廷庁舎において、豊田実文学  
博士よりジョン・ミルトン詩  
人についての進講をお

聴きになる。この年は月曜日に同人より、ミルトン等に関する進講を計十四回お聴きになる。○女官長

日記、女官日誌、贈賜録

二十五日 火曜日 午前、天皇と共に旧北御車寄門内において、身体障害者福祉法施行記念大会にて厚生大臣から表彰された身体障害者保護功労者等に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職

日誌、内舍人日誌、典式録、宣召録

二十六日 水曜日 午前、内廷庁舎の御書齋において、植村環日本基督教女  
子青年会会長より聖書についての進講をお

聴きになる。天皇も同席される。なおこの年皇后は、水曜日に同人より、聖書等に関する進講を計十三回お聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

午後、和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と共に講堂において、楽部による管弦楽の演奏をお聴きになる。この日の演奏会は御沙汰により、三月に死去した元楽長芝祐孟追悼の催しとされる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、恩賜録

二十八日 金曜日 午前、内廷庁舎において、加藤虎之亮<sup>文学博士</sup>より孟子についての進講をお聴きになる。この年は金曜日に同人より、孟子に関する進講を計十二回お聴きになる。○女官長日記、女官日誌、内

舍人日誌、贈賜録、加藤虎之亮関係資料

午後、霜錦亭にお出ましになり、崇仁親王・同妃百合子により催された高浜虚子ほかが参加の句会を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、入江相政日記

御夕餐後、天皇と共に御文庫において、皇子傅育官名取はなより和子内親王の近況をお聞きになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、入江相政日記

二十九日 土曜日 天皇誕生日につき、午前、御進講室において、宮内庁長官始め総代、皇族・元皇族・元王族の拝謁をお受けになる。またこの日、女官長始め女官等の拝謁をお受けになる。夕刻、花蔭亭にお出ましになり、天皇及び皇太子・正仁親王・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と共に、侍従職・東宮職によるお祝いの余興を御覧になる。皇后御自身も「アベ・マリア」、「夜の調べ」を独唱され、また内親王三方と共に「サンタ・ルチア」、「オールド・ブラック・ジョー」を合唱される。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、儀式録

昭和二十五年五月

三十日 日曜日 午後、和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と共に呉竹寮にお出ましになる。和子内親王結婚に当たり、久邇侁子・同朝融<sup>御兄</sup>・東伏見邦英<sup>御弟</sup>始め久邇家の御親族約二十五名を招かれ、御団欒になる。途中より東久邇盛厚及び同夫人成子、さらに皇太子・正仁親王も参加する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

## 五月

一日 月曜日 午前、天皇と共に旧北御車寄門内において、紅葉山御養蚕所助手の家族ほかに御会釈を賜う。○侍従日誌

今般昭和二十五年度赤十字募金運動を全国一斉に展開する日本赤十字社に対し、天皇・皇后・皇太后より御奨励金を賜う。○賜与録、新聞発表綴

三日 水曜日 午前十時五十七分御出門、天皇と共に皇居前広場に行啓され、日本国憲法施行三周年記念式典に御臨場になる。十一時二十四分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、官報

和子内親王結婚につき、午後、告期の儀が行われる。天皇及び同内親王と共に表拝謁の間において、宮内庁長官より、鷹司平通が和子内親王との結婚の礼を五月二十日に行いたいとする旨の鷹司家使者の口上をお聞きになる。その後長官は、天皇の御承諾の旨を使者に伝える。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、孝宮御婚儀録、慶弔録、官報

天皇と共に表拝謁の間において、和子内親王婚儀の媒酌人を務める二条弼基及び同夫人恭仁子<sup>多嘉王の王女</sup>の

拜謁をお受けになる。引き続き同所において、鷹司信輔・同夫人綏子・同息平通の拜謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、孝宮御婚儀録

五日 金曜日 東久邇秀厚初節句につき、天皇・皇后から東久邇盛厚・同夫人成子に三種交魚代料を、秀厚に御台人形代料・鯉料・粽を賜う。○女官長日記、女官日誌、贈賜録

八日 月曜日 来る十日の仁明天皇千百年式年祭に先立ち、午前、天皇と共に表拜謁の間において、東京教育大学教授家永三郎より仁明天皇の御事蹟についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録

天皇と共に呉竹寮にお出ましになり、和子内親王・厚子内親王・貴子内親王及び鷹司平通・同母綏子と御夕餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

九日 火曜日 天皇と共に、東京都内の日本赤十字社及び社会事業の関係施設を御視察になる。午前九時三十五分御出門、日本赤十字社本社に行啓され、展覧室、救護資材倉庫等を御覧になる。次に白金公益質屋を視察される。続いて、日本赤十字社中央病院において託児所等を、日本赤十字女子専門

学校において実習室等を、日本赤十字社産院において乳児院等を御覧になる。その後、赤坂中学校<sup>家庭看護</sup>法講習<sup>会場</sup>、東京盲人会館、戸山更生館、千代田公会堂<sup>救急法講習会場</sup>、神田小学校<sup>裁縫奉仕作業場</sup>を御訪問になる。午後三時

四十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、官報、日本赤十字社社史稿  
十一日 木曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕始の儀を行われる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

来る二十日和子内親王結婚につき、天皇・皇太后・和子内親王と共に表休所において、菊栄親睦会会

昭和二十五年五月

員と午餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、孝宮御婚儀録、宣召録、貞明皇后実録正本

十二日 金曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、今般米国より帰国した大使館参事官大野勝巳より「米国より帰りて」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録

楽部によるこの月の定例演奏が孝宮御結婚奉祝演奏会として開催され、午後、和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と共に講堂において御鑑賞になる。エリザベス・グレイ・ヴァイニングほか陪聴する。楽部演奏関係員に対して、清酒等の賜りがある。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、贈賜録

十三日 土曜日 午前十一時二十五分御出門、大宮御所に行啓され、和子内親王結婚につき皇太后御主催の午餐に臨まれる。皇太后・和子内親王のほか、雍仁親王妃勢津子、宣仁親王妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子、北白川房子、東久邇聡子、東久邇盛厚・同夫人成子、久邇侁子が出席する。午後三時十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、幸啓録、皇親録、貞明皇后実録正本

和子内親王と共に表拝謁の間において、同内親王結婚のお祝いのため参内した川合玉堂の拝謁をお受けになる。同人から皇后・和子内親王に献上の品がある。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

元皇后宮女官長竹屋志計子去る十一日死去につき、天皇・皇后・皇太后より祭染料を賜う。同人療養中には、皇后からしばしば野菜、菓子等を賜う。死去に際しては、侍従職御用掛としての同人に対し、天皇・皇后から金一封の賜りが、さらに二十六日の葬儀の際に、天皇・皇后から菓子、皇后から切り花の賜りがある。

竹屋志計子は昭和三年より十三年まで皇后宮女官長を務め、退任後も皇后宮職御用掛、宮内府御用掛、侍従職御用掛を務めた。○女官長日記、恩賜録、贈賜録、貞明皇后実録正本

十四日 日曜日 午後、内廷西玄関前において、「母の日」大会東京都主催に参会の約八百名に御会釈を賜う。東京都PTA代表水野和歌子から挨拶と花束をお受けになり、お言葉を賜う。なお、母の日に当たり皇太子ほかよりお品が贈られる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、宣召録

午後五時四十五分御出門、天皇と共に光輪閣に行啓され、和子内親王結婚につき秩父宮・高松宮・三笠宮家主催のお別れの晩餐に御臨席になる。皇太后及び皇太子・正仁親王・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王、雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子、東久邇盛厚・同夫人成子が出席する。九時二十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、貞明皇后実録正本

十五日 月曜日 午前九時御出門、天皇と共に東京都美術館に行啓され、第四回美術団体連合展覧会毎日新聞社主催を御鑑賞になる。午後零時還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、官報

十六日 火曜日 和子内親王結婚につき、エリザベス・グレイ・ヴァイニング、同姉ヴァイオレット・ゴールドン・グレイ及び高橋たねヴァイニングの秘書をお召しになり、夕刻、花蔭亭においてお別れの茶会を催される。和子内親王を始め、皇太子・正仁親王・厚子内親王・貴子内親王が出席する。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、皇太子の窓

去る十三日長野県西筑摩郡上松町にて発生した火災により甚大な被害を受けた同県に、天皇・皇后より御救恤金を賜う。○賜与録、新聞発表綴

十八日 木曜日 来る二十日和子内親王と鷹司平通結婚につき、午後、天皇と共に表拝謁の間における朝見の儀に臨まれる。式中、御前に参進した和子内親王より謝恩の辞をお受けになり、天皇に続いてお言葉を賜う。また、天皇・皇后より同内親王にそれぞれ御盃を賜う。儀終了後、天皇と共に御退出になる。なお、朝見の儀に先立ち、午前、和子内親王賢所皇靈殿神殿に謁するの儀が行われる。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、孝宮御婚儀録、慶弔録、臨時祭祀録、官報

十九日 金曜日 天皇と共に御文庫において、この度結婚の和子内親王とのお別れの御晚餐として、同内親王及び皇太子・正仁親王・厚子内親王・貴子内親王と御会食になる。御会食の前に、天皇と共に和子内親王とお別れの盃を交わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二十日 土曜日 この日和子内親王と鷹司平通結婚につき、午前、天皇と共に御文庫において、和子内親王と御対面になる。午後零時三十分より和子内親王入第の儀が挙行される。和子内親王が内廷庁舎から結婚式場へ出発する際に、天皇と共に同内親王と御対面になり、お別れの挨拶をお受けになる。一時御出門、天皇と共に光輪閣に行啓され、結婚式に御参列になる。皇太后も参列される。神前の結婚式後、天皇・皇太后及び鷹司平通・和子とお揃いにて報道関係者による写真撮影に応じられる。二時二十分還啓される。この度の結婚に際し天皇・皇后より、お祝いとして鷹司平通に白羽二重・酒・鮮鯛を、和子内親王に紅白羽二重を賜う。また別に、平通にお品を賜う。和子内親王からは天皇・皇后それぞれにお品物料並びに鮮鯛が献上される。天皇・皇后と皇太后との間にもお祝品の贈答がある。

還啓後、天皇と共に表拝謁の間において、宮内庁長官・同次長及び侍従長以下侍従職一・二級官の拝賀をお受けになる。ついで元皇族・元王族、参議院議長・最高裁判所長官ほかの拝賀をお受けになる。御夕餐は御文庫において、天皇及び皇太子・正仁親王・厚子内親王・貴子内親王とお祝御膳を御会食になる。なお、結婚に伴い和子内親王は皇族の身分を離れる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、

内舎人日誌、孝宮御婚儀録、和子内親王殿下御婚儀一件、慶弔録、幸啓録、供御日録、貞明皇后実録正本、官報

二十一日 日曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、鷹司平通・同夫人和子と御対面になり、昨日の婚儀を滞りなく終えたことのお礼をお受けになる。結婚後初参内につき、天皇・皇后よりそれぞれにお品を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、孝宮御婚儀録

この日、天皇・皇后の御使として女官長保科武子を鷹司邸に差し遣わされ、鷹司平通・同夫人和子に万那料及び菓子を賜う。また、和子の婚儀滞りなく終了につき、天皇・皇后の御代拝のため侍従入江相政を多摩陵に差し遣わされる。さらに、皇太后に婚儀終了のお礼言上のため、天皇・皇后の御使として侍従永積寅彦を大宮御所に差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、孝宮御婚儀録

二十二日 月曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

天皇と共に御文庫において、御参殿の皇太后と御昼餐を共にされる。午後、天皇と共に表拝謁の間において、鷹司信輔・同夫人綏子の拝謁を、続いて鷹司平通・和子の婚儀の媒酌人二条弼基・同夫人恭仁子の拝謁をお受けになる。その後、結婚した鷹司平通・同夫人和子を御披露のため、天皇と共に表一の間においてお茶の席を設けられ、皇族・元皇族・元王公族及び鷹司信輔・同夫人綏子、二条弼基・同夫人恭仁子をお招きになり、天皇・皇太后と共に出御される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

昭和二十五年五月

誌、内舍人日誌、孝宮御婚儀録、和子内親王殿下御婚儀一件、貞明皇后実録正本

二十三日 火曜日 鷹司平通・和子の婚儀が滞りなく済んだことのお礼お申し入れのため、午前十一時二十三分御出門、天皇と共に大宮御所に行啓される。皇太后と御対面になり、ついで御昼餐を御会食になる。午後四時十三分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、孝宮御婚儀録、幸啓録、貞明皇后実録正本

天皇と共に花蔭亭において、婚儀を終えた鷹司平通・同夫人和子、皇太子・正仁親王・厚子内親王・貴子内親王、東久邇盛厚・同夫人成子、鷹司信輔・同夫人綏子と御夕餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、孝宮御婚儀録

二十四日 水曜日 午前九時三十分天皇と共に御出門、多摩陵に行啓され、天皇に続き御拝礼になる。

それより林業試験場浅川分室に立ち寄られ、裏山を御散策になる。午後五時十分還啓される。○女官長

日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、臨時祭祀録、幸啓録

二十五日 木曜日 午前、表拝謁の間において、東京女子大学教師マートル・Z・パイダーを御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、謁見録

二十六日 金曜日 来る二十八日の桜町天皇二百年式年祭に先立ち、午前、天皇と共に表拝謁の間において、学習院教授児玉幸多より桜町天皇の御事蹟についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官

日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録

常磐会総会に御臨席のため、午後零時五十五分御出門、大宮御所へお立ち寄りになり、皇太后と共に学習院初等科に行啓される。崇仁親王妃百合子・伏見朝子・久邇侁子・梨本伊都子・李方子・北白川

房子その他の奉迎をお受けになり、常磐会会長松平信子の先導にて御休所に入られ、皇族・元皇族等と御対面になる。ついで会場に進まれ、独唱、落語、講談等の催しを御覧になる。途中の休憩の際、御休所においてエリザベス・グレイ・ヴァイニングを御引見になり、厚子内親王・貴子内親王、崇仁親王妃、鷹司和子その他と茶菓を召される。また休憩及び催し終了後には、廊下において御同級生、出演者ほかに御会釈を賜う。その後運動場に移られ、学習院生徒により結成された東京ボーイスカウト第二十一隊による日章旗掲揚等の技能作業を御覧になる。大宮御所にお立ち寄りの後、四時五十七分還啓される。なお行啓の節、皇后・皇太后より常磐会に金一封を賜う。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、幸啓録、行啓録、貞明皇后実録正本

二十八日 日曜日 午前、桜町天皇二百年式年祭の儀につき、女官東貞子に御代拝を仰せ付けられる。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、臨時祭祀録、祭典録

二十九日 月曜日 午後、天皇と共に紅葉山御養蚕所にお出ましになる。その際、有泉善三御養蚕奉仕者の説

明をお聞きになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

三十日 火曜日 午前、天皇と共に皇后宮御進講室において、エリザベス・グレイ・ヴァイニング皇太子家を御引見になり、同人より教育に関する意見をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、田島道治庭教師

日記

この月 正仁親王一昨年三月学習院初等科卒業につき、天皇・皇后及び皇太子・厚子内親王・貴子内親王からお品をお贈りになる。○贈賜録

六月

一日 木曜日 午後、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、同所に行啓の皇太后をお出迎えになる。それより御一緒に、有泉善三の説明により養蚕の状況を御覧になる。また、給桑等の作業をされる。終わつて皇太后と共に御文庫に還御され、天皇及び厚子内親王・貴子内親王も交えて御夕餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、行啓録、貞明皇后実録正本

五日 月曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午前十時御出門、十一時三十分同邸に御到着になる。午後、天皇の海洋生物御採集に同行され、笠島方面の海上にお出ましになる。七日及び八日も天皇の御採集に同行される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓書類綴、幸啓録

去る一日秋田県北秋田郡鷹巣町にて発生した火災により甚大な被害を受けた同県に、天皇・皇后から御救恤金を賜う。○賜与録、新聞発表綴

九日 金曜日 午前、元日本YWCA同盟委員長辻まつより、米国におけるキリスト教婦人連盟の奉仕活動等についての進講をお聴きになる。風雨によりお出ましをお取りやめの天皇も同席される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓書類綴

十三日 火曜日 午前十時天皇と共に葉山御用邸を御出門、十一時三十分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓書類綴、幸啓録

元宮内次官関屋貞三郎去る十日死去につき、天皇・皇后・皇太后の御使として侍従久松定孝を関屋邸に差し遣わされ、祭料を賜う。また別に多年次官として勤勞につき、霊前に天皇・皇后から菓子・

野菜を、皇后から切り花を賜う。○女官長日記、恩賜録、贈賜録、貞明皇后実録正本

十四日 水曜日 午前、御進講室において、今般米国より帰国の鈴木布美侍従次長鈴木一夫人の拝謁をお受けにな

り、同国における見聞についてお聞きになる。なお、去る二月の渡米に際しては、同人に元米国特命全権大使ジョセフ・クラーク・グルー夫人アリスへお贈りする牙彫児負少女棚飾を託される。○女官長日記、女官日誌、贈賜録、外交贈答録

十五日 木曜日 日本美術協会日本画展財団法人日本美術協会主催を御鑑賞のため、午前九時三十分御出門、三越本店

に行啓される。御着後、同協会総裁宣仁親王妃喜久子、同協会会長徳川慶光ほかのお出迎えをお受けになり、七階会場に進まれる。それより百七十七点の展示を、作者の伊東深水・松林桂月ほかの説明により御覧になる。十時三十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、幸啓録、皇親録

午後、花蔭亭において、大谷光暢・同夫人智子御妹及びこの度渡米の同子息光紹と御対面になる。○女官

長日記、女官日誌、内舎人日誌、贈賜録

過日光輪閣旧高松宮邸を鷹司和子の結婚式場として使用につき、天皇と共に御文庫に宣仁親王・同妃喜久子をお招きになり、御夕餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、孝宮御婚儀録

十六日 金曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、日本大学教授兼国学院大学教授石田幹之助より唐時代におけるイラン文化の東進についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録

昭和二十五年六月

十九日 月曜日 午後、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、天蚕並びに繭の状況を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

二十日 火曜日 体育御奨励の思召しをもって、日本バレーボール協会に皇后杯として御紋付トロフィーを賜う。併せて天皇より天皇杯として御紋付トロフィーを賜う。皇后杯は、この年から全日本バレーボール総合女子選手権大会の優勝チームに授与される。○賜与録、日本バレーボール協会五十年史

二十一日 水曜日 日本赤十字社第五十八回通常総会に名誉総裁として御臨席のため、午前十時十二分御出門、日本赤十字社に行啓される。御着後、宣仁親王妃喜久子・崇仁親王妃百合子ほかの奉迎をお受けになり、便殿において厚生大臣林譲治・外務大臣代理川村松助<sup>外務政務次官</sup>・東京都知事安井誠一郎・日本赤十字社社長島津忠承・同副社長伊藤謹二の拝謁をお受けになる。それより式場に出御され、社長の挨拶の後、有功章受章者総代二名・特別社員章受章者総代十名に各章を御親授になり、続いて次の令旨を賜う。

日本赤十字社第五十八回の通常総会に当って、社員の皆さんに、一こと申し述べたいと思いません。

終戦以来すでに五年になりますが、国民みんなの、たゆまぬ努力と、諸外国の好意ある援助とによつて、わが国が各方面にわたつて、次第に復興を見つてありますことは、喜びに堪えません。しかし今日国民生活の上には、幾多の困難が横たわり、災害は今なお、あとを断たず、あるいは病気に倒れ、あるいはからだの自由を失い、また夫をなくし、親に離れた不幸な人達が、相変らず沢山いることを思うと心が痛みます。

こういう人達こそ真心のこもった、暖い赤十字の救いの手を、どんなにか待ちわびていることでしょう。

さいわい日本赤十字社は戦後全力を挙げて、医療や災害の救護に、あるいは家庭看護法や、救急法の普及に、あるいはまた、社会福祉施設の拡充に努めると共に、奉仕団の方々もまた、いろいろの献身的な活動に専念され、また本年五月行った赤十字募金も、非常な好成績をおさめたと聞いて、喜んでおります。これも、たゆまぬ努力によつて、赤十字に与えられた国民の信頼と、感謝の念のあらわれであろうと思います。この国民の信頼と支援に答えるためにも、世界各国の赤十字との緊密な連絡のもとに、一層その活動を活発にし、真に国民の赤十字としての務めを果すことを望んでやみません。

社長の奉答、連合国最高司令部・米国赤十字駐日代表・厚生大臣ほかの各祝辞があり、終わつて便殿に入御される。同所において米国赤十字極東地区事業部長H・L・ジェーンウエーに有功章を親授され、続いて便殿隣室において、最高司令部公衆衛生福祉局・米国赤十字等の関係者の謁見をお受けになる。その後講堂前広場において記念撮影をお受けになり、十一時三十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、幸啓録、皇親録、官報、事業年報（日本赤十字社）、日本赤十字社社史稿

午後、天皇と共に表拝謁の間において、学習院大学短期大学部長小宮豊隆より、夏目漱石についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録

二十二日 木曜日 正午頃、御進講室において元典侍竹屋津根子の拝謁をお受けになり、同人妹志計子の死去に際してのお仕向けへのお礼言上をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、恩賜録、贈賜録

昭和二十五年六月

二十五日 日曜日 午前、皇后宮御進講室において、この日お誕生日を迎えられて御参内の皇太后と御対面になる。ついで表御座所に移られ、天皇を交え御対面になる。皇太后が皇族等の拝賀をお受けになった後、天皇と共に表御座所において、皇太后と再び御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、

侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、儀式録、贈賜録、貞明皇后実録正本

二十七日 火曜日 午前十一時三十四分御出門、天皇と共に大宮御所に行啓され、皇太后と御昼餐を御会食になる。午後四時三十七分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、

貞明皇后実録正本

二十八日 水曜日 午後、天皇と共に表拝謁の間において、日本赤十字社輸血問題調査委員会委員加藤勝治より血液銀行についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、

進講録

朝融王妃知子女王三年祭につき、御使として女官東貞子を墓所に差し遣わされ、御代拝を仰せ付けられる。また、墓所に天皇・皇后・皇太后から榊を、靈舎に天皇・皇后から菓子・野菜を、皇后からお花料をそれぞれ賜う。○女官長日記、女官日誌、典式録、贈賜録、貞明皇后実録正本

信越本線熊ノ平駅群馬県碓氷郡坂本町構内における土砂崩壊事故去る八日から十二日にかけて発生殉難者の合同慰霊祭を翌二十九日坂

本町立中学校において挙行につき、天皇・皇后から施主の東京鉄道局長に生花を賜う。○賜与録、新聞発

表綴、日本国有鉄道百年史

二十九日 木曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、この度任期満了につき離任帰国の元米国海軍横須賀基地司令官ベントン・W・デッカー海軍少将及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍

従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録

三十日 金曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、米国の著述家ジョン・ガンサー及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録

天皇と共に表御座所において、伊勢より帰京の北白川房子神宮祭主の拝謁をお受けになる。その後、皇后宮御進講室において御昼餐を共にされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

## 七月

一日 土曜日 午前、花蔭亭前において、紅葉山御養蚕所に蚕糸納めのため参上の東京農工大学繊維学部長木暮楨太ほかの拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

三日 月曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、北米基督教青年会同盟委員ゲールン・M・フィッシャー及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録

表拝謁の間において、新任の書陵部長鈴木菊男及び前任の書陵部長城富次の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録、進退録

五日 水曜日 昨月二十五日朝鮮半島において動乱朝鮮戦争勃発につき、李垠・同夫人方に野菜等の食料を賜う。七日には桃山虔一・同夫人佳子に対しても野菜等を賜う。○女官長日記、朝日新聞

七日 金曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕納の儀を行われる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌

昭和二十五年七月

十一日 火曜日 午前、内廷庁舎において、香港駐在国際赤十字委員会代表フレリック・ビエリを御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、謁見録

十二日 水曜日 午前、御進講室において日本赤十字社社長島津忠承の拝謁をお受けになり、朝鮮半島における動乱<sup>朝鮮戦争</sup>の負傷兵に対する同社の事業計画をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

天皇と共に御文庫において、御参殿の皇太后及び正仁親王・厚子内親王・貴子内親王と御夕餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、貞明皇后実録正本

十四日 金曜日 元最高裁判所長官三淵忠彦この日死去につき、天皇・皇后・皇太后の御使として侍従永積寅彦を最高裁判所長官官舎に差し遣わされ、祭料及び花を賜う。○賜与録、贈賜録、新聞発表綴、貞

明皇后実録正本

十六日 日曜日 第十九回日本学生陸上競技対校選手権大会<sup>日本学生陸上競技連合主催</sup>に御臨席のため、午後一時二十

分御出門、天皇と共に千葉市営運動場に行啓される。先着の雍仁親王妃勢津子<sup>同連合総裁雍仁親王の代理</sup>と共に、女子

八十メートル障害競走決勝などを御覧になる。その後、千葉県庁にお立ち寄りになり、五時五十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、官報

十七日 月曜日 葉山御用邸に行啓のため、天皇及び正仁親王と共に午前十時五分御出門、十一時四十分同邸に御到着になる。なお、正仁親王は二十一日まで滞在する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍

従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓書類綴

十八日 火曜日 午前、天皇及び正仁親王の海洋生物御採集に同行され、笠島方面の海上にお出まし

になる。その後、立石御茶屋にて御昼餐を召される。以後、御用邸御滞在中はしばしば天皇の海上お出ましに同行される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓書類綴

二十日 木曜日 午前、天皇と共に皇子傳育官東園基文の拝謁をお受けになり、正仁親王の成績等についてお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

二十一日 金曜日 午後、天皇と共に、東宮教育担当の参与小泉信三、東宮大夫野村行一の拝謁を受けになり、皇太子の成績等についてお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、葉山行幸啓書類綴

二十六日 水曜日 今般渡米の伏見博明・李玖、及びそれぞれの母伏見朝子・李方子を天皇と共にお招きになり、御夕餐を御会食になる。なお、天皇・皇后から伏見博明・李玖にそれぞれ万那料及びお品を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓書類綴、贈賜録

二十八日 金曜日 翌日の還幸啓の御予定について、天皇お一方での還幸に変更される。なお、天皇は三十日明治天皇例祭を行われた後、再び葉山に行幸される。○女官日誌、幸啓録、葉山行幸啓書類綴

二十九日 土曜日 午後、天皇と共に、参邸の東久邇聡子・同成子・同信彦<sup>御孫</sup>・同文子<sup>同</sup>・同秀厚<sup>同</sup>と御対面になり、秀厚初誕辰に際してのお仕向けに対するお礼言上をお聞きになる。初誕辰に当たって、

天皇・皇后から東久邇盛厚・同夫人成子に五種交魚代料を、秀厚に鮮鯛代料及び御台人形代料を、東久邇稔彦・同夫人聡子に三種交魚代料をそれぞれ賜う。○女官長日記、女官日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓書類綴、贈賜録

類綴、贈賜録

昭和二十五年八月

八月

八日 火曜日 午前、天皇と共に、今般ローマ法王を訪問の聖心愛子会会長聖園アレジア、及び同会副会長加藤ユステイチアの拝謁をお受けになる。聖園より、法王からの伝言、欧米旅行中のこと等をお聞きになる。なお、法王から天皇・皇后に聖年記念メダルの御贈進がある。○女官長日記、女官日誌、侍

従日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓書類綴

十一日 金曜日 午後、天皇と共に、昨年ノーベル物理学賞を受賞した京都大学教授湯川秀樹の拝謁をお受けになる。ついで進講形式による賜茶がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、典式録、

葉山行幸啓書類綴、賜与録、公文類聚

十五日 火曜日 終戦の日につき、終日、お出ましをお控えになる。○女官長日記、女官日誌、葉山行幸啓書類綴

午前、天皇と共に、元侯爵山階芳麿及び同夫人寿賀子の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍

従日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓書類綴

十六日 水曜日 午後、天皇と共に、この度米国より帰国の神奈川県知事内山岩太郎より同国事情についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓書類綴

この月上旬の豪雨により甚大な被害を受けた宮城県・茨城県に、天皇・皇后より御救恤金を賜う。○賜与録、新聞発表綴

十九日 土曜日 静岡県御殿場の別邸にて病氣療養中の雍仁親王に、天皇・皇后よりお見舞いとして果物を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、葉山行幸啓書類綴

二十九日 火曜日 午後四時三十分天皇と共に葉山御用邸を御出門、六時二分皇居に還啓される。○  
女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓書類綴

## 九月

一日 金曜日 天皇と共に御文庫において、昨日軽井沢より帰京の皇太子・正仁親王と御夕餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮職事務日誌

五日 火曜日 午前、御進講室において、来る十月モナコ国において開催の赤十字社連盟第二十一回理事会に出席する日本赤十字社社長島津忠承の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、事業年報（日本赤十字社）、日本赤十字社社史稿、読売新聞、朝日新聞

六日 水曜日 午前、御文庫において北白川房子・同祥子故永久王妃の拝謁をお受けになり、去る四日の永

久王十年祭に際してのお仕向けへのお礼言上をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、贈賜録、貞明皇后実録  
正本

八日 金曜日 今般台風二十八号ジェーにより甚大な被害を受けた大阪・和歌山・兵庫・京都・徳島・福井・石川・滋賀・富山の各府県に対し、天皇・皇后より御救恤金を賜う。○賜与録

十日 日曜日 天皇と共に御文庫において、御参殿の皇太后及び皇太子・正仁親王・厚子内親王・貴子内親王と御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録、貞明皇后実録  
録正本

十九日 火曜日 午前、天皇と共に表御座所において、司法制度視察のため今般渡米する最高裁判所

昭和二十五年九月

判事穂積重遠元東宮大夫の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、読売新聞

二十日 水曜日 体育御奨励の思召しをもって、日本軟式庭球連盟に皇后杯として御紋付トロフィーを賜う。皇后杯は、全日本一般女子選手権大会の優勝者に授与される。○賜与録

二十一日 木曜日 今般台風二十九号台風 キシアにより甚大な被害を受けた山口県・宮崎県・大分県・広島県に対し、天皇・皇后より御救恤金を賜う。○賜与録

二十三日 土曜日 午前、秋季皇霊祭及び同神殿祭につき、女官小倉満子に御代拝を仰せ付けられる。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、祭典録、典式録

二十四日 日曜日 午後、天皇及び皇太子・正仁親王・厚子内親王・貴子内親王と共に皇居内のパレステニスコートにお出ましになり、昭和二十五年全日本庭球選手権大会を御覧になる。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録

二十七日 水曜日 午前十一時四十五分御出門、天皇と共に大宮御所に行啓され、皇太后と御昼餐を御会食になる。午後三時四十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、

貞明皇后実録正本

二十八日 木曜日 午後、義宮御殿にお出ましになる。東京大学教授水島三二郎に茶を賜い、化学について座談される。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

二十九日 金曜日 午前、表拝謁の間において、米国赤十字対外事業部長フランクリン・T・クレヴァレーを御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、謁見録

三十日 土曜日 午前、天皇と共に御文庫において、この日誕生日を迎えた鷹司和子と御対面になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

午後、旧主馬寮覆馬場にお出ましになり、皇太子・正仁親王並びに侍従、傳育官、侍医等による馬術競技を御覧になる。厚子内親王・貴子内親王、エリザベス・グレイ・ヴァイニングほかが陪観する。

○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

来る十月一日より昭和二十五年国民たすけあい共同募金運動を実施する財団法人中央共同募金委員会に、天皇・皇后・皇太后より金一封を賜う。○賜与録、新聞発表綴、貞明皇后実録正本

## 十月

二日 月曜日 昨一日より八日まで第三回新聞週間につき、午前、天皇と共に旧北御車寄門内において、全国新聞代表者に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宣召録、典式録

三日 火曜日 午前、表拝謁の間において、去る一日出入国管理庁長官に任命された元侍従次長鈴木一の拝謁をお受けになる。転出につき、天皇・皇后から賜品等がある。なお翌月四日には、内廷庁舎において同人の夫人布美の拝謁をお受けになり、夫が側近に奉仕したことのお礼言上をお聞きになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録、官報

四日 水曜日 社会事業施設御視察のため、天皇と共に東京都下並びに埼玉県下に行啓される。午前九時三十五分御出門、財団法人東京社会保険協会山手病院、東京都淀橋寮、松葉保育園を御訪問になる。それより埼玉県へ向かわれ、財団法人埼玉厚生会尚和園、財団法人埼玉県済生会川口済生病院、川口市援護館を御訪問になる。午後三時四十一分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、

昭和二十五年十月

内舎人日誌、幸啓録、官報

十日 火曜日 午前、内廷庁舎において、昨九日警察予備隊警察監に任命された元宮内庁次長林敬三の拝謁をお受けになる。天皇・皇后から賜品がある。○女官長日誌、女官日誌、侍従職日誌、贈賜録、官報  
午後一時三十七分御出門、東久邇邸に行啓される。東久邇盛厚・同夫人成子及び同子女とお過ごしになり、四時十分還啓される。○女官長日誌、女官日誌、内舎人日誌、幸啓録、皇親録

十一日 水曜日 午後、天皇と共に表拝謁の間において、旧堂上会理事長鷹司信輔ほかの拝謁をお受けになる。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

十二日 木曜日 午後、厚子内親王・貴子内親王と共に講堂において、楽部によるスツペ作曲喜歌劇「詩人と農夫」序曲などの演奏をお聴きになる。エリザベス・グレイ・ヴァイニングが陪聴する。○

女官長日誌、女官日誌、内舎人日誌、重要雑録

元宮内省御用掛三浦謹之助日本学士院会員、東京大学名誉教授、文化勲章受章者昨日死去につき、天皇・皇后より盛菓子料及び切り花を

賜う。翌十三日には天皇・皇后・皇太后より祭送料を賜う。○贈賜録、賜与録、上奏モノ控簿、貞明皇后実録正本

十三日 金曜日 午前、表拝謁の間において、去る九日宮内庁次長に就任した宇佐美毅の拝謁をお受けになる。○女官長日誌、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、官報

午後、御文庫において宣仁親王妃喜久子と御対面になり、有楽座において昨日慈善特別試写会を開催した二葉保育園に対し、天皇・皇后から賜金があったことについて、お礼言上をお受けになる。○女官

長日誌、女官日誌、贈賜録

天皇と共に御文庫において東久邇成子と御対面になり、去る十日の東久邇邸行啓のお礼をお受けにな

る。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

十五日 日曜日 学習院初等科運動会を御覧になるため、午後一時五分御出門、大宮御所にお立ち寄りになり、皇太后と共に学習院初等科に行啓される。御着後、学習院長安倍能成の先導により会場に進まれ、厚子内親王及び東久邇成子・鷹司和子も交え、最終学年の貴子内親王出場の種目等を御覧になる。大宮御所にお立ち寄りの後、三時四十八分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、

幸啓録、行啓録、皇親録、業務日誌、貞明皇后実録正本、読売新聞

十六日 月曜日 午後一時三十五分御出門、貴子内親王と共に鷹司邸に行啓される。鷹司平通・同夫人和子と御対面になり、各室を御覧になる。途中より厚子内親王も来訪する。四時十五分還啓される。

○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、幸啓録、皇親録

十七日 火曜日 午前、神嘗祭につき、御文庫において神宮を御遙拝になる。続いて賢所において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、祭典録、恒例祭祀録

十八日 水曜日 午前九時三十分天皇と共に御出門、多摩陵に行啓され、天皇に続き御拝礼になる。

終わって、林業試験場浅川分室に立ち寄られ、標本室を御覧になった後、裏山を散策される。午後五時還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録

十九日 木曜日 午前、表拝謁の間において、京都在住旧堂上華族総代清岡長言の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、贈賜録

御文庫において、天皇及び御参殿の皇太后と御夕食を共にされる。その後御一緒に、去る十二日二葉保育園主催の慈善特別試写会で上映された英国映画「わが心は君に」を御覧になる。○女官長日記、女官

昭和二十五年十月

日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、貞明皇后実録正本

二十日 金曜日 午後、天皇と共に御文庫において、御参殿の皇太后と御対面になる。ついで表三の間における菊栄親睦会の茶会にお揃いにて出御される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宣召録、典式録、菊栄親睦会録、貞明皇后実録正本

二十二日 日曜日 午後、天皇と共に御文庫において、御参殿の皇太后と御対面になる。ついでお揃いにて旧主馬寮広場にお出ましになり、先着の皇太子・貴子内親王と共に、宮内庁職員運動会を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、貞明皇后実録正本

二十四日 火曜日 午前、天皇と共に旧北御車寄門内において、昨日の電気通信記念日に際して電気通信大臣から表彰された永年勤続者・発明考案改良者・非常災害功労者・業務成績優良者・委託業務功労者等に御会釈を賜う。○侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宣召録

表拝謁の間において、この度帰国の松山東雲高等学校名譽校長オリーブ・S・ホイテを御引見になる。同人は、明治三十五年以来本邦女子教育に尽力した。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、謁見録  
午後、学習院女学部御卒業三十周年として御同級生をお召しになり、花蔭亭において茶会を催される。

○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

二十七日 金曜日 愛知県下において行われる第五回国民体育大会秋季大会に御臨場、併せて県下の社会事業その他を御視察のため、天皇と共に二十九日まで同県に行啓される。午前十時二十分御出門、東京駅より名古屋駅を経て、午後五時五分御泊所八勝館に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、

侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、愛知県下行幸啓録、幸啓録、官報

二十八日 土曜日 午前九時天皇と共に御泊所八勝館を御出発、瑞穂グラウンドへ向かわれ、先着の雍仁親王妃勢津子と共に第五回国民体育大会秋季大会開会式に御臨場になる。便殿において御昼食後、再び会場に臨御され、国体陸上競技を御覧になる。それより御徒歩にて隣接のラグビー競技場に移られ、国体ラグビー競技を御覧になる。次に瑞穂寮<sup>病弱者を收容する生活保護法及び児童福祉法の認可施設</sup>を訪問され、收容者を御慰問になる。続いて三菱電機株式会社名古屋製作所、中部日本新聞社を訪問された後、金山体育館において雍仁親王妃と共に国体バスケットボール競技を御覧になる。午後五時二十分御泊所八勝館にお戻りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、官報

二十九日 日曜日 午前九時二十五分天皇と共に御泊所八勝館を御出発、熱田神宮へ向かわれる。御着後、天皇に続き、瑞垣御門前に設けられた御拝座浜床において御拝礼になる。御参拝につき、天皇・皇后より同神宮に幣帛料・神饌料を御奉納になる。十一時五分名古屋駅を御発車、東京駅を経て、午後四時四十八分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、愛知県下行幸啓録、幸啓録、庁規例規朝儀諸綴、官報、熱田神宮関係資料

三十日 月曜日 午前、表拝謁の間において、この日侍従次長に任命された稲田周一の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、官報

## 十一月

二日 木曜日 去る十月契約満了となった元皇太子家庭教師エリザベス・グレイ・ヴァイニング帰国につき、天皇と共に表一の間において、同人をお招きの午餐を催される。内閣総理大臣<sup>兼外務大臣</sup>、東宮教

昭和二十五年十一月

育担当の参与、東宮大夫ほかが出席する。なお、天皇・皇后よりヴァイニングにお品を賜う。同人の秘書を務めた高橋たねに対しても、退任につき皇后から婦人服地を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、

侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宣召録、典式録、贈賜録、ヴァイニング関係資料

午後、パリ国立音楽学校ピアノ科教授ラザール・レヴィ

毎日新聞社の招聘によりフランス  
国政府派遣芸術使節として来日

によるピアノ演奏を御

鑑賞のため、楽部にお出ましになる。貴賓室において、皇太后、皇太子・厚子内親王・貴子内親王、東久邇成子・同信彦・同文子、鷹司和子と御対面になる。ついでレヴィ及び同夫人を御引見になる。

続いてレヴィの門弟の原智恵子・安川加寿子の拝謁をお受けになる。それより演奏室に移られ、レヴィの演奏による同人作曲「四つの前奏曲」・シヨパン作曲ノクターン第四番、レヴィと安川の演奏によるモーツァルト作曲「二台のピアノのためのソナタ」、レヴィと原の演奏によるシャブリエ作曲「二台のピアノのためのロマンティックなワルツ」などをお聴きになる。エリザベス・グレイ・ヴァイニング、神戸絢ほかが陪聴する。終わって皇太后と共に貴賓室において、再びレヴィ夫妻を御引見になり、皇后よりレヴィにお品を賜う。ついで原・安川の拝謁をお受けになる。兩人に対しても、この日の記念として皇后から賜品がある。その後、毎日新聞社社長本田親男及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、謁見録、外交贈答録、行啓録、貞明皇后実録正本、毎日新聞

三日 金曜日 音楽文化資料展覧会を御覧になるため、午後零時四十五分御出門、大宮御所に立ち寄り、皇太后と共に国立国会図書館に行啓される。同館館長金森徳次郎の先導にて上演場に進まれ、入口において厚子内親王・貴子内親王のお迎えをお受けになる。それより、坂東三津五郎<sup>七代</sup>による舞踊「木賊刈」、東京芸術大学音楽部管弦楽によるシューベルト作曲交響曲「未完成」第一楽章、宮

城道雄による箏曲「六段」等を御鑑賞になる。休憩の際に、御休所において、館長・展覧会委員・図書館幹部・展覧会企画者及び出演者代表の拝謁をお受けになる。終わって展覧会場に移られ、館長の先導にて、日本古代の楽器等各間の展示を御巡覧になる。大宮御所にお立ち寄りの後、四時八分還啓される。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、幸啓録、行啓録、貞明皇后実録正本、朝日新聞

四日 土曜日 午前、天皇と共に賢所通用門前において、全日本健康優良児童表彰会朝日新聞社主催により特選児童に選ばれた健康優良児ほかに御会釈を賜う。会長長谷部忠朝日新聞社社長より挨拶をお受けになり、天皇に続き、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宣召録、典式録、朝日新聞

五日 日曜日 元宮内大臣石渡莊太郎昨日死去につき、天皇・皇后・皇太后より祭糝料を、天皇・皇后より菓子を、皇后より切り花を賜う。○恩賜録、贈賜録、貞明皇后実録正本

六日 月曜日 天皇と共に東京六大学野球連盟リーグ戦を御覧になるため、午後一時五分御出門、神宮球場に行啓される。先着の皇太子・正仁親王と共に、早稲田大学対慶応義塾大学の試合を御観戦になる。三時十八分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、官報、朝日新聞

七日 火曜日 午前、天皇と共に旧北御車寄門内において、松影会会員の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

夕刻、義宮御殿にお出ましになり、東京大学教授水島三一郎による正仁親王への化学の進講に同席される。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

八日 水曜日 午後、天皇と共に旧北御車寄門内において、全国社会事業大会にて表彰された社会事業功労者に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宣召録、典式録

昭和二十五年十一月

天皇と共に御文庫において、北白川房子神官祭主と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌

九日 木曜日 午前八時五十分御出門、学習院戸山校学習院大学短期大学・学習院女子部・同中等科に行啓される。御着後、校門よ

り女子学生・男子中等科生徒・教職員の、玄関内で正仁親王・厚子内親王の奉迎をお受けになり、院長安倍能成の先導にて便殿に入られる。安倍院長の拝謁をお受けになり、学習院の現状等についての言上をお聞きになる。ついで女子部長小宮豊隆・女子高等科長古賀軍治・女子中等科長鈴木謙一郎・中等科長児玉幸多の拝謁をお受けになる。それより安倍院長の先導にて、女子中等科、女子高等科、短期大学、男子中等科の授業を御巡覧になる。その際、短期大学では厚子内親王の国文学演習の授業を、男子中等科では正仁親王の英語の授業を御覧になる。また、絵画・生花・書道等の作品の展示を御覧になる。午後零時五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、幸啓録、皇親録

十一日 土曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午前十時五分御出門、十一時三十五分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓書類綴、幸啓録

十三日 月曜日 午後三時天皇と共に葉山御用邸を御出門、四時三十五分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓書類綴、幸啓録

十五日 水曜日 午前八時四十五分御出門、天皇と共に東京都美術館に行啓され、先着の厚子内親王と御一緒に第六回日本美術展覧会を御覧になる。その後天皇と共に、上野動物園に立ち寄られる。午後二時三十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、官報、毎日新聞

十七日 金曜日 午前、講堂において、宮内庁職員総合美術展を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、内

舎人日誌

午後、表拝謁の間において、この度帰国の神戸女子学院名誉院長シャーロット・B・デフォレストを御引見になる。同人は、明治三十八年以来、本邦の女子教育に尽力した。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、謁見録

十八日 土曜日 午前、天皇と共に御文庫において雍仁親王妃勢津子と御対面になり、松平恒雄雍仁親王妃の父、

昨年十一月十四日死去の喪明けのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、皇親録

午後、呉竹寮において、鈴木布美元侍従次長鈴木一夫人及び同息女道子の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、

内舎人日誌

十九日 日曜日 午後、天皇及び正仁親王・貴子内親王と共に皇居内のパレステニスコートにおいて、

朝日全国招待庭球大会を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、朝日新聞

二十一日 火曜日 午前十一時四十分御出門、天皇と共に大宮御所に行啓され、皇太后と御昼餐を御会食になる。午後には崇仁親王も加わり御歓談になる。四時十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍

従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、貞明皇后実録正本

二十六日 日曜日 エリザベス・グレイ・ヴァイニングこの度契約満了につき帰国のため、天皇と共に送別の茶会を催され、午後、天皇及び皇太后と共に花蔭亭に出御される。皇太子・正仁親王・厚子内親王・貴子内親王が臨席し、東久邇盛厚・同夫人成子・鷹司平通・同夫人和子、ヴァイニング及び同姉ヴァイオレット・ゴールドン・グレイが招かれる。終わりに、ヴァイニングの秘書を務めた高橋たねの拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、貞明皇后実録正本

二十八日 火曜日 午前、天皇と共に表御座所において、米国司法制度視察から帰国の最高裁判所判事穂積重遠より進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、読売新聞  
午後、天皇と共に旧北御車寄門内において、各都道府県共同募金委員会委員代表者に御会釈を賜う。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宣召録

正仁親王の誕生日につき、天皇と共に、同親王と御対面になる。ついで天皇及び同親王と共に表拝謁の間において、宮内庁長官始め総代、女官長始め女官、元奉仕者の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

## 十二月

一日 金曜日 午後、御進講室において梨本守正御父邦彦  
王の弟・同夫人伊都子の拝謁をお受けになり、金婚式に際してのお仕向けへのお礼言上をお聞きになる。去る十一月二十八日には、天皇・皇后から夫妻に万那料・お品料等を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

近日中出帆予定の貨客船ピーター・マースク号で帰国するエリザベス・グレイ・ヴァイニングの見送りのため、この日皇太子が正仁親王と共に横浜港に行啓する。皇后は女官長保科武子を遣わし、ヴァイニング及び同姉ヴァイオレット・ゴールドン・グレイに対し、お言葉をお伝えになり、それぞれに花束を賜う。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、新聞発表綴、読売新聞、朝日新聞

二日 土曜日 午後、御文庫において、この日誕生日を迎えた崇仁親王、及びこの日着袴の儀を執行した寛仁親王と御対面になり、お礼言上をお受けになる。寛仁親王着袴の儀に当たって、天皇・皇后

より同親王に鮮鯛代料・御台人形代料を、崇仁親王・同妃に五種交魚代料を賜う。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、贈賜録

六日 水曜日 午後、呉竹寮において、この日誕生日を迎えた東久邇成子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、贈賜録

十三日 水曜日 午前十一時五十八分御出門、鷹司邸に行啓され、鷹司和子と御昼餐を御会食になる。午後四時十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、幸啓録、皇親録

十五日 金曜日 夕刻、賢所御神楽につき、女官雪井よし子に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、祭典録、恒例祭祀録

十八日 月曜日 天皇と共に菊栄親睦会会員を午餐にお招きになる。天皇・皇太后と御一緒に表一の間において、会員に御陪食を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宣召録、典式録、菊栄親睦会録、貞明皇后実録正本

二十日 水曜日 午前、御進講室において、円照寺門跡の山本静山の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

二十一日 木曜日 午前、御進講室において、一昨日伊勢より帰京の北白川房子神宮祭主の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

二十三日 土曜日 皇太子の誕生日につき、午前、天皇と共に表御座所において、皇太子と御対面になる。ついで天皇及び皇太子と共に表拝謁の間において、皇族、元皇族・元王族の拝賀を、ついで宮内庁長官始め総代、女官、元奉仕者等の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、

昭和二十五年十二月

内舎人日誌、東宮録

天皇・皇后より事業御奨励のため日本赤十字社に金一封を賜う。また別に皇后より、日本赤十字社病院救助収容患者<sup>千七百七十五名</sup>及び財団法人済生会病院救助収容患者<sup>八百六十二名</sup>に対し、手拭い一筋ずつを賜う。○贈

賜録、新聞発表綴、事業年報（日本赤十字社）

事業御奨励のため、財団法人結核予防会に金一封を賜う。○賜与録、新聞発表綴

来る二十五日より三日間にわたり、東京都下各医療施設の協力を得て、この年から生活困窮者に限らず全都民を対象に歳末無料診察等を実施する東京都に、金一封を賜う。○賜与録、新聞発表綴

二十五日 月曜日 午前、大正天皇祭皇靈殿の儀につき、女官東貞子に御代拝を仰せ付けられる。夕刻、同御神楽の儀につき、同女官に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録

午前、天皇と共に御文庫において、大正天皇祭に参列した宣仁親王、崇仁親王・同妃百合子、北白川房子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、祭典録

クリスマスに当たり天皇・皇后より、連合国最高司令官ダグラス・マッカーサー及び同夫人に梨子地山水蒔絵香箱を、同子息にモーターボート玩具を、学習院講師レジナルド・ホレイス・ブライスに銀製帆掛船棚飾をお贈りになる。○贈賜録

朝鮮戦線従軍中の米国第八軍司令官ウォルトン・ハリス・ウォーカー去る二十三日自動車事故により死去につき、天皇・皇后が御使として式部官黒田実をウォーカー邸に差し遣わされ、霊前に花環をお供えになる。また後日、天皇・皇后からウォーカー夫人に花束を賜う。○侍従日誌、上奏モノ控簿、贈賜録

外交贈答録、外交慶弔録、徳川義寛終戦日記

二十七日 水曜日 午前、天皇と共に花蔭亭通用門外において、優良私設社会事業団体の代表者に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宣召録、典式録

二十八日 木曜日 天皇と共に御文庫において、歳末御挨拶のため御参殿の皇太后と御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、貞明皇后実録正本

二十九日 金曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、元皇族・元王族等より歳末の祝詞言上をお受けになる。引き続き天皇と共に同所において、宮内庁長官始め総代、女官より歳末の祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

三十日 土曜日 歳末の御挨拶のため、午前十一時四十分御出門、天皇と共に大宮御所に行啓され、皇太后と御昼餐を御会食になる。午後四時十三分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、貞明皇后実録正本

三十一日 日曜日 午後、天皇と共に御文庫において、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子より、歳末の祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌

昭和二十六年（西曆一九五一年） 四十八歳

一月

一日 月曜日 天皇と共に元日拝賀<sup>前年の「元旦拝賀」より改称</sup>に臨まれる。午前、表拝謁の間において、皇族、元皇族・元王族、内閣総理大臣・参議院議長・最高裁判所長官等の拝賀をお受けになる。これに先立ち天皇と共に、表拝謁の間において側近奉仕者等の拝賀を、講堂において宮内庁職員・皇宮警察本部職員の拝賀を、表休所において元宮内職員の拝賀を、表拝謁の間において元側近奉仕者及び御縁故者の拝賀をお受けになる。なお、宮内庁職員の拝賀について、従来、宮内省・宮内府の二等待遇以上の宮内官、並びに宮内庁の職員<sup>二級待遇以上の職員と三級以下の職員が別の時刻に拝賀</sup>の拝賀は朝賀の式として行われ、業務の事情により同拝賀に参列できない職員の拝賀は非公式の扱いとされていたが、この年は、前年に職員の級別が廃止されたことにより拝賀の方式が改められ、宮内庁職員・皇宮警察本部職員が一堂に会し、非公式の扱いとして拝賀が行われた。以後、宮内庁職員・皇宮警察本部職員の拝賀は、非公式のものとして行われることとされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、儀式録、官報

天皇と共に元日参賀<sup>前年の「元旦参賀」より改称</sup>に臨まれる。午前・午後の各一回、宮内庁庁舎正面玄関屋根上バルコ

二一にお出ましになり、参賀者に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、典式録、儀式録、官報

二日 火曜日 元皇族梨本守正御父邦彦  
王の弟 昨一日死去につき、この日、天皇・皇后の弔問使として侍従永積寅彦を同人邸に差し遣わされ、天皇・皇后より野菜を、皇后より盛花を霊前にお供えになる。四日には、天皇・皇后・皇太后の御使として侍従山田康彦を差し遣わされ、天皇・皇后・皇太后より祭資・榼を賜う。山田侍従には、賜物の伝達後、天皇・皇后の御使として柩前において拝礼させられる。また、皇后の御使として女官長保科武子を差し遣わされ、霊前に清酒等をお供えになる。五日には移霊祭が行われ、天皇・皇后より霊前に盛菓子を賜う。六日に行われる葬儀には、勅使・皇后宮使として侍従久松定孝を梨本邸に差し遣わされ、拝礼させられる。

梨本守正は明治七年、朝彦親王御祖  
父の第四王子として生まれる。初名は多田王と称し、十八年に梨本宮を継承して翌十九年守正と改名する。陸軍に籍を置き、大正十二年に陸軍大将に任じられ、昭和七年、元帥府に列せられる。十二年十月には臨時神宮祭主を命じられる。二十年十二月、皇族でただ一人戦犯容疑者として巢鴨拘置所に収監されたが、容疑不十分として翌二十一年釈放された。二十二年十月十四日、皇族の身分を離れ、梨本姓を名乗る。享年七十七。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、典式録、慶弔録、墓誌銘録、重要雑録、上奏モノ控簿、貞明皇后実録正本、梨本伊都子日記

昨一日より起算し、九十日第一期二十日、  
第二期七十日 服喪される。なお、御喪明けまで、行事等がある場合にはその都度除喪される。○内舍人日誌、皇親録、重要雑録、上奏モノ控簿

昭和二十六年一月

三日 水曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、甯子内親王始め未成年の皇族・元皇族より新年の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

午後、天皇と共に御文庫において、この日誕生日を迎えた宣仁親王と御対面になる。ついで新年につき、天皇と共に同所において、伏見朝子<sup>故博義</sup>王妃・北白川祥子<sup>故永久</sup>王妃の拝賀を、その後、北白川房子<sup>故成久</sup>王妃の

拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、贈賜録

四日 木曜日 午前、天皇と共に表御座所において、東宮教育担当の参与小泉信三及び東宮大夫野村行一の拝謁をお受けになり、皇太子の成績についてお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職

日誌、内舍人日誌

午後、御文庫において、御服喪中の御機嫌伺いのため参殿の宣仁親王妃喜久子と御対面になる。○女官

長日記、女官日誌

五日 金曜日 午前、御文庫において、御服喪中の御機嫌伺いのため参殿の東久邇聡子<sup>稔彦の</sup>夫人・同成子、

鷹司和子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

天皇と共に御文庫において、御参殿の皇太后とお祝御膳を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、

侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、典式録、贈賜録、皇親録、貞明皇后実録正本

天皇と共に御文庫において、雍仁親王妃勢津子と御対面になり、新年の拝賀及び御服喪中の御機嫌伺いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、秩父宮事務日誌

七日 日曜日 天皇と共に御文庫において、この日葉山御用邸附属邸から帰京の正仁親王、及びこの日沼津御用邸西附属邸から帰京の厚子内親王・貴子内親王と御夕餐を御会食になる。以後、この年も

皇太子始め皇族・御親族としばしば御対面・御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

八日 月曜日 午後、天皇と共に御文庫において、昨七日群馬県より帰京の皇太子と御対面になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

九日 火曜日 午前十一時二十分御出門、天皇と共に大宮御所に行啓され、皇太后と御昼餐を御会食になる。午後四時二十六分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、重要

雑録、幸啓録、贈賜録、皇親録、貞明皇后実録正本

十日 水曜日 午前十時、天皇と共に表休所において、講書始の儀に臨まれる。国書は明治大学教授渡辺世祐より「後奈良天皇の宸筆に就いて」、漢書は東京大学教授加藤常賢より「論語雍也篇君子儒章」、洋書は九州大学名誉教授小野鑑正より「近年における応用力学の発達について」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、講書始録、儀式録、皇親録、重要雑録、官報

午後、天皇と共に御文庫において、参与小泉信三・侍従次長稲田周一・皇子傳育官東園基文の拝謁をお受けになり、正仁親王の成績等についてお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十二日 金曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午前十時御出門、十一時三十分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓書類綴

十八日 木曜日 午後、病氣全快につき参邸の東伏見周子の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、

昭和二十六年一月

葉山行幸啓書類綴

二十三日 火曜日 午後二時天皇と共に葉山御用邸を御出門、三時三十分皇居に還啓される。その後、還幸啓につき、天皇・皇后より御使として侍従長三谷隆信を大宮御所に差し遣わされる。この年も折に触れ、参殿の皇太后宮御使の拝謁をお受けになり、また、天皇・皇后から大宮御所に御使を差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓書類綴

二十六日 金曜日 午前十時、天皇及び御参内の皇太后と共に表休所において、歌会始の儀に臨まれる。この年のお題は「朝空」であり、皇后宮御歌は次のとおり。

#### 皇后宮御歌

月かげもあはくのこりてあさみどりすがすがしくもあけそむるそら

終わって天皇・皇太后と共に旧北御車寄門内において、預選者の拝謁をお受けになる。なお、この年に初めて、天皇・皇后・皇太后お揃いで歌会始の儀に御出席になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、儀式録、例規録、歌会始録、幸啓録、貞明皇后実録正本、官報

天皇と共に御文庫において、皇太后と御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

連合国最高司令官ダグラス・マッカーサーの誕生日につき、天皇・皇后より同司令官に切り花をお贈りになる。○女官長日記、贈賜録

二十七日 土曜日 第一回アジア競技大会インド国ニューデリーにおいて開催派遣選手団後援会に対し、天皇・皇后より御奨励金を賜う。○賜与録、贈賜録

二十九日 月曜日 午前、内廷庁舎において、豊田実文学博士よりワーズワース詩人についての進講をお聴き

になる。この年は、月曜日に同人より、ワーズワース等に関する進講を計十三回お聴きになる。○女官

長日記、女官日誌、内舎人日誌

午後、天皇と共に表拝謁の間において、元引揚援護庁長官斎藤惣一日本基督教青年会同盟総主事・衆議院海外同胞引揚

特別委員会委員中山マサ衆議院議員・外務省管理局長倭島英二より、海外同胞引揚問題についての進講をお

聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞

三十一日 水曜日 午前、御進講室において、植村環日本基督教女子青年会会長より聖書についての進講をお聴きにな

る。この年は、水曜日に同人より、聖書等に関する進講を計十三回お聴きになる。○女官長日記、女官日誌、

内舎人日誌

午後一時二十五分御出門、大宮御所に行啓され、皇太后と御対面になる。四時十分還啓される。○女官

長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、皇親録、貞明皇后実録正本

## 二月

一日 木曜日 天皇・皇后より財団法人グルー基金に御奨励金を賜う。○賜与録

二日 金曜日 午前、内廷庁舎において、加藤虎之亮文学博士より孟子についての進講をお聴きになる。こ

の年は、金曜日に同人より、孟子等に関する進講を計十三回お聴きになる。○女官長日記、女官日誌、加藤

虎之亮関係資料

三日 土曜日 午後、呉竹寮にお出ましになる。厚子内親王・貴子内親王と御対面になり、その後貴子内親王のピアノの稽古を御覧になる。以後、しばしば呉竹寮にお出ましになり、元別当山階工藤壮平の指導による書道、神戸絢の指導によるピアノの稽古等を御覧になる。また、御自身も折に触れて稽古をされる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

五日 月曜日 午後、御文庫において宣仁親王妃喜久子と御対面になり、風気療養中のお仕向けに対するお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

九日 金曜日 昨日来の御風気により御仮床に就かれる。翌十日の米国大統領特使ジョン・フォスター・ダレスほか御引見へのお出まし等をお取りやめになり、約一週間にわたり御静養になる。○女官長日記、女官日誌、謁見録

十九日 月曜日 故梨本守正五十日祭につき、女官東貞子を豊島岡墓地の墓所に差し遣わされ、祭典後拝礼させられる。また、天皇・皇后から菓物、皇后から菓子・切り花をお供えになる。天皇・皇后・皇太后からは、墓所に柵をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、重要雑録、貞明皇后実録正本、梨本

伊都子日記

二十日 火曜日 午前、表拝謁の間において、この度帰国するユニセフ駐日事務局長マルゲリタ・スツレーラーを御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、謁見録

二十二日 木曜日 天皇と共に御文庫において、御参殿の皇太后と御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、貞明皇后実録正本

二十三日 金曜日 午前、御進講室において、忌明けにつき参内の梨本伊都子及び李方子守正王の王女の拝謁

をお受けになり、梨本守正死去に際してのお仕向けに対するお礼言上をお聞きになる。○女官長日記、女  
官日誌、内舍人日誌

御進講室において、去る二十一日に伊勢から帰京した北白川房子<sup>神宮</sup><sub>祭主</sub>の拝謁をお受けになる。○女官長日  
記、女官日誌

二十六日 月曜日 午前、表拝謁の間において、新任の女官小川梅子及びこの日退官の女官東貞子の  
拝謁をお受けになる。なお、東は職務の引き継ぎ等のため三月末日限りでの退去を予定にこの日以後  
も勤務し、四月七日退去に際し再度拝謁する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録、官報

午後、御文庫において、元皇后宮女官伊地知ミキの拝謁をお受けになる。以後、この年も随時、元奉  
仕者の拝謁等がある。○女官長日記、女官日誌

この月 大聖寺・宝鏡寺・曇華院・林丘寺・光照院・三時知恩寺・円照寺・水薬師寺・長福寺・中宮  
寺・法華寺・善光寺に対し、恒例により乾海苔料を賜う。○贈賜録

### 三月

二日 金曜日 貴子内親王の誕生日につき、午後、天皇及び貴子内親王と共に表拝謁の間において、  
宮内庁長官始め総代、女官長始め女官等の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日  
誌、内舍人日誌

六日 火曜日 満四十八歳のお誕生日を迎えられる。

午前、表拝謁の間において、側近奉仕者等の拝賀をお受けになる。ついで講堂において、宮内庁職員

及び皇宮警察本部職員の拝賀をお受けになる。再び表拝謁の間において、皇族、元皇族・元王族、内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最高裁判所長官等並びに以上の者の夫人の拝賀をお受けになる。その後、表拝謁の間において、御学友、元皇后宮大夫始め元側近奉仕者等の拝賀を、御進講室において元皇后宮女官の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、儀式録、典式録、例規録

七日 水曜日 厚子内親王の誕生日につき、午前、天皇及び厚子内親王と共に表拝謁の間において、宮内庁長官始め総代、女官長始め女官等の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

十一日 日曜日 衆議院議長幣原喜重郎昨日死去につき、この日、天皇・皇后・皇太后より弔問使として侍従入江相政を同人邸に差し遣わされる。十五日には、天皇・皇后・皇太后より柩前使兼賜物使として侍従山田康彦を衆議院議長公舎に差し遣わされ、祭糝料・供物・花を賜い、柩前に拝礼させられる。十六日に行われる葬儀には、皇后より葬場使として侍従久松定孝を本願寺築地別院に差し遣わされる。また、天皇・皇后より霊前に菓子をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、重要雑録、賜与録、貞明皇后実録正本

十三日 火曜日 午前、表拝謁の間において、去る二月十二日内廷の医事に関する参与を命じられた勝沼精蔵名古屋大  
学総長の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

午後、天皇と共に御文庫において、昨十二日千代田区紀尾井町の宮内庁官舎から渋谷区千駄ヶ谷の新居に移転した鷹司平通及び同夫人和子と御対面になる。天皇・皇后より万那料等を賜う。○女官長日記、

女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録、読売新聞

十六日 金曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午前十時御出門、十一時三十五分同邸に御到着になる。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓書類綴

前衆議院議長幣原喜重郎の葬儀この日執行につき、お出ましをお控えになる。○女官長日誌、女官日誌、侍従職日誌

十八日 日曜日 午前、天皇及び昨十七日参邸の皇太子・正仁親王と共に、海洋生物御採集のため甘鯛場付近にお出ましになる。二十四日及び二十五日にも、天皇の海上へのお出ましに同行される。○

女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓書類綴

午後、天皇と共に、東久邇聡子及び同子息粟田彰常・同多羅間俊彦の拜謁をお受けになる。多羅間キ又との養子縁組が調い、近日留学を兼ねてブラジル国へ出発する俊彦より、暇乞いの挨拶をお受けになる。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓書類綴、旧皇族各家戸籍謄本

二十五日 日曜日 午後三時、天皇と共に葉山御用邸を御出門、四時三十五分皇居に還啓される。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓書類綴

二十六日 月曜日 学習院卒業式に御臨席のため、午前九時十九分天皇と共に御出門、学習院に行啓される。玄関内において、在学中の皇太子・正仁親王・厚子内親王・貴子内親王のお出迎えをお受けになる。その後式場に臨まれ、卒業証書授与等を御覧になる。十一時二十三分還啓される。この日、正仁親王は学習院中等科を、貴子内親王は学習院初等科を卒業する。なお、この年より同校の優等卒業生に対する天皇・皇后からの賜品は廃止される。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、

昭和二十六年四月

幸啓録、皇親録、官報、学習院百年史、朝日新聞

二十八日 水曜日 午後、厚子内親王・貴子内親王と共に呉竹寮において、この度学習院初等科入学につき参寮の甯子内親王、及び崇仁親王妃百合子・寛仁親王と御対面になる。入学に当たり、去る二十六日天皇・皇后より、三笠宮に三種交魚代料を、甯子内親王に万那料・本箱代料を賜う。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、贈賜録

二十九日 木曜日 天皇と共に沼津御用邸西附属邸に行啓のため、午前十時十分御出門、午後零時三十七分同附属邸に御到着になる。御滞在中の皇太后と御対面になり、その後御昼餐・御夕食を共にされる。翌三十日も、天皇との御散策の際、本邸のお庭にお出ましの皇太后と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、沼津御用邸西附属邸日誌、貞明皇后実録正本

三十日 金曜日 午後一時三十三分、天皇と共に沼津御用邸西附属邸を御出門、四時三分還啓される。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、沼津御用邸西附属邸日誌

三十一日 土曜日 天皇と共に御文庫において、翌四月一日から関西へ旅行につき挨拶のため参殿の鷹司和子と御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

#### 四月

二日 月曜日 午後、御進講室において、中宮寺門跡の一条尊昭の拝謁をお受けになる。○女官長日記、

女官日誌

御進講室において、北白川房子神宮祭主の拝謁をお受けになり、伊勢への出発に当たり暇乞いの挨拶をお受

けになる。○女官長日記、女官日誌

**四日** 水曜日 群馬県下赤城山麓において開催の植樹祭に御臨場のため、天皇と共に同県に行啓される。午前十時十分御出門、原宿駅より前橋駅を経て、勢多郡富士見村の植栽地にお着きになる。その後植樹行事に臨まれ、国土緑化推進委員会委員長林譲治・群馬県知事伊能芳雄の介添えにて、天皇に続き、クロマツを植樹される。次に群馬県庁を御訪問になる。知事より同県林業の概要をお聞きになり、国土緑化ポスター全国学校生徒募集作品や同県物産品等を御覧になる。前橋駅より原宿駅を経て、午後五時三十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、官報、群馬県庁所蔵資料

**六日** 金曜日 午前、天皇と共に旧北御車寄門内において、身体障害者福祉法施行一周年記念大会開催に当たり厚生大臣より表彰の身体障害者援護事業功労者及び自立更生者に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宣召録、典式録

天皇と共に花蔭亭前において、松影会宮内省・宮内府・宮内庁  
元部局長以上の親睦会会員の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、贈賜録

**七日** 土曜日 天皇と共に御文庫において、昨六日関西旅行から帰京した鷹司和子と御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

**九日** 月曜日 「宗達・光琳派特別展覧会」国立博物館  
館主催及び「アンリ・マチス作品展覧会」国立博物館・読売新聞  
社主催、駐日フランス  
代表団  
協賛を御覧になるため、午前八時三十五分御出門、天皇と共に国立博物館に行啓される。まず本館に

昭和二十六年四月

において、「宗達・光琳派特別展覧会」を御覧になる。その後、表慶館に移動され、「アンリ・マチス作品展覧会」を御覧になる。十一時二十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、官報、東京国立博物館百年史、読売新聞

午後、天皇と共に御文庫において、東久邇聡子・同成子及びこの日慶応義塾幼稚舎へ入学の同信彦御孫と御対面になり、お礼言上をお受けになる。信彦の入学につき、天皇・皇后より東久邇稔彦・同夫人聡子に三種交魚代料、東久邇盛厚・同夫人成子に五種交魚代料、信彦に万那料及びお品をそれぞれ賜う。また、天皇・皇后より皇太后に三種交魚代料を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録、貞明皇后実録正本

十日 火曜日 午前、表拝謁の間において、元フランス国特命全権大使シャルル・アルセーヌ・アンリー夫人ヨランダを御引見になる。○女官長日記、女官日誌、謁見録、贈賜録

故梨本守正百日祭につき、天皇・皇后より侍従入江相政を豊島岡墓地の墓所に差し遣わされ、拝礼させられる。天皇・皇后・皇太后より靈舎に菓子、墓所に榊をお供えになる。また、皇后から野菜・切り花をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、重要雑録、貞明皇后実録正本、入江相政日記

十三日 金曜日 午後、観瀑亭において茶会を催され、久邇侘子御母並びに松平充子侘子の姉・徳川為子侘子の姉・

久松貞子侘子の姉・徳川正子侘子の姉・島津忠重侘子の弟及び同夫人伊楚子・島津康久侘子の弟をお招きになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

十六日 月曜日 午後、御進講室において、この度米国より帰国の元東宮侍従角倉志朗の拝謁をお受

けになる。元皇太子家庭教師エリザベス・グレイ・ヴァイニングへの御言伝の復命、同夫人からのお札言上の伝達をお受けになり、また訪米談等をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

今般連合国最高司令官を離任のダグラス・マッカーサーがこの日離日する。離任帰国に当たっては、天皇・皇后からマッカーサー夫妻に御紋付鷺蘆彫銀製花瓶、梨子地菊水蒔絵香棚をお贈りになる。○

贈賜録、侍従日誌、朝日新聞

十七日 火曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、皇太子家庭教師エスター・ビドル・ローズを御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

十九日 木曜日 午前、天皇と共に表御座所において、東宮教育担当の参与小泉信三・東宮大夫野村行一の拝謁をお受けになり、皇太子の成績等についてお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

二十日 金曜日 午前、内廷庁舎において、加藤虎之亮の進講をお聴きになる。大正十五年の進講開始から満二十五年相当につき、同人作の詩の謹書色紙献上があり、解釈の説明をお受けになる。同人退出の節、お品を賜う。なお九月十四日には、賜品に対する奉謝の詩<sup>同人作</sup>についての進講をお聴きになり、また謹書の献上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、贈賜録、加藤虎之亮関係資料

二十四日 火曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午前九時三十五分御出門、十一時十分同邸に御到着になる。御昼餐後、天皇の海洋生物御採集に同行され、鮫島付近にお出ましになる。二十五日、二十六日も天皇の御採集に同行される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供

奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓書類綴

昭和二十六年四月

二十五日 水曜日 御夕餐後、天皇と共に、大阪学芸大学教授馬場菊太郎より後鯉類についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓書類綴

二十六日 木曜日 元ベルギー国特命全権大使アルベル・ド・バツソンピエール夫人エレヌ去る二十二日死去につき、天皇・皇后から弔意をバツソンピエールに伝えるよう式部官長に御下命がある。

この旨が、式部官長より在日同国外交代表ギイ・ドーフレヌ・ド・ラ・シュヴァルリーに本日付にて通知される。○外交慶弔録

二十七日 金曜日 午後四時三十分天皇と共に葉山御用邸を御出門、六時還啓される。○女官長日記、女

官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓書類綴

二十九日 日曜日 天皇誕生日につき、午前、御進講室において、皇族、元皇族・元王族、宮内庁長官始め総代の拝謁をお受けになる。また、女官長始め女官等の拝謁をお受けになる。夕刻、花蔭亭にお出ましになり、皇太子・正仁親王・厚子内親王・貴子内親王及び東久邇盛厚・同夫人成子、鷹司和子と共に天皇をお出迎えになる。その後、お祝いの催しに臨まれ、貴子内親王のピアノ伴奏にて「春のゆくえ」を独唱される。続いて厚子内親王のピアノ独奏「乙女の祈り」、正仁親王・厚子内親王・貴子内親王による劇「若返りの泉」小山内 薫作が披露される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人

日誌、儀式録、典式録

三十日 月曜日 去る二十四日山形県西田川郡温海町にて発生した火災により甚大な被害が生じたため、天皇・皇后から同県に御救恤金を賜う。○賜与録、新聞発表綴、朝日新聞

五月

一日 火曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、赤十字社連盟第二十一回理事会昨年十月モナコ国において開催に出席した日本赤十字社社長島津忠承より、「国際赤十字総会に出席して」と題する進講をお聴きになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録、日本赤十字社社史稿、読売新聞

今般昭和二十六年度赤十字募金運動を全国一斉に実施する日本赤十字社に対し、天皇・皇后・皇太后より御奨励金を賜う。○賜与録、新聞発表綴、貞明皇后実録正本、日本赤十字社東京支部九十年のあゆみ

三日 木曜日 午前十時五十七分御出門、天皇と共に皇居前広場に行啓され、日本国憲法施行記念式典に御臨席になる。十一時二十七分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、官報

七日 月曜日 午前、天皇と共に内廷庁舎御車寄において、ハワイ日本難民救済委員会常務理事辻徳市米国ハワイ州在住、元ハワイ日本難民救済委員会委員長に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、宣召録

午後一時三十分御出門、渋谷区千駄ヶ谷の鷹司平通邸に初めて行啓される。平通・同夫人和子、綏子の母平通の母と御対面になり、その後邸内を御巡覧になる。四時三十分同邸を御発、還啓される。○女官長日記、女官日誌、幸啓録

この日曹洞宗大本山総持寺横浜市鶴見区において、横浜市桜木町駅構内の電車火災事故四月二十四日発生、桜木町事故合同慰霊祭

執行につき、天皇・皇后より施主の日本国有鉄道総裁に生花を賜う。○賜与録、新聞発表綴

八日 火曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、米国友愛奉仕団ギルバート・ボールズハワイ日本難民救済委

昭和二十六年五月

員会最  
高顧問  
及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、謁見録、新聞  
発表綴

九日 水曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕始の儀を行われる。○女官長日記、女官  
日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、新聞発表綴

天皇と共に御文庫において、御参殿の皇太后と御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、  
侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、貞明皇后実録正本

十日 木曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、米国リーダーズ・ダイジェスト社社長デウイッ  
ト・ウオーレス及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、  
謁見録、新聞発表綴

十一日 金曜日 新任の連合国最高司令官マシュー・バンカー・リッジウェイの夫人昨十日来日につ  
き、切り花をお贈りになる。○女官長日記、贈賜録

十二日 土曜日 日本美術協会日本画展財団法人日本美術協会主催を御鑑賞のため、午前九時四十五分御出門、日本橋  
三越に行啓される。御着後、七階会場入口において同会委員長松林桂月ほか協会関係者の奉迎をお受  
けになる。それより、同会専務理事秋山光夫の先導、松林委員長ほかの説明にて、百六十二点の作品  
を御覧になる。十一時八分還啓される。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、幸啓録

午後一時五十分御出門、大宮御所に行啓され、皇太后と御対面になる。四時三十五分還啓される。○  
女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、幸啓録、皇親録

十三日 日曜日 母の日に当たり、天皇と共に呉竹寮にお出ましになり、皇太子・正仁親王・厚子内

親王・貴子内親王と、両内親王の手料理などの御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

午後、内廷西玄関前において、「母の日」大会東京都主催に参会の約千二百名に御会釈を賜う。代表者勝又静代から花束をお受けになり、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、宣召録、読売新聞

十四日 月曜日 天皇と共に日本赤十字社及び東京都内の社会事業施設を御視察のため行啓される。

午前九時三十分御出門、神田駿河台YWCAにおいて日赤水上安全法講習会を、津久戸小学校において世界青少年赤十字団員作品展覧会及び青少年赤十字団員による演劇を御覧になる。ついで東京都新宿生活館要保護者民、生総合施設、東京都武蔵野寮引揚者、定着寮を御視察になる。続いて武蔵野赤十字病院を訪問され、御昼食

の後、血液銀行資材、手術室、新生児室等を御視察、また入院患者を御慰問になる。次に、赤十字「子

供の家」児童福祉施設を御視察になる。午後三時十七分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内

舎人日誌、幸啓録、官報、日本赤十字社史稿

天皇と共に御文庫において、宮内庁長官田島道治・侍従長三谷隆信・侍従次長稲田周一・女官長保科武子より、厚子内親王の結婚についての説明をお聞きになる。○侍従日誌、田島道治日記、稲田周一関係資料、

入江相政日記

十七日 木曜日 御風気のため午前より御仮床に就かれる。この日に予定のエドガー・アンセル・

モーラー米国人著述家、時事解説者及び同夫人の御引見、第五回全国児童福祉大会日比谷公会堂において開催への行啓等をお取りやめ

になる。同大会ではお言葉を賜う予定であったところ、行啓取りやめにより、お言葉書が会場に届け

られる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、謁見録、幸啓録

午後三時三十分、皇太后は大宮御所において突然狭心症の発作に見舞われ、四時十分崩御される。御歳六十六。狭心症御発症後、皇太后宮大夫坊城俊良は御文庫の女官長保科武子を介し皇太后御危篤の旨を天皇・皇后に通報し、併せて急使をもつて侍従職に連絡する。

四時四十七分御出門、天皇と共に大宮御所に行啓され、皇太后の御尊骸と御対面になる。八時三十分還啓され、天皇と共に御文庫において、宮内庁長官始め総代より御機嫌伺いの拝謁をお受けになる。

この日より百五十日第一期三十日、第二期三十日、第三期九十日服喪される。また、天皇は一年第一期五十日、第二期五十日、第三期は五月十七日までの残りの日数服喪され、

この間、歳末の祝詞言上、元日拝賀及び参賀、講書始、歌会始、皇后誕生日拝賀、天皇誕生日拝賀及び参賀等は取りやめとなる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、貞明皇后大喪儀関係書類、典式録、例規録、業務日誌、貞明皇后実録正本、官報、坊城俊良日記、徳川義寛終戦日記、拝命一侍医の手記、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞

十八日 金曜日 午前、天皇と共に御文庫において、弔問のため参殿の雍仁親王妃勢津子、及び東久邇稔彦・同夫人聡子・北白川房子・梨本伊都子・久邇幌子・同朝融御兄・同邦昭御甥と御対面になる。引き続き、元女官等の拝謁をお受けになる。これ以降も、皇族・元皇族・元側近奉仕者等の弔問をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌

故皇太后の御霊前に御拝礼のため、午後二時二分御文庫を御出発、天皇と共に大宮御所に行啓される。三時四十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、読売新聞

十九日 土曜日 午後七時三十分御出門、天皇と共に大宮御所に行啓され、故皇太后の御舟入の儀に

臨まれる。御尊骸は内柩に奉安され、儀終了後、御靈柩が御寝の間から櫛殿奥謁見所に移御される。十時十分還啓される。なおこの日より櫛殿祇候が行われ、六月二日の殯宮移御当日まで皇族・元皇族・元王族・御親族・特別縁故者・側近奉仕者等が祇候する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、貞明皇后実録正本

二十日 日曜日 大宮御所の櫛殿において御拝礼のため、午後三時五分御出門、天皇と共に同御所に行啓される。四時四十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録

二十一日 月曜日 大宮御所の櫛殿において御拝礼のため、午前十一時御出門、天皇と共に同御所に行啓される。御拝礼になり、祇候される。正午還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録

二十二日 火曜日 御風気につき終日御仮床に就かれる。二十四日まで御仮床に就かれ、その間天皇は連日お一方にて大宮御所に行幸される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録

二十五日 金曜日 大宮御所の櫛殿において御拝礼のため、午後三時御出門、天皇と共に同御所に行啓される。四時十六分還啓される。以後、殯宮移御の儀前日の六月一日まで毎日、天皇と共に同御所に行啓され、櫛殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、業務日誌

二十六日 土曜日 午前九時四十五分御出門、天皇と共に大宮御所に行啓され、故皇太后の櫛殿十日祭の儀に臨まれる。儀終了後、天皇と共に櫛殿において祇候される。十一時四十三分還啓される。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、貞明皇后実録正本

六月

一日 金曜日 午前・午後共に、故皇太后追慕の御文章並びに御歌を巻物にお記しになる。この日午後の大宮御所行幸啓では、櫛殿における御拝礼の際に巻物をお供えになる。以後折に触れ、故皇太后追慕の御文章・御歌をお記しになり、御霊前にお供えになる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舍人日誌、幸啓録、毎日新聞

二日 土曜日 午後六時四十七分御出門、天皇と共に大宮御所に行啓される。櫛殿において故皇太后に拝謁され、その後、皇太后大喪儀中殯宮移御の儀に臨まれる。故皇太后の御霊柩が櫛殿奥謁見所から殯宮表謁見所に移御される。十時還啓される。なお、この日から同月二十二日の斂葬の儀当日の朝まで殯宮祇候が行われ、皇族・元皇族・元王族・御親族・御縁故者等が祇候する。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舍人日誌、幸啓録、貞明皇后大喪儀書類、貞明皇后大喪記録資料、貞明皇后実録正本、官報

三日 日曜日 午前九時四十七分御出門、天皇と共に大宮御所に行啓され、皇太后大喪儀中殯宮移御後一日祭の儀に臨まれる。十時四十分還啓される。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舍人日誌、幸啓録、貞明皇后大喪儀書類、貞明皇后大喪記録資料、貞明皇后実録正本、官報

五日 火曜日 午前九時四十六分御出門、天皇と共に大宮御所に行啓され、皇太后大喪儀中殯宮二十日祭の儀に臨まれる。十時三十二分還啓される。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舍人日誌、幸啓録、皇太后宮崩御録、貞明皇后大喪儀書類、貞明皇后大喪記録資料、貞明皇后実録正本、官報

八日 金曜日 午前九時四十八分御出門、天皇と共に大宮御所に行啓され、皇太后大喪儀中追号奉告の儀に臨まれる。天皇が御誄を奏され、故皇太后に「貞明皇后」の追号が奉告される。十時三十七分

還啓される。なお追号は、翌九日宮内庁より告示される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、皇太后宮崩御録、貞明皇后大喪儀書類、貞明皇后大喪記録資料、貞明皇后実録正本、官報

十一日 月曜日 午後、天皇と共に宮殿跡の旧内庭付近にお出ましになり、貞明皇后陵に御移植のため、皇太后御遺愛の樹木を御選定になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌

十二日 火曜日 大宮御所の殯宮において御拝礼のため、午前十時四十分御出門、天皇と共に同御所に行啓される。午後零時二十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録

十四日 木曜日 午前、天皇と共に御進講室において、北白川房子神宮祭主の拝謁をお受けになる。○女官長

日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

十五日 金曜日 午前九時五十分御出門、天皇と共に大宮御所に行啓され、皇太后大喪儀中殯宮三十日祭の儀に臨まれる。十時三十八分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、貞明皇后大喪儀書類、貞明皇后大喪記録資料、貞明皇后実録正本、官報

午後、御進講室において、中宮寺門跡の一条尊昭の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

十七日 日曜日 貞明皇后初月命日につき、殯宮において御拝礼のため、午前十時三十九分御出門、天皇と共に大宮御所に行啓される。御拝礼になり、祇候される。午後零時二十分還啓される。○女官長

日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録

十九日 火曜日 大宮御所の殯宮において御拝礼のため、午後四時四十七分御出門、天皇と共に同御所に行啓される。御拝礼になり、祇候される。六時四十分還啓される。なおこの日午前、皇太后大喪

昭和二十六年六月

儀中斂葬前殯宮拝礼の儀が行われた。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、貞明皇后

大喪記録資料、貞明皇后実録正本、官報

二十日 水曜日 大宮御所の殯宮において御拝礼のため、午前十時四十六分御出門、天皇と共に同御所に行啓される。御拝礼になり、祇候される。午後零時二十二分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍

従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録

二十一日 木曜日 大宮御所の殯宮において御拝礼のため、午前十時三十五分御文庫を御出発、同御所に行啓される。御拝礼になり、祇候される。午後零時十八分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍

職日誌、内舍人日誌、幸啓録

午後七時四十七分御出門、天皇と共に大宮御所に行啓され、皇太后大喪儀中靈代奉安の儀に臨まれる。

八時三十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、皇太后宮崩御録、貞明

皇后大喪儀書類、貞明皇后大喪記録資料、貞明皇后実録正本、官報

二十二日 金曜日 皇太后大喪儀中の斂葬当日の諸儀に御参列のため、午前六時四十六分御出門、天皇と共に大宮御所に行啓される。まず斂葬当日殯宮祭の儀に臨まれる。次に輜車発引の儀に臨まれ、

豊島岡墓地に向けて進む靈輦御靈柩を殯宮から奉遷を御奉送になる。天皇が鹵簿に加わられ、皇后は御奉送の後、同

墓地に行啓される。続いて斂葬の儀中葬場殿の儀に臨まれ、御拝礼になる。その後、皇后は靈輦御靈柩を葬場

殿から奉遷の発御に先立ち武蔵陵墓地に向かわれる。御着後、斂葬の儀中陵所の儀に臨まれ、靈輦天皇が鹵簿に加わられる

を奉迎される。その後、御靈柩が玄宮の外槨内に奉安され、御土掛けを行われる。終わって陵前の祭

場殿に進まれ、天皇に続き、御拝礼になる。午後八時三十分皇居に還啓される。

なお翌二十三日、宮内庁から貞明皇后の陵名が多摩<sup>たま</sup>東<sup>ひがしのみなぎ</sup>陵と定められたことが告示される。○女官長

日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、皇太后宮崩御録、貞明皇后大喪儀書類、貞明皇后大

喪記録資料、貞明皇后実録正本、官報

二十三日 土曜日 午前九時四十八分御出門、天皇と共に大宮御所に行啓され、皇太后大喪儀中斂葬後一日権殿祭の儀に臨まれる。十時三十四分還啓される。ついで午後一時三十六分御出門、天皇と共に多摩東陵に行啓され、皇太后大喪儀中斂葬後一日山陵祭の儀に臨まれる。五時三分還啓される。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、皇太后宮崩御録、貞明皇后大喪儀書類、貞明皇后大喪記録資料、貞明皇后実録正本、官報

二十五日 月曜日 午前九時四十五分御出門、天皇と共に大宮御所に行啓され、皇太后大喪儀中権殿四十日祭の儀に臨まれる。十時三十六分還啓される。ついで午後一時三十三分御出門、天皇と共に多摩東陵に行啓され、皇太后大喪儀中山陵四十日祭の儀に臨まれる。四時四十七分還啓される。○女官長

日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、皇太后宮崩御録、貞明皇后大喪儀書類、貞明皇后大喪記録資料、貞

明皇后実録正本、官報

二十七日 水曜日 午前、御進講室において、斂葬後の御機嫌伺いのため参内の関屋衣子<sup>元宮内次官関の屋貞三郎夫人</sup>の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

二十九日 金曜日 午前、天皇と共に御文庫において、侍従次長稲田周一より、昨二十八日宮内庁長官官舎において行われた厚子内親王と池田隆政・同父宣政・同母富貴子との面会の模様をお聞きにな

昭和二十六年七月

る。○侍従日誌、田島道治日記、稲田周一関係資料、読売新聞

三十日 土曜日 大宮御所の権殿表謁見所において御拝礼のため、午後二時六分御出門、同御所に行啓される。三時二十八分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、皇親録

七月

二日 月曜日 大宮御所の権殿において御拝礼のため、午後二時七分御出門、同御所に行啓される。御拝礼になり、祇候される。四時十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録

三日 火曜日 午前、御進講室において、田島ミシ宮内庁長官田島道治夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

四日 水曜日 夕刻、天皇と共に御文庫において雍仁親王妃勢津子と御対面になり、皇太后大喪儀に参列のため雍仁親王が上京した際の接遇に対するお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、秩父宮事務日誌

五日 木曜日 午前九時四十八分御出門、天皇と共に大宮御所に行啓され、皇太后大喪儀中権殿五日祭の儀に臨まれる。十時三十二分還啓される。ついで午後一時三十三分御出門、天皇と共に多摩東陵に行啓され、皇太后大喪儀中山陵五十日祭の儀に臨まれる。四時五十八分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、皇太后宮崩御録、貞明皇后大喪儀書類、貞明皇后大喪記録資料、貞明皇后

実録正本、官報

六日 金曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、伏見朝子<sup>故博義王妃</sup>及びこの度結婚した尾崎光子<sup>博義王妃</sup>

<sup>一五</sup>女<sup>一</sup>の拝謁をお受けになる。参内の節、皇后から朝子に果物等、光子にお品等を賜う。結婚式当日の六月三十日には、お悦びとして天皇・皇后から、朝子に清酒及び鮮鯛代料、光子に扇子代料及び紅白羽

二重の賜りがある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

七日 土曜日 午前、花蔭亭脇において、東京農工大学繊維学部長小暮慎太ほか二名より絹糸をお受けになる。同人らは、今年度紅葉山御養蚕所にて生産の繭の製糸を依頼され、この日納品のため参上した。○女官長日記、女官日誌

九日 月曜日 大宮御所の権殿において御拝礼のため、午前十時六分御出門、同御所に行啓される。

御拝礼になり、祇候される。十一時九分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、皇親録

天皇と共に表一の間において、この度の皇太后大喪儀に尽力した菊栄親睦会会員に御慰労の思召しにて御昼餐の御陪食を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、貞明皇后大喪儀関係書類、典式録

十日 火曜日 夕刻、宮内庁は、厚子内親王と池田隆政<sup>元侯爵池田宣政の子息</sup>の結婚の内約が成立した旨を公表する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、新聞発表綴、稲田周一関係資料、読売新聞

十一日 水曜日 大宮御所の権殿において御拝礼のため、午後二時三分御出門、崇仁親王と共に同御所に行啓される。四時二十三分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録

昭和二十六年七月

十二日 木曜日 翌十三日米国留学に出発の賀陽治憲恒憲王の王子に、天皇・皇后よりお品等を賜う。○女官長

日記、贈賜録

十三日 金曜日 大宮御所の権殿において御拝礼のため、午後四時五分御出門、同御所に行啓される。

六時十二分還啓される。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舍人日記、幸啓録

十七日 火曜日 貞明皇后月命日につき、権殿において御拝礼のため、午前十時御出門、天皇と共に大宮御所に行啓される。十一時三十分還啓される。ついで多摩東陵に御拝礼のため、午後一時三十分御出門、天皇と共に同陵に行啓される。四時三十五分還啓される。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職

日記、内舍人日記、幸啓録

この月上旬から中旬にかけての豪雨により甚大な被害を受けた京都府・山口県・鹿児島県に対し、天皇・皇后より御救恤金を賜う。○賜与録、贈賜録、新聞発表綴、氣象百年史

十八日 水曜日 夕刻、天皇と共に御文庫において皇子傳育官東園基文の拝謁をお受けになり、正仁親王の成績についてお聞きになる。○女官長日記、女官日記、侍従日記

十九日 木曜日 大宮御所の権殿において御拝礼のため、午前十時四分御出門、同御所に行啓される。

午後零時十三分還啓される。○女官長日記、女官日記、侍従職日記、内舍人日記、幸啓録、皇親録

天皇と共に御文庫において、東宮教育担当の参与小泉信三・東宮大夫野村行一の拝謁をお受けになり、皇太子の成績についてお聞きになる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、内舍人日記

二十日 金曜日 天皇と共に那須御用邸に行啓のため、午前九時御出門、午後零時五十分同邸に御到着になる。その後、天皇と共に御用邸敷地内の鶯谷方面を御散策になる。以後御滞在中、しばしば天

皇の植物御調査に同行される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌

二十七日 金曜日 午前、天皇と共に謁見所において、国家地方警察本部長官齋藤昇、ついで皇宮警察本部長樺山俊夫の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録

三十一日 火曜日 最高裁判所判事元東宮大夫穂積重遠去る二十九日死去につき、この日、天皇・皇后の御使として侍従入江相政を穂積邸に差し遣わされ、祭料を賜う。また、元東宮大夫としての同人の霊前に、天皇・皇后から菓子を、皇后から切り花をお供えになる。なお、去る二十九日、同人の危篤に際して皇后よりお尋ねとして果物を賜う。○女官長日記、侍従職日誌、贈賜録、賜与録

## 八月

一日 水曜日 午前、天皇と共に、去る七月二十四日参邸の厚子内親王・貴子内親王と御対面になり、この日から八日まで東北旅行につき暇乞いの挨拶をお受けになる。八日には天皇と共に、旅行から戻り参邸した両内親王と御夕餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌

十日 金曜日 午後、天皇と共に池田宣政・同夫人富貴子・同子息隆政の拝謁をお受けになる。その後、厚子内親王を交え茶菓を共にされる。天皇・皇后から宣政・富貴子・隆政に野菜等を、またそれぞれに白羽二重及び万那料を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、順宮御婚儀録

昭和二十六年八月

十一日 土曜日 午後、天皇と共に、李垠・同夫人方子の拜謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、那須行幸啓録

十五日 水曜日 終戦の日につき、お出ましをお控えになる。○女官長日記、女官日誌

十六日 木曜日 一時御帰京のため、午前八時天皇と共に那須御用邸を御出門、十一時四十五分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌

盆につき大宮御所の権殿において御拝礼のため、午後二時五十一分御出門、同御所に行啓される。五時八分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録

十七日 金曜日 貞明皇后月命日につき、権殿において御拝礼のため、午前九時二十分御出門、天皇と共に大宮御所に行啓される。十時四十一分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録

再び那須御用邸に行啓のため、午後一時二十五分天皇と共に御出門、五時十五分同邸に御到着になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌

二十三日 木曜日 午前八時、天皇及び貴子内親王八日よ  
り滞在と共に那須御用邸を御出門、十一時四十七分

皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌

二十四日 金曜日 午前九時四十五分御出門、天皇と共に大宮御所に行啓され、皇太后大喪儀中権殿

百日祭の儀に臨まれる。十時三十五分還啓される。ついで午後一時三十五分御出門、天皇と共に多摩東陵に行啓され、皇太后大喪儀中山陵百日祭の儀に臨まれる。五時二分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、皇太后宮崩御録、貞明皇后大喪儀書類、貞明皇后大喪記録資料、官報

天皇と共に御文庫において、皇太子・正仁親王・厚子内親王・貴子内親王と御夕餐を御会食になる。

翌二十五日、皇太子は軽井沢へ、正仁親王は沼津御用邸へ、厚子・貴子両内親王は那須御用邸へ、それぞれ出発する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌

二十五日 土曜日 午後五時三十三分御出門、天皇と共に大宮御所に行啓され、権殿において御拝礼の後、雍仁親王妃勢津子・宣仁親王・同妃喜久子・崇仁親王・同妃百合子と御夕餐を御会食になる。

九時還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録

二十九日 水曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、米国時事解説者ハンス・フォン・カルテンボーン及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、謁見録、

外交贈答録、新聞発表綴

大宮御所の権殿において御拝礼のため、午後三時五分御出門、天皇と共に大宮御所に行啓される。六時十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録

三十日 木曜日 元侍従職御用掛寺崎英成去る二十一日死去につき、この日、天皇・皇后より切り花及び果物を賜う。○贈賜録、上奏モノ控簿

三十一日 金曜日 大宮御所の権殿において御拝礼のため、午後一時十七分御出門、同御所に行啓される。四時七分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、皇親録

昭和二十六年九月

九月

一日 土曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになる。同所生産の生糸の製織を委嘱した長野県織維工業試験場から納められた製品を御覧になる。また、長野県知事林虎雄及び同県商工部長小林巳根夫・同県織維工業試験場長松本介ほか二名の拝謁をお受けになり、松本場長から説明をお聞きになる。

○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、贈賜録

九日 日曜日 米国カリフォルニア州サンフランシスコ市において「日本国との平和条約」の調印式が行われ、日本時間の九日午前三時三十四分<sup>現地時間八日午前十一時三十四分</sup>、首席全権内閣総理大臣吉田茂以下講和全権

委員が条約書に署名する。午前、天皇と共に御文庫において、ラジオ放送にて講和条約調印式の録音を中心とした特別番組をお聞きになる。その後天皇と共に、調印式終了のお祝いとして、元侍医頭八田善之進の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、読売新聞

十六日 日曜日 午前、三の間において、皇室会議の皇族議員及び同予備議員の互選に臨まれる。議員に宣仁親王・崇仁親王が、予備議員に雍仁親王妃勢津子・厚子内親王が当選する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、皇室会議皇族議員互選録、典式録、官報

十七日 月曜日 貞明皇后月命日につき、権殿において御拝礼のため、午前十時御出門、天皇と共に大宮御所に行啓される。十時四十分還啓される。ついで多摩東陵に御拝礼のため、午後一時三十分御出門、天皇と共に同陵に行啓される。併せて多摩東陵<sup>大正天皇陵</sup>にも御拝礼になる。四時五十五分還啓される。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録

十八日 火曜日 連合国最高司令官マシュー・バンカー・リッジウェイ及び同夫人を天皇と共にお招

きになり、表一の間において午餐を催される。なお午餐に先立ち、天皇はリッジウェイ司令官と表二の間において御会見になり、その間、皇后は司令官夫人と表三の間において御談話になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、外賓参内録

十九日 水曜日 崇仁親王妃百合子着帯の儀につき、天皇・皇后より三笠宮に万那料を賜う。○女官長

日記、女官日誌、贈賜録

二十六日 水曜日 日本赤十字社第五十九回通常総会に名誉総裁として御臨席のため、午前十時十四分御出門、日本赤十字社本社に行啓される。御着後、便殿において宣仁親王妃喜久子と御対面になり、ついで厚生大臣橋本竜伍・東京都知事安井誠一郎・日本赤十字社長島津忠承・同副社長伊藤謹二の拝謁をお受けになる。それより式場に出御される。第十三回フロレンス・ナイチンゲール記章の御親授があり、水谷めう元姫路赤十字病  
院看護婦監督・国部ヤスエ和歌山赤十字病  
院看護婦監督・杉山里つ日本赤十字社中央  
病院看護婦副監督それぞれ胸にお手  
ずから記章をおつけになる。また、受章者小野ゆき故人、元日本赤十字社第  
十救護班看護婦副監督の代理人には記章を手交される。  
ついで有功章受章者総代二名・特別社員章受章者総代十名に各章を御親授になり、次の旨を賜う。

日本赤十字社の第五十九回の通常総会にあつて、社員のみなさんに一こと申し述べたいと思  
います。

終戦いらい今日までの六年間、みなさんのたゆまない協力によつて、日本赤十字社が、世の中を  
明るく幸福にするため、その活動を高めてきたことを嬉しく思います。

また今日は、看護婦としての最高の名誉であるフロレンス、ナイチンゲール記章を、わが国で  
四人も受けることができ喜びに堪えません。

昭和二十六年十月

このたび、関係諸国の配意によつて平和条約が調印され、わたくしたちは世界の人びとと、再び親しく交ることのできる明るい希望をもつことができました。これを機会にわたくしたちの力で赤十字の事業をもつともつと盛んにしなければならぬと思います。

どうか今後も博愛と平和の旗を高くかかげて、国内はもとより、ひろく世界の人たちと手をつないで活潑に活動することを希望してやみません。

社長・受章者代表 国部ヤスエの奉答、赤十字国際委員会代表・米國赤十字駐日代表・厚生大臣ほかの各祝辞があり、終わつて便殿に入御される。ついで総裁室において、赤十字国際委員会・米國赤十字の関係者の謁見をお受けになる。また廊下において、米國赤十字の関係者に御会釈を賜う。十一時四十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、幸啓録、日本赤十字社社史稿、読売新聞

二十七日 木曜日 彼岸につき、大宮御所の権殿において御拝礼のため、午後二時四分御出門、同御所に行啓される。三時三十八分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、

皇親録

二十九日 土曜日 来る十月一日より昭和二十六年国民たすけあい共同募金運動を実施する財団法人中央共同募金委員会に、天皇・皇后より御奨励金を賜う。○賜与録、贈賜録、新聞発表録

## 十月

一日 月曜日 午前、天皇と共に書陵部庁舎にお出ましになり、第三十八回書陵部所蔵資料展示会「東山御文庫本を中心とする特別展覧会」を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、東山御文庫

本を中心とする特別展覧会目録

三日 水曜日 午前、御進講室において雍仁親王妃勢津子と御対面になり、雍仁親王との滞京に際してのお仕向けへのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

午後、御進講室において、善光寺門跡の二条誓康の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、贈賜録

四日 木曜日 午後、天皇と共に御文庫前において、同所の花壇にチューリップの球根を植え込みのため参上した新潟県生産農業協同組合連合会会長吉岡喜三郎ほかに御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

九日 火曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、第六回国際連合教育科学文化機関ユネスコ総会去る六月ブラ

ンス国パリににおいて開催に日本側代表として参加した参議院議員徳川頼貞国会ユネスコ議員連盟会長より、欧米視察についての進講を

お聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、進講録、読売新聞

午後二時六分御出門、大宮御所に行啓され、権殿において御拝礼になる。ついで雍仁親王妃勢津子・

宣仁親王・崇仁親王と御対面になり、糸竹会会長賀陽恒憲邦憲王の王子・同会名誉会員久邇侁子・同会会員二

条恭仁子多嘉王の王女の拝謁をお受けになる。それより、貞明皇后追悼として糸竹会による盤渉調音取ほかの

演奏を御鑑賞になる。また演奏の前後には、同会会員等に御会釈を賜う。終わって、賀陽恒憲・久邇

侁子・二条恭仁子と茶をお召し上がりになり、四時十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍

従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、皇太后宮崩御録、皇親録、贈賜録

十日 水曜日 天皇と共に東京都内並びに千葉県下の社会事業施設を御視察のため行啓される。午前

昭和二十六年十月

九時三十三分御出門、千代田福祉事務所及び隣接の神田保育園、東京都水上民生館箱崎分館水上生活者の生活改善指導

及び生活物、東京愛育苑養育児補導施設、財団法人賛育会病院を御視察になる。同病院において御昼食後、千葉県

資配給施設知的障害児施設、八幡学園知的障害児施設を御視察になる。午後二時三十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従

日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、重要雑録、官報、読売新聞

十三日 土曜日 港区麻布永坂町の新邸にこの日移転する東久邇盛厚・同夫人成子に、天皇・皇后よ

り万那料等を賜う。○女官長日記、贈賜録、皇女照宮

十五日 月曜日 宣仁親王・同妃がこの日東雲荘旧別当官舎から新宮邸へ移転につき、天皇・皇后より高松

宮に三種交魚代料を賜う。親王・同妃は昭和二十一年九月より本邸から同敷地内の東雲荘に移居していた。○女官長日記、贈賜録、高松宮宣仁親王

十七日 水曜日 貞明皇后月命日につき、権殿において御拝礼のため、午前十時三十分御出門、天皇と共に大宮御所に行啓される。十一時二十七分還啓される。ついで多摩東陵に御拝礼のため、午後一時三十分御出門、天皇と共に同陵に行啓される。併せて多摩東陵にも御拝礼になる。四時五十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録

十八日 木曜日 午前、御進講室において、木戸ツル元内大臣木戸幸一夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官

日誌

十九日 金曜日 午前九時御出門、天皇と共に国立博物館に行啓され、日本古代文化展国立博物館主催及び陽明

文庫特別展財団法人陽明文庫及び国立博物館共催を御覧になる。十一時十三分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職

日誌、内舎人日誌、幸啓録

午後四時御出門、天皇と共に東宮仮御所に行啓される。皇太子の案内にてお庭を巡覧された後、御夕餐を御会食になる。九時還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録

二十一日 日曜日 天皇と共に御文庫において、この日より東北に行啓の皇太子と御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

この日光輪閣において救らい事業募金園遊会を開催の常磐会に、蘭花・菊花等を賜う。○贈賜録

二十二日 月曜日 午前、表拝謁の間において、京都在住旧堂上華族総代清岡長言の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

今般台風十五号ルース  
台風により甚大な被害を受けた鹿児島県・宮崎県・山口県・大分県・広島県・佐賀県・長崎県・徳島県・愛媛県に対し、天皇・皇后より御救恤金を賜う。○賜与録、新聞発表綴

二十三日 火曜日 崇仁親王妃百合子第二王女出産につき、天皇・皇后より三笠宮に三種交魚代料を御贈進になる。この日誕生した内親王は、七夜に当たる二十九日、容子まさこと命名される。命名の儀当日に、天皇・皇后より三笠宮に三種交魚代料を、また容子内親王に鮮鯛代料及び産衣を御贈進になる。

○女官長日記、侍従日誌、侍従職日誌、贈賜録、官報

二十五日 木曜日 広島県における第六回国民体育大会秋季大会へ御臨場、併せて県下の社会事業等を御視察のため、天皇と共に広島県下に行啓される。午前九時御出門、東京駅より京都駅を経て、午後五時五十九分御泊所の京都大宮御所に御到着になる。天皇と共に謁見所において、貞明皇后御縁故者等の拝謁をお受けになる。ついでお一方にて、大聖寺門跡ほか九名の拝謁をお受けになる。○女官長

日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、官報

二十六日 金曜日 午前八時四十分天皇と共に御泊所の京都大宮御所を御出門、京都駅より御乗車になり、広島県へ向かわれる。宮島口駅にて降車され、午後四時御泊所一茶苑に御到着になる。御夕食後、崇仁親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、官報

二十七日 土曜日 午前九時十分天皇と共に御泊所一茶苑を御出発、六方学園<sup>児童福祉施設</sup>を訪問される。先着の崇仁親王と御一緒に園内を巡覧され、職員・園児に対し皇后からお言葉を賜う。次に、県民奉迎場の広島市民広場に御臨場になり、奉迎台において県民の方歳三唱をお受けになり、御会釈を賜う。続いて、東洋工業株式会社を視察される。同所にて御昼食後、広島県宮総合運動場に移られ、先着の崇仁親王と共に第六回国民体育大会開会式に御臨場になる。ついで広島県広島国泰寺高等学校において国体サッカー競技を、広島市立本川小学校において国体レスリング競技を御覧になる。その後、広島市喜生園<sup>生活困窮孤老者収容施設</sup>を御視察になり、収容の高齢者に対し皇后からお言葉を賜う。午後五時十分御泊所一茶苑に還御される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、官報、広島県庁所蔵資料

二十八日 日曜日 午前八時四十分天皇と共に御泊所一茶苑を御出発、宮島口海岸の漕艇競技場において国体漕艇競技を、広島市中央排球場において国体バレーボール競技を御覧になる。その後、広島駅より京都駅を経て、午後五時十五分御泊所京都大宮御所に御到着になる。お一方にて謁見所において、大聖寺門跡ほかの拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、官報、朝

日新聞

二十九日 月曜日 午前八時四十五分天皇と共に御泊所京都大宮御所を御出門、京都駅から東京駅を

経て、午後四時四十八分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、官報

三十日 火曜日 御風気につき御仮床に就かれる。この日より静養され、十一月八日の全国社会福祉事業大会日比谷公会堂において開催、同日のタイ国赤十字副総裁チュンボット同国王族・同妃御引見へのお出まし等をお取り

やめになる。十一月十四日に床払いされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、謁見録

## 十一月

十日 土曜日 旧久邇宮邸内御学問所の仰光寮昭和八年東京府に下賜され、府立第三高等女学校内に移築、旧称花御殿が、この度東京都立駒場高等

学校旧府立第三高等女学校、戦後麻布から駒場に移転校内への移築竣工につき、同校に御掛物花御殿で修学の時代に御制作の犬の御絵を賜う。○女官長日記、贈賜録、読売新聞

十一日 日曜日 午前、皇太子・正仁親王・厚子内親王・貴子内親王と共に御文庫において、京都府・滋賀県・奈良県・三重県巡幸に御出発の天皇をお見送りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、官報

十三日 火曜日 常磐会主催の貞明皇后追悼会に御臨席のため、午後一時五十二分御出門、学習院初等科に行啓される。御着後、同会理事長松平信子の先導にて便殿に入られ、厚子内親王・貴子内親王・鷹司和子・宣仁親王妃喜久子・北白川房子・東久邇聡子と御対面になる。それより会場にお出ましに

なり、玉串を奉奠される。ついで皇族、元皇族、松平理事長が玉串を奉奠する。松平理事長の謹話、学生から理事長への救済事業募金の贈呈があった後、一旦便殿に入られる。同所において、久邇皇子・梨本伊都子と御対面になる。再び会場にお出ましになり、宮城道雄による琴の演奏二曲貞明皇后御歌を宮城が作曲

のほか、「花すみれ」の奉唱をお聴きになる。終わって便殿に入御の際、宮城道雄及び御同級生の拝

謁をお受けになる。四時二十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、幸啓録、坊城俊良日記

十七日 土曜日 貞明皇后月命日につき、午前十時四十四分御出門、大宮御所に行啓され、権殿にお

いて御拝礼になる。同御所においては、宣仁親王妃喜久子・東久邇成子・同文子御孫・鷹司和子のお出

迎えをお受けになり、またその後、宣仁親王、北白川房子・東久邇聡子・久邇幌子と御対面になる。

終わって、宣仁親王・同妃と御昼餐を御会食になる。午後一時三十分同御所を御出門、多摩陵に行啓

され、御拝礼になる。続いて、多摩東陵に御拝礼になる。五時十七分還啓される。○女官長日記、女官日誌、

侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、皇太后宮崩御録、坊城俊良日記

二十日 火曜日 午後一時三十七分御出門、大宮御所に行啓され、権殿において御拝礼の後、貞明皇

后御霊前における御歌披講の催しに臨まれる。宣仁親王妃喜久子が陪席する。お題は「夏の畑」にて、

御製、御歌、皇太子始め皇族の歌等が披講される。終わって諸役一同にお言葉を賜う。四時八分還啓

される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、皇太后宮崩御録、坊城俊良日記

二十一日 水曜日 午前、御進講室において、東宮教育担当の参与小泉信三及び東宮大夫野村行一よ

り、皇太子の大学選定及び教育方針についての言上をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌

二十四日 土曜日 午前十時八分御出門、港区麻布永坂町の東久邇邸に初めて行啓される。東久邇成

子及び同子息秀厚ほかのお出迎えをお受けになり、その後、東久邇盛厚・同子息信彦とも御対面になる。御昼餐御会食、新邸内の御巡覧等にてお過ごしになる。また、寺尾宇多子<sup>東久邇盛彦生母</sup>の拝謁をお受けになる。午後四時四十八分還啓される。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、幸啓録

二十五日 日曜日 皇太子・正仁親王・厚子内親王・貴子内親王と共に、京都府・滋賀県・奈良県・三重県への巡幸より還御の天皇をお出迎えになる。その後御文庫において、御夕餐を御会食になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二十八日 水曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、米国副大統領アルベン・ウイリアム・パークレー及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、外賓参内録、

新聞発表綴、毎日新聞

天皇と共に御文庫において、この日誕生日を迎えた正仁親王、及び皇太子・厚子内親王・貴子内親王と御夕餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

三十日 金曜日 午後、講堂において、宮内職員総合美術展覧会を御覧になる。○女官長日記、女官日誌  
去る二十八日神奈川県小田原市にて発生した火災により甚大な被害が生じたため、天皇・皇后より同県に御救恤金を賜う。○賜与録

## 十二月

一日 土曜日 故梨本守正一年祭執行につき、天皇・皇后の御使として、梨本邸における霊前祭に侍従入江相政を、豊島岡墓地における墓所祭に侍従永積寅彦を差し遣わされ、拝礼させられる。また、

昭和二十六年十二月

靈前に天皇・皇后より盛菓子を、皇后より切り花・野菜を、墓所に天皇・皇后より櫛をお供えになる。

○女官長日記、侍従職日誌、重要雑録

四日 火曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午後二時御出門、三時四十分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓書類綴、幸啓録

十二日 水曜日 午後一時、天皇と共に葉山御用邸を御出門、二時三十分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓書類綴、幸啓録

十四日 金曜日 午後、鷹司和子と共に花蔭亭にお出ましになり、伏見朝子及び先般結婚の同息女尾崎光子とお茶を共にされる。朝子・光子それぞれに万那料等を賜う。○女官長日記、女官日誌、贈賜録

十七日 月曜日 貞明皇后月命日につき、午前九時五十三分御出門、多摩東陵に行啓され、御拝礼になる。これに先立ち、多摩陵にも拝礼される。なお、天皇は御風気のため行幸をお取りやめになる。

午後一時三十五分還啓される。ついで大宮御所の権殿において御拝礼のため、二時三分御出門、天皇と共に同御所に行啓される。二時五十三分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、皇太后宮崩御録

十八日 火曜日 天皇と共に表一の間において、今般来日の米国大統領特使ジョン・フォスター・ダレス及び同夫人、米国上院議員ハワード・アレグザンダー・スミス及び同夫人、同ジョン・スパークマン、連合国最高司令部外交局長ウィリアム・ジョセフ・シーボルトをお招きになり、午餐の御陪食を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、謁見録、新聞発表綴

吳竹寮にお出ましになり、厚子内親王の催しにて、同内親王及び参寮の池田隆政・同父宣政・同母富

貴子とお茶を共にされる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十九日 水曜日 天皇と共に表一の間において、菊栄親睦会会員に午餐の御陪食を賜う。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宣召録、菊栄親睦会録

去る十六日三重県松阪市にて発生した火災により甚大な被害が生じたため、天皇・皇后より同県に御救恤金を賜う。○賜与録、新聞発表綴、読売新聞

二十日 木曜日 宮内庁から、大喪中につき、昭和二十七年講書始の儀及び歌会始の儀は行われな  
こと、昭和二十七年元日の祝賀はお受けにならないことがこの日付にて発表される。○新聞発表綴、官報

二十二日 土曜日 事業御奨励のため、財団法人結核予防会に金一封を賜う。また、天皇・皇后から  
日本赤十字社に金一封を賜う。さらに、この月皇后から、日本赤十字社病院救助収容患者<sup>二千六百  
五十名</sup>及び財

団法人済生会病院救助収容患者<sup>一千二百  
三十三名</sup>に対し、手拭い一筋ずつを賜う。○贈賜録、賜与録、読売新聞、日本赤十  
字社史稿

来る二十四日から五日間にわたり、都下各医療施設の協力を得て、医療の資に乏しい者を中心に一般  
の都民を対象として無料診察相談を実施する東京都に金一封を賜う。○賜与録、読売新聞

宮内庁法の一部を改正する法律・宮内庁法施行令の一部を改正する政令が公布される。この法律・政  
令は翌昭和二十七年一月一日に施行され、これにより皇太后宮職が廃される。またこの日、宮内庁訓  
令により宮内庁職員職制の一部が改正され、東宮傳育官長・東宮傳育官を廃し、東宮侍従長・東宮侍  
従が置かれる。翌二十三日、この訓令が施行されるに伴い、東宮大夫野村行一が東宮侍従長に兼ねて  
任命され、東宮傳育官清水二郎・同浜尾実が東宮侍従に、東宮傳育官戸田康英が東宮侍従兼侍従にそ

れぞれ任命され、総理府事務官黒木從達が東宮侍従に兼ねて任命される。なお東宮侍従長・東宮侍従の設置は、皇太子が成年に達することによる。○例規録、官報

二十三日 日曜日 天皇と共に御文庫において、この日満十八歳の誕生日を迎え成年に達した皇太子、及び正仁親王・厚子内親王・貴子内親王と御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

賀陽邦寿この日結婚につき、天皇・皇后より賀陽恒憲邦寿の父に清酒及び鮮鯛代料を、邦寿に白羽二重をそれぞれ賜う。○女官長日記、贈賜録

二十四日 月曜日 午前、天皇と共に内廷庁舎御車寄前において、天皇からの賜金を拝受のため参内した優良私設社会事業団体の代表者に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、賜与録、宣召録

クリスマスに当たり天皇・皇后より、連合国最高司令官マシュー・バンカー・リッジウェイ及び同夫人、学習院講師レジナルド・ホレイス・ブライス、皇太子家庭教師エスター・ビドル・ローズにそれぞれお品をお贈りになる。○女官長日記、贈賜録

二十五日 火曜日 大宮御所の権殿において御拝礼のため、午前十時三十分御出門、天皇と共に同御所に行啓される。十一時二十八分に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録

二十六日 水曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午後二時御出門、三時三十五分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓書類綴

昭和二十七年（西曆一九五二年） 四十九歳

一月

一日 火曜日 天皇と共に葉山御用邸において新年を迎えられる。貞明皇后崩御昨年五月十七日による御服喪中につき、元日拝賀・同参賀はなく、またこの年の講書始の儀、歌会始の儀、皇后誕生日拝賀、天皇誕生日拝賀も行われないこととなる。さらに元始祭、孝明天皇例祭、仁孝天皇例祭、春季皇霊祭及び同神殿祭、神武天皇祭に際しても御拝礼・御代拝共になしとされる。○女官長日記、女官日誌、内舍人供奉日誌、儀式録、庁規例規朝儀諸綴、例規録、重要雑録、官報

午後、常侍官候所において、御機嫌伺いのため参邸した元侍医頭八田善之進の拝謁をお受けになる。以後、この年も随時、元奉仕者の拝謁等がある。○女官長日記、女官日誌

夕刻、天皇及び附属邸より参邸の皇太子・正仁親王と共に過ごされ、御夕餐を御会食になる。以後、

この年も皇太子始め皇族・御親族としばしば御対面・御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内

舍人供奉日誌、東宮侍従日誌、幸啓録、葉山行幸啓書類綴、供御日録

二日 水曜日 午後、天皇と共に御書齋において式部官長松平康昌の拝謁をお受けになる。松平は本邦駐在外国特命全權大使・公使の信任状及び解任状捧呈式、並びに外国人の謁見について調査のため、来る五日から米国ほか九箇国に出張し、三月十四日帰国する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、

内舍人供奉日誌、幸啓録、例規録、葉山行幸啓書類綴、贈賜録、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞

五日 土曜日 夕刻、天皇と共に拝謁の間において、新任の侍従小畑忠の拝謁をお受けになる。天皇に続きお言葉を賜う。○侍従日誌、葉山行幸啓書類綴

九日 水曜日 午前、天皇と共に葉山御用邸を御出発、三浦郡三崎町油壺沖の海上における御採集に同行される。東京大学理学部附属臨海実験所において御昼食の後、再び付近の海上における御採集に同行される。終わって、御帰邸になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓書類綴

十日 木曜日 午後、天皇と共に拝謁の間において、聖心愛子会会長聖園テレジア・同会副会長加藤ユステイチアの拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓書類綴

十六日 水曜日 午後二時天皇と共に葉山御用邸を御出門、三時三十五分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓書類綴

十七日 木曜日 貞明皇后月命日につき、午前十時五分天皇と共に御出門、大宮御所に行啓され、天皇に続き、権殿において御拝礼になる。終わって多摩東陵<sup>貞明皇后陵</sup>に行啓され、天皇に続き、同陵を御拝礼になる。これに先立ち、御喪中につき非公式にて、多摩東陵<sup>大正天皇陵</sup>を、天皇に続き御拝礼になる。午後

二時五十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、皇太后宮崩御録、幸啓録

十八日 金曜日 午前、呉竹寮にお出ましになり、厚子内親王と御対面になり、結婚準備について御相談になる。以後、しばしば呉竹寮又は内廷庁舎にお出ましになり、厚子内親王の結婚の準備をされる。○女官長日記、女官日誌

二十日 日曜日 この日、雍仁親王・同妃勢津子が静岡県駿東郡御殿場町の別邸から神奈川県藤沢市

鵜沼の別邸に移居し、当分滞在するため、天皇・皇后より親王・同妃に万那料及び果物伍詰を賜う。

○秩父宮事務日誌、贈賜録、名譽総裁御就任等関係、雍仁親王実紀

二十一日 月曜日 午前、内廷庁舎において、文学博士豊田実の進講をお聴きになる。この年、三月三日まで月曜日を中心に四回にわたり豊田より英文学に関する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

夕刻、表拝謁の間において、この年一月一日の皇太后宮職廃止に当たり退官した元皇太后宮大夫坊城俊良・元皇太后宮侍医山川一郎・同小原辰三の拝謁をお受けになる。天皇・皇后より三名に洋服地を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、贈賜録、官報

二十二日 火曜日 午後、呉竹寮にお出ましになり、元別当<sup>山階</sup>工藤壮平の指導にて厚子内親王・鷹司和子と共に書道の稽古をされる。以後、しばしば呉竹寮にお出ましになり、内親王方の書道、ピアノを始め各種稽古を御覧になり、時に御自身も稽古をされる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

二十三日 水曜日 午前、内廷庁舎において、日本基督教女子青年会会長植村環より聖書についての進講をお聴きになる。この年の植村の進講は、聖書をテーマとしつつも、イングリッド人・スコットランド人の思想などにも及び、水曜日を中心に六月二十五日まで行われる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

天皇と共に花蔭亭にお出ましになり、御相伴に召された皇太子家庭教師エスター・ビドル・ローズと御夕餐を共にされる。皇太子・正仁親王・厚子内親王・貴子内親王も同席する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮侍従日誌、典式録、供御日録

昭和二十七年二月

二十五日 金曜日 午前、天皇と共に旧北御車寄門内において、宮廷列車の運転に従事した東京鉄道管理局職員に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宣召録

内廷庁舎において、東洋大学名誉教授加藤虎之亮<sup>元宮内府御用掛</sup>より孟子についての漢文の進講をお聴きになる。以後、金曜日を定例として、六月六日まで加藤の進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、加藤虎之亮関係資料

表拝謁の間において、去る二十二日文部省に転出の前皇室経済主管近藤直人の拝謁をお受けになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

午後、御文庫において、天皇と共に日本スケート連盟会長竹田恒徳の拝謁をお受けになる。その際、天皇・皇后よりお品・洋菓子を賜う。竹田は、二月にノルウェー国オスロ市において開催の第六回オリンピック冬季競技大会に日本スケート選手団監督として参加するため、翌日日本を出発する。三月十八日、天皇と共に表拝謁の間において、帰国した竹田の拝謁をお受けになり、同大会についてお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

今般義捐映画会を催す財団法人日本肢体不自由児協会に対し、金一封を賜う。○女官長日記、贈賜録

## 二月

五日 火曜日 午後、天皇と共に御文庫において、病気全快につき参殿の宣仁親王妃喜久子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

七日 木曜日 午前、天皇と共に御進講室において、北白川房子の拝謁をお受けになる。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

英国国王ジョージ六世昨六日崩御につき、この日、天皇・皇后より宮内庁長官田島道治を駐日英国外交代表部に差し遣わされ、同国王室に対する弔意を駐日英国外交代表エスラー・デニングに伝達せられる。目下英国との国交が未回復ながら、昨年五月皇太后崩御の際に駐日英国外交代表代理を通じて英国国王の私的な弔意が伝達されたこと等に鑑み、本件の御差遣は従来のような勅使又は御使ではなく、弔意のみのお申し入れとして行われる。○侍従日誌、侍従職日誌、典式録、外交慶弔録

十一日 月曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午前十時四分御出門、十一時三十分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓書類綴

十五日 金曜日 この日、港区赤坂青山南町の聖三一教会において故英国国王ジョージ六世の弔祭式執行につき、天皇の御名代として宣仁親王が、皇后の御名代として同妃喜久子が差し遣わされる。御名代の御差遣は、対日平和条約の発効前ではあるが日英両国共に同条約の批准を終えたこと、皇室と英国王室との長い御親交を踏まえできる限り手厚いお仕向けをしたい旨の天皇の御内意があったこと、また、駐日英国外交代表部も御名代を受けたい旨を希望したことによる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、典式録、慶弔録、名譽総裁御就任等関係、官報

十六日 土曜日 午後二時葉山御用邸を天皇と共に御出門、三時三十分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓書類綴

十七日 日曜日 貞明皇后月命日につき、午前十時御出門、天皇と共に大宮御所に行啓され、天皇に続き、権殿において御拝礼になる。その後、大宮御所を御出門、多摩陵前に到着され、天皇に続き、

昭和二十七年二月

多摩陵、多摩東陵を順次御拝礼になる。午後二時五十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍

従職日誌、内舍人日誌、皇太后宮崩御録、幸啓録

十九日 火曜日 容子内親王箸初につき、天皇・皇后より三笠宮に五種交魚代料を、同内親王に鮮鯛代料を賜う。三月三日の同内親王初節句には、天皇・皇后より三笠宮に三種交魚代料を、同内親王に御台人形代料を賜う。○女官長日記、女官日誌、贈賜録

二十二日 金曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、東京大学教授水島三二郎物理化学研究者より、欧米

旅行の見聞・感想についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、

進講録

二十四日 日曜日 午後、天皇及び皇太子・正仁親王・厚子内親王・貴子内親王・東久邇盛厚・同夫人成子・鷹司平通・同夫人和子と共に花蔭亭にお出ましになり、池田宣政・同夫人富貴子、及び同子息隆政の拝謁をお受けになる。ついで一同にお茶を賜い、御歓談になる。この催しは、厚子内親王の婚約後、皇太子・正仁親王・東久邇夫妻・鷹司夫妻と池田夫妻・同隆政の顔合わせのために行われた。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮侍従日誌、典式録、供御日録、朝日新聞、読売新聞

二十六日 火曜日 大聖寺・宝鏡寺・曇華院・光照院・林丘寺・円照寺・中宮寺・法華寺・三時知恩寺・長福寺・善光寺・水薬師寺に対し、恒例により乾海苔料を賜う。○贈賜録

二十八日 木曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、日本学士院会員平塚英吉元蚕業試験場長より、カイ

コの生理・遺伝・飼料・絹糸等の最近の諸研究についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、

侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録

三月

六日 木曜日 満四十九歳のお誕生日を迎えられる。御服喪中につき、皇后誕生日の拝賀はお取りやめとなる。○女官日誌、侍従職日誌、儀式録、例規録、庁規例規朝儀諸綴

八日 土曜日 午前、表拝謁の間において、西南女学院副院長セシル・エリザベス・ランカスターを御引見になり、今般勲五等瑞宝章を拝受のお礼言上をお受けになる。また、同人より皇后が御結婚前に小倉を訪問された際のことや西南女学院のこと等をお聞きになる。同人は大正九年の来日以来長年にわたり我が国の女子教育に尽力する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、謁見録、朝日新聞、読売新聞

去る四日の十勝沖地震により生じた北海道の甚大な被害に対し、天皇・皇后より北海道庁に御救恤金を賜う。○賜与録、朝日新聞、読売新聞

十二日 水曜日 午前、天皇と共に御文庫において正仁親王と御対面になり、この日葉山御用邸附属邸にお成りの挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

午後、侍従次長稲田周一より、日本赤十字社法案に関する同社社長の説明要旨、及び去る四日発生した十勝沖地震に対する同社の活動状況等についてお聞きになる。○女官日誌、稲田周一関係資料

十三日 木曜日 午前、天皇と共に御文庫において東宮教育担当の参与小泉信三、及び東宮大夫野村行一の拝謁をお受けになり、皇太子の成績その他一般教育についての言上をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

十七日 月曜日 貞明皇后月命日につき、午前十時御出門、天皇と共に大宮御所に行啓され、天皇に

続き、権殿において御拝礼になる。その後、大宮御所を御出門、多摩陵前に到着され、天皇に続き、多摩陵、多摩東陵を順次御拝礼になる。午後二時五十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、皇太后宮崩御録、幸啓録

翌日米国に帰国予定の連合国最高司令部外交局長ウイリアム・ジョセフ・シーボルト及び同夫人に対し、天皇・皇后よりそれぞれ御署名入りのお写真を賜う。○贈賜録

十九日 水曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、今般来日の国際連合世界保健機関<sup>WHO</sup>事務局長ブロツク・チザム及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録

天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午後二時五分御出門、三時三十七分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓書類綴

二十日 木曜日 午後、天皇及び滞在中の正仁親王<sup>この日附属邸より本邸に移る</sup>と共に御展望室にお出ましになり、天

皇御主催の海に関する座談会に臨まれる。侍従職御用掛富山一郎のほか、侍従長始め側近奉仕者が出席する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓書類綴、徳川義寛終戦日記

御夕餐後、天皇と共に、皇子傅育官東園基文より正仁親王の成績についての言上をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、葉山行幸啓書類綴

二十二日 土曜日 天皇及び御相伴に召された式部官長松平康昌等と御夕餐を共にされる。松平より、欧米出張視察の報告をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓書類綴

二十五日 火曜日 午後二時天皇と共に葉山御用邸を御出門、三時二十七分皇居に還啓される。○女官

長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓書類綴

二十六日 水曜日 午前九時十九分御出門、天皇と共に学習院に行啓され、同院卒業式に御臨席になる。学習院高等科卒業の皇太子、学習院大学短期大学部卒業の厚子内親王への卒業証書授与等を御覧になる。十一時三十三分還啓される。その後、天皇と共に御文庫において皇太子・厚子内親王と御対面になり、それぞれ卒業のお礼言上をお受けになる。終わって、貴子内親王・鷹司和子を交えて御昼餐を御会食になる。なお、天皇・皇后より皇太子及び厚子内親王に卒業のお祝いとして、万那料及びお品をそれぞれ賜う。また、天皇・皇后に皇太子より鮮鯛<sup>目録のみ</sup>代料、厚子内親王より鮮鯛<sup>目録のみ</sup>の御贈進がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮侍従日誌、幸啓録、供御日録、東宮録、官報

二十七日 木曜日 今般米国上院において対日平和条約の批准案を可決につき、この日、連合国最高司令官マシュー・バンカー・リッジウェイ及び同夫人をお招きになり、天皇と共に表一の間において午餐を催される。この日、皇后は和服にて出御され、天皇及び司令官夫妻と御会食になる。御食後、天皇と司令官が表二の間において御会談の間、皇后と司令官夫人は表三の間において御歓談になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、外賓参内録、供御日録、朝日新聞、読売新聞

二十八日 金曜日 皇太子の学習院高等科卒業につき、天皇が参与小泉信三始め四名、東宮職御用掛諸橋轍次始め五名、学習院教授鍋島能弘始め二名をお招きになり、表一の間において午餐を催される。よって皇太子と共に同席される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮侍従日誌、宣召録、

典式録、東宮録、供御日録

夕刻、天皇と共に御文庫において厚子内親王・貴子内親王と御対面になり、翌日沼津へお成りにつき

昭和二十七年四月

暇乞いの挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

二十九日 土曜日 午後、天皇と共に御文庫において元皇后宮女官伊地知ミキ・同東貞子の拝謁をお受けになり、皇太子の学習院高等科卒業及び厚子内親王の学習院短期大学部卒業につき、お祝いの言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

夕刻、天皇と共に生物学御研究所において、この日天皇の生物学御研究に奉仕した北海道大学教授内田亨・元東京帝国大学教授田中茂穂の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌

三十日 日曜日 午前、天皇と共に御文庫において、この日四国旅行に出発の正仁親王より挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌

#### 四月

二日 水曜日 午前、内廷庁舎において、新任の京都事務所長石川忠及び前任の京都事務所長飛鳥井雅信ほか一名の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

三日 木曜日 午前、表拝謁の間において、新任の皇宮警察本部長武末辰雄及び前任の皇宮警察本部長樺山俊夫の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、賜与録、官報

四日 金曜日 昭和二十七年年度植樹行事に御臨場のため、天皇と共に静岡県田方郡函南村に行啓される。午前十時十二分御出門、東京駅より御乗車、午後零時二十分三島駅にお着きになる。それより自動車にて、十国峠の北に位置する植栽地に向かわれる。御着後、天皇に続き、国土緑化推進委員会委員長林讓治衆議院議長・同副委員長河井弥八参議院議員・静岡県知事齋藤寿夫の介添えにてヒノキの苗三本をお手

植えになる。終わって同所を御発になり、三島駅より東京駅を経て、四時五十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、官報、函南町役場所蔵資料、静岡県中央植樹祭三十周年記念誌、朝日新聞、読売新聞

五日 土曜日 夜、御文庫に正仁親王参殿につき、天皇と共に御対面になり、四国旅行より帰京の挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

七日 月曜日 午前、天皇と共に旧北御車寄門内において、松影会宮内省・宮内府・宮内庁元部局長以上の親睦会会員の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、贈賜録

天皇と共に表一の間において、御旅行のため昨四日来日されたタイ国の故ラーマ七世プラーチャイ・ティボック王妃ラムバイ・バルニをお招きになり、午餐を催される。王妃御退出の後、天皇・皇后よりの御答礼の御使として、式部官長松平康昌を御泊所帝国ホテルに差し遣わされる。また、王妃より御招宴のお礼として、天皇・皇后に生花の御贈進がある。なお、昨日の御来日並びに二十五日の御帰国に当たり、天皇・皇后の御使として松平式部官長を羽田飛行場に差し遣わされる。王妃の御帰国の際には、皇后より切り花を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、外賓接待録、典式録、外交贈答録、贈賜録

九日 水曜日 午前、御文庫において崇仁親王妃百合子及び随伴の甯子内親王・寛仁親王と御対面になり、昨日の寛仁親王学習院初等科入学に際してのお仕向けに対するお礼言上をお受けになる。その後、遅れて参殿の崇仁親王を交えて過ごされる。寛仁親王の学習院初等科入学に当たっては、天皇・皇后より三笠宮に三種交魚代料を、寛仁親王に万那料及びお品料を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、

昭和二十七年四月

侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録、名著総裁御就任等関係

午後、天皇と花蔭亭にお出ましになり、久邇家経済顧問青木一男・元東久邇家経済顧問新木栄吉・鷹司家経済顧問入間野武雄・久邇家経済顧問塚越虎男にお茶を賜う。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、贈賜録、供御日録

十二日 土曜日 夕刻、御文庫に厚子内親王参殿につき、天皇と共に御対面になり、翌日岡山県へお成りにつき挨拶をお受けになる。○女官長日誌、女官日誌

対日平和条約発効を控え、宮内庁庁舎三階の長官室その他を仮宮殿として改装することとなり、この日、改装後の新たな室名が定められる。長官室は表御座所、長官応接室は謁見所、次長応接室は謁見所次室、秘書官室は側近候所、秘書課長室は表南一の間、秘書課事務室は表南二の間、次長室は東休所、総務課長室は表東一の間、総務課事務室は表東二の間、講堂は表北の間、図書室は大配膳室、表一の間配膳室は小配膳室、表休所は表西の間となる。工事は四月九日に始まり、十月七日に完成する。

○例規録、重要雑録、謁見録、皇室建築

十四日 月曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、お茶の水女子大学教授黒田チカより「天然色素ムラサキベニバナ茄子等の化学式構造」、同保井コノより「植物細胞の遺伝的研究」と題する進講をお聴きになる。終わって、天皇と共に内廷庁舎廊下において、お茶の水女子大学学長野口明<sup>元侍</sup>より

りお礼言上をお受けになる。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録

十七日 木曜日 貞明皇后月命日につき、午前十時御出門、天皇と共に大宮御所に行啓される。権殿において天皇に続き、御拝礼になる。その後、多摩東陵に行啓され、天皇に続き御拝礼になる。その

際、併せて多摩陵を天皇に続き御拝礼になる。午後二時五十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、皇太后宮崩御録、幸啓録

夕刻、御文庫に厚子内親王参殿につき、天皇と共に御対面になり、岡山県への旅行より帰京の挨拶をお受けになる。ついで御夕餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌

十八日 金曜日 午前、表拝謁の間において、去る六日より旅行のため来日中のタイ国王族チュンボツト親王妃同国王  
従兄の妃並びにアデイチア妃故国王元摂政アデイ  
チア親王妃を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、謁見録、外賓参内録

十九日 土曜日 社団法人日本看護協会設立五周年記念式典に御臨席のため、午前九時二十三分御出門、神田一ツ橋共立講堂に行啓される。便殿において厚生大臣吉武恵市、日本看護協会会長井上なつゑ、連合国最高司令部公衆衛生福祉局福祉課長軍医大佐モロハンの拝謁をお受けになる。それより式場に臨御される。会長式辞、厚生大臣、連合国最高司令部公衆衛生福祉局福祉課長、東京都知事安井誠一郎、日本医師会会長田宮猛雄の各祝辞の後、次のお言葉を賜う。

日本看護協会が設立されて、ここに五周年を迎えましたことは誠に喜ばしいこと、と思います。助産、看護及び保健の指導が適切に行われることは、公衆衛生の増進上極めて重要なことであるから、今後益々互に協力して、この貴い仕事のために一層努力されることを心から希望致します。

ついで会長より奉答がある。十時二分還啓される。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、幸啓録、官報  
国際乗馬クラブ主催・朝日新聞社後援の春季東京馬術大会を御覧になるため、旧主馬寮広場にお出ま

しになる。この大会はフィンランド国ヘルシンキ市にて開催される第十五回オリンピック競技大会に出場の馬術競技代表選手の壮行会として行われ、皇太子も中障害飛越に出場し、第三位となる。なお、今般開催のオリンピック競技大会に日本代表選手団が参加するに当たり、御奨励のため、翌二十一日、天皇・皇后より一九五二年オリンピック派遣後援会に金一封を賜う。○女官長日記、女官日誌、幸啓録、賜与録、朝日新聞、読売新聞

二十一日 月曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、来る二十九日の国際基督教大学献学式に出席する米国全国教会会議公式代表フランクリン・クラーク・フライ及び同夫人を御引見になる。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、謁見録

去る十七日から十八日にかけて鳥取市において発生した火災により甚大な被害を受けた鳥取県に、この日、天皇・皇后より御救恤金を賜う。○賜与録、読売新聞

二十二日 火曜日 天皇と共に奥二の間において、菊栄親睦会会員に午餐の御陪食を賜う。午餐に先立ち、天皇と共に表拝謁の間において、昨年末結婚の賀陽邦寿及び同夫人童子の拝謁をお受けになる。

皇后より賀陽夫妻に洋服地・友禅反物等を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宣召録、典式録、菊栄親睦会録、贈賜録、供御日録

二十四日 木曜日 午前、内廷西玄関前において、全国婦人民生委員児童委員代表者協議会に参加の婦人民生委員約百七十名の御会釈をお受けになる。代表者本<sup>京都府</sup>田ミツノより概況をお聞きになり、お

言葉<sup>京都府</sup>を賜う。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、宣召録

二十七日 日曜日 午後、天皇及び皇太子・正仁親王と共に呉竹寮にお出ましになり、昨年大学を卒

業の久邇邦昭御兄朝融の子息、この年高校を卒業の久邇通子邦昭の妹、及び久邇侘子御母・同朝融・同英子通子の妹を招かれ

久邇典子・同朝建、厚子内親王・貴子内親王を交えて御一緒に過ごされる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、同朝宏は欠席

侍従職日誌、内舍人日誌、東宮侍従日誌

二十八日 月曜日 午後十時十五分より、天皇と共に御文庫において、日本国と連合国との間に締結された「日本国との平和条約」対日平和条約発効のラジオ実況中継をお聞きになる。○女官長日記、女官日記

二十九日 火曜日 午前、御文庫において女官長・女官より平和条約発効につきお祝いの言上をお受けになる。御服喪中のため天皇誕生日の拝賀はなく、御文庫において天皇及び皇太子・正仁親王・厚子内親王・貴子内親王、並びに鷹司和子、東久邇盛厚・同夫人成子・同子女信彦・文子・秀厚と御昼餐を御会食になる。夕刻、元侍従次長木下道雄参殿につき、天皇と共に拝謁をお受けになり、平和条約発効のお祝いの言上をお受けになる。○女官長日記、女官日記、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮侍従日誌、

供御日録

三十日 水曜日 学習院父母会の事業御奨励のため、天皇・皇后より同会に金一封を賜う。また昭和二十七年赤十字募金運動実施につき、御奨励のため、日本赤十字社に金一封を賜う。○賜与録

## 五月

一日 木曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、この度公職追放を解除された東久邇稔彦よりお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日記、侍従職日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二日 金曜日 政府主催により初めて行われる全国戦没者追悼式に御臨場のため、午前九時四十五分御出門、天皇と共に新宿御苑に行啓される。式中、式場内の「全国戦没者追悼之標」前において十時より一分間の黙禱をされる。ついで天皇のお言葉がある。終わって同十六分還啓される。追悼式には崇仁親王・同妃百合子が出席する。本追悼式に当たり、天皇・皇后より生花を賜う。

午後、天皇と共に内廷西玄閣において、追悼式に参列した遺族の代表等約千二百五十名に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宣召録、幸啓録、賜与録、官報、引揚げと援護三十年の歩み

三日 土曜日 午前十時五十八分御出門、天皇と共に皇居前広場に行啓され、平和条約発効並びに日本国憲法施行五周年記念式典に御臨席になる。天皇と共に式壇上に着かれ、衆議院議長・参議院議長・内閣総理大臣・最高裁判所長官・東京都知事の各祝辞をお聞きになる。ついで天皇のお言葉の後、東京都議会議長の発声による参列者の「日本国万歳」三唱にお揃いにて唱和される。十一時二十七分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、官報

五日 月曜日 午前、天皇と共に御文庫において、神宮祭主北白川房子の拝謁をお受けになる。神宮における平和条約発効の奉告祭挙行の復命をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

八日 木曜日 日本赤十字社創立七十五周年記念の赤十字展覧会同社主催を御覧になるため、午前九時五分御出門、天皇と共に日本橋三越本店に行啓される。六階会場において社長島津忠承の説明により、同社七十五年の沿革を示す文書、ナイチンゲール記章及び章記などの記念の品、病院船博愛丸などの模型、昭憲皇太后基金についての展示品などを御覧になる。同五十八分還啓される。○女官長日記、女官日誌、

侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、官報、日本赤十字社社史稿

午後一時十五分御出門、日比谷公会堂にて挙行の日本赤十字社創立七十五周年記念式典に行啓される。御着後、便殿において、先着の厚子内親王と御対面になり、衆議院議長林譲治、参議院議長佐藤尚武、最高裁判所長官田中耕太郎、厚生大臣吉武恵市、東京都知事安井誠一郎、日本赤十字社社長島津忠承、同副社長伊藤謹二の拝謁をお受けになる。それより名誉総裁として会場にお出ましになる。開式後、社長の式辞に続き、次の令旨を賜う。

日本赤十字社の創立七十五周年記念式に臨み、一同と会することは、まことに嬉しく思います。本社は創立以来七十五年の永い間、関係の人々の努力と、国民の協力とによつて、その基礎はいよいよ確く、事業もまた活潑となつて来たことは喜びに堪えません。

いよいよ独立を迎えたわが国は、これから世界の人たちと手をつないで、平和の維持に努めねばならないと思います。日本赤十字社も博愛人道の使命に従つて、世界の平和と人類の福祉のため、更に一段の努力をするよう希望してやみません。

社長の奉答後、有功章、特別社員章を各総代十二名に親授される。功労者表彰、被表彰者答辞、来賓祝辞の後、御退場になり、二時二十七分還啓される。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、幸啓録、官報、日本赤

十字社社史稿

九日 金曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、元連合国最高司令部経済科学局長ウイリアム・フレデリック・マーカット及び同夫人、並びに同幕僚第三局長エドウィン・ケネディー・ライトを御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、謁見録

昭和二十七年五月

十日 土曜日 この度転任帰国の米國極東軍總司令官マシュー・バンカー・リッジウェイ及び同夫人をお招きになり、天皇と共に奥二の間において午餐を催される。天皇・皇后よりリッジウェイに銀製の御紋付蘆雁彫花瓶を贈られる。後日、リッジウェイ夫人よりお招きに対するお礼としてハワイ産果物の献上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、謁見録、贈賜録、供御日録  
宮内庁書陵部編『貞明皇后御集』が天皇・皇后に奉呈される。○女官長日記、貞明皇后御集謹輯、貞明皇后御集  
第一次稿本、稲田周一関係資料

この日、御服喪中につき、御養蚕始の儀にお出ましにならないこととされる。○稲田周一関係資料

十一日 日曜日 午後、内廷西玄関前において、東京都主催の「母の日」大会に参会の約一千五百名に御会釈を賜う。代表者の森田サダより謝意の言上及びカーネーションの花束の捧呈をお受けになり、励ましのお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、宣召録

十二日 月曜日 午後、呉竹寮にお出ましになり、石田鶴子制作の押し絵を御覧になる。同人より押し絵額夢之の献上がある。十五日、思召しをもって金銀砂子緋紋縮緬を石田に賜う。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

この日、米國極東軍總司令官マシュー・バンカー・リッジウェイ及び同夫人帰国につき、天皇・皇后の御使として式部官長松平康昌を羽田飛行場に差し遣わされ、皇后より夫人に切り花を贈られる。後日、夫人より花束の御贈進及び滞在中の歓待に対する謝意表明の書翰五月十日付をお受けになる。○女官長日記、贈賜録、外賓接待録、外交贈答録

十三日 火曜日 午前十一時三十二分御出門、大宮御所に行啓される。権殿において御拝礼になり、

ついで貞明皇后の写真に拝礼される。終わって先着の雍仁親王・同妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王妃百合子と御対面になり、二の間において御昼餐を御会食になる。また、この年一月一日の皇太后宮職廃止後も大宮御所において御用に奉仕した元皇太后宮女官長清水谷英子、元皇太后宮女官の高松千歳子・大原慶子・今城誼子・松室千代子・津崎矩子に、御慰勞の思召しをもって御相伴を仰せ付けられる。御食後、御前において元皇太后宮女官長以下六名にお手許品を賜うこの日欠席の元皇太后宮職御用掛山中貞子には翌十四日にお品を賜う。また、元女孀・元雑仕にもそれぞれ賜品がある。その後、参殿の崇仁親王・甯子内親王も交

えて記念写真の撮影に臨まれる。午後三時四十三分還啓される。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、皇太后宮崩御録、幸啓録、供御日録

十四日 水曜日 午前、表拝謁の間において、来日中のローナ・プリンシラ・ガスコインソビエト連邦駐劄英国特命全權大使アルヴァリー・ガスコイン夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、謁見録

この日、外国大使・公使の信任状捧呈後の謁見、及び一般外国人の謁見の願い出手続について、本邦駐在外国特命全權大使・特命全權公使は、信任状を捧呈した後本人の願い出により夫人を同伴して皇后に謁見できること、その場合は当該大使・公使本人から外務大臣を経て願い出ること、本邦駐在常任代理大使・常任代理公使は、信任状を外務大臣に提出した後本人の願い出により夫人を同伴して天皇・皇后に謁見できること、その場合は当該代理大使・代理公使本人から外務大臣を経て願い出ること、また、天皇・皇后に謁見を希望する一般外国人は、当該国の大使・公使から外務大臣を経て願い出ること、皇室と特別な関係がある外国人や日本に対する功績が顕著な外国人等は、当該国の大

使・公使を経ることなく外務大臣を経て謁見の願い出ができること、等が定められる。これらの謁見手続は、終戦後、外国人の謁見につき外務省が関与することを適当でないとする連合国総司令部からの示唆に基づき、占領中の暫定的措置として宮内庁限りで取り扱われていた方式を停止し、外交再開に当たって、従前のように外務大臣が宮内庁長官宛てに奏請する方式に戻す趣旨から定められたもので、併せて、近年の欧米諸国の例を参考にして、信任状捧呈後の大使・公使には皇后が、信任状提出後の代理大使・代理公使には天皇・皇后が御引見になることとされた。○典式録、例規録、儀礼軌範

**十七日** 土曜日 皇太后大喪儀中権殿一周年祭の儀につき、午前九時四十九分御出門、天皇と共に大宮御所に行啓される。参列の皇族・元皇族、貞明皇后の御親族、内閣総理大臣、衆議院議長、参議院議長、最高裁判所長官等が着床の後、天皇と共に権殿に出御される。祭官長鷹司信輔による祭詞奏上の後、天皇に続いて御拝礼になり、入御される。霊前には、宮内庁書陵部編『貞明皇后御集』三冊が供えられる。十時四十一分還啓される。

皇太后大喪儀中山陵一周年祭の儀につき、午後一時三十二分天皇と共に御出門、多摩東陵に行啓される。参列の元皇族、貞明皇后の御親族、内閣総理大臣、衆議院議長、参議院議長、最高裁判所長官等が幄舎に着床の後、天皇と共に出御<sup>皇族が供奉</sup>される。祭官長による祭詞奏上の後、天皇の御拝礼に続いて石階上の祭舎に進まれ、御拝礼になる。皇族の拝礼後、入御される。五時十二分還啓される。○女官長

日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮侍従日誌、秩父宮事務日誌、幸啓録、貞明皇后大喪儀関係書類、貞明皇后大喪記録、貞明皇后御集第一次稿本、官報

**十八日** 日曜日 御喪明けにつき、午前、御文庫においてお清めをされる。この日、御禊所<sup>表拝謁の間</sup>にお

いて天皇出御のもと、貞明皇后一周年祭後一日御禊の儀が行われる。また、皇居正門内の祓所において宣仁親王参列のもと、貞明皇后一周年祭後一日大祓の儀が行われる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、祭典録、臨時祭祀録、貞明皇后大喪儀書類、貞明皇后大喪記録

午後、天皇及び正仁親王と共に花蔭亭にお出ましになり、大谷光暢・同夫人智子御、妹及び同子息にお茶を賜う。その際、大谷夫妻より今般ブラジル国在留邦人の招待により同国への旅行に出発の挨拶をお受けになり、天皇・皇后より大谷夫妻に万那料を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、重要雑録、贈賜録、供御日録

十九日 月曜日 この日、貞明皇后霊代奉遷の儀が行われる。午前、貞明皇后の御霊代が大宮御所権殿より皇霊殿に奉遷される。御霊代が皇居正門より入御の時刻、天皇の御遙拝に合わせ、御文庫北側の庭上において御遙拝になる。奉遷に先立って行われた権殿の儀、奉遷後行われた皇霊殿親祭の儀には御拝礼・御代拝共になしとされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、皇太后宮崩御録、貞明皇后大喪記録

午後、御喪明けにつき、天皇と共に表拝謁の間において、宮内庁長官始め総代、元祭官長昨十八日付で解囁鷹司信輔の拝謁をそれぞれお受けになる。その後、天皇と共に奥二の間において、貞明皇后の御縁故者九条道秀貞明皇后の御兄九条道実の子息始め四十名にお茶を賜う。雍仁親王・同妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子が陪席する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、皇太后宮崩御録、供御日録、

雍仁親王実紀

二十日 火曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、去る十七日貞明皇后一周年祭の儀終了につき、元皇太后宮女官長清水谷英子及び元皇太后宮女官の高松千歳子・大原慶子・今城誼子・今大路フジ・松室千代子・津崎矩子より暇乞いの拝謁をお受けになる。また、貞明皇后一周年祭の儀に参列した元皇太后宮職御用掛竹屋津根子元典侍、元皇太后宮女嬪多輝子の賜謁がある。ついでお一方にて御進講

室において、清水谷元皇太后宮女官長始め元皇太后宮女官、竹屋元皇太后宮職御用掛にお言葉を賜う。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、皇太后宮崩御録、贈賜録

御進講室において、御機嫌伺いのため上京の元女子学習院教授萩森タツノ・元学習院女学部教授木内成の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午後三時三十分御出門、五時四分同邸に御到着になる。○女官長

日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓関係書類

二十三日 金曜日 午後三時二分天皇と共に葉山御用邸を御出門、四時二十九分皇居に還啓される。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓関係書類

二十四日 土曜日 近く厚子内親王と池田隆政結婚につき、この日午前、宮中において納采の儀が行われる。天皇及び厚子内親王と共に表拝謁の間において、宮内庁長官田島道治より納采使の口上をお聞きになり、池田家よりの幣贄を御覧になる。終わって、天皇及び厚子内親王と共に再び表拝謁の間において、皇太子始め皇族・元皇族の拝賀を、宮内庁長官始め総代、女官長始め女官、及び元奉仕者の拝賀を順次お受けになる。午後、天皇及び厚子内親王と共に表拝謁の間において元皇后宮女官等の拝賀をお受けになる。引き続き天皇及び厚子内親王と共に同間において、お礼言上のため参内の池田

宣政・同夫人富貴子・池田隆政の拜謁をお受けになる。ついで東久邇盛厚の拜賀をお受けになる。さらに、お一方にて御進講室において、元皇后宮女官津軽理喜子の拜謁をお受けになる。なお、天皇・皇后の御使として侍従徳川義寛を池田邸に差し遣わされ、洋服地・酒・鮮鯛を賜う。また、天皇・皇后より厚子内親王に鮮鯛代料を賜い、厚子内親王より天皇・皇后それぞれに鮮鯛<sup>録</sup>の献上がある。この日、納采の儀の奉告のため、天皇・皇后より御使として侍従山田康彦を多摩東陵並びに多摩東陵に差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮侍従日誌、秩父宮事務日誌、慶弔録、順宮御婚儀録、厚子内親王殿下御婚儀一件、供御日録、官報

二十五日 日曜日 貞明皇后一周年祭終了後、初の大正天皇月命日につき、天皇・皇后より女官小倉満子を多摩東陵に差し遣わされ、御代拝を仰せ付けられる。同女官には、併せて多摩東陵の御代拝を仰せ付けられる。この年の両陵への天皇・皇后の御拝礼は、大正天皇の月命日として七月・十月の各二十五日に、貞明皇后の月命日として六月・八月・十月・十一月の各十七日に、また彼岸として九月二十日に、女官長又は女官に御代拝を仰せ付けられる。なお、以後毎年、大正天皇・貞明皇后の月命日及び彼岸に当たり、女官等に両陵御代拝を仰せ付けられることが恒例となる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、典式録

二十六日 月曜日 外交再開に伴い、今般天皇に信任状を捧呈した九箇国の外国大使・公使が近く天皇・皇后の御陪食に召されることとなり、その前に皇后が大使及び同伴の夫人を二日に分けて引見されることとなる。御引見の次第は以下のとおり。皇后が表拝謁の間に出御され、大使夫妻の参進をお待ち受けになる。ついで間内に参入した大使夫妻と共に着席<sup>式部官長・女官長・通訳奉仕者同席</sup>され、御歓談になる。

終わって大公使夫妻が式部官長・女官長・通訳奉仕者と共に退出する。

この日午前、新任のフランス国特命全権大使モリス・ドジャン、インド国特命全権大使K・K・チェトウア及び同夫人、スペイン国特命全権大使フランシスコ・ホタ・デル・カステイヨ及び同夫人を、午後、新任のイタリア国特命全権大使ブラスコ・ランサ・ダイエッタ・デイ・トラビア及び同夫人・息女、米国特命全権大使ロバート・ダニエル・マーフィー、ローマ法王庁特命全権公使マキシミリアン・ドウ・フュールステンベルグ<sup>大司教</sup>を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、謁見録

二十七日 火曜日 午前、表拝謁の間において、昨日に引き続き新任の英国特命全権大使エスラー・デニング、デンマーク国特命全権公使ラース・P・テイリッツェ及び同夫人、スウェーデン国特命全権公使カール・グスタフ・ラーゲフェルト及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、謁見録

二十八日 水曜日 結核死亡半減記念式典に御臨席のため、午前九時四十六分御出門、日比谷公会堂に行啓される。御着後、便殿において結核予防会総裁雍仁親王妃勢津子と御対面になり、厚生大臣吉武恵市・東京都知事安井誠一郎・日本医師会会長田宮猛雄・結核予防会会長島津忠承・日本看護協会会長井上なつゑの拝謁をお受けになる。ついで式場にお出ましになる。厚生大臣による式辞、功労者表彰、被表彰功労者代表の答辞、衆議院議長・参議院議長・内閣総理大臣代理<sup>国務大臣 山崎猛</sup>・最高裁判所長官による各祝辞に続き、次のお言葉を賜う。

近年わが国の結核死亡率が著しく減少したことは、誠に喜ばしいことでありますが、その予防と治療については、なお今後の努力にまっとうなところが多いと思えます。

関係者は申すに及ばず国民すべての協力によつて、いよいよその成果を挙げるよう切に望みます。

厚生大臣よりお礼言上をお受けになつた後、御退場になり、便殿において雍仁親王妃よりお礼言上をお受けになる。十時四十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、幸啓録、官報、読売新聞

常磐会総会に御出席のため、午後一時三十分御出門、光輪閣に行啓される。御休所において常磐会會長松平信子・同会理事長伏見朝子の拝謁をお受けになり、お礼言上をお受けになる。ついで雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子・崇仁親王妃百合子と御対面になり、参集の元皇族の拝謁をお受けになる。それより庭内の会場にお出ましになる。御登壇になり、松平会長より同会名誉総裁奉戴のお礼言上をお受けになり、参集者一同に御挨拶のお言葉を賜う。御降壇の後、仕舞、舞踊を御覧になる。屋内に設置されたパチンコを御覧になつた後、ベランダにおいて松濤幼稚園の園児による豆バンド演奏をお聴きになる。ついで庭内の模擬店等を回られ、茶室において献茶を御覧になる。終わつて高松宮邸にお立ち寄りになり、新築の邸内を御覧になる。四時四十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、幸啓録、皇親録、官報、ふかみどり

三十日 金曜日 外交再開に伴い、この日より駐筭国へ赴任又は駐筭国より帰国する特命全権大使及び特命全権公使の拝謁を、天皇に続きお受けになる。その次第は以下のとおり。皇后が表拝謁の間に  
出御女官長・侍従次長侍立 次にお公使が左側に夫人を同伴して御前に参進、拝謁する。次に皇后のお言葉がある。

次に大公使及び同夫人が退出する。次に皇后が御退出になる。

この日午前、今般米国へ赴任の特命全権大使新木栄吉、英国へ赴任の特命全権大使松本俊一及び同夫

昭和二十七年六月

人、フランス国へ赴任の特命全権大使西村熊雄及び同夫人、カナダ国へ赴任の特命全権大使井口貞夫及び同夫人の拝謁を順次お受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、拝謁録、典式録、例規録  
紅葉山御養蚕所にお出ましになり、養蚕の状況を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

## 六月

二日 月曜日 平和条約発効・独立の奉告のため神宮並びに山陵に御参拝につき、天皇はこの日より五日まで京都・奈良・三重各府県下に行幸される。午前九時前、厚子内親王と共に御文庫において天皇の御出発をお見送りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、官報

午後、御文庫において、元皇太后宮職御用掛山中貞子の拝謁をお受けになる。退職の山中にお手許品を賜う。○女官長日記、女官日誌

五日 木曜日 思召しをもって雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子・崇仁親王妃百合子、元皇族の北白川房子・東久邇聡子・鷹司和子・賀陽敏子・久邇侃子・北白川祥子・竹田光子、及び賀陽竜子を花蔭亭にお招きになり、午餐を催される。厚子内親王が同席する。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、供御日録

午後五時前、正仁親王・厚子内親王・貴子内親王と共に御文庫において、京都・奈良・三重各府県下より還幸の天皇をお出迎えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、官報

九日 月曜日 新任のフランス国特命全権大使モーリス・ドジャン、英国特命全権大使エスラー・デニング、インド国特命全権大使K・K・チェトウア及び同夫人、スペイン国特命全権大使フランシス

コ・ホタ・デル・カステイヨ及び同夫人、イタリア国特命全権大使ブラスコ・ランサ・ダイエッタ・デイ・トラビア及び同夫人をお招きになり、天皇と共に奥二の間において午餐を催される。雍仁親王・同妃勢津子、並びに内閣総理大臣吉田茂、外務大臣岡崎勝男及び同夫人が陪席する。御食後、奥三の間において大使等と御談話になる。この午餐は戦後初めて天皇・皇后が本邦駐在特命全権大使を招いて催されたもので、これ以後、新任・離任の外国大公使を招いて催される午餐においては、皇族並びに内閣総理大臣・外務大臣等が陪席することとされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、秩父宮事務日誌、典式録、謁見録、供御日録、雍仁親王実紀

午後、天皇と共に賢所通用門脇にお出ましになり、全国国公立幼稚園長会第三回総会に参会の幼稚園長に御会釈を賜う。代表者の同会会長岡田しげの大阪市立桃園幼稚園長の挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を

賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宣召録

十日 火曜日 昨日に続き、新任の米国特命全権大使ロバート・ダニエル・マーフィー、デンマーク国特命全権公使ラーズ・P・テイリッツエ及び同夫人、ローマ法王庁特命全権公使マキシミアン・ドウ・フュールステンベルグ大司教、スウェーデン国特命全権公使カール・グスタフ・ラーゲフェルト及び

同夫人をお招きになり、天皇と共に奥二の間において午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、謁見録、供御日録

十一日 水曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、新任のニュージーランド国代理公使ルーベン・ライオネル・グローヴァー・チャリスを御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内

舎人日誌、謁見録、典式録

昭和二十七年六月

午後、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、有泉善三<sup>御養蚕奉仕者</sup>の説明にて所内を巡覧され、お手ずから繭掻きをされる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

十二日 木曜日 天皇と共に那須御用邸に行啓のため、午前九時三分御出門、午後一時同邸に御到着になる。夕刻、御散策にお出ましになり、途中より天皇と共に千篠園より嚶鳴亭方面において植物を御調査になる。これ以降御用邸御滞在中は、しばしば天皇の植物御調査に同行される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌

二十一日 土曜日 午後零時二十分天皇と共に那須御用邸を御出門、四時十分皇居に還啓される。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌  
二十二日 日曜日 午前、綏靖天皇二千五百年式年祭につき、女官小倉満子に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、典式録、臨時祭祀録

二十三日 月曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、元図書寮編修課長芝葛盛より綏靖天皇の御事蹟についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録

二十四日 火曜日 天皇と共に花蔭亭にお出ましになり、この度ブラジル国ほか欧米諸国への旅行に出発の大谷光暢・同夫人智子と御夕餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人

日誌、供御日録

二十七日 金曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、来日中の元ベルギー国特命全権大使アルベール・ド・バツソンピエールを御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁

見録、典式録、読売新聞、朝日新聞

二十八日 土曜日 朝融王妃知子女王五年祭につき、天皇・皇后より霊舎に菓子・野菜を、豊島岡墓地の墓所に榊を、皇后より霊舎にお花料をそれぞれお供えになる。また、墓所祭終了後、女官小倉満子を墓所に非公式に差し遣わされ、御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、侍従職日記、贈賜録

三十日 月曜日 午前、表拝謁の間において、新任のパキスタン国特命全権大使ミアン・ジアウド・デイン、オーストラリア国特命全権大使エドワード・ロナルド・ウォーカー及び同夫人、オランダ国特命全権大使P・E・テッペマ及び同夫人、ノルウェー国特命全権公使クリスチャン・プラール・ロイシュを順次御引見になる。○女官長日記、女官日記、内舎人日記、謁見録

来日中のバリトン歌手ゲルハルト・ヒュツシュの声を御鑑賞のため、夕刻、楽部にお出ましになる。先着の皇太子・厚子内親王・貴子内親王と御対面の後、会場にお出ましになり、ヒュツシュに御握手を賜う。それよりヒュツシュの独唱をお聴きになる。終わって御退場の際、再び御握手、御休所においてヒュツシュ始め出演者に労いのお言葉を賜う。また、出演者にそれぞれ賜品がある。○女官長日記、

女官日記、内舎人日記

## 七月

一日 火曜日 午後、花蔭亭にお出ましになり、雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子・崇仁親王妃百合子と共にお茶をお召し上がりになる。夕刻、参亭の崇仁親王と御対面になる。なお、七日、この日欠席の梨本伊都子・伏見朝子・李方子・閑院直子を同所にお招きになり、茶会を催される。○女官長

日記、女官日記、内舎人日記、供御日録

四日 金曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、ブラジル国サンパウロ日本人商業会議所会頭宮坂国人より同国在留邦人の状況についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録、朝日新聞

七日 月曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕納の儀を行われる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌

八日 火曜日 午前、紅葉山御養蚕所奉仕者の有泉善三及び助手四名の賜謁があり、天皇と共に旧北御車寄にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

表拝謁の間において、今般帰米の元尚綱女学院院长メリー・D・ジェッシーを御引見になる。同人は明治四十五年来日以降、戦時中の帰米を除き、在日三十余年にわたり我が国の女子教育に尽力した。

○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、謁見録

この日、皇后よりエリザベス・グレイ・ヴァイニングに賜う額<sup>刺</sup>額<sup>繡</sup>を在米大使館を経て同人に送達する旨の依頼が、侍従次長より外務大臣官房会計課長に通知される。十月十五日、賜品が同人に送達される。なお、これより先、同人より皇后に書籍の献上がある。○贈賜録、外交贈答録

十日 木曜日 午後、天皇と共に内廷西玄関において、抑留同胞救出国民大会<sup>海外抑留同胞救出国民運動総本部・同胞救援議員連盟主催</sup>に参加の抑留者留守家族代表・各都道府県代表等に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宣召録、典式録

十一日 金曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午前十時三十分御出門、正午同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓関係書類、幸啓録

十二日 土曜日 午後、参邸の女官長保科武子より、皇太子の立太子式・成年式、及び厚子内親王の結婚式における皇后の御服装等に関し、この日宮内庁において協議された結果についての言上をお聞きになる。○女官日誌、葉山行幸啓関係書類、稲田周一関係資料

十七日 木曜日 今般豪雨により甚大な被害を受けた大阪府・和歌山県に、天皇・皇后より御救恤金を賜う。○賜与録

二十日 日曜日 午前、名島における天皇の海洋生物御採集に同行される。御用邸御滞在中、しばしば天皇の海洋生物御採集に同行される。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓関係書類

御夕餐後、天皇と共に、皇子傅育官村井長正より正仁親王の成績についての説明をお聞きになる。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、葉山行幸啓関係書類

二十四日 木曜日 夕刻、天皇と共に、東宮教育担当の参与小泉信三・東宮大夫野村行一より皇太子の成績についての説明をお聞きになる。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓関係書類

二十五日 金曜日 御夕餐後、天皇と共に、文学博士鈴木大拙文化勳章受章者、日本学士院会員より、去る昭和二十四年六月から昨年六月までの米国滞在中の感想についての進講をお聴きになる。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓関係書類、読売新聞

二十六日 土曜日 夕刻、木戸ツル元内大臣木戸幸一夫人の拝謁をお受けになる。○葉山行幸啓関係書類

二十八日 月曜日 午後四時天皇と共に葉山御用邸を御出門、五時三十分皇居に還啓される。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓関係書類、幸啓録

二十九日 火曜日 翌日の明治天皇四十年式年祭に先立ち、午前、天皇と共に表拝謁の間において、

昭和二十七年八月

東京大学教授海後宗臣より明治時代の教育についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録

午後、天皇と共に表拝謁の間において、今般離任のインド国特命全權大使K・K・チエトウア及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、謁見録、贈賜録

表拝謁の間において、今般ベルギー国へ赴任の特命全權大使荒川昌二及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、典式録、拝謁録

三十日 水曜日 午前、明治天皇四十年式年祭皇靈殿の儀につき、御拝礼になる。また、陵所において明治天皇四十年式年祭山陵に奉幣の儀が行われ、京都事務所長石川忠に御代拝を仰せ付けられる。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、臨時祭祀録、祭典録

三十一日 木曜日 午前九時御出門、天皇と共に明治神宮に行啓され、天皇に続き、御拝座において御拝礼になる。十時九分還啓される。昭和十七年以来、天皇・皇后の明治神宮御参拝はなかったが、昨三十日明治天皇四十年式年祭齋行につき、この日、御参拝になる。御参拝に先立ち、昨日、天皇・皇后より幣帛料・神饌料を御奉納になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、庁

規例規朝儀諸綴、朝日新聞、毎日新聞

## 八月

一日 金曜日 天皇と共に那須御用邸に行啓のため、午後一時二十五分御出門、五時二十分同邸に御到着になる。御車寄において、那須に滞在中の皇太子・正仁親王・厚子内親王・貴子内親王のお出迎

えをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌

二日 土曜日 午後、嚶鳴亭下広場にお出ましになり、皇太子の乗馬の模様を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録

四日 月曜日 午後、今般退官の元侍従久松定孝の拝謁をお受けになる。天皇・皇后より金一封を、皇后よりお品を久松に賜う。○女官長日記、女官日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録、贈賜録

七日 木曜日 午前、天皇及び正仁親王・厚子内親王と共に半俵湿地及び広谷地湿地にお出ましになり、サギソウを御覧になる。なお、これ以降、御用邸御滞在中は折に触れて天皇の植物御調査に同行される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌

八日 金曜日 午後、お召しにより参邸のデザイナーの田中千代の拝謁をお受けになり、御服装につき御相談になる。以後、折に触れて田中の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、那須行幸啓録、供御

日録

十二日 火曜日 思召しをもって財団法人大日本蚕糸会に対し、紅葉山御養蚕所の生産品<sup>繭</sup>を賜う。なお、今回の下賜は昭和十二年二月以来のことであり、それ以前は概ね三、四年ごとに下賜があった。

○贈賜録

十三日 水曜日 午後、天皇及び厚子内親王・貴子内親王と共に、夏季休暇にて帰国中の理学博士湯川秀樹<sup>米国コロンビア大学教授</sup>及び同夫人スミを特に招かれ、湯川より日米両国の物理学界の近状その他についての進講をお聴きになる。また、湯川夫人より米国婦人につきお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、

昭和二十七年九月

内舍人供奉日誌、進講録、那須行幸啓録

十五日 金曜日 終戦の日に当たるため、お慎みになる。○女官長日記、女官日誌

御夕餐後、天皇及び正仁親王と共に、正仁親王の宿泊所供奉員宿舎別館にお出ましになり、内部を御覧になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、那須行幸啓録

## 九月

九日 火曜日 午後零時二十分天皇と共に那須御用邸を御出門、四時十一分皇居に還啓される。○女官

長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌

十一日 木曜日 午前、朱雀天皇千年式年祭につき、御文庫にて静かにお過ごしになる。○女官長日記、

女官日誌

十五日 月曜日 御風気につき、終日御仮床に就かれる。以後、二十一日まで断続的に御仮床に就か

れる。○女官長日記、女官日誌

十六日 火曜日 厚子内親王結婚につき、午前、告期の儀が行われる。天皇及び同内親王と共に表拝

謁の間において、池田隆政が厚子内親王との結婚の礼を十月十日に行いたいとする旨の池田家使者からの口上を、宮内庁長官よりお聞きになる。その後長官は、天皇の御承諾の旨を使者に伝える。○女官

長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、慶弔録、順宮御婚儀録、官報

午後、天皇と共に表拝謁の間において、厚子内親王結婚の媒酌人を務める松平康昌式部官長及び同夫人綾子

の拝謁をお受けになる。引き続き、池田宣政及び同夫人富貴子・同子息隆政の拝謁をお受けになり、

お礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、順宮御婚儀録

十九日 金曜日 午前、表西の間において、この度ブラジル国へ赴任の特命全権大使君塚慎及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、典式録

二十一日 日曜日 天皇と共に御文庫において翌月十日結婚の厚子内親王送別の御晩餐を催され、厚子内親王及び皇太子・正仁親王・貴子内親王・東久邇盛厚・同夫人成子・鷹司平通・同夫人和子と御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮侍従日誌、供御日録

二十五日 木曜日 午前、天皇と共に内廷庁舎御廊下において、紅葉山御養蚕所産の生糸による製織品を持参した長野県商工部長小林巳根夫以下同県職員四名の拝謁をお受けになる。後刻、表三の間において小林の説明にて当該製品を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、贈賜録

二十六日 金曜日 午前、表拝謁の間において、今般中華民国へ赴任の特命全権大使芳沢謙吉、イタリア国へ赴任の特命全権大使原田健及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、典式録

天皇と共に御進講室において東久邇成子と御対面になり、昨日内着帯の儀終了のお礼言上をお受けになる。なお、お祝いとして、天皇・皇后それぞれより東久邇盛厚・同夫人成子に三種交魚代料を賜う。

また天皇・皇后より東久邇稔彦・同夫人聡子に三種交魚代料を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

二十八日 日曜日 午後、呉竹寮にお出ましになり、お茶の会を催される。天皇及び皇太子・正仁親王・厚子内親王・貴子内親王・寛仁親王・甯子内親王を始め、東久邇成子・鷹司和子及び久邇家その

他の御親族と茶菓を共にされ、厚子内親王幼少時の記録映画を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮侍従日誌、供御日録

三十日 火曜日 この日、宮内庁より、来る十一月十日に明仁親王の立太子の礼及び皇太子成年式を行う旨が告示される。正午過ぎ、天皇と共に、両儀の式場として使用予定の宮内庁庁舎三階十月上旬より飯宮殿として

使用するため改装の表北の間旧講堂にお出ましになり、御検分になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、皇太子成年式立太子礼要録、官報

午後、内廷庁舎において、この日誕生日を迎えた鷹司和子と御対面になり、御使御差遣のお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、贈賜録

来る十月一日より昭和二十七年国民たすけあい共同募金運動を実施する社会福祉法人中央共同募金会に、天皇・皇后より御奨励金を賜う。○賜与録、朝日新聞

十月

二日 木曜日 天皇が御不例のためお一方にて、午前、表拝謁の間において、崇仁親王・同妃百合子、及び初参内の容子内親王と御対面になる。天皇・皇后より三笠宮に白羽二重・清酒・鮮鯛及び五種交魚代料を、同内親王に鮮鯛代料及び御台人形代料を賜う。なお、初参内に先立ち、容子内親王は賢所皇靈殿神殿に謁するの儀を行う。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、贈賜録、臨時祭祀録

御進講室において、川合玉堂の拝謁をお受けになり、厚子内親王の結婚の祝賀及び同内親王へ献上の品をお受けになる。御前にて川合に賜品がある。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

三日 金曜日 天皇と共に表西の間において、菊栄親睦会会員をお招きになり、来る十日結婚の厚子内親王とのお別れの午餐を催される。雍仁親王妃勢津子、宣仁親王、崇仁親王・同妃百合子始め二十三方が出席する。ただし、天皇は御不例のため御欠席になる。なお、この日に予定されていた、復興東京大展覽会を御覧になるための日本橋三越本店行幸啓はお取りやめとなる。○女官長日記、女官日記、侍従職日誌、内舍人日誌、順宮御婚儀録、厚子内親王殿下御婚儀一件、朝日新聞

四日 土曜日 天皇が御不例のため、お一方にて午後五時三十九分御出門、光輪閣に行啓され、厚子内親王結婚につき、秩父宮・高松宮・三笠宮主催の招宴に御臨席になる。先着の皇太子・正仁親王・厚子内親王・貴子内親王を始め、雍仁親王・同妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子、東久邇盛厚・同夫人成子、鷹司平通・同夫人和子と御対面、御会食になる。なお、天皇・皇后より秩父宮・高松宮・三笠宮に万那料及び洋菓子・野菜を賜う。八時五十五分還啓される。その後、天皇に招宴の様子をお話しになる。○女官長日記、女官日記、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮侍従日誌、秩父宮事務日誌、幸啓録、順宮御婚儀録、宮内庁庁報

六日 月曜日 午前、表拝謁の間において、今般夫人が来日した米国特命全権大使ロバート・ダニエル・マーフィー及び同夫人並びに息女、新任のブラジル国特命全権大使ジュリオ・アウグスト・バルボーザ・カルネイロ及び同夫人、メキシコ国特命全権大使マヌエル・マプレス・アルセ及び同夫人、ドミニカ国特命全権公使レオンテ・グスマン・サンチェス及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日記、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮内庁庁報

午後、内廷庁舎において御学友等三名の拝謁をお受けになり、厚子内親王結婚につきお祝いの言上を

昭和二十七年十月

お受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

**七日 火曜日** 厚子内親王来る十日結婚につき、午後、天皇と共に表西の間において、朝見の儀に臨まれる。式中、御前に参進した厚子内親王より謝恩の辞をお受けになり、天皇に続いてお言葉を賜う。ついで天皇・皇后より厚子内親王にそれぞれ御盃を賜う。終わって、天皇と共に御退出になる。ついで天皇及び厚子内親王と共に表拝謁の間において、元皇后宮女官、元皇太后宮女官等の拝賀をお受けになる。御文庫還御後、天皇と共に厚子内親王と御対面になり、暇乞いの挨拶をお受けになる。続いて天皇と共に女官長始め女官の拝賀をお受けになる。なお、朝見の儀に先立ち、午前、厚子内親王は賢所皇靈殿神殿に謁するの儀を行う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、慶弔録、順宮御婚儀録、厚子内親王殿下御婚儀一件、臨時祭祀録、供御日録、宮内庁庁報、官報

**九日 木曜日** 厚子内親王結婚前日のお祝いのため、御文庫において、かねて御風気につき御仮床に就かれていた天皇、及び皇太子・正仁親王・厚子内親王・貴子内親王と御夕餐を御会食になる。

なおこの日、宮内庁長官田島道治より、天皇は翌日の厚子内親王の婚儀に臨まれず、皇后のみ御臨席になることが発表される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮侍従日誌、慶弔録、供御日録、田島道治日記、入江相政日記

**十日 金曜日** 厚子内親王と池田隆政結婚につき、午前、天皇と共に御文庫において、厚子内親王より挨拶をお受けになる。ついでお一方にて内廷庁舎御座所において、厚子内親王と御挨拶を交わされ、お手ずからお祝いの品を賜う。

十時より表拝謁の間において厚子内親王の入第の儀が挙行される。その後、内親王と御対面になり、

お言葉と袖おとし厚子内親王を御懐妊時の着帯の際に天皇より拝領を賜い、内親王より最後の挨拶とお礼をお受けになる。天皇は御風

気御静養中十二日までお祝いの催しにお出ましなしのため結婚式に御臨席にならず、十時三十二分皇后お一方にて御出門、光輪

閣に行啓され、結婚式に御参列になる。神前の結婚式後、池田隆政・厚子とお揃いにて報道関係者による写真撮影に応じられる。十一時五十分還啓され、天皇に結婚式の様子を御報告になる。この度の結婚に際し、天皇・皇后より池田隆政に御紋付銀花瓶を賜い、これとは別に天皇・皇后より同人に白羽二重・酒・鮮鯛を、夫人厚子に紅白羽二重を賜う。厚子からは、天皇・皇后それぞれにお品料目録のみ及び鮮鯛同が贈られる。また、天皇・皇后より池田宣政・同夫人それぞれにお品及び鮮鯛代料を賜う。翌日には天皇・皇后の御使として女官原田リツを池田邸に差し遣わされ、隆政・厚子に万那料及び菓子を賜う。

午後、表拝謁の間において、宮内庁長官・宮内庁次長・侍従長等の拝賀をお受けになる。ついで元皇族・元王族、内閣総理大臣・参議院議長衆議院議長は未選出・最高裁判所長官、元奉仕者等の拝賀をお受けになる。

御文庫に入御後、天皇及び皇太子・正仁親王・貴子内親王とお祝御膳の御夕餐を御会食になる。なお、結婚に伴い、厚子内親王は皇族の身分を離れる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東

宮侍従日誌、秩父宮事務日誌、順宮御婚儀録、厚子内親王殿下御婚儀一件、慶弔録、幸啓録、供御日録、宮内庁庁報、官報

表一の間において、菊栄親睦会幹事選挙に投票される。○女官日誌

十一日 土曜日 午前、天皇と共に御文庫において、池田隆政・同夫人厚子と御対面になり、結婚の挨拶をお受けになる。なお、池田隆政・厚子の婚儀終了につき、天皇・皇后より多摩陵・多摩東陵に

昭和二十七年十月

侍従徳川義寛を差し遣わされ、御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎

人日誌、順宮御婚儀録、朝日新聞

十二日 日曜日 午後、皇太子と共に表一の間において、池田隆政・同夫人厚子の結婚披露のため菊

栄親睦会会員ほかを招いての茶会に御臨席になる。御静養中の天皇は、御臨席をお取りやめになる。

御文庫に入御の後、花蔭亭にお出ましになり、池田隆政・厚子を主賓とする御晩餐に臨まれる。皇太子・正仁親王・貴子内親王、東久邇盛厚・同夫人成子、鷹司平通・同夫人和子、池田宣政・同夫人富貴子が出席する。御会食後、同亭にお出ましになった天皇を交えて、記念写真の撮影をお受けになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮侍従日誌、秩父宮事務日誌、順宮御婚儀録、厚子内親王殿下御婚儀一件、供御日録、雍仁親王実紀

十三日 月曜日 日本赤十字社臨時総会に名誉総裁として御臨席のため、午前十時十分御出門、日本赤十字社本社に行啓される。便殿において雍仁親王妃勢津子より挨拶をお受けになった後、厚生大臣吉武恵市、東京都副知事春彦一、日本赤十字社社長島津忠承、同副社長伊藤謹二の拝謁をお受けになる。それより講堂の式場に臨まれ、社長の開会の辞に続き、次の令旨を賜う。

このたび日本赤十字社のため、新しい法律が定められ、その基礎がいよいよ固くなったことは、洵に意義の深いことであつて、慶びに堪えません。

此の際、日本赤十字社は、その理想に基いて、更に事業の発展を図り、世界の平和と人類の福祉に貢献するよう、努めねばならないと思ひます。

社員は国民の期待に副うため、心を合わせて一段の努力をするよう希望してやみません。

ついで社長の奉答、厚生大臣の祝辞がある。御退場後、玄関前において一同と共に記念写真の撮影に臨まれる。十一時六分還啓される。なお、本臨時総会は、去る八月十四日に日本赤十字社法が公布・施行されたことに伴い、同社定款を改正するため開催された。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、幸啓録、

宮内庁庁報、官報、日本赤十字社社史稿、読売新聞

**十四日** 火曜日 午前、表拝謁の間において、日本赤十字社社長島津忠承の拝謁をお受けになり、同社の事業報告及び日本赤十字社法の公布・施行に伴う同社定款の変更等についての説明をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、宮内庁庁報、稲田周一関係資料

**十五日** 水曜日 午後、天皇と共に表御座所において池田隆政・同夫人厚子と御対面になり、岡山県へ出発につき暇乞いの挨拶をお受けになる。夫妻の出發に際しては、女官長保科武子を非公式の御使として東京駅に差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

**十六日** 木曜日 午前九時三分御出門、天皇と共に靖国神社に行啓され、天皇の御拝礼に続き、本殿の御拝座において御拝礼になる。同五十三分還啓される。この度の御参拝につき、天皇・皇后から同社に幣帛料・神饌料をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、庁規例規朝儀諸綴、宮内庁庁報

**十七日** 金曜日 午前、神嘗祭につき、女官雪井よし子に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

**十八日** 土曜日 福島・宮城・山形各県下において行われる第七回国民体育大会秋季大会に御臨場、併せて県下の社会事業を御視察のため、この日より二十二日まで天皇と共に三県に行啓される。午前

昭和二十七年十月

十時三十分御出門、原宿駅より御乗車、福島駅にて御降車、午後四時二十七分御泊所福島県知事公舎に御到着になる。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報元内閣総理大臣岡田啓介昨十七日死去につき、この日午前、天皇・皇后より弔問使として侍従入江相政を同人邸に差し遣わされる。午後、天皇・皇后より枢前使として入江侍従を再度同人邸に差し遣わされ、天皇の御沙汰書、及び祭糝料・供物・花を賜い、焼香させられる。翌十九日には、天皇・皇后より葬場使として入江侍従を葬斎場の本願寺築地別院に差し遣わされ、焼香させられる。なお、去る十六日、天皇・皇后より病氣お尋ねとして同人に果物を賜う。○侍従日誌、侍従職日誌、賜与録、贈賜録、宮内庁庁報

十九日 日曜日 午前十時、お一方にて御泊所の福島県知事公舎を御出発、社会福祉法人福島愛育園に行啓される。御着後、理事長藪内義吉より同園の概況につき奏上をお聞きになり、お言葉を賜う。ついで園長宮崎作治の先導にて園内を順次視察され、小中学生の園児三十余名に励ましのお言葉を賜い、さらに幼児室を御覧になる。十時二十七分御泊所福島県知事公舎に還御される。同四十分天皇と共に御泊所を御出発、県営信夫ヶ丘競技場に向かわれ、第七回国民体育大会秋季大会開会式に御臨席になる。御休所において御昼餐後、再び御席に着かれ、国体ハンドボール競技等を御覧になる。それより国営福島競馬場に臨まれ、国体馬術競技を御覧になる。次に社会福祉法人福島敬香会を御訪問、母子寮と保育所を視察される。午後三時五十分御泊所福島県知事公舎にお戻りになる。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、福島県友、皇后陛下をお迎えして

二十日 月曜日 午前九時五十分、天皇と共に御泊所福島県知事公舎を御出発、福島市第一小学校に

御到着、国体フェンシング競技を御覧になる。終わって福島駅より御乗車、仙台駅にて御降車になり、国体観覧のため滞在中の雍仁親王妃勢津子のお出迎えをお受けになる。それより宮城県庁を訪問され、バルコニーより市民の奉迎にお応えになる。御昼食後、近接のレジャーセンターにて国体卓球競技を、県営庭球場にて国体庭球競技を、県営陸上競技場にて国体陸上競技をそれぞれ御覧になる。その後、松島双観山を訪問され、松島湾の景観を御覧になる。午後四時十分御泊所の松島パークホテルに御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、宮城県警察史

二十一日 火曜日 午前八時五十分、天皇と共に御泊所松島パークホテルを御出発、仙台駅より御乗車、山形駅にて御降車になる。それより山形県庁を訪問され、バルコニーより市民の奉迎にお応えになる。御昼食後、山形市立第五中学校にて国体ボクシング競技を、県営体育館にて国体体操競技を御覧になる。次に県立山形乳児院を御訪問になり、収容児等を御慰問になる。午後三時四十分、御泊所上の山村尾旅館に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

二十二日 水曜日 午前九時二十分、天皇と共に御泊所上の山村尾旅館を御出発になり、上の山駅より御乗車、原宿駅にて御降車になり、午後五時二十分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

二十三日 木曜日 午前、天皇と共に賢所通用門外において、全国私立学校審議会委員の全国代表者総会に参会の各都道府県代表委員等に御会釈を賜う。全国私立学校審議会連合会会長児玉九十よりお礼言上をお受けになる。○侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宣召録、宮内庁庁報

容子内親王初誕辰につき、天皇・皇后より崇仁親王・同妃百合子に五種交魚代料を、容子内親王に鮮

昭和二十七年十月

鯛代料を賜う。○女官長日記、女官日誌、贈賜録

二十七日 月曜日 新任のパキスタン国特命全権大使ミアン・ジアウド・デイン、オーストラリア国特命全権大使エドワード・ロナルド・ウオーカー及び同夫人、オランダ国特命全権大使P・E・テッペマ及び同夫人、ブラジル国特命全権大使ジュリオ・アウグスト・バルボーザ・カルネイロ及び同夫人、メキシコ国特命全権大使マヌエル・マプレス・アルセ、ノルウェー国特命全権公使クリスチャン・ブラール・ロイシュをお招きになり、表一の間において天皇と共に午餐を催される。この午餐は、当初十五日に実施予定のところ、天皇の御不例により延期され、この日行われる。なお、昭和十二年の中華民国との事変勃発以来、宮中での御会食における奏楽が原則として中止されていたが、対日平和条約が発効して日本国が主権を回復し、仮宮殿も整備されたため、この度の午餐より奏楽が再開される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、樂事録、供御日録、宮内庁庁報

去る十日厚子内親王の結婚式において、光輪閣の使用につき種々尽力の宣仁親王・同妃喜久子を御文庫にお招きになり、天皇と共に御夕餐を御会食になる。御夕餐後、正仁親王・貴子内親王を交え、厚子内親王の結婚式に関するニュース映画を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、順宮御婚儀録、供御日録

二十八日 火曜日 去る九月二十三日に東京を出港した海上保安庁水路部測量船第五海洋丸が、伊豆諸島南部の海底火山爆発により出現した新島の明神礁を調査中、現場付近において同日夜の連絡を最後に消息を絶ち、調査団員及び乗組員全員が殉職した。この日本願寺築地別院において、その合同慰霊祭挙行につき、天皇・皇后より施主の海上保安庁長官に生花を賜う。○賜与録、気象百年史、読売新聞

十一月

三日 月曜日 午前、天皇と共に奥三の間において、来る十日挙行の立太子の札に際して皇太子が着用する装束を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

四日 火曜日 午前、天皇と共に旧北御車寄門内において、全日本健康優良児童表彰会朝日新聞社主催、文部省・厚生省後援の特選児童に選ばれた健康優良児並びに全日本健康優良学校の表彰校代表等に御会釈を賜う。會長村山

長挙朝日新聞社取締役会長の挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、

内舎人日誌、宣召録、典式録、宮内庁序報

天皇と共に表拝謁の間において、京都在住の旧堂上華族総代梅園篤彦の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、贈賜録、宮内庁序報

六日 木曜日 午前、謁見所において、新任のインド国特命全権大使モハメッド・アブドウル・ラウフ及び同夫人、中華民國特命全権大使董顕光及び同夫人、タイ国特命全権大使サガー・ニルカムヘエング及び同夫人、スイス国特命全権公使ラインハルド・ホール及び同夫人を順次御引見になる。○女官

長日記、女官日誌、内舎人日誌、謁見録、宮内庁序報

七日 金曜日 午前、天皇と共に謁見所において、今般フランス政府訪日文化使節として来日のフランス・アカデミー会員ジョルジュ・デュアメル及び同夫人を御引見になる。皇后は夫人に対し、デュアメルの著書を読んだ旨を仰せられる。翌八日、夫人より『私達の中のセシル』(Cécile Parmi Nous)の原書一冊、及び『慰めの音楽』(La musique consolatrice の邦訳書)一冊が皇后に献上される。○女官

長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、外交贈答録、宮内庁序報

八日 土曜日 明仁親王の立太子の礼及び皇太子成年式を行われるに当たり、盲ろうその他肢体不自由児に対する教育の資に充てるため、天皇・皇后より文部大臣に金一封を賜う。○贈賜録、宮内庁庁報、官報、読売新聞、朝日新聞

十日 月曜日 この日、立太子の礼及び皇太子成年式が行われる。儀に先立ち、午前、御桂衣・御切袴を召され、賢所皇靈殿神殿に親告の儀に臨まれ、天皇御束帯、黄  
樫染御袍に続き、三殿において御拝礼になる。

御小桂及び御切袴を召され、天皇御束帯、黄  
樫染御袍と共に表北の間に出御され、皇太子成年式加冠の儀に臨まれる。皇太子闕服袍及び空  
頂黒幘を着用に加冠役侍従  
長より賜冠が加えられた後、皇太子の言葉をお聞きになる。ついで内閣

総理大臣の寿詞奏上がある。終わって、表御座所に入御される。続いて、天皇と共に再び表北の間において、立太子の礼宣制の儀に臨まれる。宮内庁長官による宣制の後、皇太子束帯、黄丹  
袍を着用より敬礼をお受けになる。内閣総理大臣による寿詞奏上の後、入御される。

午後、天皇と共に表西の間において、皇太子成年式・立太子の礼朝見の儀に臨まれる。御前に参進した皇太子束帯、黄丹  
袍を着用より謝恩の辞の言上をお聞きになり、天皇に続きお言葉を賜う。次に御饌御酒が供進

され、天皇に続き御盃を執られ御一献の後、御盃を皇太子に賜う。次に御台盤に御箸をお立てになり、皇太子がこれに倣う。ついで天皇より侍従長を通じて御祿燕尾服  
一揃が、皇后より女官長を通じて御祿モーニング  
コート一揃が伝進される。皇太子より拝謝をお受けの後、入御される。この日の全儀式終了後、お一方にて宮内庁庁舎横の芝生にお出ましになり、東宮仮御所に還啓する皇太子儀装馬車  
に搭乗をお見送りになる。この日、皇太子に次の御歌を賜う。

みそのふのまがきがもとの菊の花さかり久しく咲きつゝけなむ

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮侍従日誌、臨時祭祀録、祭典録、儀式録、皇太子成年式立太子  
礼要録、東宮成年式立太子礼関係書類、外交慶弔録、供御日録、宮内庁庁報、官報、東京都庁所蔵資料

立太子の礼・皇太子成年式が行われるに先立ち、天皇・皇后より御使として侍従山田康彦を東宮仮御  
所に差し遣わされ、天皇より行平御剣本地・冬御束帯關・夏御束帯縫・冬御束帯縫・御書棚梨子地御・粉地

棉麻蒔絵文台硯箱を、皇后より放駒小村大六曲屏風雲筆を、天皇・皇后より柳樽・昆布・鮮鯛を賜う。ま

た、皇太子成年式・立太子の礼が行われるに当たり、天皇・皇后より秩父宮・高松宮・三笠宮及び元  
皇族・元王公族・御親族の各家に、それぞれお品料・鮮鯛代料を賜う。また、皇太子より天皇・皇后  
に鮮鯛の御贈進がある。○女官長日記、侍従職日誌、東宮成年式立太子礼関係書類

十一日 火曜日 昨日立太子の礼・皇太子成年式終了につき、この日午前二回、午後三回にわたり、

天皇・皇太子と共に宮内庁庁舎正面玄関上のバルコニーにお出ましになり、一般の参賀天皇誕生日の参賀を  
に準じて行われる

お受けになる。午前の一般参賀の間、天皇及び皇太子と共に表拝謁の間において、宮内庁長官始め部  
局長等、侍従長・女官長始め側近奉仕者、鷹司信輔・同夫人綏子及び池田宣政・同夫人富貴子、元側  
近奉仕者、皇族・元皇族・元王族の拝賀を順次お受けになる。その後、表一の間には菊栄親睦会会員を  
お招きになり、皇太子臨席のもと、天皇と共に内宴を催される。午後、天皇及び皇太子と共に表拝謁  
の間において、元国務大臣の八田嘉明・後藤文夫・岩村通世の拝賀をお受けになる。また、お一方に  
て旧御進講室において御学友等の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人

昭和二十七年十一月

日誌、儀式録、重要雜録、皇太子成年式立太子礼要録、東宮成年式立太子礼關係書類、賜与録、供御日録、宮内庁庁報、東京都庁所  
藏資料

これより先、中華民國特命全權大使董顯光夫人より同国産紅木飾箱一対本月七日付  
書簡を添付が皇后に献上される。  
よつて、本日付にて宮内庁長官を通じて同夫人に謝意を御伝達になる。○外交贈答録

十二日 水曜日 正午、天皇及び皇太子・雍仁親王・同妃勢津子・宣仁親王・同妃喜久子・崇仁親  
王・同妃百合子と共に表北の間において、皇太子成年式・立太子の礼宮中饗宴第一日の儀に臨まれる。

内閣総理大臣以下閣僚、衆議院議長、参議院議長、最高裁判所長官、認証官、駐日各国大使・公使、  
米國極東軍總司令官、中華民國大使館總統府資政等が招待される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職  
日誌、内舍人日誌、東宮侍従日誌、儀式録、皇太子成年式立太子礼要録、東宮成年式立太子礼關係書類、宮内庁庁報、官報

午後五時三十三分御出門、天皇と共に東宮仮御所に行啓され、皇太子主催の内宴に御臨席になる。御  
着後、正仁親王・貴子内親王、東久邇盛厚・同夫人成子、鷹司平通・同夫人和子、池田隆政・同夫人  
厚子と御夕餐を御会食になる。八時四十八分還啓される。なお、天皇・皇后より皇太子に万那料及び  
お品を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮侍従日誌、幸啓録、東宮成年式立太子礼關係  
書類、宮内庁庁報

十三日 木曜日 正午より天皇及び皇太子と共に表北の間、表一の間、表三の間、表西の間の各間に  
おいて順次、皇太子成年式・立太子の礼宮中饗宴第二日の儀に臨まれる。衆議院議員、及び参議院議  
員の一部が招待される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮侍従日誌、儀式録、皇太子成年  
式立太子礼要録、東宮成年式立太子礼關係書類、宮内庁庁報、官報

午後、表拝謁の間において、近く任地へ赴くスペイン国駐劔特命全權大使渋沢信一及び同夫人、タイ国駐劔特命全權大使太田一郎及び同夫人、オランダ国駐劔特命全權大使岡本季正及び同夫人、メキシコ国駐劔特命全權大使加瀬俊一及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、典式録、宮内庁序報

天皇と共に旧北御車寄門内において、皇太子成年式・立太子の礼挙行に際して来日の全米パイオニア観光団在米日本人の団体に御会釈を賜う。团长宮本孝内より在米日本人の活動をお聞きになり、天皇に続きお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宣召録、典式録、宮内庁序報

十四日 金曜日 正午より天皇及び皇太子と共に表北の間、表一の間、表三の間、表西の間の各間に順次出御され、皇太子成年式・立太子の礼宮中饗宴第三日の儀に臨まれる。参議院議員の一部、衆・参両院の事務総長、都道府県知事及び同議会議長、全国市町村長及び同議会議長の代表者、各界の代表者等が招待される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮侍従日誌、儀式録、皇太子成年式立太子礼要録、東宮成年式立太子礼関係書類、宮内庁序報、官報

天皇と共に御文庫において、正仁親王・貴子内親王とお祝御膳の御夕餐を御会食になる。なお御昼餐及び御夕餐は皇太子と御会食の予定のところ、皇太子は風気のため、宮中饗宴第三日の儀に臨席の後、東宮仮御所に還啓する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、供御日録

十五日 土曜日 午前、天皇と共に旧北御車寄門内において、この日表彰された勤続三十年以上の宮内庁職員に御会釈を賜う。この年以降、宮内庁永年勤続表彰者に対する御会釈が恒例となる。○侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

昭和二十七年十一月

天皇と共に表御座所において皇太子と御対面になる。午後、天皇と共に御文庫において再び皇太子と御対面になり、立太子の礼及び皇太子成年式に係した奉仕者・元奉仕者等を皇居に招いて内宴を催した旨、皇居外苑における東京都主催の皇太子成年式・立太子の礼奉祝都民大会に臨席した旨の挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、東宮侍従日誌、宮内庁庁報

天皇及び正仁親王と共に葉山御用邸に行啓される。午後三時三十三分御出門、五時同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓関係書類、幸啓録、宮内庁庁報  
皇太子成年式・立太子の礼終了につき、天皇・皇后より侍従入江相政を多摩東陵に差し遣わされ、御代拝を仰せ付けられる。○侍従日誌、侍従職日誌、東宮成年式立太子礼関係書類

十六日 日曜日 午前、天皇及び正仁親王並びに参邸の貴子内親王と共に甘鯛場・亀城礁の西沖の海上にお出ましになり、海洋生物を御採集になる。十九日にもお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓関係書類

十八日 火曜日 午前九時三十九分葉山御用邸を御出門、藤沢市鵜沼の秩父宮別邸に初めて行啓される。雍仁親王・同妃勢津子の案内にて庭及び邸内を巡覧され、御歓談になる。午後零時二分御用邸にお戻りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓関係書類、秩父宮雍仁親王

十九日 水曜日 午後一時三十一分天皇と共に葉山御用邸を御出門、二時五十分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓関係書類、宮内庁庁報

常磐会主催の救らい募金演奏会に御臨席のため、午後六時三十七分御出門、日比谷公会堂に行啓される。御着後、会場に出御され、アルフレッド・コルトーのピアノ演奏をお聴きになる。貴子内親王、

雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子、東久邇成子・同文子、鷹司和子が陪聴する。貞明皇后追善曲としてシューベルト作曲「願わくは平和に眠られんことを」が演奏された際には、聴衆と共に御起立になる。アンコール演奏までお聴きになり、公会堂を御出発の際、コルトーに御握手を賜う。九時二分還啓される。なお、演奏会を主催の常磐会に対し、金一封を賜う。○  
女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報

二十日 木曜日 対日平和条約発効後、天皇と共に初めて外国王族との午餐に臨まれ、デンマーク国王族アクセル<sup>今般旅行の途次来日</sup>と御会食になる。午後零時二十五分、天皇と共に表三の間において、宣仁親王・同妃喜久子と御対面になり、内閣総理大臣吉田茂、外務大臣岡崎勝男ほか陪食の諸員の拝謁をお受けになる。その後、天皇と共に表三の間入口において王族をお待ち受けになり、同間に御誘引の上、天皇より王族の御紹介をお受けになり、御握手・御挨拶を交わされる。ついで天皇及び王族と共に表一の間において御会食になる。回国特命全権公使及び同夫人、吉田首相、岡崎外相及び同夫人等が陪食する。御食後、天皇と共に表三の間において茶菓を供され、御談話になり、同間出口において王族をお見送りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、外賓接待録、典式録、供御日録  
天皇と共に謁見室において、ブラジル国下院議員イヴェツテ・ヴァアルガス・タットシユ<sup>同国大統領ジェトゥリルガスの姪</sup>を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報

二十一日 金曜日 午後、旧御進講室に川合玉堂をお召しになり、同人持参の謹画及び奥多摩のモミジを御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二十七日 木曜日 午前九時五十二分御出門、天皇と共に日比谷公会堂に行啓され、全国更生保護大

会、法務省・全国保護司連盟・全国更生保護  
会連盟・財団法人日本更生保護協会共催に御臨席になる。十時二十九分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、

侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

旧御進講室に川合玉堂をお召しになり、絵の稽古をされる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二十八日 金曜日 正仁親王の誕生日につき、午後、天皇と共に内廷庁舎において、同親王と御対面になる。ついで天皇及び同親王と共に表拝謁の間において、宮内庁長官始め総代、女官長始め女官等、元皇子傳育官始め親王の元奉仕者の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍

人日誌

三十日 日曜日 午後、天皇と共に旧主馬寮広場にお出ましになり、立太子礼記念馬術大会日本馬術連盟・パレス乗馬倶楽

部・朝日新聞社共催に御臨席、皇太子出場の中障害飛越トーナメント等を御覧になる。なお、同トーナメントの競

技中に出場選手森村準次の落馬死亡事故発生につき、特別の思召しをもって靈前に菓子・切り花を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮侍従日誌、幸啓録、贈賜録、朝日新聞

## 十二月

一日 月曜日 去月二十九日大日本蚕糸会総裁宣仁親王より蚕糸業功労者として表彰された有泉善三紅葉山御養蚕所奉仕者に対し、この日酒肴料を賜う。○贈賜録

二日 火曜日 午後、天皇と共に御文庫において、崇仁親王及び着袴の儀を終えた宣仁親王と御対面

になる。天皇・皇后より宜仁親王に鮮鯛代料及び御台人形代料を、崇仁親王・同妃百合子に五種交魚代料を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、贈賜録

今般立太子の礼及び皇太子成年式終了につき、天皇・皇后より京都市上京区の御霊神社に供物料をお供えになる。○贈賜録

四日 木曜日 午後、楽部にお出ましになり、アルフレッド・コルトーのピアノ独奏によるメンデルスゾーン作曲「厳格な変奏曲」等をお聴きになる。正仁親王・貴子内親王が同席する。演奏後、御休所においてコルトーの拝謁をお受けになる。また同人に賜品がある。引き続き、朝日新聞社社長村山長挙及び同夫人、徳川頼貞の拝謁をお受けになる。還御の際、元在フランス国日本大使館参事官本野盛一及び同夫人・息女に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、朝日新聞

七日 日曜日 朝香千賀子<sup>元皇族朝香孚彦夫人</sup> 昨六日死去につき、この日、天皇・皇后より弔問使として侍従入江相政をその邸に差し遣わされ、天皇・皇后より野菜を、皇后より盛花を柩前にお供えになる。十日、天皇・皇后より御使として侍従徳川義寛を同邸に差し遣わされ、祭資を賜い、生花をお供えになる。

葬儀が行われる十一日には、天皇・皇后より葬場使として侍従山田康彦を聖イグナチオ教会に差し遣わされ、拝礼させられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、重要雑録、宮内庁序報

十三日 土曜日 午前、謁見所において、新任のトルコ国特命全権大使イゼット・アクサルル及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、謁見録、宮内庁序報

十四日 日曜日 午前十一時五分御出門、天皇と共に光輪閣に行啓され、菊栄親睦会臨時大会に御臨席になる。午後三時十三分還啓される。本臨時大会は、今般立太子の礼及び皇太子成年式を挙行の皇

昭和二十七年十二月

太子を奉祝し、先般結婚の池田隆政・同夫人厚子の前途を祝福するため催される。○女官長日記、女官日誌、

侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮侍従日誌、幸啓録、菊栄親睦会録、宮内庁庁報

十五日 月曜日 夕刻、賢所御神楽につき、御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内

舍人日誌、典式録、祭典録、恒例祭祀録、宮内庁庁報

十六日 火曜日 午後、表拝謁の間において、新任の侍従職御用掛今城誼子元皇太后宮女官の拝謁をお受けに

なる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮内庁庁報

十八日 木曜日 午前、御進講室において侍従次長稲田周一の拝謁をお受けになり、日本赤十字社社

長島津忠承から言上依頼があった件についてお聞きになる。去る一日北京放送にて、新華社通信記者

が中華人民共和国政府関係筋に質問し得られた情報として、同政府には日本人居留民約三万人を送還する意

思があること、日本側の適当な機関または人民団体が代表を派遣し中国紅十字会と協議を行えば、送

還を困難にしている船不足等の問題は解決し得ることなどの回答があった旨が報じられた。これを受

け、日本赤十字社は中国紅十字会会長に対し、引揚船及び同社の代表を派遣する用意がある旨の電報

を、また赤十字社連盟事務総長に対し、本件の援助を要請する旨の電報を發した。島津社長は昨十七

日侍従次長を訪問し、電報を發信した旨を皇后日本赤十字社名譽總裁に言上するよう依頼した。○女官日誌、稲田周一閣

係資料、読売新聞、朝日新聞、日本赤十字社社史稿

表拝謁の間において、近く任地へ赴くオーストラリア国駐筋特命全權大使西春彦及び同夫人、アルゼンチン国駐筋特命全權大使大久保利隆、チリ国駐筋特命全權公使成田勝四郎及び同夫人の拝謁をお受

けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、典式録、宮内庁庁報

在日フィリピン国代表の大使ホセ・P・メレンシオ去る十三日死去につき、天皇・皇后から宣仁親王・同妃喜久子を千代田区のセント・ジョセフ教会に差し遣わされ、弔意を伝達させられる。また後日、同夫人の帰国に際しては、皇后から切り花をお贈りになる。○贈賜録、外交贈答録、儀礼軌範

十九日 金曜日 午後、花蔭亭にお出ましになり、東京芸術大学講師安藤幸並びに元皇后宮女官津軽理喜子の拝謁をお受けになり、ヴァイオリンの稽古をされる。また、安藤の演奏をお聴きになる。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、供御日録

二十日 土曜日 正午過ぎ、表拝謁の間において、昨日伊勢より帰京の北白川房子神宮祭主の拝謁をお受け

になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

来る二十二日から二十六日まで都下各医療施設の協力を得て医療の資に乏しい者を中心に一般都民を対象として歳末無料健康相談を実施する東京都に、金一封を賜う。○賜与録、読売新聞

二十二日 月曜日 午前十時四分御出門、天皇と共に多摩東陵に行啓され、天皇に続いて両陵を御拝礼になる。午後二時四十七分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人

日誌、幸啓録、臨時祭祀録、宮内庁庁報

天皇と共に御文庫において、東宮教育担当の参与小泉信三・東宮大夫野村行一の拝謁をお受けになり、皇太子の渡欧に伴う教育方針についてお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、

田島道治日記

二十三日 火曜日 皇太子の誕生日につき、午前、天皇と共に表拝謁の間において、宮内庁長官始め

総代、続いて元皇后宮大夫・元皇后宮女官等の拝賀をお受けになる。ついで表御座所において、元皇子傳育官桑折英三郎の拝賀をお受けになる。御文庫に還御後、天皇及び皇太子と共に、元皇后宮女官等及び女官の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮録

社会事業御奨励のため、天皇・皇后より日本赤十字社本社に対し金一封を賜う。また、歳末につき、日本赤十字社病院救助収容患者・社会福祉法人恩賜財団済生会病院救助収容患者に対し、手拭い一筋ずつを賜う。さらに財団法人結核予防会の事業御奨励のため、金一封を賜う。○贈賜録、賜与録、日本赤十字社社史稿

二十四日 水曜日 御昼餐後、天皇と共に御文庫において正仁親王と御対面になり、今学期の成績表を御覧になる。また、この日葉山御用邸附属邸にお成りの貴子内親王より挨拶をお受けになる。○女官

長日記、女官日誌

二十五日 木曜日 午前、大正天皇祭皇靈殿の儀につき、御拝礼になる。夕刻、同御神楽の儀につき、皇靈殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、祭典録、恒例祭祀録、典式録、宮内庁

序報

これより先、去月来日のデンマーク国王族アクセルより陶製熊の置物同国立陶器製造所製の御贈進をお受けになる。この日、宮内庁長官は書簡をもって本邦駐筭同国公使に対し、皇后の御謝意を同王族に伝達するよう依頼する。○外交贈答録

二十七日 土曜日 午前、内廷庁舎御車寄において、崇仁親王と御対面になり、同親王に伴われ参内した財団法人友愛十字会崇仁親王が名誉賛助員を務めるのハワイ支部主宰須田文吉に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、

宣召録

謁見所において、新任のベルギー国特命全権大使ギイ・ドウ・スクテート・ドウ・テルヴァレン及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、謁見録、宮内庁庁報

天皇と共に御文庫において、参殿の東久邇成子及び同子女信彦・文子・秀厚、並びに鷹司和子と御対面になり、歳末の挨拶をお受けになる。ついで御昼餐を御会食になる。御食後、東久邇盛厚参殿につき、お一方にて拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、供御日録

二十九日 月曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、皇族・元皇族・元王族より歳末の祝詞言上をお受けになる。ついで天皇と共に同所において、侍従長始め総代、女官、及び元奉仕者より祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

天皇と共に内廷庁舎御座所において、皇子傳育官東園基文より正仁親王の本学期の成績及び近況をお聞きになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

この日、天皇・皇后の御使として侍従次長稲田周一を藤沢市鵜沼の秩父宮別邸に差し遣わされ、雍仁親王をお見舞いになる。夜、復命がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、稲田周一関係資料、雍仁親王実紀

デンマーク国皇太后アレクサンドリーネ昨二十八日崩御につき、この日より七日翌年一月四日までの宮中喪となる。

天皇は黒ネクタイ・黒の腕章をお付けになり、皇后は御喪服にお召し替えになる。翌三十日には、弔問使として天皇より侍従入江相政を、皇后より侍従職御用掛高木多都雄を同国公使館に差し遣わされる。また、同国コペンハーゲンのクリスチャンボルグ王城教会において御葬儀が行われる翌年一月四日には、天皇・皇后より柩前に花環をお供えになる。なお、御服喪に伴い、皇后は翌年一月一日の

昭和二十七年十二月

新年祝賀の儀、一月二日の新年参賀の儀、一月三日の元始祭の儀には除喪して出御される。○女官長日

記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、慶弔録、外交慶弔録、外交贈答録、典式録、賜与録、宮内庁序報、儀礼軌範

三十日 火曜日 この日、侍従より、東京都立大久保病院において虫垂突起炎の手術を受けた東久邇稔彦の手術の経過を天皇と共に聞きになる。翌日、天皇・皇后よりお尋ねとして同人に果物・切り花を賜う。○女官長日記、侍従日誌、贈賜録

三十一日 水曜日 夕刻、天皇と共に御文庫において貴子内親王と御対面になり、葉山より帰京の挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌